

ISSN 1341-6952

東北大学埋蔵文化財調査年報19

第2分冊

仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点の調査
出土遺物1 〈陶磁器・土器・土製品・瓦〉

東北大学埋蔵文化財調査室
2009

東北大学埋蔵文化財調査年報19

第2分冊

仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点の調査
出土遺物1 〈陶磁器・土器・土製品・瓦〉

東北大学埋蔵文化財調査室
2009



1. 14号土坑出土陶磁器



2. 2号遣構出土磁器碗



3. 2号遺構出土磁器皿



4. 2号遺構出土陶器碗



5. 2号遺構出土陶器その他



6. 2号遺構出土焼塩壺



7. 2号造構出土土質土器



8. 2号造構出土瓦質土器

例 言

1. 本書は、東北大学構内において、東北大学埋蔵文化財調査研究センターが2001年度に行った遺跡調査、ならびに研究成果をまとめた調査年報19の、第2分冊である。
2. 報告書の紙幅の関係から、年報19は5分冊に分けて刊行する。本書は、その第2分冊である。本書には、仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点（BK7）の出土遺物のうち、磁器、陶器、土師質土器、瓦質土器、土製品、瓦を掲載した。
3. 整理作業および本書の編集は、阿子島香の指導のもとに、藤沢敦・柴田恵子・高木暢亮が担当した。
4. 本文は、柴田恵子が執筆した。英文要旨については、柴田恵子が作成し、阿子島香が校訂した。
5. 実測図の作成にあたっては、原図はすべて手描きで作成している。磁器、陶器、土製品は、デジタルトレースで作成した。土師質土器、瓦質土器、瓦は手描きのトレースによって作成した。また、磁器と陶器の文様は、国際文化財株式会社に委託し、オルソイメージャーを用いて作成している。
6. 卷頭カラー図版、その他の写真図版は、有限会社仙台写真工房に委託した。
7. 整理・報告書作成にあたっては、以下の方々や関係機関から御指導・御協力を賜った。
記して感謝申し上げる（敬称略）。
佐藤洋（仙台市教育委員会）、本田泰賀（東北陶磁文化館）
仙台市教育委員会、東北大学大学院文学研究科考古学研究室
8. 出土遺物・調査記録は、東北大学埋蔵文化財調査室で保管・管理している。

凡 例

1. 遺物の実測図および写真的縮尺は、それぞれに示した。磁器、陶器、土師質土器、瓦質土器は、縮尺3分の1で掲載した。土製品は、縮尺3分の2で掲載した。瓦は、縮尺4分の1で掲載した。実測図には、スケールを付して縮尺を示している。
2. 実測図中で使用したスクリーントーンは、以下の通りである。
青磁釉： 鉄釉： 炭化物： その他付着物：
3. 引用・参考文献は、卷末にまとめた。また本文中で、「東北大学埋蔵文化財調査年報」を引用する場合は、年報1という形で略記した。

第 2 分 冊 目 次

巻頭カラー図版

例言

凡例

目次

図目次

表目次

図版目次

第Ⅲ章 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点(BK7)の調査

5. 出土遺物1(陶磁器・土器・土製品・瓦) ······ 1

(1) 陶磁器 ······ 1	(2) 土器の出土状況 ······ 10
① 整理作業と資料化の方法 ······ 1	③ 近世以前の土器 ······ 11
② 陶磁器の出土傾向 ······ 1	④ 土師質土器 ······ 11
③ 時期ごとの陶磁器の様相 ······ 2	⑤ 瓦質土器 ······ 15
(2) 土器 ······ 10	(3) 土製品 ······ 17
① 整理作業と資料化の方法 ······ 10	(4) 瓦 ······ 18

引用・参考文献

英文要旨

写真図版

第Ⅰ章 2001年度(平成13年度)事業の概要

第Ⅱ章 富沢芦ノ口遺跡第5次調査(TM5)

第Ⅲ章 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点(BK7)の調査

1. 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区的立地と歴史

2. 調査経緯

3. 基本層序と時期区分

4. 検出遺構 ······ 以上第1分冊

5. 出土遺物1(陶磁器・土器・土製品・瓦) ······ 第2分冊

6. 出土遺物2(木簡・墨書きある木製品) ······ 第3分冊

7. 出土遺物3(その他の遺物) ······ 第4分冊

8. 分析・考察 ······ 第5分冊

図 目 次

図1 武家屋敷地区第7地点出土磁器(1)	21	図38 武家屋敷地区第7地点出土陶器(15)	58
図2 武家屋敷地区第7地点出土磁器(2)	22	図39 武家屋敷地区第7地点出土陶器(16)	59
図3 武家屋敷地区第7地点出土磁器(3)	23	図40 武家屋敷地区第7地点出土陶器(17)	60
図4 武家屋敷地区第7地点出土磁器(4)	24	図41 武家屋敷地区第7地点出土陶器(18)	61
図5 武家屋敷地区第7地点出土磁器(5)	25	図42 武家屋敷地区第7地点出土陶器(19)	62
図6 武家屋敷地区第7地点出土磁器(6)	26	図43 武家屋敷地区第7地点出土陶器(20)	63
図7 武家屋敷地区第7地点出土磁器(7)	27	図44 武家屋敷地区第7地点出土土器(1)	64
図8 武家屋敷地区第7地点出土磁器(8)	28	図45 武家屋敷地区第7地点出土土器(2)	65
図9 武家屋敷地区第7地点出土磁器(9)	29	図46 武家屋敷地区第7地点出土土器(3)	66
図10 武家屋敷地区第7地点出土磁器(10)	30	図47 武家屋敷地区第7地点出土土器(4)	67
図11 武家屋敷地区第7地点出土磁器(11)	31	図48 武家屋敷地区第7地点出土土器(5)	68
図12 武家屋敷地区第7地点出土磁器(12)	32	図49 武家屋敷地区第7地点出土土器(6)	69
図13 武家屋敷地区第7地点出土磁器(13)	33	図50 武家屋敷地区第7地点出土土器(7)	70
図14 武家屋敷地区第7地点出土磁器(14)	34	図51 武家屋敷地区第7地点出土土器(8)	71
図15 武家屋敷地区第7地点出土磁器(15)	35	図52 武家屋敷地区第7地点出土土器(9)	72
図16 武家屋敷地区第7地点出土磁器(16)	36	図53 武家屋敷地区第7地点出土土器(10)	73
図17 武家屋敷地区第7地点出土磁器(17)	37	図54 武家屋敷地区第7地点出土土器(11)	74
図18 武家屋敷地区第7地点出土磁器(18)	38	図55 武家屋敷地区第7地点出土土器(12)	75
図19 武家屋敷地区第7地点出土磁器(19)	39	図56 武家屋敷地区第7地点出土土器(13)	76
図20 武家屋敷地区第7地点出土磁器(20)	40	図57 武家屋敷地区第7地点出土土器(14)	77
図21 武家屋敷地区第7地点出土磁器(21)	41	図58 武家屋敷地区第7地点出土土器(15)	78
図22 武家屋敷地区第7地点出土磁器(22)	42	図59 武家屋敷地区第7地点出土土器(16)	79
図23 武家屋敷地区第7地点出土磁器(23)	43	図60 武家屋敷地区第7地点出土土器(17)	80
図24 武家屋敷地区第7地点出土陶器(1)	44	図61 武家屋敷地区第7地点出土土製品(1)	81
図25 武家屋敷地区第7地点出土陶器(2)	45	図62 武家屋敷地区第7地点出土土製品(2)	82
図26 武家屋敷地区第7地点出土陶器(3)	46	図63 武家屋敷地区第7地点出土土製品(3)	83
図27 武家屋敷地区第7地点出土陶器(4)	47	図64 武家屋敷地区第7地点出土土製品(4)	84
図28 武家屋敷地区第7地点出土陶器(5)	48	図65 武家屋敷地区第7地点出土 古代瓦・軒丸瓦	85
図29 武家屋敷地区第7地点出土陶器(6)	49	図66 武家屋敷地区第7地点出土 軒半瓦・軒棧瓦・丸瓦類	86
図30 武家屋敷地区第7地点出土陶器(7)	50	図67 武家屋敷地区第7地点出土 丸瓦・板瞬瓦・板状瓦・面戸瓦	87
図31 武家屋敷地区第7地点出土陶器(8)	51	図68 武家屋敷地区第7地点出土 輪違い・熨斗瓦・その他の瓦	88
図32 武家屋敷地区第7地点出土陶器(9)	52	図69 武家屋敷地区第7地点出土鬼瓦・不明瓦	89
図33 武家屋敷地区第7地点出土陶器(10)	53	図70 武家屋敷地区第7地点出土刻印瓦	90
図34 武家屋敷地区第7地点出土陶器(11)	54		
図35 武家屋敷地区第7地点出土陶器(12)	55		
図36 武家屋敷地区第7地点出土陶器(13)	56		
図37 武家屋敷地区第7地点出土陶器(14)	57		

表 目 次

表1 武家屋敷地区第7地点出土		表21 武家屋敷地区第7地点出土	
磁器集計表(1)91		磁器観察表(6)111	
表2 武家屋敷地区第7地点出土		表22 武家屋敷地区第7地点出土	
磁器集計表(2)92		磁器観察表(7)112	
表3 武家屋敷地区第7地点出土		表23 武家屋敷地区第7地点出土	
磁器集計表(3)93		陶器観察表(1)113	
表4 武家屋敷地区第7地点出土		表24 武家屋敷地区第7地点出土	
磁器集計表(4)94		陶器観察表(2)114	
表5 武家屋敷地区第7地点出土		表25 武家屋敷地区第7地点出土	
陶器集計表(1)95		陶器観察表(3)115	
表6 武家屋敷地区第7地点出土		表26 武家屋敷地区第7地点出土	
陶器集計表(2)96		陶器観察表(4)116	
表7 武家屋敷地区第7地点出土		表27 武家屋敷地区第7地点出土	
陶器集計表(3)97		陶器観察表(5)117	
表8 武家屋敷地区第7地点出土		表28 武家屋敷地区第7地点出土	
陶器集計表(4)98		陶器観察表(6)118	
表9 武家屋敷地区第7地点出土		表29 武家屋敷地区第7地点出土	
土師質上器・瓦質上器集計表(1)99		陶器観察表(7)119	
表10 武家屋敷地区第7地点出土		表30 武家屋敷地区第7地点出土	
土師質土器・瓦質土器集計表(2)100		土師質土器(皿) 観察表(1)120	
表11 武家屋敷地区第7地点出土		表31 武家屋敷地区第7地点出土	
軟質施釉土器・土製品集計表(1)101		土師質土器(皿) 観察表(2)121	
表12 武家屋敷地区第7地点出土		表32 武家屋敷地区第7地点出土	
軟質施釉土器・土製品集計表(2)102		土師質土器(皿) 観察表(3)122	
表13 武家屋敷地区第7地点出土瓦集計表(1)103		表33 武家屋敷地区第7地点出土	
表14 武家屋敷地区第7地点出土瓦集計表(2)104		土師質上器(焼垣壺) 観察表123	
表15 武家屋敷地区第7地点出土瓦集計表(3)105		表34 武家屋敷地区第7地点出土	
表16 武家屋敷地区第7地点出土		その他の土師質土器観察表123	
磁器観察表(1)106		表35 武家屋敷地区第7地点出土	
表17 武家屋敷地区第7地点出土		瓦質土器観察表124	
磁器観察表(2)107		表36 武家屋敷地区第7地点出土	
表18 武家屋敷地区第7地点出土		土製品観察表125	
磁器観察表(3)108		表37 武家屋敷地区第7地点出土	
表19 武家屋敷地区第7地点出土		古代瓦観察表126	
磁器観察表(4)109		表38 武家屋敷地区第7地点出土	
表20 武家屋敷地区第7地点出土		軒丸瓦観察表126	
磁器観察表(5)110			

表39 武家屋敷地区第7地点出土 軒平瓦観察表	126	表44 武家屋敷地区第7地点出土 輪違い観察表	127
表40 武家屋敷地区第7地点出土 軒棟瓦観察表	126	表45 武家屋敷地区第7地点出土 その他の瓦観察表	127
表41 武家屋敷地区第7地点出土 丸瓦観察表	126	表46 武家屋敷地区第7地点出土 平瓦1類観察表	127
表42 武家屋敷地区第7地点出土 丸瓦類観察表	126	表47 武家屋敷地区第7地点出土 棟瓦観察表	127
表43 武家屋敷地区第7地点出土 面戸瓦観察表	127		

図版目次

図版1 武家屋敷地区第7地点出土磁器(1)	135	図版23 武家屋敷地区第7地点出土陶器(5)	157
図版2 武家屋敷地区第7地点出土磁器(2)	136	図版24 武家屋敷地区第7地点出土陶器(6)	158
図版3 武家屋敷地区第7地点出土磁器(3)	137	図版25 武家屋敷地区第7地点出土陶器(7)	159
図版4 武家屋敷地区第7地点出土磁器(4)	138	図版26 武家屋敷地区第7地点出土陶器(8)	160
図版5 武家屋敷地区第7地点出土磁器(5)	139	図版27 武家屋敷地区第7地点出土陶器(9)	161
図版6 武家屋敷地区第7地点出土磁器(6)	140	図版28 武家屋敷地区第7地点出土陶器(10)	162
図版7 武家屋敷地区第7地点出土磁器(7)	141	図版29 武家屋敷地区第7地点出土陶器(11)	163
図版8 武家屋敷地区第7地点出土磁器(8)	142	図版30 武家屋敷地区第7地点出土陶器(12)	164
図版9 武家屋敷地区第7地点出土磁器(9)	143	図版31 武家屋敷地区第7地点出土陶器(13)	165
図版10 武家屋敷地区第7地点出土磁器(10)	144	図版32 武家屋敷地区第7地点出土陶器(14)	166
図版11 武家屋敷地区第7地点出土磁器(11)	145	図版33 武家屋敷地区第7地点出土陶器(15)	167
図版12 武家屋敷地区第7地点出土磁器(12)	146	図版34 武家屋敷地区第7地点出土陶器(16)	168
図版13 武家屋敷地区第7地点出土磁器(13)	147	図版35 武家屋敷地区第7地点出土陶器(17)	169
図版14 武家屋敷地区第7地点出土磁器(14)	148	図版36 武家屋敷地区第7地点出土陶器(18)	170
図版15 武家屋敷地区第7地点出土磁器(15)	149	図版37 武家屋敷地区第7地点出土陶器(19)	171
図版16 武家屋敷地区第7地点出土磁器(16)	150	図版38 武家屋敷地区第7地点出土陶器(20)	172
図版17 武家屋敷地区第7地点出土磁器(17)	151	図版39 武家屋敷地区第7地点出土陶器(21)	173
図版18 武家屋敷地区第7地点出土磁器(18)	152	図版40 武家屋敷地区第7地点出土陶器(22)	174
図版19 武家屋敷地区第7地点出土陶器(1)	153	図版41 武家屋敷地区第7地点出土土器(1)	175
図版20 武家屋敷地区第7地点出土陶器(2)	154	図版42 武家屋敷地区第7地点出土土器(2)	176
図版21 武家屋敷地区第7地点出土陶器(3)	155	図版43 武家屋敷地区第7地点出土土器(3)	177
図版22 武家屋敷地区第7地点出土陶器(4)	156	図版44 武家屋敷地区第7地点出土土器(4)	178

图版45 武家屋敷地区第7地点出土土器(5) ······	179	图版52 武家屋敷地区第7地点出土 土器(12) ·土製品(1) ······	186
图版46 武家屋敷地区第7地点出土土器(6) ······	180	图版53 武家屋敷地区第7地点出土土製品(2) ······	187
图版47 武家屋敷地区第7地点出土土器(7) ······	181	图版54 武家屋敷地区第7地点出土土製品(3) ······	188
图版48 武家屋敷地区第7地点出土土器(8) ······	182	图版55 武家屋敷地区第7地点出土瓦(1) ······	189
图版49 武家屋敷地区第7地点出土土器(9) ······	183	图版56 武家屋敷地区第7地点出土瓦(2) ······	190
图版50 武家屋敷地区第7地点出土土器(10) ······	184	图版57 武家屋敷地区第7地点出土瓦(3) ······	191
图版51 武家屋敷地区第7地点出土土器(11) ······	185		

第Ⅲ章 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点（BK7）の調査

5. 出土遺物1（陶磁器・土器・土製品・瓦）

（1）陶磁器

①整理作業と資料化の方法

陶磁器は、洗浄、注記をした後、陶器と磁器に分類した。その後、可能な限り接合作業を行い、同一個体の認定を行った上で、集計を行っている。しかし、同一個体の識別が困難な小破片や、破片になりやすい大型品や薄手の資料については、実際の個体数よりも多く集計されている可能性がある。土瓶や種類不明の資料などで点数が多くなっているのは、この要因も含まれている。

資料化にあたっては、出土点数が多いため、器形や文様がわかるものを中心に行っている。全体の器形がわからない破片であっても、特徴的な器形や文様の場合は可能な限り図示した。また、後に述べるⅣ期の造構、2層から出土した明治期の資料については、これまで報告している資料と基本的様相は変わらないことから、割愛したものもある。

陶磁器の資料化にあたっては、従来はすべて手書きで実測図を作成していた。しかし、実測する陶磁器が併せて500点以上と非常に多いことから、すべてを手作業で行うことが時間的に不可能であった。そのため、外形や断面図などの下書き図面は手書きで行い、ト雷斯はAdobe Illustratorを用いて行っている。陶磁器の文様部分については、国際文化財株式会社に委託し、同社のオルソイメージャーを用いて陶磁器を撮影し、それを画像処理して、図化している。

また、遺物写真の撮影については、有限会社仙台写真工房に委託し、すべての撮影を行っている。

②陶磁器の出土傾向

陶磁器は、基本層では、2層が最も多く、3a層、2層下部がこれに次ぐ。4層からの出土は、ごくわずかである。2層は主に19世紀代のもの、2層下部は主に18世紀から19世紀前葉のものが中心である。3a層からは、より下層にある2号造構に近い18世紀前葉の陶磁器が出土しているが、2号造構よりはやや新しい様相のものが含まれている。

造構では、Ⅱ期の2号造構から最も多くの陶磁器が出土している。2号造構は18世紀前葉の大規模な廐棄土坑で、陶器のほか、土質質土器、瓦質土器、瓦、木製品、木簡、動物遺存体、植物遺存体など、様々な遺物が大量に出上している。2号造構の陶磁器では、類似した器形、釉調、文様でありながら、文様の配置や底部の位置から考えて、明らかに接合しない破片がみられた。そのことから、同じ手の別個体も含まれているのであろうと考えられる。また、2号造構の陶磁器では、上層の2層、2層下部、1層・擾乱から出土した破片と接合するものも少なくはなかった。後世の土地利用によって、大規模な廐棄土坑の陶磁器が、調査区全体に分散したものと考えられる。

他の造構では、同じくⅡ期の1号造構、24号土坑、28号土坑、27号溝から、2号造構とはほぼ同じ時期の様相を示す陶磁器が、ややまとまって出土している。4号土坑、15号土坑、18号土坑、1号井戸からは、2号造構よりもやや新しい様相の陶磁器が比較的多く出土している。Ⅰ期では、14号土坑から、点数はあまり多くないものの、17世紀代の陶磁器が一括して出土している。Ⅲ期では、2号土坑と池状造構新段階で、陶磁器の出土が多い。Ⅳ期では、1号土坑でやや多い程度で、全体的に陶磁器の出土はあまり多くはない。

③時期ごとの陶磁器の様相

【I期の遺構出土の陶磁器】(図1・24、図版1・19、表1～8、16～29)

この時期の陶磁器は、I期に属する12号溝、9号土坑、13号土坑、14号土坑、25号溝から出土している。まとまって出土するのは、14号土坑からのみである。

14号土坑では、中国産磁器と瀬戸・美濃産の陶器がまとまって出土している(図1-3～7、図24-8～11)。磁器では、肥前産は含まれず、中国の青花皿(図1-4～6)、漳州窯系の大皿(図1-3)、安南(ベトナム)磁器と考えられる壺(図1-7)といった輸入磁器で占められている。図1-5・6は、平縁で段を有する器形をし、見込みに唐人山水文が描かれた、類似した構成になるものとみられる。中国磁器はいずれも明末清初の年代に相当するものである。図1-7は、ベトナム磁器の安南染付ではないかと考えられる。胎上は淡い黄白色で、底部以外は白化粧をした上で、染付、施釉がなされている。口頭部の器形は、ベトナム磁器の特徴と非常に類似している(矢部1978)。文様では、肩部に唐草文、体部には崩れた蓮弁文が描かれている。ロクロ成形で、体部内面には、上半と下半を繋ぎ合わせた調整痕が観察される。陶器は、瀬戸・美濃の製品に限られている。図24-8は瀬戸・美濃の擂鉢である。長石釉丸皿は2点出土している(図24-9・10)。図24-9は口縁部に炭化物が付着しており、灯明皿として使われた可能性が考えられる。図24-11は、下部にも鉄釉が施された天目碗である。他の陶磁器よりもやや古く16世紀前葉から中葉の年代が推測され、伝世品とみられる。

12号溝(図1-8、図24-1～5)では、陶器で肥前産の呂器手碗(図24-1)、美濃の変形皿(図24-4)などが出土しており、17世紀代の様相がみられる。一方で、18世紀代にみられる大彫相馬の中型(図24-2・3)などが含まれている。H-12区では12号溝の埋土を掘り込んで、18世紀代の遺構が存在していた可能性がある。そうであるならば、18世紀代の遺物が含まれているのはH-12区だけであるため、18世紀代の陶磁器は、12号溝には伴わない可能性が考えられる。

9号土坑からは、肥前磁器の皿(図1-1)が出土しており、種類などから17世紀中葉の年代が考えられる。13号土坑(図1-2、図24-6・7)からは、丹波の擂鉢(図24-7)が出土している。下相野窯址の編年(大平茂・松本謙1992)と比較すると、体部内面の捕目が7条の櫛書きである点、口縁端部を外方にナデ、内面に鈍い後をもたせる点、指押さえ痕が観察され、その痕は体部外面の比較的下半にみられる点などから、Ⅳ期D類に相当し、17世紀後葉の年代が考えられる。9号土坑と13号土坑は、攪乱によって分断されているが、一連の遺構の可能性が考えられ(年報19第1分冊)、いずれの土坑からも17世紀代の陶磁器が確認されている。

【II期の遺構出土の陶磁器】(図1～20・25～41、図版1～16・20～38、表1～8、16～29)

II期の遺構からは、主に18世紀から19世紀初頭ごろの陶磁器が出土している。今回の調査地点では、この時期に属する陶磁器の出土量が最も多い。

中でも、二の丸から排出されたゴミを捨てたと考えられる大規模な廃棄土坑である2号遺構からは、18世紀前葉を中心とした多数の陶磁器がまとまって出土している。また、1号遺構、24号土坑は、2号遺構に隣接する同様の廃棄土坑であり、2号遺構よりやや規模は小さいものの、同じ時期の陶磁器が比較的多く出土している。28号土坑、27号溝などからも、2号遺構とはほぼ同じ時期の陶磁器が出土している。他の日期に属する遺構では、4号土坑、15号土坑、18号土坑、20号土坑、1号井戸と3a層などから比較的多くの陶磁器が出土している。これらの陶磁器には、2号遺構よりも新しい18世紀中葉から19世紀初頭の様相のものが含まれている。

2号遺構出土の陶磁器では、さまざまな器種が出土している。これらの器種では、残存率のよいものが多く、国化できるものも多かった。年代では、大皿や大鉢などの一部に、伝世品とみられる17世紀の初頭や中葉、後葉の製品がいくつか含まれているものの、中心となる年代は17世紀末から18世紀前半のものである。供伴して出土した木簡に、年号が記載されているものが多数確認されており(年報19第3分冊)、明確に判読できるものが享

保二年（1717年）から享保十八年（1733年）の享保年間のものに限られていた。そのため、出土した陶磁器も18世紀前葉の時期の一括資料と考えられる。観察表には、陶磁器から推測される年代帯を示しているが、2号遺構の陶磁器は、の中でも18世紀前葉を中心とした年代が推測されるものである。

磁器（図2-18～図13-139）では、中型丸碗、猪口、大皿、小中皿などの点数が多い。ほとんどが肥前産であるが、大皿と小型端反碗、鉢などに中国の製品がごくわずかに含まれている。丸碗では、波佐見産の陶胎染付（図2-18・20）や、いわゆる「くらわんか手」の比較的厚手の碗もいくつか確認された（図2-18～25、図3-29）。また、京焼の影響を受けたと考えられる器高が浅く、高台が小振りの碗（図4-45～50）が出土している。生産地図では、1710年ごろにはみられるようになり、18世紀前半に流行するものである（九州近世陶磁学会2000）。器厚が比較的薄手の種類の碗もみられる（図3-26・27・32～36）。図3-40は、外面青磁釉の碗である。白磁（図4-51～53）、色絵（図4-46・54）もみられる。文様では、鳥文・松文・菊花文・丸文などに、こんにゃく判を用いたものがみとめられる（図3-28・29・31）。図3-37の七宝繋ぎ文は、七宝4個が1単位となつた中にこんにゃく判が用いられている。図3-34・35、図4-48・49のように、器厚が薄手の製品の中には、細かな文様が丁寧に描かれたものもみられる。碗の見込みに、手描きの五弁花文がみられるものもある（図3-35）が、多くはない。高台内には、二重方形枠に満「福」銘（図3-27・35・39）が付くものがみられる。図3-35・39の満「福」銘は、「福」の「田」の字の満が3重であり、おおよそ18世紀前葉頃に多い銘と考えられる（鈴田山紀夫1995）。他に、高台内に、「大明年製」銘（図2-24・25、図3-26・28・38・40）、「大明成化年製」銘（図4-50）が付くものがいくつかあるが、いずれもかなり崩れたものである。図4-49は、「富貴長春」銘を2行に表したものである。

図4-55、57・58などは中型・小型の端反碗としたが、猪口や小型の鉢などの可能性も含まれている。図4-57・58は、桃・蝶・草花文と口縁内四方揮文といった同じ文様が描かれた揃いの製品である。染付の文様以外に、外面青磁釉（図4-55）、色絵（図4-59・60）、外面鉄釉（図5-64）などの製品がみられる。図5-66は、内面に型打で陽刻文がある白磁小型端反碗である。非常に薄手の作りのため、中国産の可能性が考えられる。

中型の猪口では、体部下半に段を有する腰折形の器形のもの（図5-77・79）と、段を持たない桶形のもの（図5-72～76・80）がみられる。また、図5-72、75・80のように体部にややふくらみをもつもの、図5-73のように小型のもの、図5-74・77のように体部がやや細身のものなど、器形の細部では違いがみられる。小型の猪口（図5-62～65）は、腰張型で端反の器形を呈する。文様では、こんにゃく判を用いたもの（図5-63～65、75・76）のほか、型紙押りのもの（図5-80）がみられる。また、図4-56と図5-74は、欠損部位があるものの、同様の文様が描かれているものと推測される。銘では、「大明年製」（図5-75・80）、「□□□」化年製（図5-74）などがある。図5-80は、「大明年製」銘も型紙押りによって描かれているように観察されるが、明確ではない。図5-75は、団化しなかった破片資料の中に、同様の文様のものがあり、同一個体とならない部位であったため、同じ手の別個体が存在するものと考えられる。

また、数は少ないが、小型の丸碗（図5-67～69）や、白磁型打の小杯（図5-70）も出土している。図5-70は、芙蓉手風の陽刻文がみとめられる。図5-71は、碗の高台付近の破片である。上部は、意図的に、このような状態に打ち欠かれたものと考えられるが、用途は不明である。

皿は、大皿、小中皿、極小皿、変形皿などが出土している。大多数が肥前産であるが、中国産磁器もわずかに含まれている（図8-85、図11-103）。大皿が比較的多く出土していることが特徴である。染付以外では、青磁の大皿（図7-83）がみられる。図8-85は、中国漳州窯系呉州赤絵の大皿で、「印判手」と呼ばれるものである。接合できなかった同一個体に、「印判」部分の破片が含まれている。図11-103は、景徳鎮民窯系の「祥瑞」手の皿である。口紅・紫みのある鮮やかな呉須、小さな黒い粒子の混じる素地や、区画に七宝文や紗綾形文といった文様（西田宏子・出川哲1997）などの「祥瑞」手の特徴がみられる。また、高台内には、飛び錦風の削りの

痕跡が観察される。肥前産では、大皿を中心に、緻密な文様が描かれた上手の皿がみられる（図6-81・82、図7-84、図8-87、図9-88・89~91）。図7-84は牡丹唐草文によって、図9-88は葡萄蔓草と鹿文によって、皿全面を文様で埋め尽くす構成で、中でも図9-88は、非常に細かな線によって鹿、蔓草、葉の葉脈などが表現されている。小中皿の中にも、図10-93、96のように緻密な唐草文が描かれるものがみられる。一方で、見込み蛇目釉剥ぎをした量産品の皿（図11-106、図12-108~110）や、こんにゃく判を用いたもの（図10-94、図11-105）なども含まれている。図10-94は、見込みの五弁花文だけでなく、唐草文もこんにゃく判によって表現されている。器形では、輪花皿（図6-82、図7-84、図8-86）や、高台が高い器形（図8-87、図9-89）などがみられる。高台内には、「大明年製」銘（図8-86、図10-92・97、図11-104）、「大明成化年製」銘（図10-96、図11-102・103）などが確認される。図10-93の溝「福」銘は、18世紀前半代に多い銘とみられる（鈴田1995）。極小皿では、こんにゃく判による桜花文（図12-111）や、型紙押りによる菊花文（図12-112）などがみられた。図12-113は、小破片であるが、細かな線による緻密な文様が描かれた皿である。皿の年代は、18世紀前葉のものが中心であるが、中国産には明末清初期のものがみられ、肥前産の大皿にも17世紀中葉や後葉のものとみられる伝世品がいくつか含まれている。

その他の器種は、まとまつた出土を示すものはない。図12-116の鉢は、17世紀代のものと考えられる。どのように使用されたものかはわからないが、外外面に細かな擦痕が観察される。染付以外では、青磁製品の鉢（図12-260）、灰吹（図12-115）、壺（図13-129）、白磁の鉢（図12-117）、白磁型打の合子（図12-119）、色絵製品の鉢（図12-118）、瓶頸（図13-133）、水滴（図13-135）などがみられる。白磁の鉢（図12-117）は、中国のものとみられる。水滴（図13-135）は、色絵型押成形で、赤絵町遺跡から類似した文様が描かれた水滴が出土している（尾崎葉子他1990）。図12-117の鉢は、欠損部分が大きいが、白磁の角切鉢となるものと考えられる。図12-118は、「虫くい」と呼ばれる釉の剥げ落ちが口縁の角部分にみられる。同一個体に、接合できなかった底部破片があり、見込みには、区画に亀甲文や幾何学的文、花文が配される。中国景徳鎮民窯系の「古染付」手の可能性が考えられる。図13-136~138は、磁器の碗や皿を意図的に打ち欠いて、円盤状に加工したものである。今回の調査では、同様のものが、2号遺構から18点、3a層から2点、2層から2点、2層下部から1点、1層・攪乱から8点が確認された。武家屋敷地区第4地点の調査においても、磁器製・陶器製のものが少数出土している（年報13）。用途は不明である。

2号遺構の陶器（図25-25~図35-129）では、中型丸碗、小中皿、搖鉢、壺などの出上点数が多い。中型丸碗では、大堀相馬、小野相馬、瀬戸・美濃、肥前、京・信楽などの製品が確認される。中でも、小野相馬と考えられる碗が比較的多く出土しており、大堀相馬も存在するものの、小野相馬より多くはないことが注目される。大堀相馬としたもの、小野相馬としたものの両者に、いずれとも判断できず、その中間的な特徴を示すものもみられた。また、瀬戸・美濃や肥前の製品も比較的多く出土している。

小野相馬とした丸碗（図25-26~30、図26-31~40、46・47）の特徴は、胎土に小野相馬独特の黒色粒子や白色の砂粒を含み、断面の胎土の色調は、部位によって灰色、灰褐色、にぶい橙色などになる。露胎した高台部分の色調は、大堀相馬では灰白色や淡黄色など白っぽいものが多いのに対して、これらの小野相馬とした碗では、褐色系統の色調を示している。釉調は、淡青灰色ないし淡青灰白色で半失透釉から失透釉の灰釉であるが、部分や個体によって、釉の透明度や色調には変位がみられる。高台付近の釉切処理では、高台脇まで釉が垂れるもの（図26-27・32）もみられるが、ほとんどは高台脇まで垂れるものはない。見込みには目跡がみられるものが多いが、目跡がないものもわずかに存在する。高台の作りも個体による違いが大きいが、人頭相馬に比べて高台の作りにシャープさがないものが多い。高台の内側を斜めに削って作られるものがいくつかみられる。灰釉碗のほか、鉄釉流し掛け（図26-36、38~40）や、鉄絵（図26-37）の製品もみられる。しかし、小野相馬の特徴を持ちながら、他と比べると、釉調に透明度があるもの（図26-46）や、釉調や器形、高台付近の釉処理の仕方が異

なるもの（図26-47）もみられ、これらは小野相馬？としている。小碗（図28-73）は1点のみの出土であるが、小野相馬のものとみられる。

大堀相馬とした丸碗（図26-41～45）では、胎土が灰白色や淡黄色の比較的緻密な胎土であり、高台の角がよりはっきり作られている。釉切の処理では、高台脇まで釉が垂れる大堀相馬の特徴がみられる。灰釉碗（図26-43～45）と鉄釉流し掛けの碗（図26-41・42）とがみられる。しかし、18世紀中葉以降に多くみられる大堀相馬の灰釉丸碗とは異なる特色もみられる。釉調では、透明度がある波紋灰白色のものは図26-42のみで、他は淡青灰白色で半失透釉の小野相馬に近い釉である。図26-43は、口縁部付近に丸みがあり腰高で、高台が小さめの器形をしており、図26-45では高台が薄手の作りであるなど、個々の器形の違いもみられる。

京・信楽の色絵丸碗（図26-48～50）では、いずれも色絵は青・緑によって描かれたものである。瀬戸・美濃では、尾呂茶碗（図27-51）、御室茶碗（図27-52～54）、腰錦碗（図27-55・56）などのほか、茶器とみられる図28-71のような碗もみられる。肥前では、白泥刷毛目文の碗（図27-57～59）、只器手碗（図27-60～62）、京焼写しの碗（図27-63・64）、灰釉碗（図27-65）、白化粧に鉄絵の碗（図27-66）などがみられる。京焼写しの碗では、高台内に「清水」、「中村金」？のような刻印が確認される。図28-72は、器形・文様などは京・信楽の碗にみられるが、胎土が暗灰色で全体的に灰色を呈しており、京・信楽の胎土と異なるため、産地は不明である。また、図27-67～70は、いずれも茶器と考えられる。図27-68は、天目碗で、釉は油滴状の光沢がみられる。産地は中国のものと考えられる。図27-69・70は、高台内側を丸く削る作りが類似するが、胎土・釉調は異なる。図27-70は、高台脇に沈線状の削りがみられ、釉には肌色の斑点がみられる。産地は不明である。

皿では、肥前、瀬戸・美濃、小野相馬、京・信楽などがみられ、肥前がやや多い。肥前の皿は、見込み蛇ノ目釉剥ぎのもの（図28-74～76）と、そうでないもの（図28-77）がある。丸皿の他に、段を有する器形（図28-76）もみられる。瀬戸・美濃の皿（図28-79）では、見込みに指紋がみられる。図28-78は、胎土・釉調から小野相馬産と考えられる。図版24-80は、京・信楽産とみられるが、外面に色絵があり、内面に漆が塗られている。

鉢の出土点数はあまり多くはない。三島手（図29-85）、印花文（図29-86）など、唐津のものがいくつかみられる。図29-87は見込みに胎土目積みの痕跡が観察されることから、唐津でも17世紀初頭の古手のものが含まれている。図28-81は、瀬戸・美濃の綠釉流しの大鉢で、これも遺構の年代よりも古い17世紀初頭から前葉の年代が考えられる。他に、図28-84は大堀相馬の鉢、図29-88は小野相馬の片口鉢が出土している。

擂鉢は、やや多く出土しており、堺（図29-89、図30-90・91、図31-93）、唐津（図30-92）、丹波（図33-105）、瀬戸・美濃（図28-83）、小野相馬？（図33-102）、岸？（図33-101）、東北產？（図31-94、図32-95～97、図33-98、100）、産地不明（図33-99、103・104）など、産地もいくつかがみられる。堺としたものは、特徴がよく似た明石産や大阪産の可能性も含まれている。無釉焼締めで、底部が残存しているものでは、底部に焼台で重ね積みした痕跡が確認される。唐津産では、内外面に鉄釉が施釉され、上端には「×」状の振り目が施されている。見込みには焼台の痕跡がみられ、外面の体部下半には織維状のものが混ざった「糊付子」痕が確認される。丹波産は、振り目が8条の櫛引きで、口縁端部を外方にナデ、内面に鈎い稜がみられ、口縁外面の凹凸が目立つなどの特徴がみられる。下相野窯址の振年（大平茂・松本睦1992）の、Ⅳ期D類もしくはV期E類に相当するのではないかと考えられ、17世紀後葉から18世紀前葉の年代とみられる。図33-102は、胎土と口縁外面に突帯が1条巡る器形から、小野相馬の擂鉢C類（関根達人1998）の可能性が考えられる。

東北產？とした擂鉢は、砂粒が混ざる粗い胎土で、口縁外面に突帯が1条巡り、突帯の直土がナデによって凹む形態をしたものである。外面には鉄釉が施釉されている。胎土や釉調から東北の窯で生産されたものであろうと考えられる。図32-97だけは、突帯の形状が他と異なるが、胎土や釉調から東北產に含めている。胎土は、焼成時の火まわりの良し悪しによって、一個体中でも灰色を呈する部分や茶褐色を呈する部分があるなど、一様ではない。外面には鉄釉が施釉されているが、暗赤褐色のものもあれば、茶褐色のものもあり、同じ鉄釉でも釉

調にも微妙な違いがみられる。胎土の砂粒の含有度合や、突唇の形状なども、それぞれ特徴は微妙に異なることから、東北産の描鉢といっても、いくつかの異なる窯が存在する可能性が考えられる。

その他の器種では、瓶頸（図34-106・107）、壺（図34-108・109）、壺（図34-110・111）、蓋（図34-114～116）、灰吹（図34-117～119）、火入（図34-120～122）、香炉（図35-123）、焰烙（図35-124）、豆壺（図35-125）、器台（図35-126）、人形（図35-127）などがみられる。瓶では、備前へのそぞりや瀬戸・美濃の鉄釉製品がみられる。図34-109の壺は、产地不明であるが、器形から「内海茶入」の可能性が考えられる。図34-111は、砂粒の多い胎土で、上半がないため確実ではないが、信楽の「腰白茶壺」の可能性が考えられる。蓋（図34-114・116）、灰吹（図34-119）、壺・壺（図34-112）は、瀬戸・美濃産とみられる。灰吹（図34-118）や火入（図34-121）は、釉や胎土から小野相馬と考えられるものがある。同じく胎土や釉調から東北産と考えられるものが含まれる。東北産の中には、岸窯系統と考えられる香炉（図35-123）や、19世紀以降の提焼に通じると推測される胎土・釉調の灰吹（図34-117）など、描鉢と同様に、いくつかの窯の製品があるものと考えられる。図35-124は、器形から焰烙としたが、底部全体にも鉄釉が施釉され、火を用いた痕跡がみられないことから、焰烙状の形態をした他の用途の可能性も考えられる。図35-125・126は、いずれも緑褐色の釉が施釉されている。同様の釉は、1号遺構出土のミニチュア皿（図25-20）にもみられる。これらは、土師質上器や軟質施釉上器の玩具に類似した形のものがみられることから、玩具類と同様の产地の可能性が考えられる。

上述の2号遺構の陶器と同じ時期の遺構としては、1号遺構、24号土坑がある。

1号遺構の磁器（図1-9～17）は、いずれも肥前産である。波佐見産の陶胎染付（図1-13）や、器高が浅く、高台が小振りの碗（図1-9）、白磁碗（図1-12）などがある。図1-11は高台内に渦「福」銘がみられるが、「福」の字はかなり崩れたもので、2重の方形区画も省略されている。図1-10は「大明嘉靖年製」銘とみられる。17世紀末から18世紀前葉にみられる銘（鈴田1995）で、「太明」ではなく、明確に「大明」と書かれ、書体はしっかりとしたものである。見込みには手書き五介花文が、外面には薄ダミを用いた緻密な線の柳草文が描かれている。図2-14、17は、同様の文様が描かれており、釉調・胎土なども似ていることから、組となる蓋と蓋付き鉢の可能性が考えられる。その他、八角形の猪口（図2-15）、青磁皿（図2-16）などがみられる。青磁皿は、波佐見の17世紀中葉頃の足付きの皿と考えられる。

陶器（図25-14～24）では、瀬戸・美濃の灰釉碗（図25-14）、瓶頸（図25-22・23）、壺（図25-24）などがみられる。肥前では、白泥刷毛口文の碗（図25-15・16）、鉢（図25-21）、蛇ノ目釉剥ぎの皿（図25-18・19）がみられる。他に、小野相馬？の灰釉碗（図25-17）がみられる。

24号土坑の磁器（図16-172～176、図17-177～181）は、いずれも肥前産である。碗では染付色絵の製品（図16-172）がみられ、見込みにも色絵文様が展開する。高台内には2行に書かれた「富貴長春」銘がみられる。図16-173は比較的丁寧な文様が描かれた染付碗である。皿では、肥前の蛇ノ目釉剥ぎの皿（図17-179）がみられるほか、大皿（図17-177・178）や小中皿（図16-176、図17-180・181）では丁寧な文様が描かれた上手のものがみられる。高台内には「大明成化年製」銘（図16-176、図17-177）、渦「福」銘（図17-180）などがみられる。大半が18世紀前葉のものであるが、図17-178、181の皿については、それぞれ17世紀後葉、17世紀前葉から中葉の時期であり、2号遺構と同様に、皿などの一部に伝世品が含まれている。

陶器（図37-158・159、図38-160～171）では、大堀相馬、小野相馬、瀬戸・美濃、肥前、京・信楽などの製品がみられる。瀬戸・美濃製品が比較的含まれており、大堀相馬があまり多くはないという様相は、2号遺構と同様であろうと考えられる。碗では、瀬戸・美濃（図37-158、図38-164）、肥前（図38-165）、大堀相馬（図38-160・161）、小野相馬（図38-162）の灰釉碗のほか、京・信楽では錦絞呉須絵の碗（図38-163）がみられる。大堀相馬の灰釉碗は、胎土や高台の作り方からは大堀相馬と判断されるが、釉薙は小野相馬に近い淡青灰白色を呈するものであり、2号遺構と同じ特徴がみられる。図38-160は、大堀相馬の碗であるが、口縁部付近に丸

みがある腰高で、高台が小さめの器形をしたものである。小野相馬の碗は、種・胎土など2号造構で出土したものと同じ特徴のもので、見込みには目跡がみられる。皿（図38-166・167）は、いずれも瀬戸・美濃で、図38-166は17世紀前半の古手のものである。大鉢（図38-168）は、唐津の白泥刷毛目文のものである。図38-170は胎土・釉調から東北産の可能性が考えられる。

28号土坑（図18-182～186、図38-172～174）、27号溝（図18-192～195、図39-181～187、図40-188～190）からも、1号造構、2号造構、24号土坑と様相の同じ陶磁器が出土している。特に陶器は、28号土坑で尾呂茶碗（図38-172）、壺（図38-173）、斐水入（図38-174）など、瀬戸・美濃製品が各種みられる点など、類似している。27号溝では、京・信楽の色絵碗（図39-181）、肥前の京焼写しの碗（図39-183・185）、瀬戸・美濃の腰錦碗（図39-184）がみられるなど、同様の構成がみられる。1号造構、2号造構、24号土坑にみられなかつたものとしては、28号土坑では瀬戸・美濃の摺絵斐水入（図38-174）、27号溝では瀬戸・美濃の尾呂徳利（図39-187）、瀬戸・美濃？の尿瓶（図40-190）などが加わる。京・信楽の色絵碗（図39-181）は、色絵に背・緑・金が使われたものである。

2号造構よりも新しい様相を示す陶磁器としては、4号土坑、15号土坑、18号土坑、20号土坑、1号井戸、3a層が挙げられる。

20号土坑については、人為的な造構ではなく、2号造構、1号造構、24号土坑が3b層によって整地された後、自然に形成された堆みであろうと考えている（年報19第3分冊）。この20号土坑に堆積した壠上が3a層である。遺物は20号土坑として取り上げたもの（図16-168～170、図37-156）と、3a層として取り上げたもの（図19-203～209、図20-210～217、図40-195～203、図41-204～217）があるが、一連のものである。出土陶磁器には、2号造構よりも若干新しい様相がうかがえる。磁器では、碗（図19-203～207）、猪口（図19-208・209、図20-210）、小中皿（図16-168）、壺（図16-169）、瓶（図16-170）、極小皿（図20-211）、紅猪口・紅皿（図20-212、214～217）などが出土している。文様にはこんにゃく判を用いたもの（図19-205・206、208、図20-215）がみられる。高台内の銘では、渦「福」（図19-204、206）、「大明年製」（図20-210）のほか、「貴」（図19-203）がみられる。渦「福」銘は、2号造構のものよりもさらに崩れたものであり、18世紀中葉から後葉の渦「福」銘（鈴田1995）に近い。図19-206では「福」の「田」部分の渦が四重に巻かれている。

陶器の碗では、大堀相馬と小野相馬が多くなり、肥前窯がわずかに含まれる。2号造構では比較的多く含まれていた瀬戸・美濃の碗類はほとんど含まれず、腰錦碗は破片が1点確認されるのみである。2号造構では、小野相馬の碗が大堀相馬より多かったが、20号土坑・3a層では、大堀相馬の製品が多くなる。大堀相馬では、灰釉碗（図37-156、図40-196～199）の他、2号造構にはなかった灰釉と鉄釉の掛け分け碗（図40-200）がみられる。この掛け分け碗は、瀬戸・美濃の腰錦碗写しと考えられており（関根1998）、2号造構においていくつか出土していた瀬戸・美濃の腰錦碗は、20号土坑・3a層からは小破片が1点出土するのみである。小碗では鉄釉流し掛けの碗がみられる（図41-204・205）。この小碗は、中碗をやや小振りにしたようなタイプで、大堀相馬で18世紀末から19世紀初頭の資料（牛報18）でみられる小碗とは異なるものである。大堀相馬の碗の釉調は、透明度のある淡黄灰白色や淡緑灰白色の釉が主体で、2号造構でみられた小野相馬に似た釉は図37-156にわずかにみられるだけである。

皿では、肥前の見込み蛇ノ目釉剥ぎの皿（図41-209～211）、小野相馬の見込み蛇ノ目釉剥ぎの皿（図41-206）、瀬戸・美濃の摺絵皿（図41-207）がみられる。瀬戸・美濃の摺絵皿は、2号造構や24号土坑でも出土しているが（図28-79、図38-167）、摺絵はより細かく複雑な文様となっている。大堀相馬では、折線輪花皿（図41-208）と丸皿（図41-212）があり、碗とは異なり、丸皿では小野相馬の碗に近い淡青灰白色の半失透釉が使われている。折線輪花皿は、淡青灰白色の釉でも幾分透明度のある釉である。その他の陶器では、東北産とみられる大鉢（図41-213）、壺の擂鉢（図41-215）、瀬戸・美濃の摺絵斐水入（図41-217）、壺（図41-218）、大堀相

馬の鉢輪（図41-214）などがみられる。瀬戸・美濃の摺絵漿水入は28号土坑からも出土しているが、28号土坑のものより文様が大降りである。

18号土坑（図15-161～165、図36-146～152、図37-153）・1号井戸（図18-196・197、図19-198、図40-191～194）からは、18世紀代を中心とした陶磁器が出土しており、陶器では2号遺構より新しい様相がみられる。18号土坑の大崩相馬の灰釉碗（図36-146・147）は、2号遺構と異なり、釉に透明感がみられるものである。また、2号遺構にはみられなかった、大崩相馬の腰折碗（図36-148）がみられる。1号井戸の陶器では、大崩相馬の印花文のある掛け分け碗（図40-191）、印花文のある輪花皿（図40-192）など、これまで18世紀中葉から後葉の時期の資料に多くみられるものが出土している。

4号土坑からは、18世紀後半から19世紀代に入るとみられる陶磁器が出土している（図13-140～147、図35-130・131）。4号土坑は、北側と西側は調査区外へと伸び、東側と南側も攪乱によって破壊されているため、本来の形状や大きさは不明である（年報19第1分冊）。壇土5層以下では18世紀代の陶磁器が出土しているが、埋土1・2層からは18世紀後半から19世紀代のもの（図13-142～144、図35-131）も含まれており、壇土の上層と下層では異なる遺構の埋土であった可能性も考えられる。

15号土坑では、磁器で17世紀後葉や18世紀前葉のものが含まれているが、中心となるのは18世紀末から19世紀前葉の時期である（図14-151～160、図35-135～140、図36-141～144）。磁器では、碗の見込みに松竹梅文がみられ（図14-151）、18世紀後葉頃の見込み文様と考えられる（鈴田1995）。18世紀後半以降に多くなる蛇ノ目門型高台の皿もみられる（図14-158）。古手のものとしては、図14-154・155の皿がみられる。図14-154は、葉や花の描き方が繊細で、つけダミで濃淡が表されている。図14-155は、「柴田コレクションV」（佐賀県立九州陶磁文化館1997）に類似したモチーフの皿がいくつかみられる。伝世品として優品が含まれるものと理解される。陶器では、掛け分け碗（図35-135）、鉄釉流し掛け碗（図35-136）、土鍋（図36-142）、瓶（図36-144）など、大崩相馬の様々な製品がみられる。図35-140は、器種不明としたが、器形から線香立てなどの可能性が推測される。鉄釉流し掛け碗（図35-136）では、灰釉が白濁して釉白釉に近い発色をしている。18世紀末から19世紀初頭の大崩相馬の製品には、このような白濁した灰釉が多くなるのが特徴である。また、鉄釉の痰壺が出土しており（図36-143）、釉や胎土から東北産であろうと考えられる。

その他、まとまった出土はみられないものの、この期の遺構出土の陶磁器で、特筆すべき資料について触れていく。磁器では、中国のものがいくつかみられる。図14-148は、漳州窯系とみられる皿で、窓絵・青海波文などがみられる。15号溝からは、中国景徳鎮窯系の皿が2点出土している（図18-189・190）。いずれも明末清初の17世紀前半頃の年代が想定されるものである。肥前磁器の中にも、遺構の年代よりも古手の17世紀代のものがいくつか含まれている。19号土坑からは、17世紀後葉から末葉と考えられる大皿が出土している（図15-166）。19号土坑からの出土であるが、破片は各地に飛び散ったものが接合している。22号土坑（図16-171）、17号溝（図18-191）、ピット5（図19-200）にも17世紀前葉から中葉、17世紀後葉の資料が含まれている。陶器では、7号土坑に美濃の丸皿がみられる（図35-133）。いずれも遺構はⅡ期の18世紀から19世紀初頭の年代が考えられるが、陶磁器には遺構の年代よりも古いものが含まれている。

一方、22号土坑では陶器の鉢（図37-157）も出土しており、胎土や釉から19世紀の堤焼であろうと考えられる。10号溝出土の植木鉢も、胎土や釉調から19世紀代の堤焼の可能性が考えられる（図39-179）。

【Ⅲ期の遺構出土の陶磁器】（図20・21、41・42、図版16・38・39、表1～8、16～29）

Ⅲ期の遺構では、2号土坑と池状遺構古段階で幾分出土量が多い。19世紀前葉頃が主体であるが、それ以前の17世紀代、18世紀代の陶磁器もわずかに含まれている。

磁器は、肥前窯が多いことに変わりはないが、瀬戸産の磁器も含まれるようになる。2号土坑出土の碗では、

端反碗（図20-219）や蓋付碗の蓋（図20-224）、口縁内に四方神文が巡る筒型碗（図20-221）がみられる。見込み文様（図20-221、224）や高台内の鉢（図20-222）では、崩れたものや変形字などである。文様では、細い線によって描かれる素描きの文様もみられるようになる（図20-222）。図20-220は、芙蓉手風の割付けをした文様の碗で、17世紀中葉から後葉ごろのものとみられる。焼継ぎがなされていることから、かなり長い期間使われていた可能性が考えられる。池状造構新段階では、鉢（図21-226）、小中皿（図21-227）、戸車（図21-228）が出土しており、19世紀前葉から中葉の年代が考えられる。図21-229は、人形の一部と考えられる破片であるが、詳細は不明である。

陶器では、3号建物、2号土坑、17号土坑、3号溝などから、大堀相馬の製品が出土している。中碗以外にも、小碗、小中皿のはか、土瓶、瓶などがみられる。小碗（図42-224）、小中皿（図42-220）、土瓶の蓋（図42-221、222）の灰釉は、いずれも糠白釉に近い色に白濁した灰釉である。瓶（図42-225）は、非常に薄手の作りで、色の異なる鉄釉を掛け分けたものである。池状造構新段階では、肥前・瀬戸・美濃・京・信楽、東北産、中国など、さまざまな產地の陶器が出土している。年代は、19世紀代のものが主体であるが、壺（図42-229）や盤（図42-231）のように一部に17世紀代のものも含まれる。

【Ⅳ期の遺構出土の陶磁器】（図21、42、図版16・17、39、表1～8、16～29）

Ⅳ期の遺構では、1号土坑、1号溝、11号溝などから陶磁器が出土しているが、出土量は少なく、資料化できるものもごく少ない。1号土坑からは、磁器では肥前の碗（図21-231）・鉢ノ目釉刷ぎの皿（図21-232・233）、陶器では大堀相馬の植木鉢（図42-233）などがみられる。11号溝からは、磁器の鉢（図21-234）が出土しており、遺構の年代より古く18世紀代の可能性が考えられるものである。

その他、基本層2層下部、2層、1層・擾乱などの出土陶磁器で、特筆すべきものについてふれていく。

基本層2層下部からは主に18世紀代の陶磁器が出土している。磁器では、碗、色絵の紅猪口、小中皿、白磁皿、蓋付鉢の蓋、円盤状加工品などが出土している（図21-235～239、図22-240）。円盤状加工品は、2号遺構出土のものと同様のものである。白磁皿（図21-238）は、受熱の痕跡なのか、白磁釉が濁ったように変色している。陶器では、大堀相馬の碗（図42-236～238）、京・信楽の色絵灰吹（図42-239）、瀬戸・美濃の鉢（図42-240）などがみられる。

基本層2層からは、比較的多くの陶磁器が出土している（図22-241～251、図23-252～255、図43-241～249）。19世紀前葉から後葉のものが多いが、中には下部の遺構由来の古手のものも含まれている。図22-243は色絵の碗である。赤・金・青などの色が使われ、輪郭線と塗り潰して異なる色調の赤が使われている。図22-251は青磁の皿で、内外面に陽刻文で牡丹が象られている。図23-252は、中国漳州窯系の磁器皿で、明末清初の時期のものと考えられる。陶器では、大堀相馬の碗で、指による雀みが付くものがみられる（図43-241）。図43-243の端反碗は、鉄釉に灰釉が流し掛けられている。釉は、糠白釉に近い色に白濁した灰釉である。志野の向付（図43-244）、美濃の長石釉丸皿（図43-246）は、いずれも17世紀代のものである。図43-247は、仏像を模ったもので、外面には鉄釉が施釉されている。図43-248は、大堀相馬の土瓶である。外面には線刻によって素状の文様が象られている。

1層・擾乱では、磁器の人形の一部（図23-257、259）が出土しているが、全体像は不明である。図23-256は色絵の蓋物で、清朝磁器の影響を受けたような素描きの非常に細い線によって文様が描かれている。陶器では、小野相馬とみられる鉢（図43-251）、京・信楽の錦絞呉須絵文様のある鉢（図43-252）、肥前の京焼写しの皿（図43-253）などがみられる。図43-254は、箱庭道具の塔の基部とみられ、鉄釉が施釉されている。図43-255は円盤状加工品で、2号遺構と3a層・2層下部などから磁器製のものが出土している。図43-256は、窓道具の一

つとみられる。全体が焼けて赤色化しているが、上面の平坦部に変色していない部分が円形に残っており、製品を置いて重ね焼きするための道具と考えられる。

(2) 土器（図44～60、図版41～52、表9～12・30～35）

① 整理作業と資料化の方法

土器は、土師質土器、瓦質土器、軟質施釉土器と、近世より古い時代の土器に分類した。

土師質土器については、皿の出土量が桁違いに多かったため、他の種類と同じ扱うことが困難であった。そのため、皿、焼塙壺と、それ以外のもの大きく3つに分類して、接合などの作業を行うこととした。瓦質土器は、大きさや器形が様々で、破片から種類を判断することは難しかったため、破片の段階で分類はせずに作業を行っている。また、大型の土師質土器と瓦質土器では、焼成の状態によって、色調では一見して区別しにくいものも含まれていた。そのため、土師質土器と瓦質土器の中でも接合関係を確認している。土師質土器や軟質施釉土器は、土人形・土製玩具と、破片の段階では特徴が類似するものもあることから、接合作業の段階では一緒に作業を行っている。

接合作業は、土師質土器の皿については、最も出土の多い2号遺構だけでも1万5千点を優に超えており、全体の破片数では2万点以上になる。これらは、いずれも類似した色調、形態をしている。そのため、遺構を超えての接合は困難と判断し、同一遺構内での接合にとどめることにした。皿以外の土師質土器や、瓦質土器、軟質施釉土器については、遺構内での接合の後、遺構を超えての接合を行っている。集計表の点数については、上記の基準で可能な限り接合、同一個体の認定作業を行った上で、集計をしたものである。

土師質土器の皿については、口縁もしくは底部外周の6分の1以上が残存し、なつかつ器高が判明するもの、すなわち口縁端部から底部までが残っており、口径、底径の復元および器高の計測ができるものを抽出し、諸属性の観察を行った。抽出した資料は、411点である。また、それら411点のうち、器形や調整方法などが特徴的なもの、墨書きが認められるもの、底部に釘穴があるものなどを選択し、124点を図示して掲載している。

土師質土器の皿以外のものと瓦質土器については、器形がわかるものや特徴的な器種などを選んで図示し、その特徴を観察表にまとめている。軟質施釉土器については、図示できるものはなかった。

図化は、実測図の作成からトレースまで、いずれも手作業で行っている。

② 土器の出土状況（表9～12）

今回の調査では、II期のいくつかの遺構から、大量の土師質土器の皿が出土している。その量は、これまでの仙台城跡の二の丸地区や武家屋敷地区の調査で出土する皿の規模をはるかに超えた量である。また、これらの遺構では、土師質土器の皿以外にも、焼塙壺や瓦質土器なども比較的多く出土している。これまでの調査ではみられなかった形の土器類が出土しており、量だけでなく、種類の面でも豊富なことが特徴である。

土師質土器の皿は、特にII期の2号遺構から大量に出土している。2号遺構は、大規模な廃棄土坑であり、土師質土器以外にも、陶磁器・瓦・木製品・木簡・動物遺存体・植物遺存体など、いずれの遺物も大量に出土している遺構である。2号遺構は、出土遺物の内容から、仙台城の二の丸からのごみが運ばれて捨てられたものであろうと考えられている（年報19第1分冊、第3分冊）。2号遺構の埋土では、何カ所かで、上師質土器の皿が集中した状態で検出されており、検出状況から、一括して廃棄されたものであろうと推測される。出土量からみても、二の丸での宴席などで使用された土師質土器の皿が、2号遺構に大量に廃棄されたのではないかと考えられる。

上師質土器の皿は、他に、2層・2層下部、3a層、II期の4号土坑、18号土坑、24号土坑などから多く出土している。18号土坑、24号土坑についても、遺物の出土状況から、廃棄土坑であろうと推測されている（年報19第1分冊）。特に、24号土坑は、2号遺構に隣接しており、2号遺構と同様に二の丸からのごみが捨てられた廃棄土

坑であろうと推測される遺構である。そのため、土師質土器の皿の出土量も多くなっているものと考えられる。

上師質土器の皿以外では、焼塙壺が合計130点と比較的多く出土している。これまでの調査でも焼塙壺はみられたものの、その量は限られていた。今回の調査では、2号遺構から87点、24号土坑から15点と、時期の推測できる遺構から比較的まとまった量の焼塙壺が出土している。

土師質土器のその他のものや瓦質土器については、皿に比べると、出土する遺構の数はあまり多くはない。その中で、2号遺構は、耳皿、鉢類、風炉、火鉢、焜炉風口、焰烙、さな、焜炉、擂鉢、鴨羽口など、様々な種類のものが出土しており、その形態においても多様である。他の遺構では、点数は少ないものの、I期では14号土坑、12号溝、II期では4号土坑、15号土坑、24号土坑、III期では1号柱列、2号井戸、池状遺構新段階、IV期では11号溝などから、出土が確認される。特に瓦質土器の擂鉢は、わずかではあるが、I期からIV期までの各期の遺構から出土しており、各期を通じてみられる器種と考えられる。

③近世以前の土器（表11・12）

近世以前の時代の土器は、2層から須恵器と縄文土器が、H・I - 6区の2層の落ち込みから縄文土器が、それぞれ1点ずつ出土している。しかし、小破片のため、図化できるものはなかった。

2層出土の土器は、縄文が施文されていることは観察されるが、器面の状態が悪いため、縄文原体の種類は不明である。H・I - 6区2層の落ち込み出土の土器は、比較的細かいLR縄文が施文されている。いずれの土器も縄文が施文されていること以外の特徴はなく、小さい部体破片のため、詳しい時期は不明である。しかし、縄文の様子から、弥生土器ではなく、縄文土器であろうと推測される。

2層出土の須恵器は、壺と考えられるが、小破片のため、時期などは不明である。

東北大学の青葉山地区、川内地区では、これまでの調査からも、縄文土器や弥生土器、須恵器の出土が確認されている。青葉山キャンパスには、縄文時代早期を中心に、縄文時代中期・晚期の土器、弥生土器、土師器、石器など、複数の時期の遺物が出土している（年報11～15、20）。また、川内キャンパスの調査でも、それぞれの点数は少ないものの、縄文時代中期、弥生時代前期・中期の遺物、須恵器、石器などが出土している（年報13、14）。川内地区においても、江戸時代以前の時代にも何らかの活動の場があったことが推測される。

④土師質土器

上師質土器は、皿、焼塙壺、耳皿、鉢類、風炉、火鉢、焜炉風口、焰烙、さな、火消壺、植木鉢などの種類が出土している。便宜上、皿、焼塙壺、その他の土師質土器に分けて記述していく。

【皿】（図44～50、図版41～45、表9・10、30～32）

皿は、20542点出土している。上述のように、これだけの点数があり、類似した形態、色調のものが遺構を越えて完全に接合することは困難であり、行っていない。そのため、遺構を超えて接合する場合を考えると、実際の個体数はこれよりはいくらか少くなる可能性はある。しかし、そのことをふまえても、これまでの調査と比較して、はるかに多い出土量である。それらの中から、上述の基準に従って411点を抽出し、諸属性の観察を行った。さらに、そのうち124点を図示して掲載した（図44～50）。

抽出した411点のうち、大多数は2号遺構出土のものである。2号遺構以外では、1号遺構が6点、24号土坑が21点、2層が10点、2層下部が16点の抽出で、その他は数点ずつの抽出であり、2号遺構以外では抽出できたものはごく少なかった。そのため、遺構ごとの様相や差異を指摘することは難しく、ここでは土師質土器の皿全体の様相を述べることとする。

皿は、すべてロクロ整形のもので、手づくりのものは無い。ロクロ整形で底部を回転糸切りするA類と、器面にミガキによる再調整を加えるB類に大別できる。A類がほとんどで、B類の数は少ない。B類は、器面全体がミ

ガキ調整されているものと、ロクロナデの後、体部外面から底面にかけて軽くミガキがなされている程度のものとがある。B類の内面は、ロクロナデの後、軽くミガキ調整されている場合が多い。

皿A類の底部は、回転糸切り技法の違いによって、4種類の痕跡が確認される。技法aとしたものは、通常の糸切りで、糸切り痕跡の中心が、底部のどちらか一方に寄るものである。技法bとしたものは、糸切り痕跡の中心が底面のはば中央に位置し、糸の圧痕と思われるものが、この中心から弧状に伸びるものである。技法a、bのそれぞれに、右回転と左回転のものが存在する。ミガキが加わる皿B類は、底部の回転糸切り技法がミガキ調整によって消されており、確認することはできない。

皿の大きさは、口径5~10cm程度の小型のもの、口径10~15cm程度の中型のもの、口径15cm以上の大型のものの、大きく3つの大きさがみられる。小型のものと大型のものは、あまり多くはなく、ほとんどが中型のものである。中型のものは、さらにおよそ口径11cm前後、12cm前後、13~14cm程度の3群にわけられる可能性が考えられる。小型のものについても、数は少ないながらも、おおよそ5.5~6cm程度、7cm前後、8.5~9.5cm程度にまとまりがみられるものと考えられる。器高は、小型のものでは1~2cm程度、中型では2~3cm程度、大型では4cm弱程度になる。また、中型の中には、器高が2cmに満たないものが、数は少いものの存在する。これらは、他の中型のものと比べて、見た目にも浅い印象を受ける皿である。ミガキ調整されるB類は、小型と中型のものにみられ、大型のものでB類はみられなかった。B類の点数が少ないため、明確なまとまりはみられないが、中型のうち口径11~12cm程度のものが数点みられる。上述の器高2cm以下の浅いものは、このB類にもいくつか存在する。

皿の中には、炭化物が付着するもののが存在し、その付着の仕方にはいくつかの種類がみられる。口縁の1カ所にわずかに付着するもの(図44-1・3、図47-64)、口縁の数カ所に付着するもの(図44-5・6・13・17、図46-38、図48-77・84、図49-93、図50-123)、口縁部付近を一周するように付着するもの(図45-20、図48-82、図50-114)、口縁から内面にかけてびっしりと付着し、外面にも付着するもの、(図44-14、図46-40、図47-62)などがみられる。このような付着物は、以前の調査で出土した上師質土器の皿にもみられたが、今回の資料では、特に付着の仕方の多様さが観察される。口縁の1カ所や数カ所に付着する程度のものは、口縁部に軽くススが付着するか、焼け焦げたように変色している程度である。一方、口縁部一周や外側にもびっしりと付着するものでは、炭化物の付着が繰り返された結果、炭化物はタール状になり、厚みがある状態になっている。これらは、土質質土器の皿を、灯火具として再利用した痕跡と考えられる。付着の状態の差は、数回使用しただけで廃棄されたものと、繰り返し使われたものとの違いによるものであろう。

これら以外の炭化物の付着も観察される。図47-63・67では、底部にのみ炭化物の付着がみられる。その状態から、底部で火を灯したような痕跡かと考えられる。図44-8、図47-62、図48-84、図49-93、図50-114・123については、炭化物が付着するだけでなく、器面全体が煤けており、断面を見ると内部まで黒色化した状態になっている。図46-34は、器のおよそ半分について、表面が煤状に黒色化した状態である。図47-54は、外側全体と、底部内面の中央部分が煤けた状態である。その状態から、焙培のように、何かを入れて煮た痕跡のように観察される。

炭化物以外とみられる付着物も、いくつか観察される(図46-41、図47-59・68、図50-110・119)。図46-41、図47-59、図50-110・119では、液体状のものが入っていた痕跡が内面に観察される。図46-41、図50-110・119は、目視で墨汁のように観察される。図47-59については、液体状ではあるが、墨汁ではないものと考えられる。図47-68は、口縁外側が一定幅で変色しており、再利用されたときの使用法に関係があるものと考えられる。

図44-12、図45-29は、褐色の付着物が器面に付着している。図48-87、図49-96は、液体が染み込んだようなシミが、器面にまだらに観察される。これらは、皿を使用した際に付着したものなのか、廃棄された後、堆積中に付着したものなのか、不明である。

図48-71は、底部に穿孔があり、その痕跡から焼成後に穿孔されたものと推測される。このような土師質土器の皿は、以前の調査からも出土しており、二の丸地区第17地点の調査からは、孔に鉄釘が残存しているものも出土している（年報18）。このことから、図48-71の穿孔も、釘などで固定するためのものと推測され、灯明台に付属する灯明皿として使われたのではないかと考えられる。今回出土した木製品の中には、「切灯台」と呼ばれる灯明台の一部が出土している（年報19第4分冊W-265～268）。図48-71の灯明皿が、これらの灯明台と一緒に使われていたものかどうかはわからないが、「切灯台」の一部として使われていた皿の可能性が考えられる。図48-73にも底部に穿孔がみられる。この穿孔は、焼成前に穿たれたものではないかと推測され、図48-71の穿孔とはやや様相が異なる。

土師質土器の皿には、墨書が確認されるものもみられる。CH-19、65、78、85、99～102は、墨の痕は確認されるが、小破片のため、観察表のみの提示とした。CH-52、53、66、75、76は、写真のみの提示である。図45-27は、ミガキがなされた皿で、内外面に墨書がある。破損や文字の消えた箇所があるため、読解はできなかった。図46-49は、内面に菊のような花の絵が描かれている。図48-70は、内外面ともにミガキ調整された皿で、内面に梅の枝のような絵が描かれている。図49-98は、底部の内外面ともに墨痕がみられる。墨痕の様子から、習書や記号などではなく、砚代わりに筆先を整えるのに用いられたような状況が観察される。

【焼塙壺】（図51・52、図版46、表9・10・33）

焼塙壺126点、焼塙壺の蓋4点が出土している。そのうち、22点を図示し、掲載した（図51・52）。焼塙壺は、I期では13号土坑、II期は1号遺構、2号遺構、4号土坑、24号土坑、III期は17号土坑から出土している。

出土した焼塙壺は、大きさは、畿内系と考えられるものと、地元産と考えられるものに分けられる。

畿内系と考えられる焼塙壺は、図51-132、136、137である。これらには、「泉州麻生」の刻印がみられ、外面は横ナデの調整痕が観察される。粘土板を筒状にして成形しており、底部には粘土塊が充填されている。内面は、成形時の上台などを抜いた痕跡なのか、回転させながら何かを引き抜いたような痕と、布目の痕跡が観察される。体部上半にロクロによるナデの痕跡が確認される。胎土は白っぽい。このような焼塙壺は、2号遺構の3点の他、図示しなかったが4号土坑、2層と2層下部から3点が出土しており、計6点が確認されている。

図51-142は、II期の4号土坑から出土している。ロクロ成形で、器厚や底部は薄手であり、外面はナデ調整されている。二の丸地区第17地点から出土した焼塙壺に類似するものがみられる（年報18 CH-59・64）。このような焼塙壺は、この1点のみの出土である。

図51-143は、2層からの出土である。ロクロ成形ではなく、器面の調整も丁寧ではない。以前の調査で、二の丸地区第9地点から出土している畿内産の焼塙壺（年報8登録番号715）に、胎土、器面調整などが似ているが、欠損部分が多いため、断定はできない。このような焼塙壺は、この1点のみの出土である。

また、畿内系の焼塙壺の蓋と考えられるものが出土している。図51-145・146は、いずれも2号遺構からの出土である。蓋は、型作りで、内面には布目痕が観察される。

地元産と考えられる焼塙壺も、いくつかの種類がみられる。最も多いのは、ロクロ成形で、底の厚いコップ状の形態をしたものである（図51-126～131、133～135、138～141、144）。外面体部下半には格子タタキが施される。畿内系の焼塙壺の胎土が白っぽいのに対し、このタイプのものは赤みを帯びた胎土である。体部下半がやや太めのもの、細めのもの、器高が小振りのものなど、多少の差異はあるものの、全体的な形状に大きな違いはみてとれない。ただし、図51-128・130・141・144については、他のものよりも器高が高く、それに応じて、くぼみ部分も深くなっている。図51-128・130は、体部下半の格子タタキが、他のものとはやや異なり、格子目の形が縦長である。これらはII期の2号遺構、24号土坑からの出土がほとんどで、それ以外では3a層、2層下部、2層、1層・擾乱からわずかに出土しているのみである。以前の調査では、二の丸地区第5地点、第17地点の調査において、同様の形態のものが出土している（年報6、9、18）。

また、これらとは少し様相が異なるが、地元窯と考えられる焼塙壺が出土している（図51～125）。図51～125は、ロクロ成形で、コップ状の形態はしているものの、底は厚くない。体部上半は欠損しているため不明である。体部下半には、格子タタキが施されている。格子目の形は、上述の図51～128、130よりも、さらに縦長で特徴的である。胎土は、上述の地元窯焼塙壺と類似した赤みを帯びた胎土である。I期の13号土坑から出土しており、II期の遺構から出土したものよりは古いタイプの焼塙壺の可能性が考えられる。このような焼塙壺は、図示しなかったものを含めて、5点出土している。

【その他】（図52～55、図版47～49、表9・10、34）

土師質土器のその他のものは、96点出土しており、そのうち21点を図示した（図52～55）。I期、IV期の遺構からは出土していない。III期でも、石敷遺構から鉢類が1点出土しただけである。

最も多く出土するのは、II期の2号遺構からで、鉢類、風炉、火鉢、耳皿、焜爐や風口、焙烙、さらなど、47点が出土している。風炉は、2号遺構から3点出土しており、そのうち2点を図示した（図52～149、図54～161）。図52～149は、風炉の前方にある窓部分が全て開き、肩と呼ばれる口縁部分が繋がらない「道安風炉」と呼ばれる種類にあたる（千宗室1966）。外面は丁寧にミガキ調整され、三足の脚が付くものと考えられるが、1つのみの残存である。図54～161も、窓が全て開く形態であるが、図52～149とは異なり、脚は付かない。底面以外の内面が黒色に変色しており、炉として使用された痕跡であろうと考えられる。麻布台一丁目遺跡（港区麻布台一丁目遺跡調査会1986）で出土した鉢類C型ハ稚と形態的に類似する点もみられるが、それより口径、器高とも小型である。

図53～154は、焜爐や風口である。多摩地方の民具資料の中に、木棒を組み、内部を壁土で固めて構築されたシチリンがあり、内部には箱形の土製品が置かれる（米川幸子1992・2000）。図53～154は、この箱形の土製品と同様の器形をしており、焜爐（シチリン）に付随して使用されたものと考えられる。

焙烙は、18点出土しており、3点を図示した（図53～156、図54～160・162）。いずれも丸底で、口縁部は直立するか、軽く外傾する器形をしている。図53～156は、内面に剥落痕が3カ所に観察され、内耳を持つものであろうと考えられるが、内耳白体は欠損している。外面は、底部付近までロクロナデの痕跡が確認される。図54～160・162には、内耳の痕跡は確認されない。外面の調整も、口縁部付近はロクロナデであるが、底部付近は意図的にざらざらした器面に調整していることが観察される。これらは、外面の調整や内耳の有無など、図53～156とはまた異なるタイプの焙烙と考えられる。これまでの仙台城跡二の丸地区や武家屋敷地区の調査で出土した焙烙は、二の丸地区第9地点から出土した18世紀後葉の資料が最も古いものであった（年報8）。それは、円形の本体部に、把手を受けた、フライパンのような形態をしたものである。また、18世紀末～19世紀初頭になると、軟質施釉陶器の焙烙が出現するが、これもまたフライパン形である。江戸の遺跡で多く出土する丸底や内耳の焙烙の確実な例は確認されていなかった。今回の資料は、18世紀前葉の遺構からの出土であり、これまでより古い時期に焙烙が存在したことが認められる。また、これまでみられなかった内耳や丸底の焙烙が、仙台城でも出土することが確認された。

耳皿は5点出土しており、いずれも2号遺構からの出土である。そのうち1点を図示した（図53～153）。ロクロ成形で、回転糸切り後、両側面を曲げて作られている。ミガキによる再調整はないものとみられる。

図52～150は、口縁部が内外面両側にやや突出した断面形態をしており、軽く外傾する器形である。瓦質土器の火鉢の中に、このような器形のものがみられることから、十師質ではあるが、同様に火鉢と分類した。しかし、体部以下が欠損しているため、他の種類である可能性も考えられる。内面はロクロナデ、口縁部と外面はミガキ調整されている。

鉢類としたものは、鉢状の形態をしているが、用途が不明なため、それ以上の分類が難しいものをまとめている（図52～151・152、図53～155・157・158、図54～163）。図52～151、図53～155、図54～163は、口縁部が内側に、丸みを帯びた形を示している。3点とも大きさはほぼ同じ程度である。図53～155、図54～163では、口唇部

から外面がミガキ調整され、図52-151は口縁の湾曲がやや強い。図52-152は、口縁部の内側が突出しており、内側が敲打痕のように欠けている。図53-157は、体部上半に軽い凹曲を持ち、2条の平行沈線文が施されている。胎土は、他のものに比べて白っぽい。図53-158は、不正円形をしており、外面はミガキ調整されている。煤の付着が顯著で、外面はほぼ全面に、内面は口縁部付近と底部に煤の付着がみられる。

図53-159は、土師質土器の皿を加工したと考えられるが、種類は不明である。底部の中央に径3cmほどの孔が穿たれている。また、中央の孔を挟んで、向かい合わせに数個の小孔がみられるが、破損しており全体は不明である。中央の孔、小孔のいずれも焼成前に穿孔されているものと考えられる。

その他の遺構では、1号遺構から鉢類、焜炉風口が1点ずつ出土している（図52-147・148）。図52-147は、器形から用途を断定できなかったため、鉢類とした。底部には三足の脚が付くと思われるが、1つのみの残存である。口縁部は内側している。外面はミガキ調整されている。図52-148は焜炉風口である。半分が欠損しているが、残存部分の大きさ、形態、器面調整などは、図53-154とよく類似している。

遺構以外では、3a層から擂鉢（図54-164）、2層下部から鉢類（図54-165・166）、2層から楕木鉢（図55-167）などが出土している。図54-165の鉢類は、用途不明である。脚が付き、口縁は平底ではなく、波状になるものとみられる。口唇部は敲打痕のような痕跡がみられるが、表面の剥落の可能性もあり、明確ではない。図54-166の鉢類は、脚が3カ所に付き、底部には刻印が観察される。外面は、樹皮を真似た凹凸がみられ、木の節のようなモチーフがあり、全体として木の切り株のような意匠になっているものと考えられる。用途は不明である。図55-167は、底部に孔があることから、楕木鉢と考えられる。高台には、3カ所にアーチ状の切り込みが加えられている。

⑤瓦質土器（図55～60、図版49～52、表9・10、35）

瓦質土器は、火鉢、竈、爐、擂鉢、五徳、十能、焜炉、壇壠、轆羽口、楕木鉢、壺壺類、鉢類などがみられた。壺壺類は、火消し壺などが含まれると考えられるが、破片資料のため、特定できないものをまとめている。鉢類も、破片から種類を特定できなかった様な「鉢」形のものをまとめている。また、焜炉などは、同じ器種でも形態が実に多様で、江戸出土の土師質土器、瓦質土器とも異なる形態のものが出土している。これらの中から、形態的特徴がわかるものを中心にして37点を図化した（図55～60）。

瓦質土器は、土師質土器に比べて点数は少ないものの、各期の遺構から出土している。I期の遺構では、13号土坑から壺壺類（図55-1）、14号土坑から壇壠（図55-2）、擂鉢（図55-3）、12号溝から壇壠（図55-4）、火鉢（図55-5）などが出土している。図55-1の壺壺類は、底部に受熱痕と思われる変色が観察されることから、火消し壺として使われたのではないかと考えられる。底部には三足の脚が付く。図55-2の壇壠は内外面ともに受熱痕とみられる変色がみられる。図55-4の壇壠では内面に受熱の痕跡がみられる。火鉢（図55-5）は、口縁部直下に連続した押圧による縦目状の粘土紐貼り付けがあり、その剥落痕も観察される。比較的大型の火鉢と推測される。

最も多くの瓦質土器が出土する遺構は、II期の2号遺構である。2号遺構の瓦質土器のうち、16点を図示した。2号遺構出土の瓦質土器で最も点数が多いのは火鉢である（図55-7、図56-11・12、図57-13・14、図58-19・21、図59-22）。火鉢にも大きさや形態が異なるものがいくつかみられる。図56-11・12、図57-13、図58-21、図59-22は、口縁部が内外面両側に突出し、断面がT字状を呈する口縁部形態であり、外面の口縁部直下に連続した押圧による縦目状の装飾が貼り付けられるものである。破片のため、わからないものが多いが、図57-13のように脚を有するものと考えられる。外面はミガキ調整されている。T字状に突出する口縁部の形状や、口縁部直下の粘土紐による縦目状の装飾も一様ではなく、個体によってさまざまな違いがみられる。図55-7は、口縁の外側が突出する口縁部形態で、脚を有する器形である。外面に粘土紐による縦目状の装飾はみられない。

I^{II}唇部に線刻のようなものが観察されるが、器面の状態がよくないため、詳細はわからない。この十器は、器面の色調が上部質土器に似ていて、瓦質土器と土師質土器の分類が難しい土器であるが、焼成のよくない瓦質土器と判断し、瓦質土器に分類している。図57-14は、外面に粘土縁による純口状の装飾による装飾をもたない火鉢である。外面は丁寧にミガキ調整され、口縁は内側に突出した断面形態である。火鉢の大きさは、直径30cm程度のもの（図55-7、図57-13、図59-22）と、それより大きく45cm程度のもの（図58-21）がみられる。また、3a層出土の火鉢（図55-6）は、図55-7と類似した器形であるが、直径17.3cmと非常に小型である。

2号遺構からは焜炉が9点出土しており、そのうち3点を図示している。図56-8は、体部上半に方形の窓を持つ器形をしており、その対角の体部下半には、円形の孔が2カ所に穿たれている。破損しているが、口縁部は窓によって途切れる事はない。口縁部はやや内側する器形である。図58-20も、図56-8に類似した形状の焜炉であるが、異なる点もみられる。図58-20では、窓は口縁部に懸かり、口縁部は窓によって途切れる事になる。窓の対角にある2カ所の円形の孔も、図56-8では体部のややドよりであったが、図58-20では体部上半にある。いずれも、底部は欠損しているため、不明である。外面はミガキ調整されている。図57-15は、体部に窓がある器形の焜炉であるが、口縁部は欠損していて不明である。窓の下の部分は外側に張り出すように作られている。三足の脚を有するものと考えられる。体部の上側は受熱痕とみられる変色があるが、底部付近にはみられない。その境は、ちょうど窓の下の張り出し部分に相当することから、底部には灰などを散き、その上に炭を入れ、窓から火の加減を調節するといった使われ方がされていたのではないかと考えられる。

図56-9は、壺壺類である。外面はミガキ調整されており、底部に脚は付かない。内面の底部付近は、受熱痕とみられる変色があることから、壺壺類の中でも、火消し壺として使われたものではないかと考えられる。口縁部は、蓋が重なる部分のためか、摩滅痕が観察される。図57-18も壺壺類ではないかと考えられるが、口縁部のみであるため、詳細は不明である。

他のII期の遺構では、4号土坑、15号土坑、18号土坑、19号土坑、22号土坑、24号土坑、17号溝、池状遺構古段階、1号井戸などから、数は少ないものの、瓦質土器が出土している。4号土坑から出土した図59-23は、口クロア成形であるが、全体形状、用途とともに不明である。15号土坑では、十能（図59-24・25）、壺壺類（図59-26）、鉢類（図59-27）などが出土している。図59-26の壺壺類は、体部下半に受熱痕とみられる変色があることから、火消し壺ではないかと考えられる。外面には舞文による波状文が描かれている。24号土坑からは、鉢類（図59-28）、碗（図59-29）、火鉢（図59-30）が出土している。図59-28の鉢類は、外面に刺突と範描きによる文様が描かれている。

III期の遺構では、2号柱列、2号土坑、2号井戸、池状遺構新段階などから、1、2点ずつの出土がみられるが、図化できるものはわずかである（図60-31）。図60-31は火鉢で、池状遺構新段階からの出土である。口縁部は内外面両側に突出し、断面T字状を呈する形態であるが、外面に貼り付けは付かない。

IV期では、1号溝、11号溝などから瓦質土器が出土しているが、数はごく少ない。図化できたのは、図60-33のみである。図60-33は、11号溝からの出土で、炭痕の口縁部ではないかと考えられる。

これらの他に、2層と1層・擾乱から出土した瓦質土器のうち、特徴のある器形や調整方法のものを図化した（図60-32・34-37）。図60-34は火鉢の脚部などに付く獅子状の装飾ではないかと考えられる。裏には剥落の痕跡が観察される。図60-32、35は種類不明の瓦質土器である。図60-32では、端部が面取りのような調整がなされている。図60-35では、外面に凹凸の文様が加えられている。図60-36は、何かの脚部ではないかと考えられるが、詳細は不明である。

(3) 土製品（図61～64、図版52～54、表11・12、36）

陶器・磁器質でない人形類と、土師質土器と軟質施釉土器のうち実用品ではないと考えられる器類、小型の土製品をまとめている。土製品は、2号遺構と、2層・1層・擾乱からの出土が多い。I期の遺構からは出土しておらず、出土が確認されるのはII期以降の遺構からである。II期では、2号遺構からの出土が多いが、2号遺構からの出土量が他の遺構と比べて突出するという状況はみられない。数点ずつではあるが、II期、III期、IV期を通じて、比較的多くの遺構から出土が確認されている。出土した161点のうち、特徴のわかる41点を図示した（図61～64）。土人形とまとめて道具などの土製玩具などの種類がみられる。

【土人形】

土人形には、七福神、西行法師、天神、太鼓持ち、童子などの人物を模ったものと、犬、狛犬、鳥、猿、猪、魚など動物を模ったものとがみられる。

図61-4は、七福神の大黒天を模ったものと考えられる。前後合わせの型作りで、中空である。手には小槌を持ち、背中には袋を背負い、2つの袋の上に乗っている表現が見て取れる。軟質施釉である。図61-7は、着物を着た人物であるが、上半身が欠損しているため、詳細は不明である。前後合わせの型作りで、中空であり、底部からの穿孔が観察される。軟質施釉である。写真のみの掲載であるが、CO-12・13は、いずれも土師質で、前後合わせ型作りで、中空ある。笠を表現しているとみられる。破片のため断定はできないが、西行法師の笠部分の可能性が考えられる。図62-15は、天神を模っている。軟質施釉で、前後合わせの型作り、中空である。笏を持つ表現がみられ、烏鵲は欠損している。図63-23は、太鼓持ちと考えられるが、太鼓と左手に当たる部分のみが残存し、人物部分は欠損している。前後合わせの型作りで、中空である。沈線内に赤色がわずかに残存していることから、彩色されていたことが考えられるが、下地の胡粉塗りはみとめられない。堤焼の伝世品に、太鼓持ちの人形があり（仙台市博物館1989）、太鼓部分に類似点がみられる。図62-24は、土師質で、前後合わせ型作りで、中空である。顔の表現など、わかりにくい部分もあり、名称を付し難いため人物としたが、蟹の様子からは男性ではないかと推測される。図64-34は、土師質で、中空の前後合わせ型作りであるが、後頭部は欠損している。ふくよかな顔の表現から童子ではないかと考えられる。

動物を模った土人形では、犬や狛犬、猿を表現したものが多い。犬（図61-8、図63-30、図64-38）は、いずれも手づくねで、中空である。顔や尾の表現に多少の違いは見られるものの、基本的には尾を巻いて立った犬を表現しており、共通している。

狛犬としたもの（図63-27・29、図64-36・40）は、犬が台の上に座った状態を表現したものを探している。いずれも左右合わせの型作りで、図63-27は中空、それ以外は中実である。図63-27のみ、底部が開口する。図64-36は、頭部のみのため、座った状態かは判断つかないが、型作りであることと、顔の表現が、手づくねの犬よりも、狛犬の表現に近いことから、狛犬ではないかと推測される。

猿（図61-11、図62-20、図63-28）のうち、図62-20、図63-28は、手づくねで、中空である。図61-11は、図63-28のような猿の笠部分ではないかと推測される。図62-20は、座って片膝を付いた状態の猿を表現しているが、頭部と手足は欠損している。背中や肩には、細かい沈線で毛が表現されている。図63-28は、笠を被り、手を合わせ、片膝を立てたような様子が表されているが、脚は欠損している。笠を被った猿ではないかと推測したが、顔は鉛土を丸めただけで、顔や毛などの表現はなく、詳しく述べられない。

これら以外にも、鳥、猪、魚などの土人形がみられる。鳥（図61-9）は、手づくねで、中空であるが、頭部は欠損しており、不明である。猪（図63-26、図64-41）は、いずれも左右合わせの型作りである。図63-26は中実で、図64-41は中空であり、大きさにも違いがみられる。いずれも横向きの猪で、沈線で牙や毛の表現がなされている。魚（図64-32）は、左右合わせの型作りであり、片側の一部のみが残存している。鱗とえらの表現がみられる。

【土製玩具】

玩具では、豆甕、蓋、擂鉢、器台、土鍋、箱庭道具、羽釜、土鉢などが確認される。豆甕（図61-1）は、ロクロ成形の軟質施釉土器である。後述の擂鉢などに成形や調整、施釉の状態が似ていることから、玩具ではないかと推測される。蓋は、軟質施釉のもの（図61-5）と、土師質のもの（図61-14、図62-18）がある。どちらもロクロ成形で、大きさにも大きな違いは見られない。上面には粘土を貼り付けたつまみが付くが、図62-18では剥落している。豆甕の口径とおおよそ一致することから、この蓋になる可能性が考えられる。擂鉢（図62-16）は、ロクロ成形の軟質施釉土器で、擂り目は密ではない。口縁部は三角形状に成形されている。上鍋（図62-21）は、実用品のミニチュアで、把手が付くと考えられるが、欠損している。土師質で、ロクロ成形である。羽釜（図64-39）は、土師質で、ロクロ成形である。器台としたもの（図61-6、図62-17、図64-35）は、これまでの調査においてもたびたび出土する器種で、今回の調査においても19点が出土しており、比較的の出土数の多いものである。しかし、その器形から使い方を判断することが難しく、実用品なのか、玩具であるのかは不明である。江戸出土のミニチュアでは蓋台に形が近いが、器台の方がやや大きめであることと、蓋を置くであろう平坦面が、器台では平坦ではなく内側に傾いているなどの違いもあるため、同様のものであるのかどうかを判断することは難しい。ロクロ成形で、土師質と軟質施釉の両方が確認される。

これらのような玩具は、ほとんどのものは、ままごとなどに使われる実用品のミニチュアであると考えられる。しかし、実用品にその原型を求めるのが困難な場合、玩具の両方の可能性が考えられる豆甕など、分類の難しいものも含まれている。

土鉢（図61-3、図62-19・22、図64-33）は、玩具の中でも比較的多く出土する種類で、これまでの二の丸地区や武家屋敷地区的調査においても多数確認されている。大きさに大小はあるものの、いずれも基本的に似たような形をしている。手づくねで、中空になっており、上部にはつまみと小孔がある。つまみ部分を内部から観察すると、つまみ部分を成形した際に生じる絞り目が顯著に観察される。図64-33には、内部に上玉があり、振ると音が鳴ることから、破損しなければ、いずれもこのようない状態であったと推測される。

箱庭道具は、図64-37の1点のみの出土である。型作りの中実で、対角線部分で貼り合わせて作られている。頂部と底部から穿孔されているが、貫通はしていない。多重塔であるが、欠損しているため、何層なのかは不明である。窓は正面と両側面に付けられているが、背面にはない。

（4）瓦（図65～70、図版55～57、表37～47）

瓦の分類・集計・計測の基準は、年報6・7・8・9で示しており、年報18では、新たに設定した種類を含めて、改めて分類基準をまとめている。平瓦、半瓦1類、半瓦2類の分類については、確実に平瓦と判断できるものを平瓦とし、反りがあり平瓦、棟瓦、軒桟瓦の一部である可能性があるものを平瓦1類とした。半瓦2類としたものは、反りがなく、平坦な瓦をまとめている。板扉瓦などの破片で、平坦な部分のみが残存しているような場合は、平瓦2類に含まれる。また、棟のない板扉瓦（彎曲をもたず半坦なもの）としてきたものを、板状瓦として分類している。丸瓦と丸瓦類の分類については、瓦当面がなく軒丸瓦でないことが確実なものについては丸瓦とし、玉縁部分のみが残存したものや、瓦当部分の有無が確認できないなど、軒丸瓦の可能性の残るものは丸瓦類として分類した。軒丸瓦、軒平瓦、棟瓦、軒桟瓦、板扉瓦、T字瓦、棟瓦、面戸瓦、輪違い、鬼瓦の分類基準は従来通りである。今回報告する資料の分類基準も、基本的に年報18に準じている。

今回の資料では、軒平瓦、軒丸瓦、平瓦（1類・2類）、丸瓦、丸瓦類、軒桟瓦、棟瓦、板扉瓦、板状瓦、面戸瓦、輪違い、棟瓦、袖瓦、角桟瓦、鬼瓦、すえもの、熨斗瓦の18種類である。そのほかに、特殊な形状の瓦で用途や名称が明確でないものや、鬼瓦の一部と思われるが断定できないものについては、その他の瓦として分類している。また、小破片で分類自体が困難な資料は、不明瓦として分類・集計を行っている。

分類・集計した瓦のうち、年報6に示した基準に従って、計測できるものを抽出し、諸属性の観察を行った。図示したものは、それぞれの種類の中で、よく特徴を示しているものなどを中心に選択的に提示している。また、刻印やヘラ書きなどの認められる瓦は、種類や残存の度合いに関係なく、全てを提示している（図65～70）。

今回の調査では、2号遺構から2288点の瓦が出土しており、他の遺構と比較して出土量が多い。これまでの調査では、二の丸地区からは非常に多くの瓦が出土しているが、武家屋敷地区的調査では、瓦の出土は少ないので通常であり、比較的多く出土した層面や遺構でも、100～200点程度である。2号遺構は、二の丸からのごみが廃棄された土坑であると考えられるため（年報19第1分冊）、武家屋敷地区的遺構ではあるが、瓦の出土量が多いものと考えられる。2号遺構出土の瓦は、軒平瓦、軒丸瓦、板扉瓦、面戸瓦、輪違い、擬斗瓦、袖瓦など、出土する瓦の種類が多いことも特徴である。

他では、2層から507点、24号土坑から150点の瓦が出土している。24号土坑は、2号遺構に隣接し、2号遺構と同様に、二の丸からのごみが運ばれた廃棄土坑と考えられており（年報19第2分冊）、そのため、瓦の出土量も多いものと推測される。

【古代の瓦】（図65、図版55、表13～15、37）

2層からの出土である（図65-1）。2層は、主に明治期の遺物が出土している層であるため、下層からの混入であると考えられる。小破片のため、瓦の種類を特定することは困難である。上面には布目があり、下面は繩目が観察される。供伴する遺物もないため、詳細な時期は不明である。

【軒丸瓦】（図65、図版55、表13～15、38）

軒丸瓦は、86点出土している。そのほとんどがⅢ期の遺構からの出土で、中でも62点が2号遺構からの出土である。Ⅰ期、Ⅲ期の遺構からは出土していない。

瓦当文様は、三引両文2点（図65-8）、連珠三巴文26点（図65-2・3・6・7）、九曜文15点（図65-4・5）、三巴文1点、菊花文1点（図65-9）、無文3点がみられた。菊花文と無文のものは、いずれも1層・攪乱からの出土である。瓦当文様の構成は、これまでの二の丸地区的調査と変わりない。連珠三巴文のうち、巻きの観察ができるものでは、左巻き10点、右巻き6点である。三巴文は左巻きである。

瓦当直径が計測できたものは6点で、連珠三巴文と九曜文のものである。瓦当直径16.5～17.7cm、周縁幅2.2～2.5cm程度と、大きさに違いはみられなかった。これらは2号遺構、24号土坑、3a層からの出土である。

【軒平瓦】（図66、図版55、表13～15、39）

軒平瓦は、21点出土している。基本層と2号遺構、4号溝からの出土で、2号遺構が最も多い。

瓦当文様は、2号遺構出土のものでは、雪垂笠+唐草2類（図66-10）が3点、四弁花+唐草3d類？（図66-11）が1点で、唐草2類のみわかるもの1点、唐草3b類？のみわかるもの（図66-12）1点、唐草3c類のみわかるもの（図66-13）1点、無文が1点と、文様にあまりまとまりはみられない。2層出土のものでは、唐草5類が2点、2層下部では唐草6類？が1点であった。破片資料が多く、瓦当文様の組み合わせ全体がわかるものは少なかった。

【軒棧瓦】（図66、図版55、表13～15、40）

軒棧瓦は、31点出土している。そのうち、ほとんどが1層・攪乱からの出土で、他に2層とⅢ期の2号土坑からわずかに出土するのみである。瓦当面の文様全体がわかるものは、図66-14のみである。2号土坑からの出土で、小巴部分は左巻きの三巴文、垂れ部分は三枚簾2b類+唐草5類である。その他の瓦当文様は、1層・攪乱出土では、三巴文が3点確認された以外は、すべて無文のものであった。2層出土では、小巴部分に三巴文、垂れ部分に唐草5類の文様がそれぞれ1点ずつ確認される。小巴部分の三巴文が確認されたものは6点であり、すべて左巻きのものであった。

【丸瓦】(図67、図版55、表13~15、41)

丸瓦と特定できたのは147点である。そのうち1点を図示した(図67-18)。2号遺構からの出土が最も多い。完形のものではなく、全長がわかるものはなかった。計測できたものでは、幅は14.2~15.7cmであった。

【丸瓦類】(図66、図版55、表13~15、42)

丸瓦類は、706点出土している。2号遺構からの出土数が最も多いが、II期では比較的多くの遺構から数点ずつの出土が確認される。丸瓦類は破片資料が多く、完形のものはなかった。そのため、全長が計測できるものもなかった。そのうち1点を図示した(図66-15)。玉縁部に釘穴が1カ所確認される。

【面戸瓦】(図67、図版56、表13~15、43)

18点出土しており、2号遺構からの出土が多い。そのうち、残りのよい2点を掲載した(図67-22・23)。図67-22と図67-23では、丸みの強さが異なり、断面形状に違いがみられる。長さが計測できたものでは、9cm前後のものが多いが、7.4cmから10.3cmまでがみられ、多少ばらつきがみられる。幅が計測できたものは少ないが、13.7cm前後のものがいくつかみられ、14.8cmのものも1点みられる。

【輪違い】(図68、図版56、表13~15、44)

出土したのは全体で7点と非常に少ない。計測可能なものは3点で、そのうち2点を図示した(図68-24・25)。図68-24・25は、上幅・下幅とも同じような大きさであるが、長さが13.5cmと11.3cmと多少の違いがみられる。

【その他の瓦】(図67~69、図版56・57、表13~15、45)

その他に、板扉瓦(図67-20)、板状瓦(図67-21)、熨斗瓦(図68-26・27)、鬼瓦(図69-28)、留蓋(図68-29)、不明瓦(図69-30・31)などの瓦を掲載した。

板扉瓦は101点出土している。2号遺構と2層からの出土が多い。破片資料が多く、長さ、幅などの全体形状が判明するものはなかった。棟の断面形状は、方形のものがほとんどであるが、丸みを帯びるものもごくわずかにみられる。図67-20は、溝が確認されるが、溝があるものは、全体の中ではごくわずかである。

板状瓦としたものは、以前は棟のない板扉瓦と分類していたものである。しかし、棟がないため、用途を板扉瓦に特定することが難しいことから、『年報18』より「板状瓦」として分類している。今回の調査では、図67-21のみの出土である。図67-21は、反りのない方形で、2カ所の釘穴が確認される。

熨斗瓦は、I期の12号溝と、II期の2号遺構からのみの出土で、合計12点出土している。そのうち、2点を掲載した(図68-26・27)。長さが計測できるものではなく、幅では12cm前後のものが多いが、15cm程のものもみられる。図68-26・27では、凹面にそれぞれ3条と1条の筋が入れられている。

鬼瓦は、3点出土しているが、いずれも1層・搅乱からの出土である。そのうち、1点を掲載した(図69-28)。欠損箇所があるため、詳しいことはわからないが、並型の跨鬼の一種である可能性が考えられる。裏面ではなく、中央部に瓦を結びつけるための龍頭が付いている。

不明瓦とした図69-30・31は、平瓦1類と同じような形をしているが、平瓦1類にはみられない溝が凹面にみられるものである。

【刻印のある瓦】(図70、図版57、表13~15、46・47)

様々な種類の刻印やヘラ書きが認められる。2号遺構、2層、1層・搅乱から出土のものにみられるが、ほとんどが2号遺構と1層・搅乱である。瓦の種類では、平瓦1類と棟瓦に多く、丸瓦類にもみられる(表42、46・47)。刻印には、片仮名1文字、あるいは2文字のもの、記号のようなもの、屋号のようなもの、人名とみられる漢字のものなどがみられる。

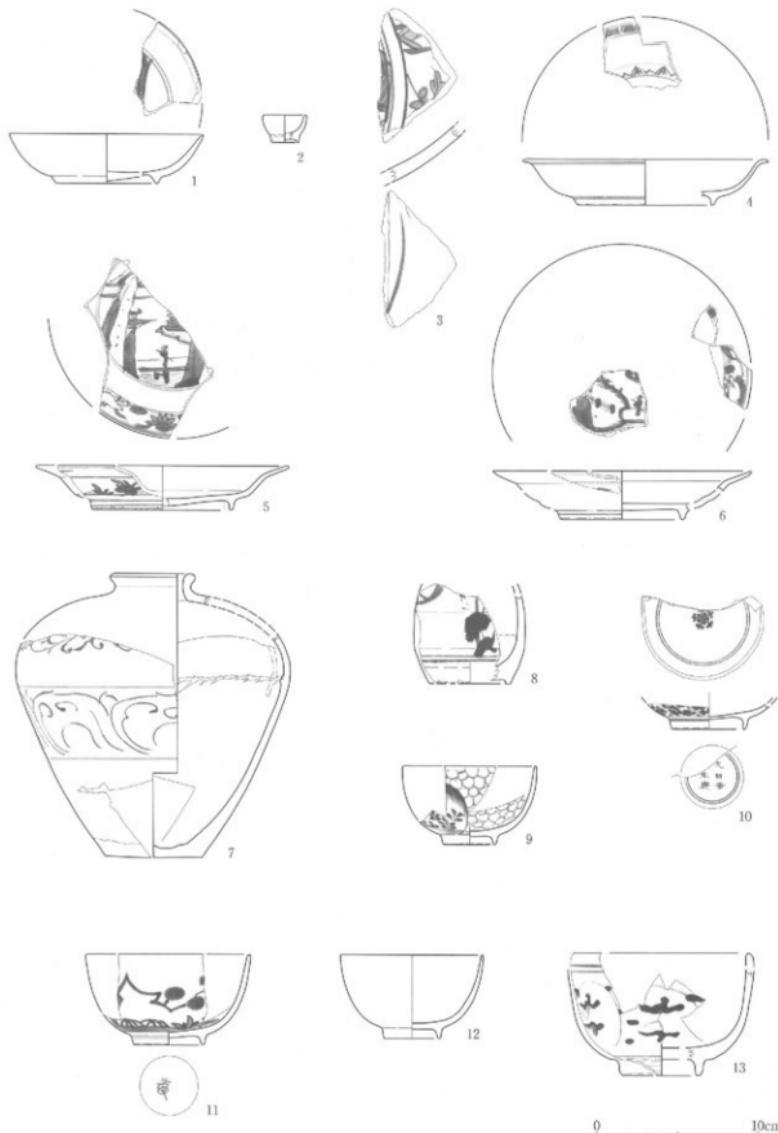


图1 武家房屋地区第7地点出土磁器 (1)
Fig.1 Porcelains from BK7 (1)



图2 武家屋敷地区第7地点出土磁器 (2)
Fig.2 Porcelains from BK7 (2)



图3 武家屋敷地区第7地点出土磁器 (3)
Fig.3 Porcelains from BK7 (3)

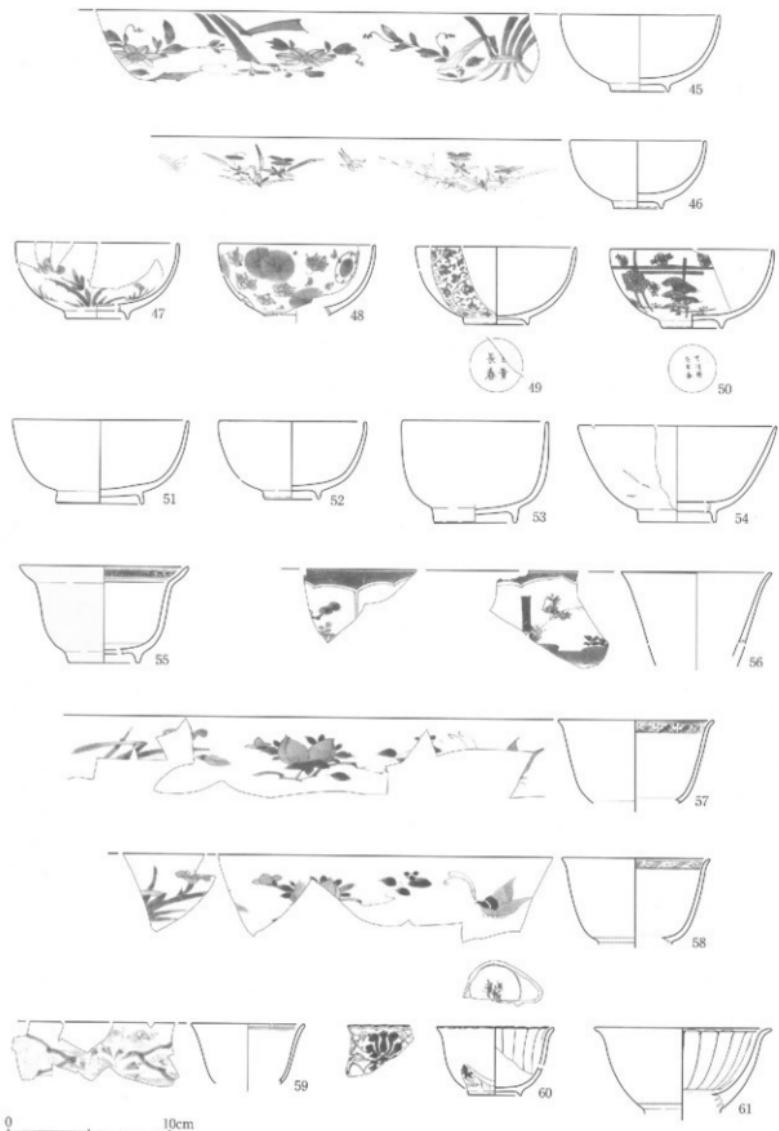


图4 武家屋敷地区第7地点出土器（4）
Fig.4 Porcelains from BK7 (4)

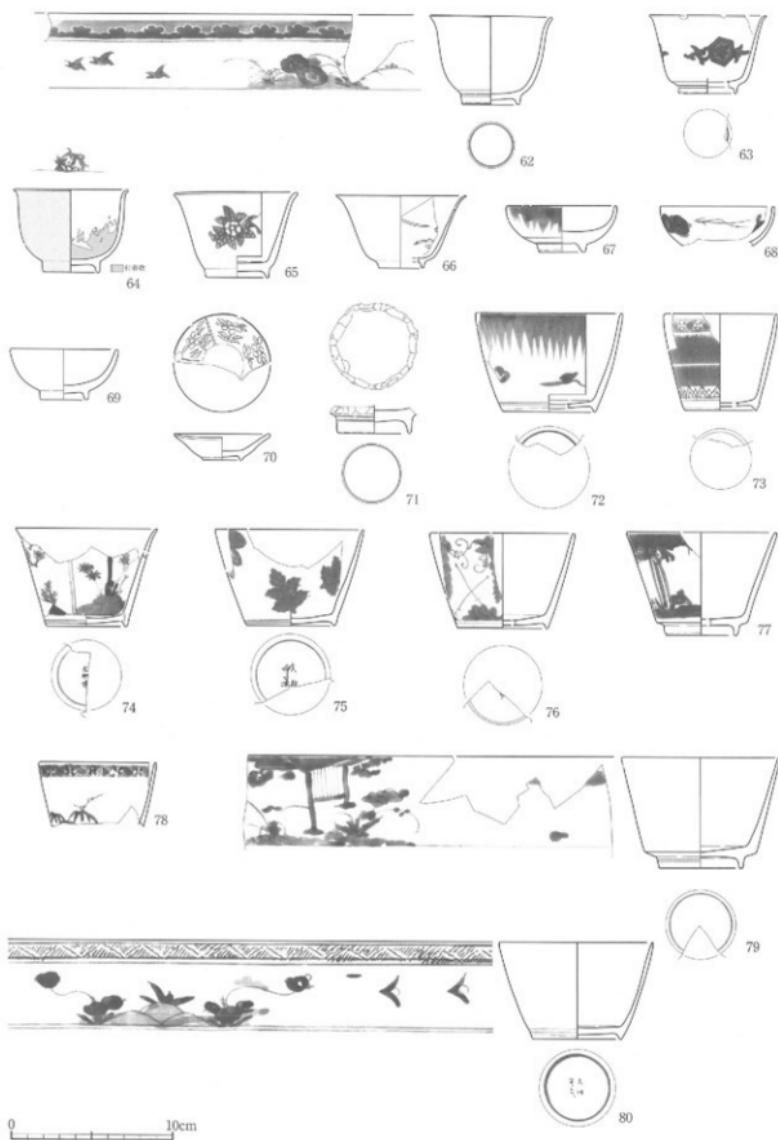
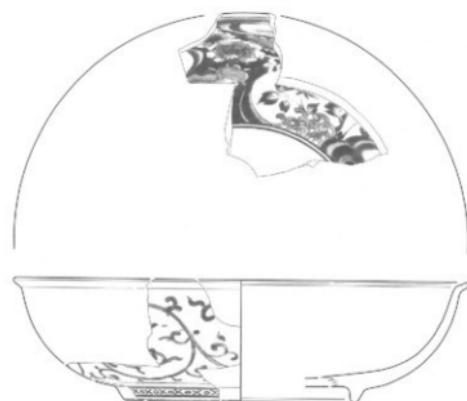
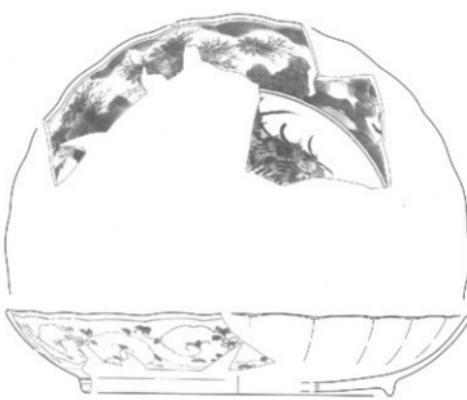


图5 武家屋敷地区第7地点出土磁器(5)
Fig.5 Porcelains from BK7 (5)



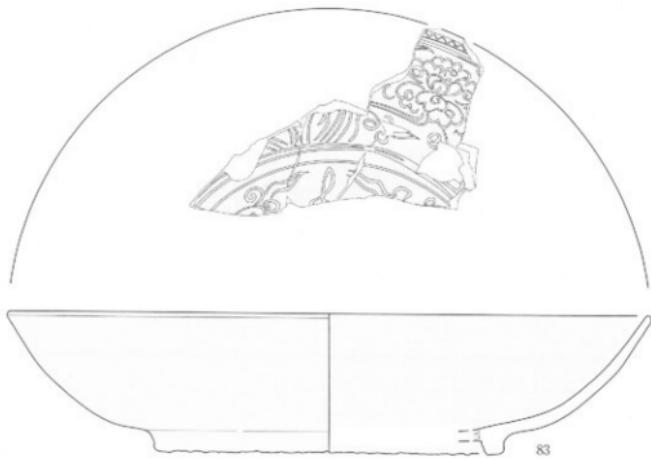
81



82

0 10cm

图6 武家屋敷地区第7地点出土磁器 (6)
Fig.6 Porcelains from BK7 (6)



83



84

0 10cm

图 7 武家屋敷地区第 7 地点出土磁器 (7)
Fig.7 Porcelains from BK7 (7)

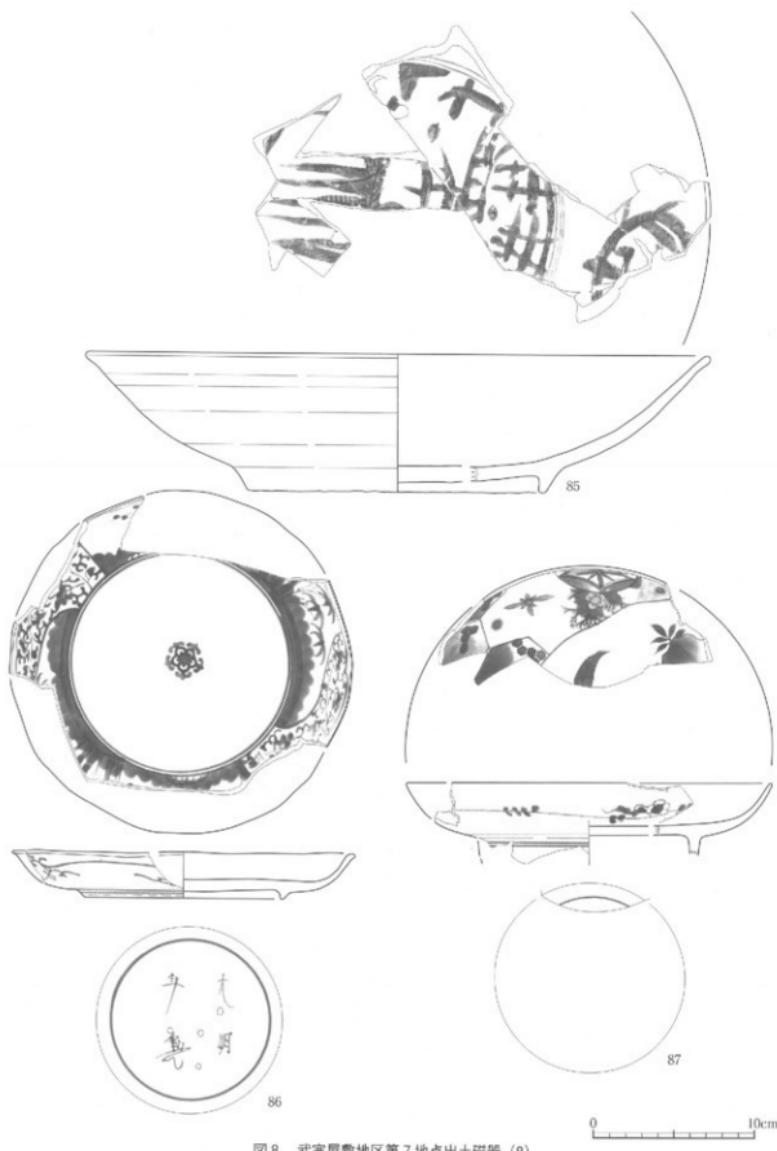


图8 武家屋敷地区第7地点出土磁器 (8)
Fig.8 Porcelains from BK7 (8)

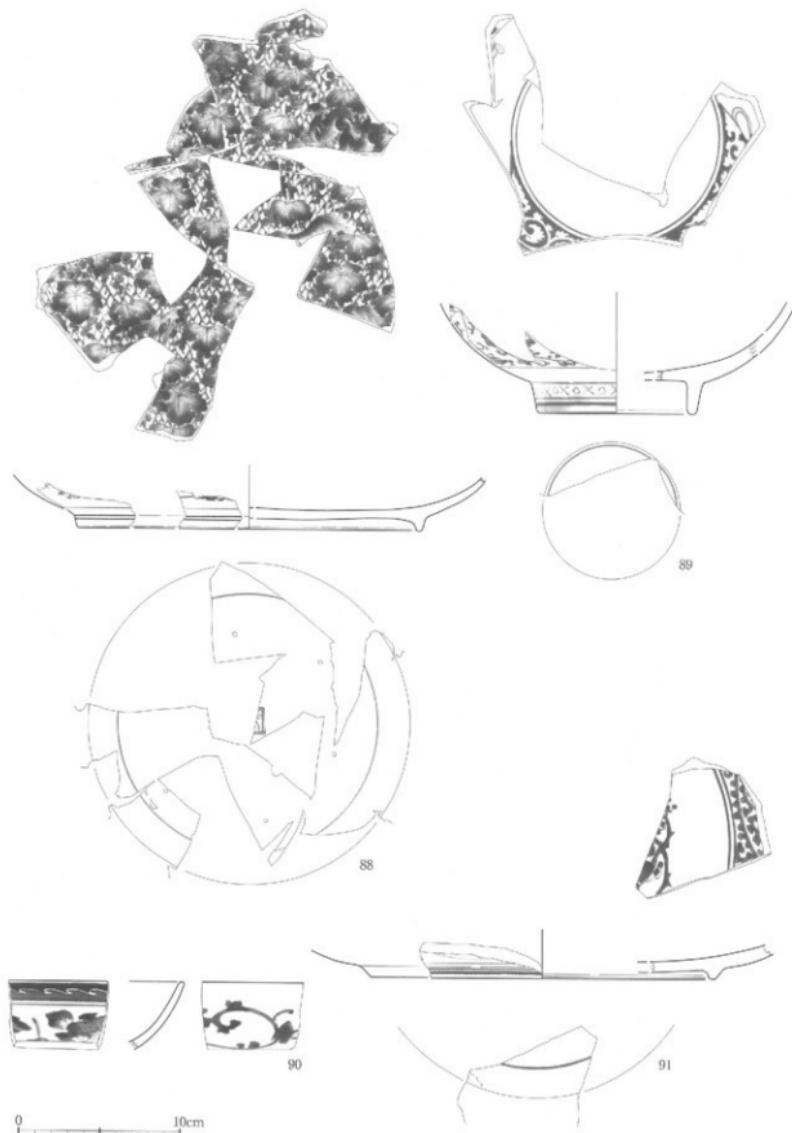


图9 武家屋敷地区第7地点出土磁器 (9)
Fig.9 Porcelains from BK7 (9)



图10 武家屋敷地区第7地点出土磁器 (10)
Fig.10 Porcelains from BK7 (10)

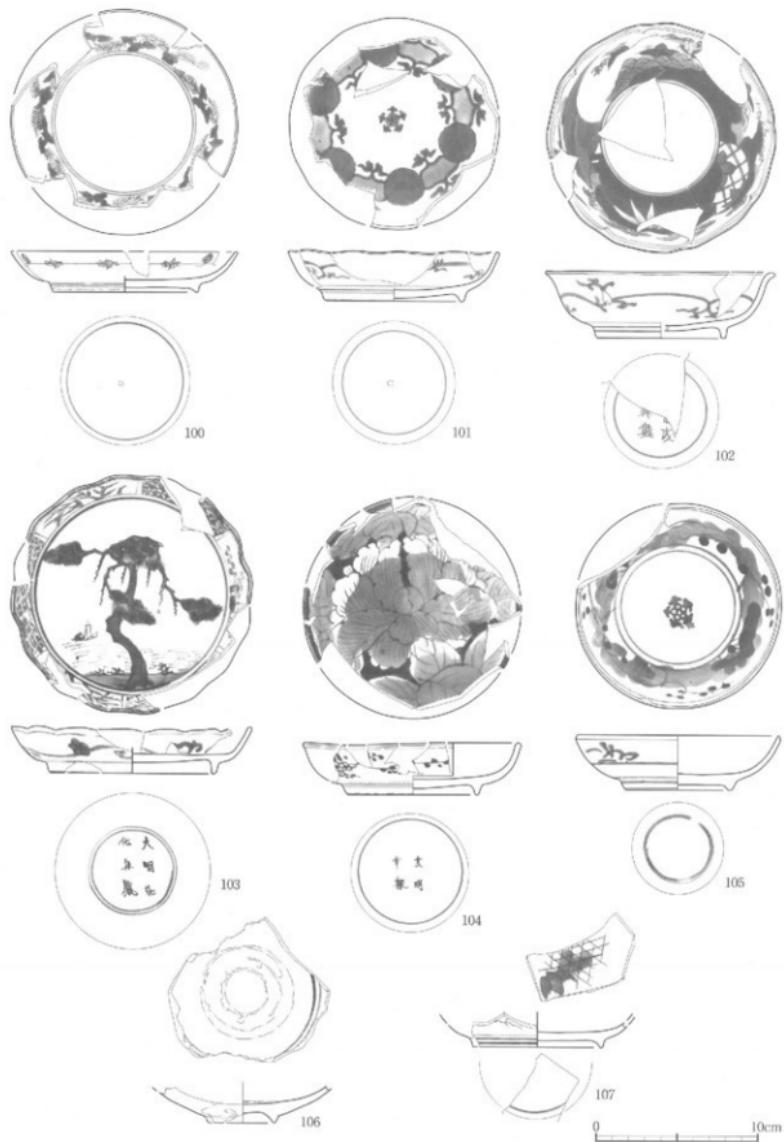


圖11 武家屋敷地区第7地点出土磁器（11）
Fig.11 Porcelains from BK7 (11)

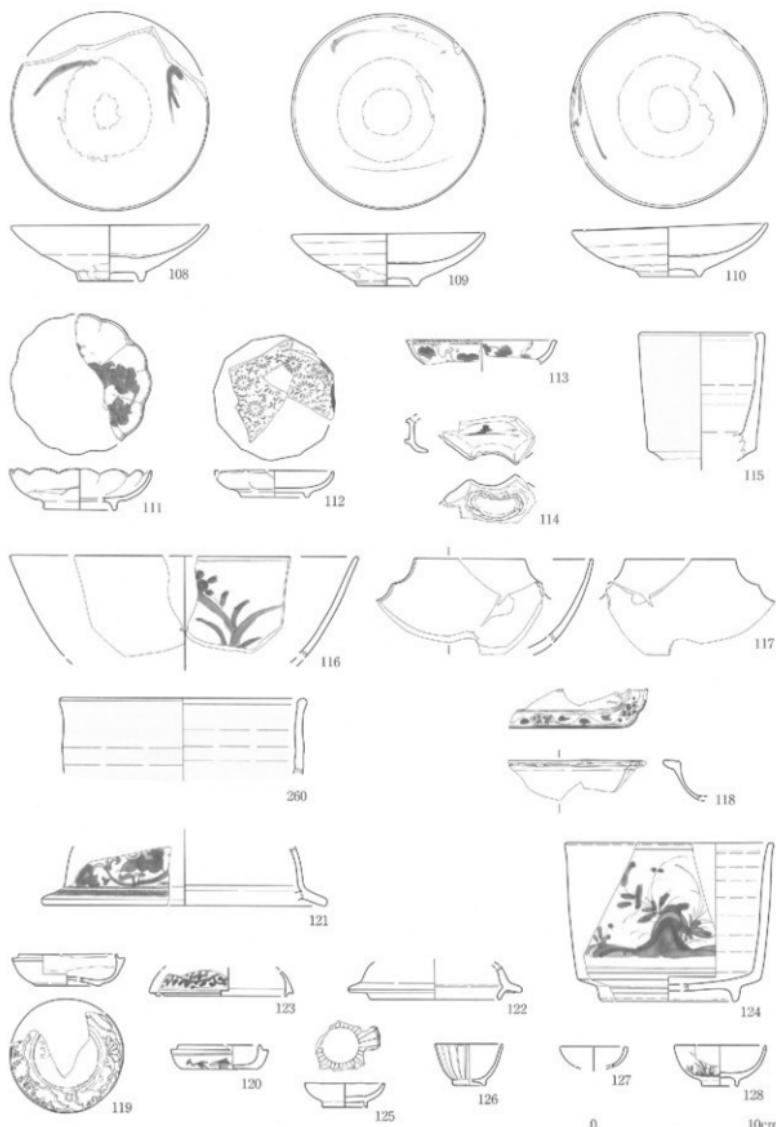


图12 武家屋敷地区第7地点出土磁器 (12)
Fig.12 Porcelains from BK7 (12)

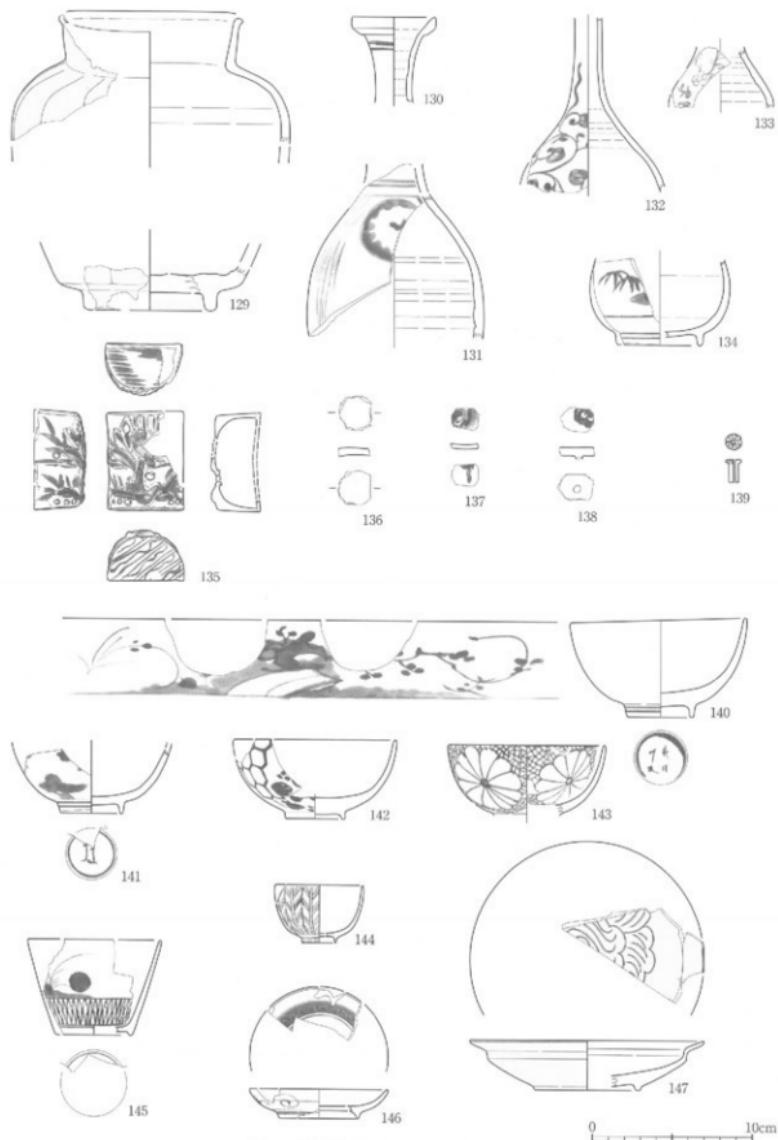


图13 武家屋敷地区第7地点出土磁器 (13)
Fig.13 Porcelains from BK7 (13)

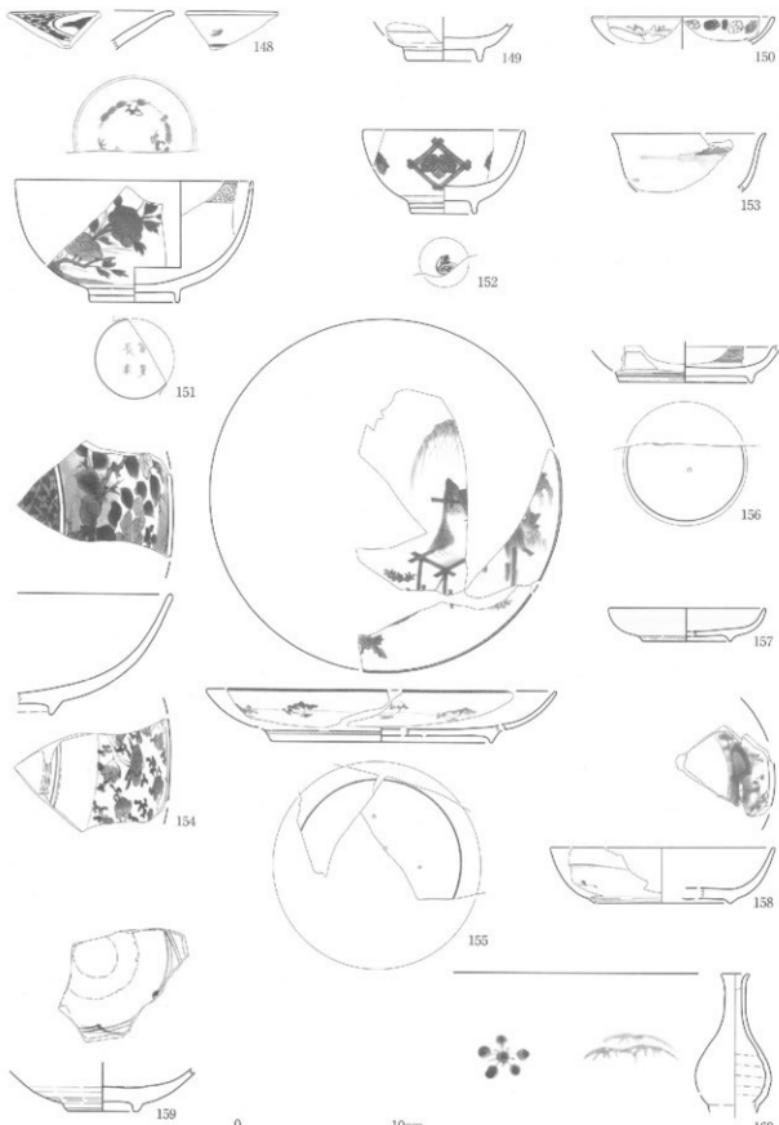
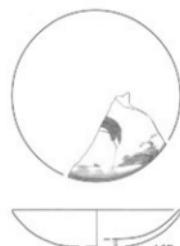
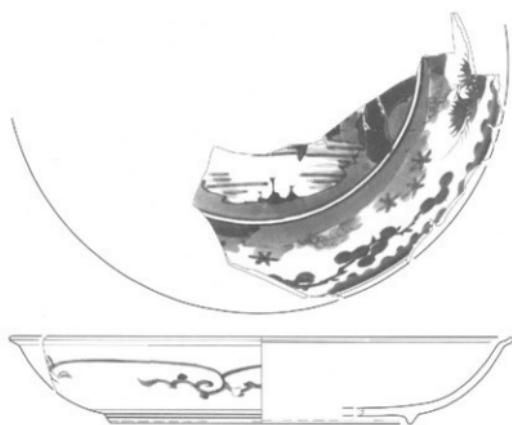
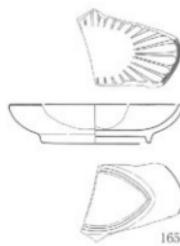


图14 武家屋敷地区第7地点出土磁器 (14)
Fig.14 Porcelains from BK7 (14)



0 10cm

图15 武家屋敷地区第7地点出土磁器 (15)
Fig.15 Porcelains from BK7 (15)

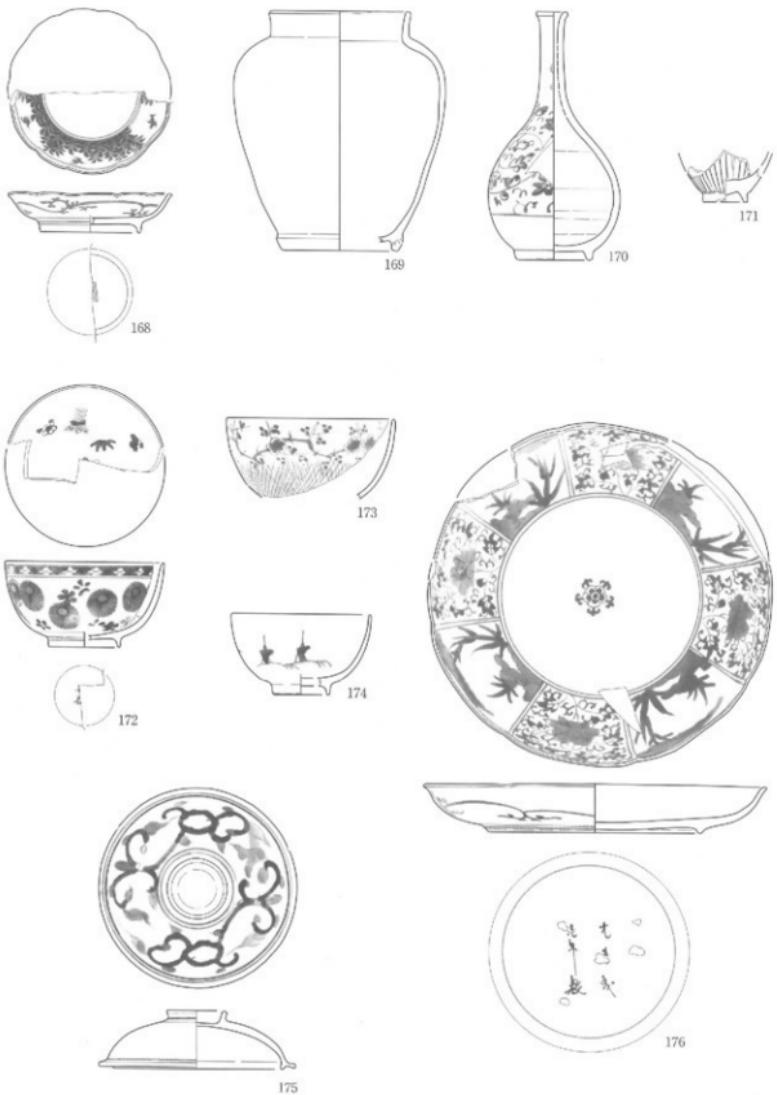
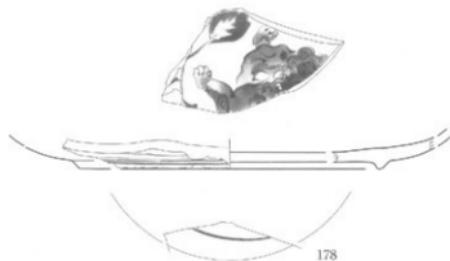
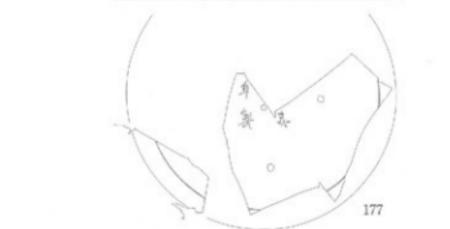
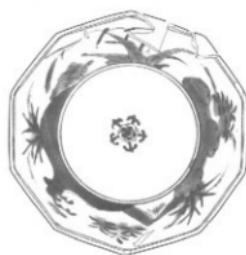
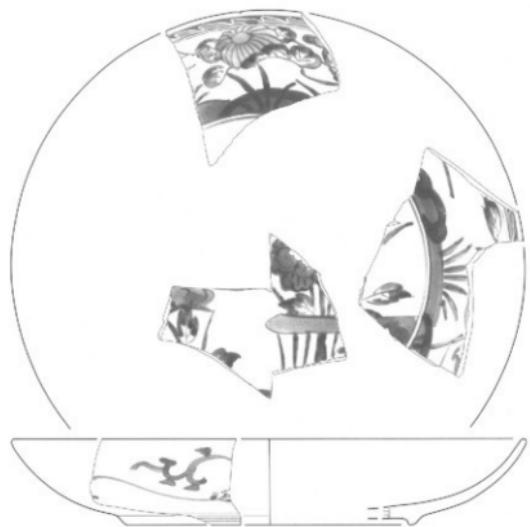


圖16 武家屋敷地区第7地点出土磁器 (16)
Fig.16 Porcelains from BK7 (16)



0 10cm

圖17 武家屋敷地区第7地点出土磁器 (17)
Fig.17 Porcelains from BK7 (17)

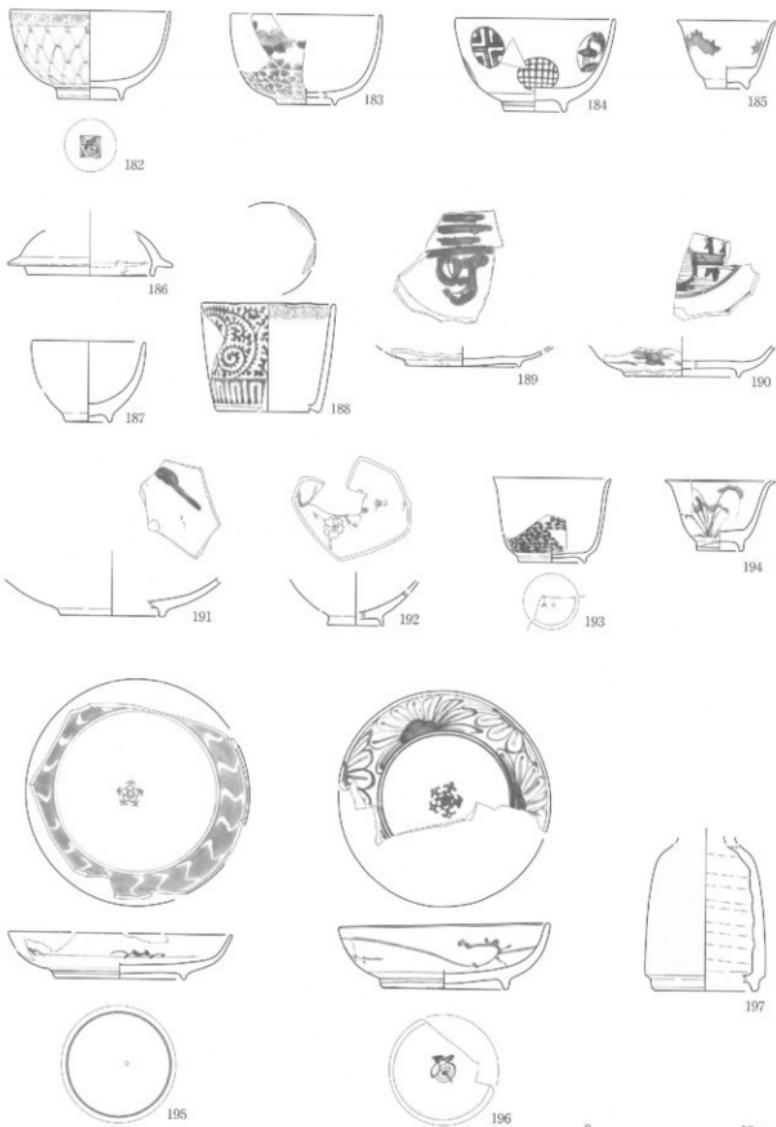


图18 武家屋敷地区第7地点出土磁器 (18)
Fig.18 Porcelains from BK7 (18)

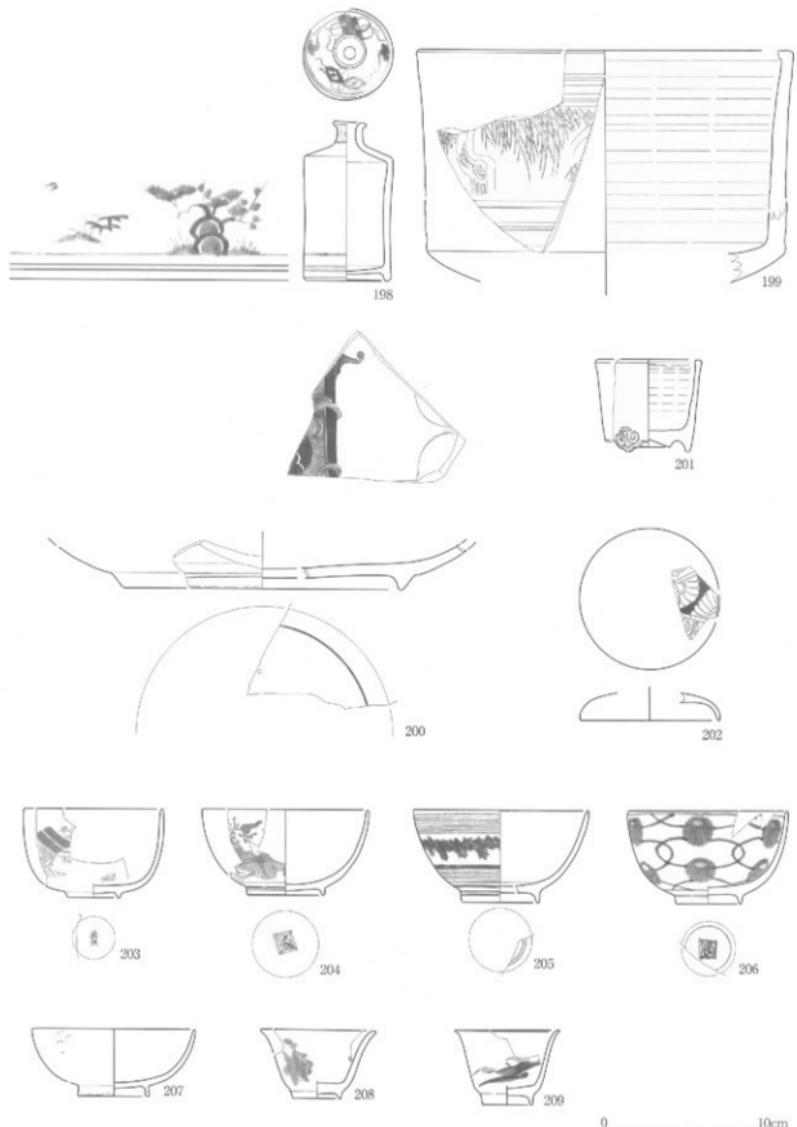


圖19 武家屋敷地区第7地点出土磁器 (19)
Fig.19 Porcelains from BK7 (19)

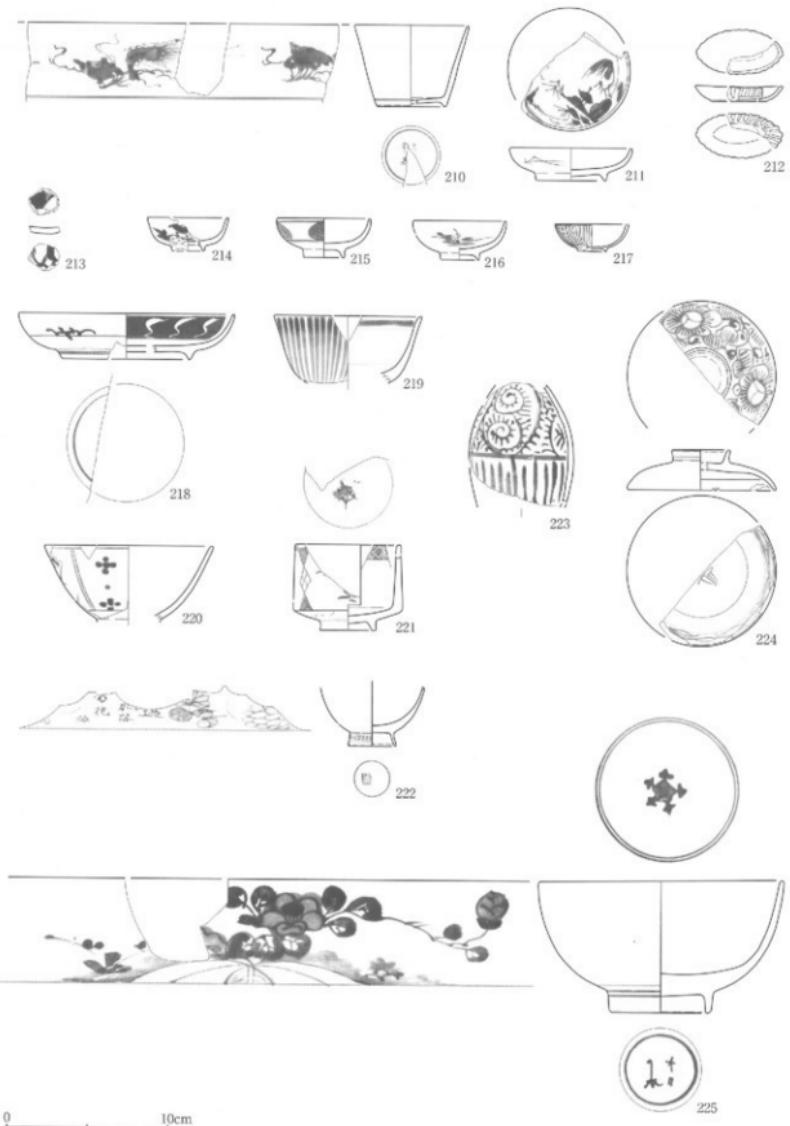


图20 武家屋敷地区第7地点出土磁器 (20)
Fig.20 Porcelains from BK7 (20)

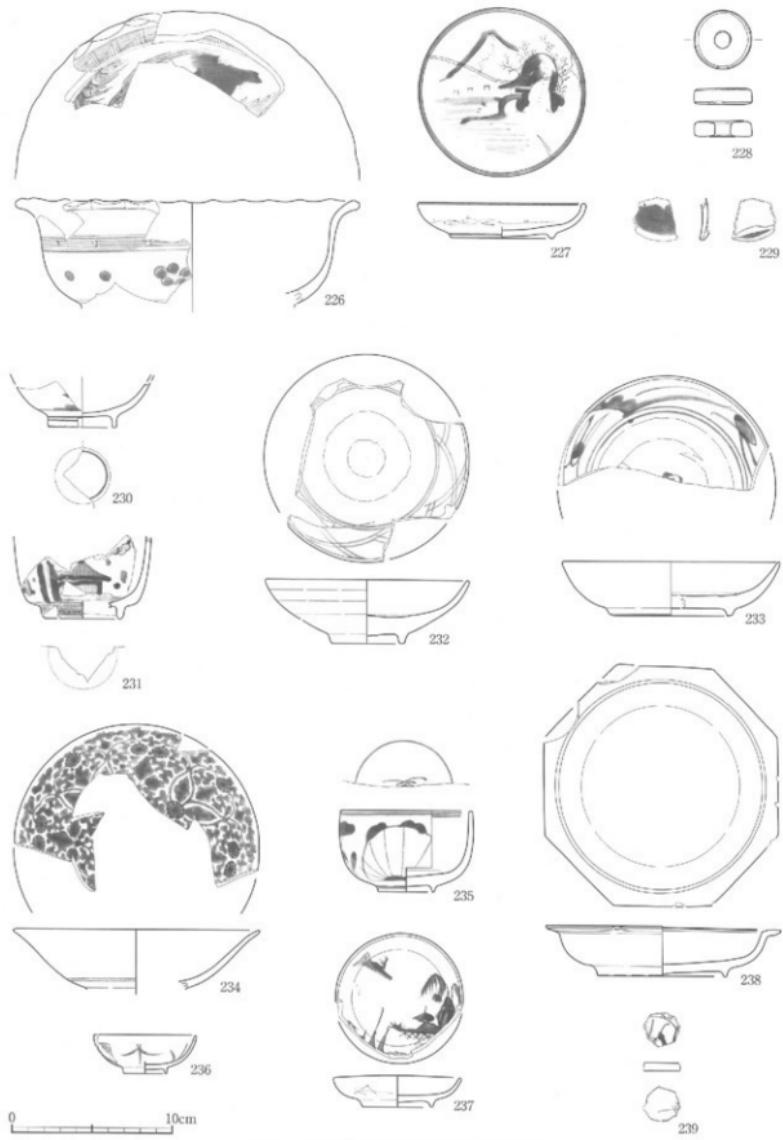


图21 武家窑敷地区第7地点出土磁器 (21)
Fig.21 Porcelains from BK7 (21)

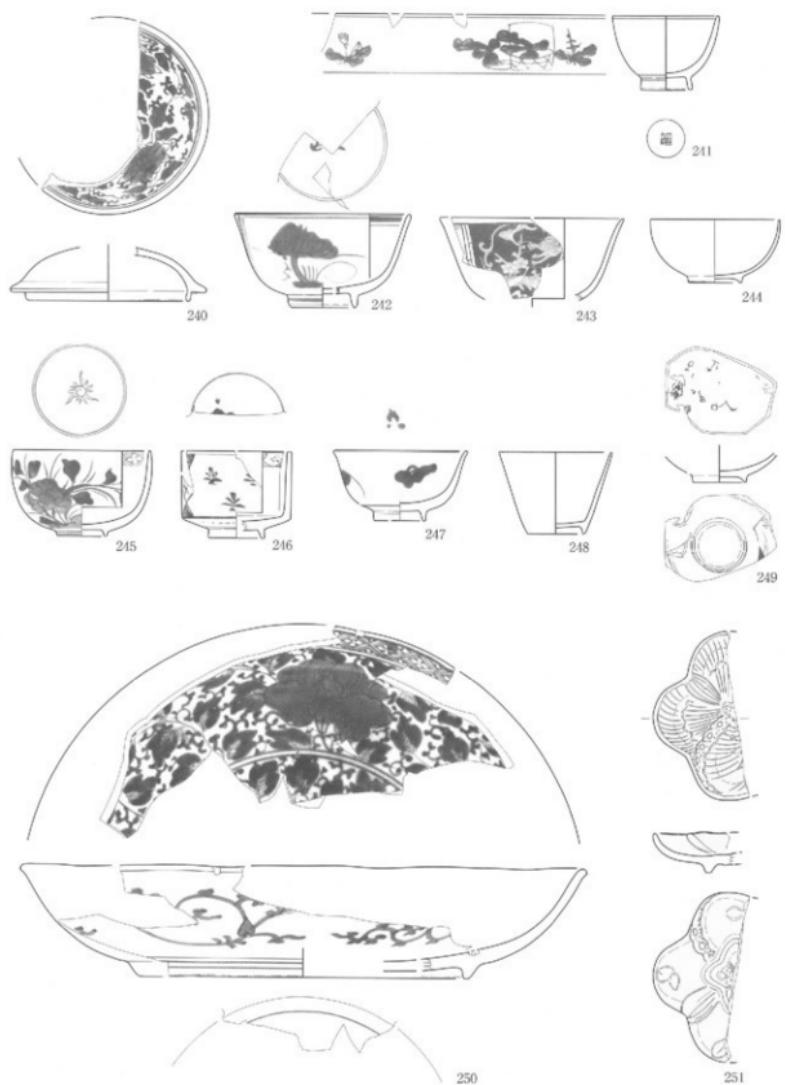


圖22 武家屋敷地区第7地点出土磁器 (22)
Fig.22 Porcelains from BK7 (22)

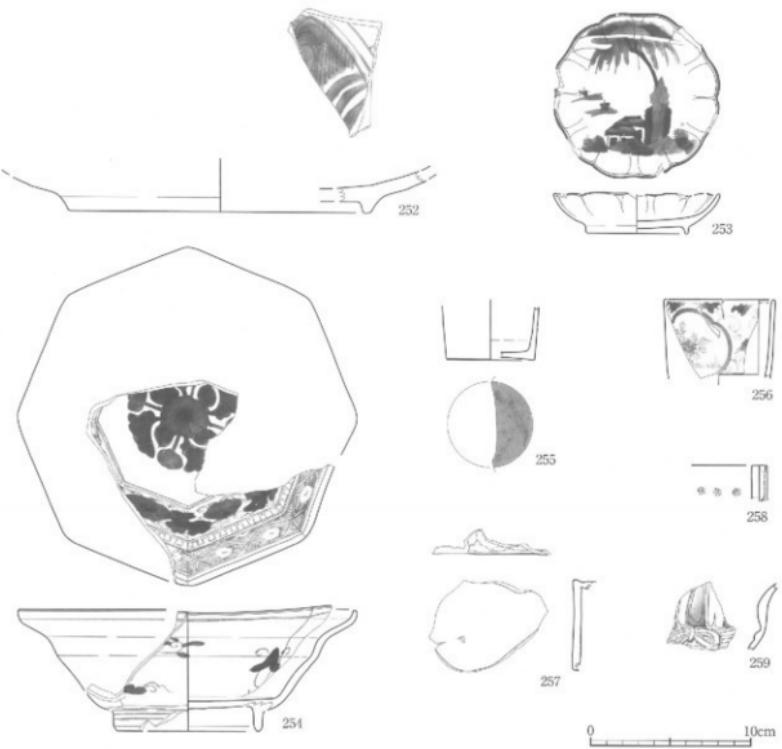


图23 武家庄地区第7地点出土磁器 (23)
Fig.23 Porcelains from BK7 (23)

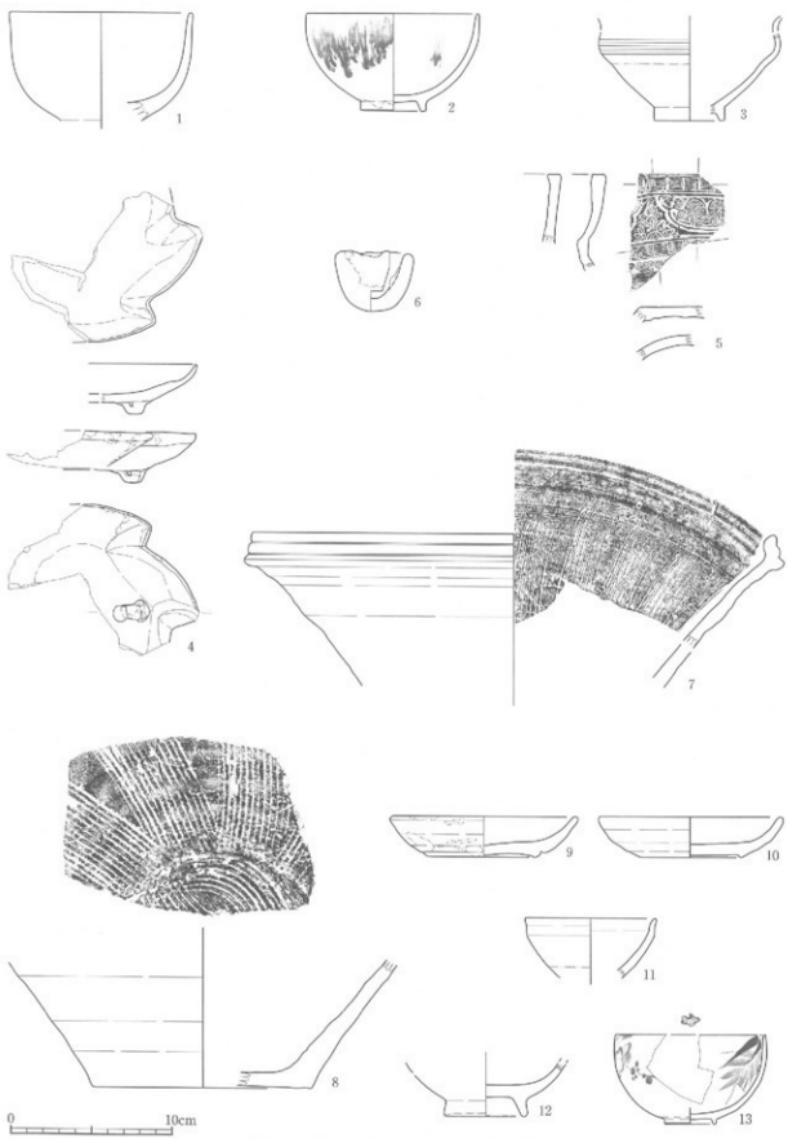


图24 武家屋敷地区第7地点出土陶器(1)
Fig.24 Glazed ceramics from BK7 (1)

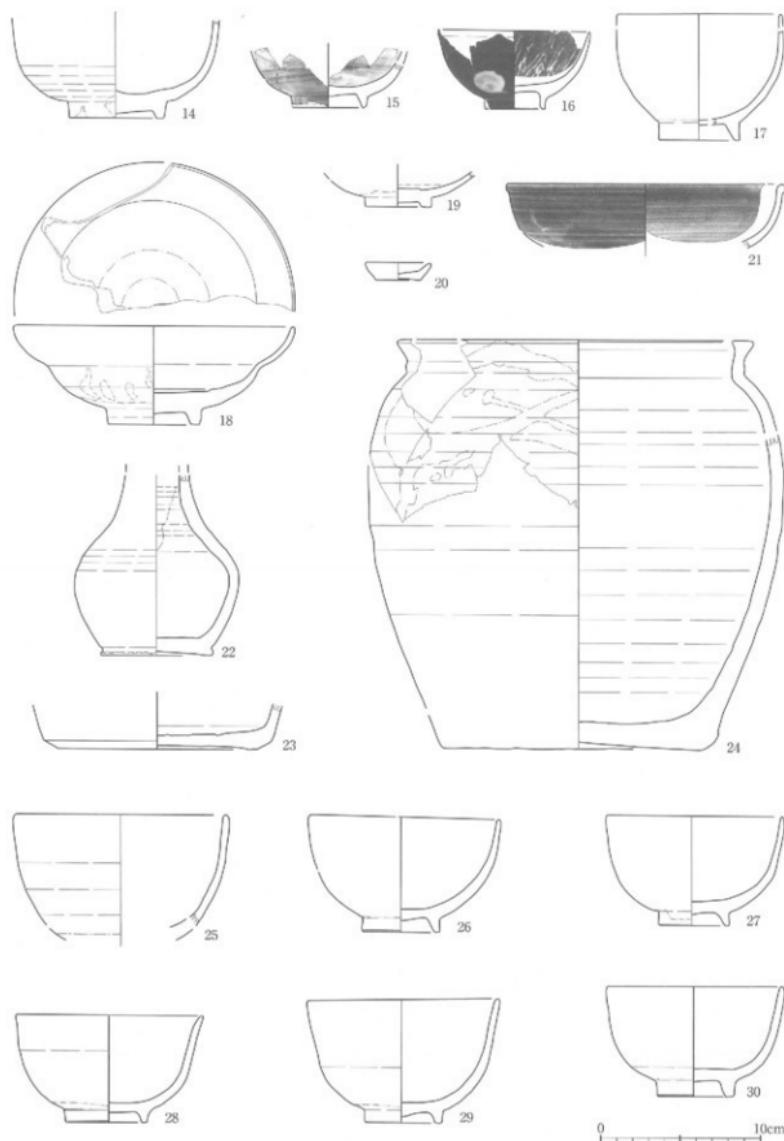


图25 武家屋敷地区第7地点出土陶器(2)
Fig.25 Glazed ceramics from BK7 (2)

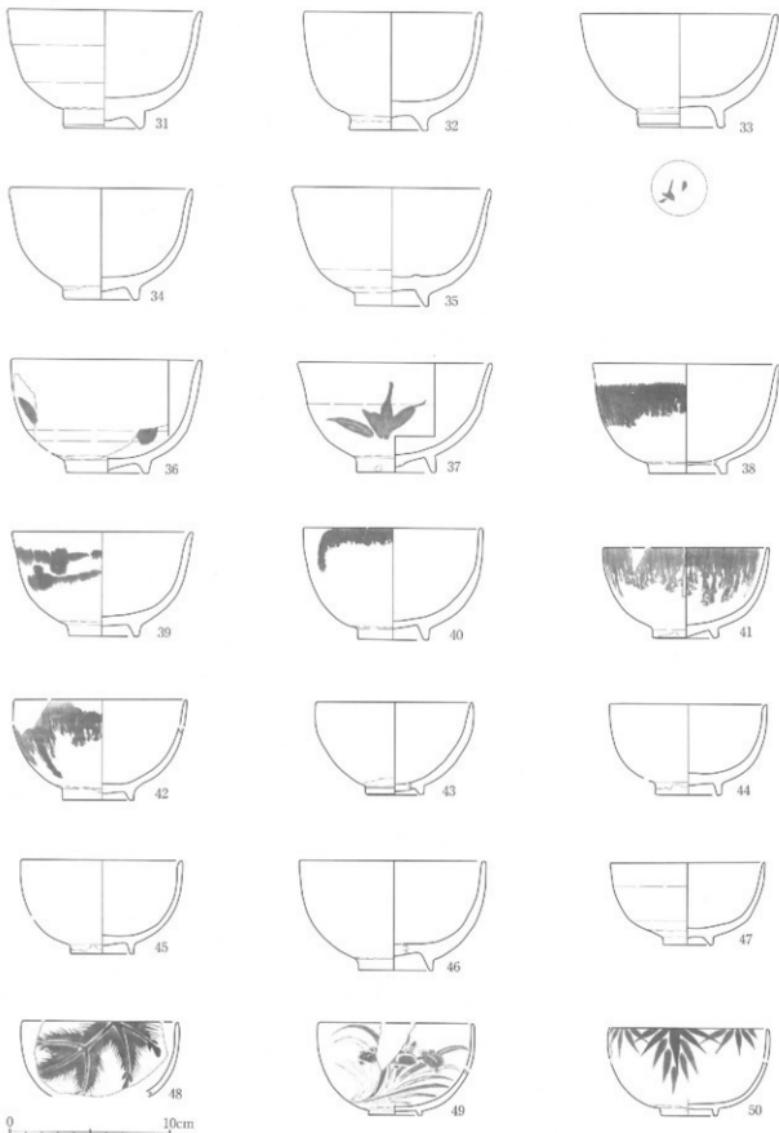


图26 武家屋敷地区第7地点出土陶器 (3)
Fig.26 Glazed ceramics from BK7 (3)

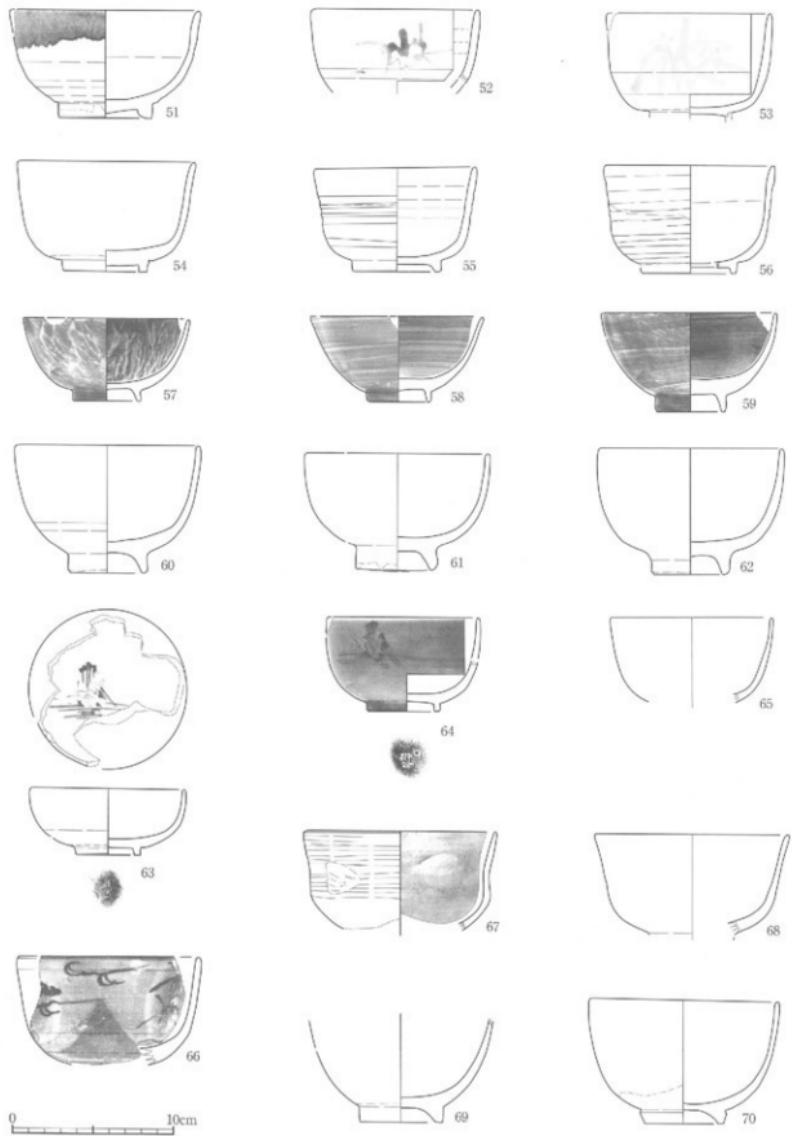


图27 武家屋敷地区第7地点出土陶器 (4)
Fig.27 Glazed ceramics from BK7 (4)

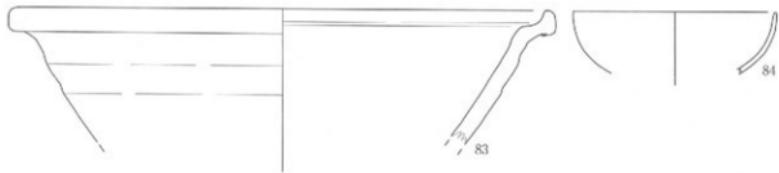
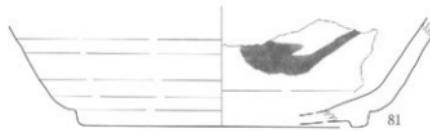
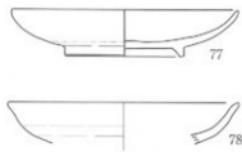
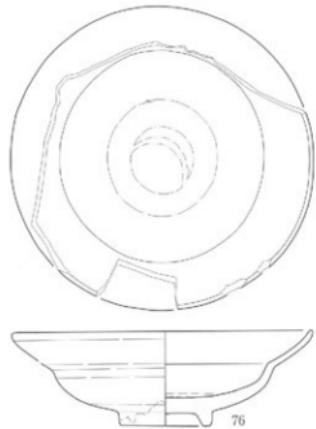
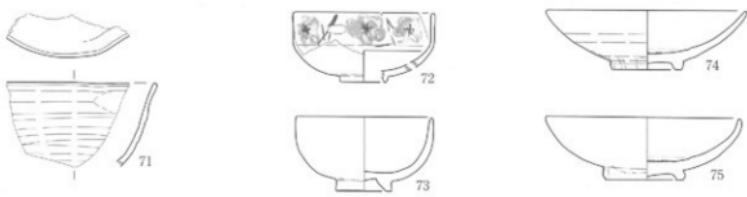


图28 武家屋敷地区第7地点出土陶器 (5)
Fig.28 Glazed ceramics from BK7 (5)

0 10cm

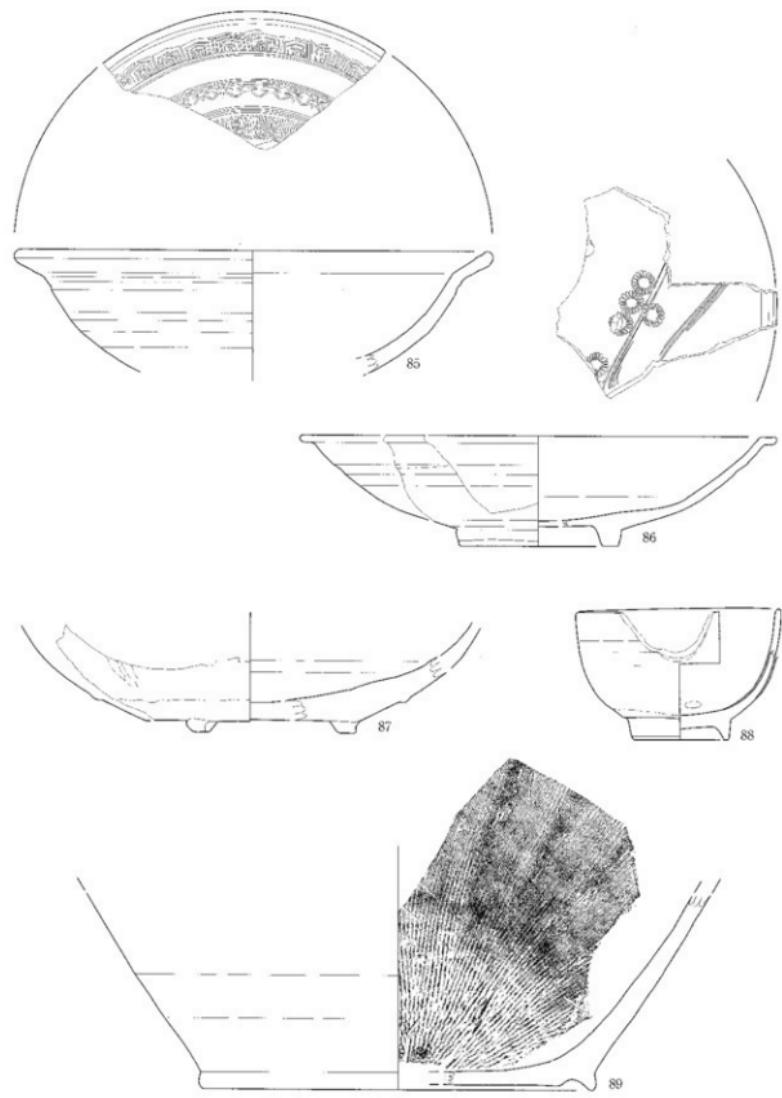
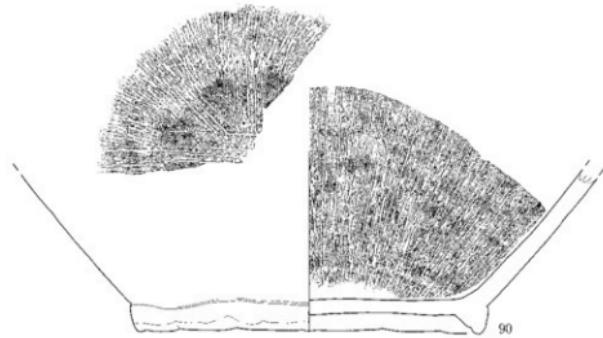
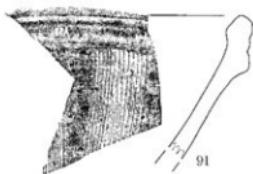


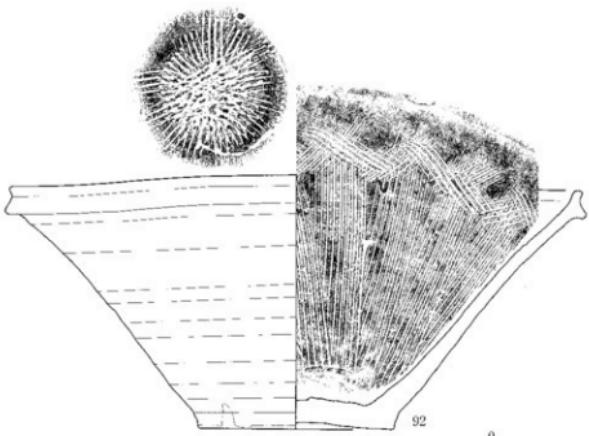
图29 武家星敷地区第7地点出土陶器（6）
Fig.29 Glazed ceramics from BK7 (6)



90



91



92

0 10cm

图30 武家屋敷地区第7地点出土陶器(7)
Fig.30 Glazed ceramics from BK7 (7)

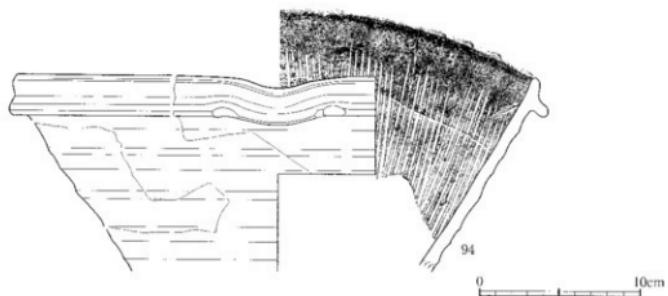
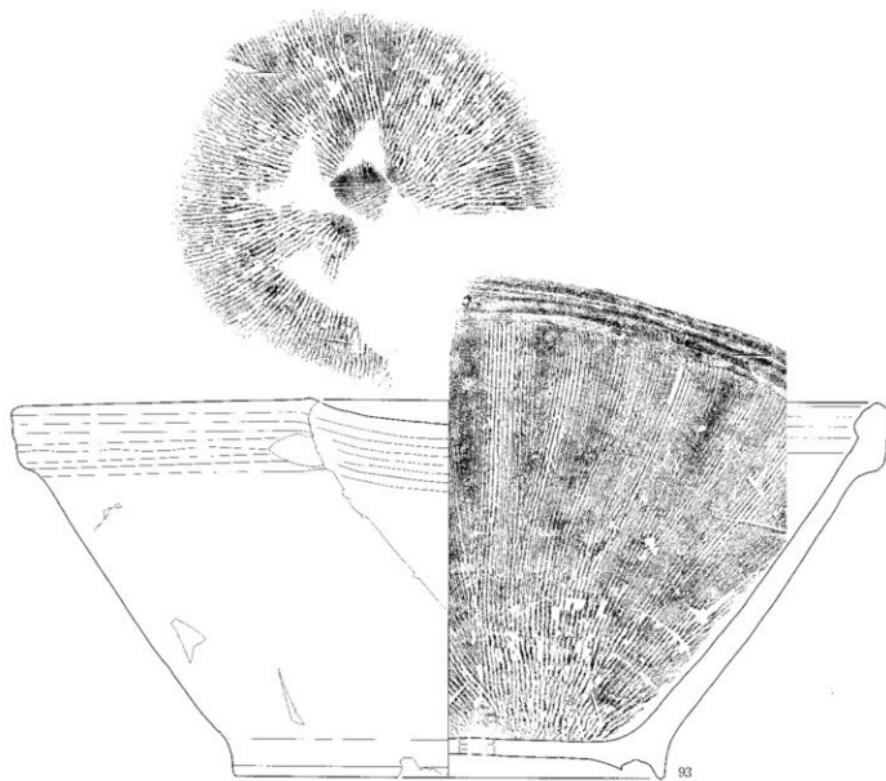


图31 武家窑地区第7地点出土陶器 (8)
Fig.31 Glazed ceramics from BK7 (8)

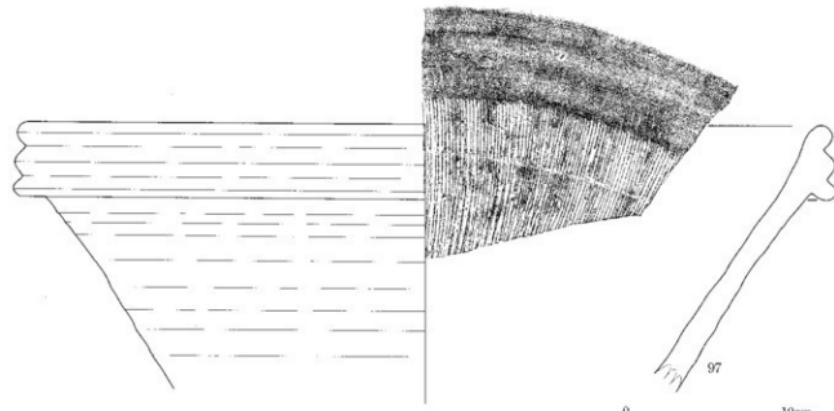
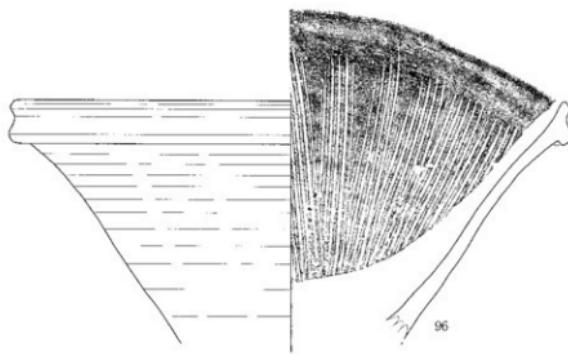
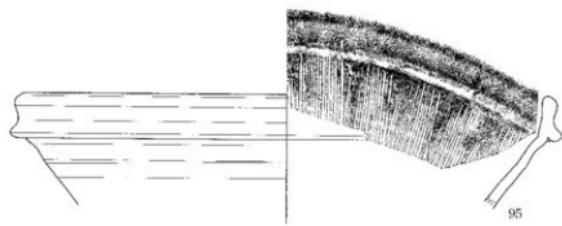


图32 武家屋敷地区第7地点出土陶器 (9)
Fig.32 Glazed ceramics from BK7 (9)

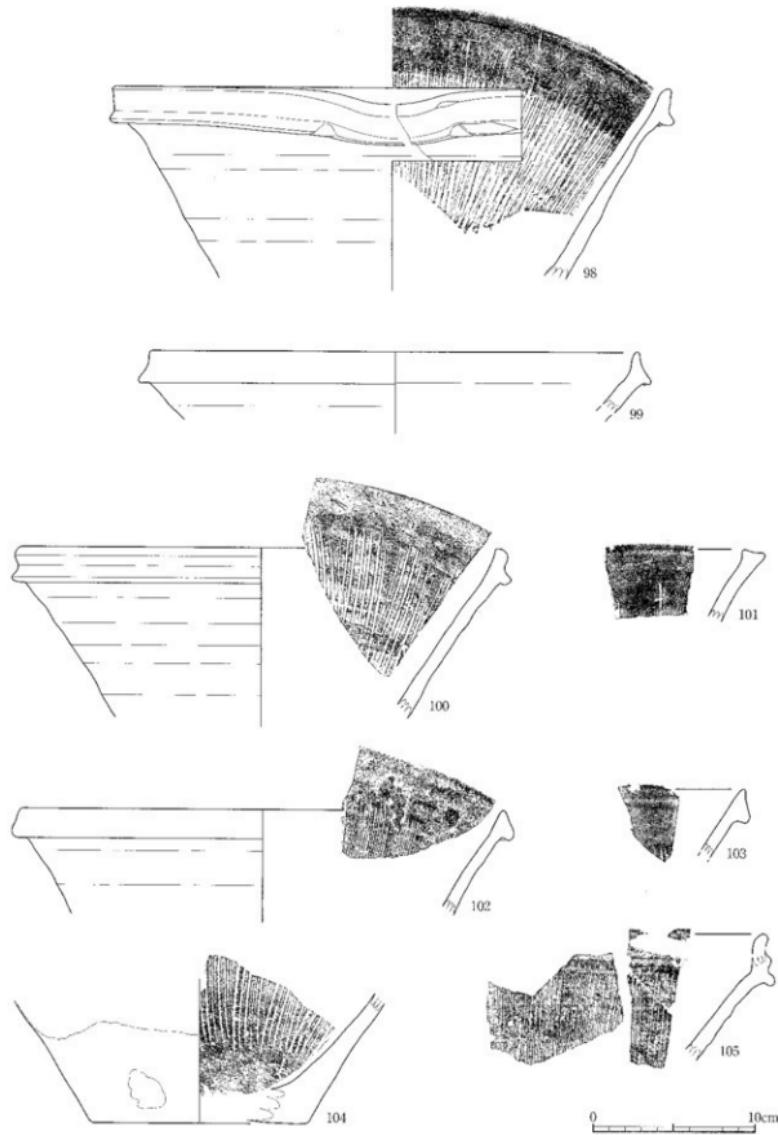


图33 武家屋敷地区第7地点出土陶器 (10)
Fig.33 Glazed ceramics from BK7 (10)

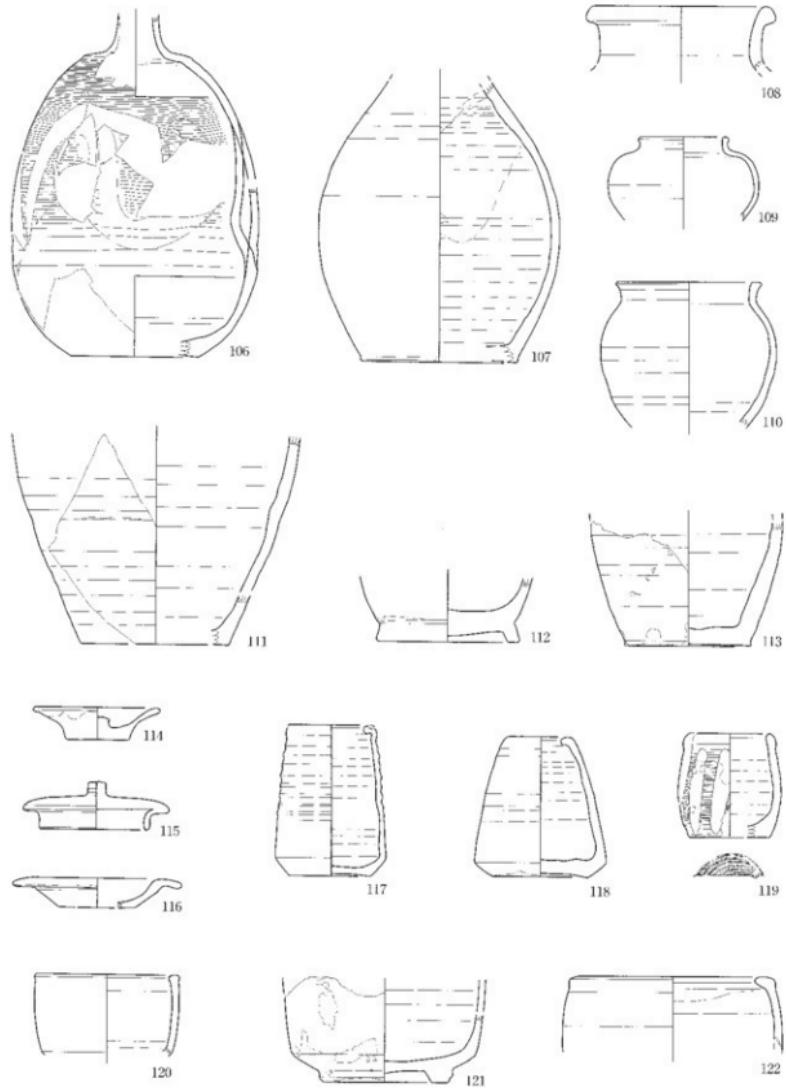


图34 武家屋敷地区第7地点出土陶器 (11)
Fig.34 Glazed ceramics from BK7 (11)

0 10cm

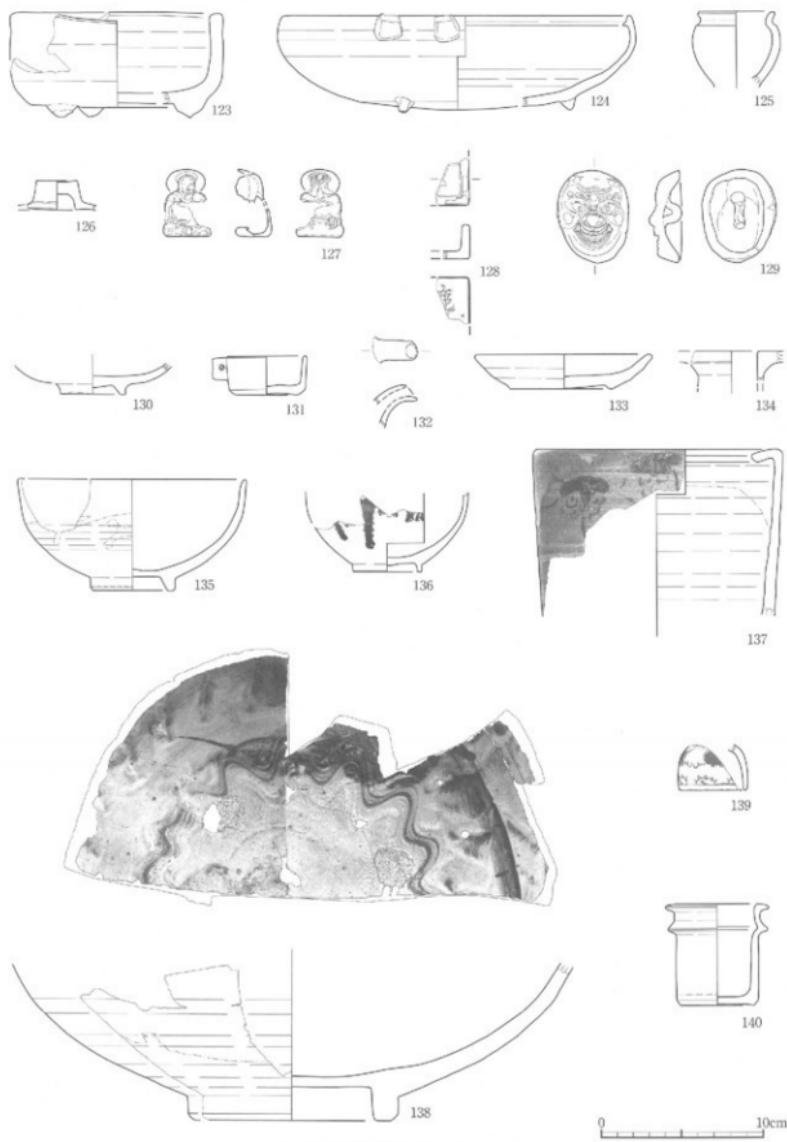


图35 武家屋敷地区第7地点出土陶器 (12)
Fig.35 Glazed ceramics from BK7 (12)

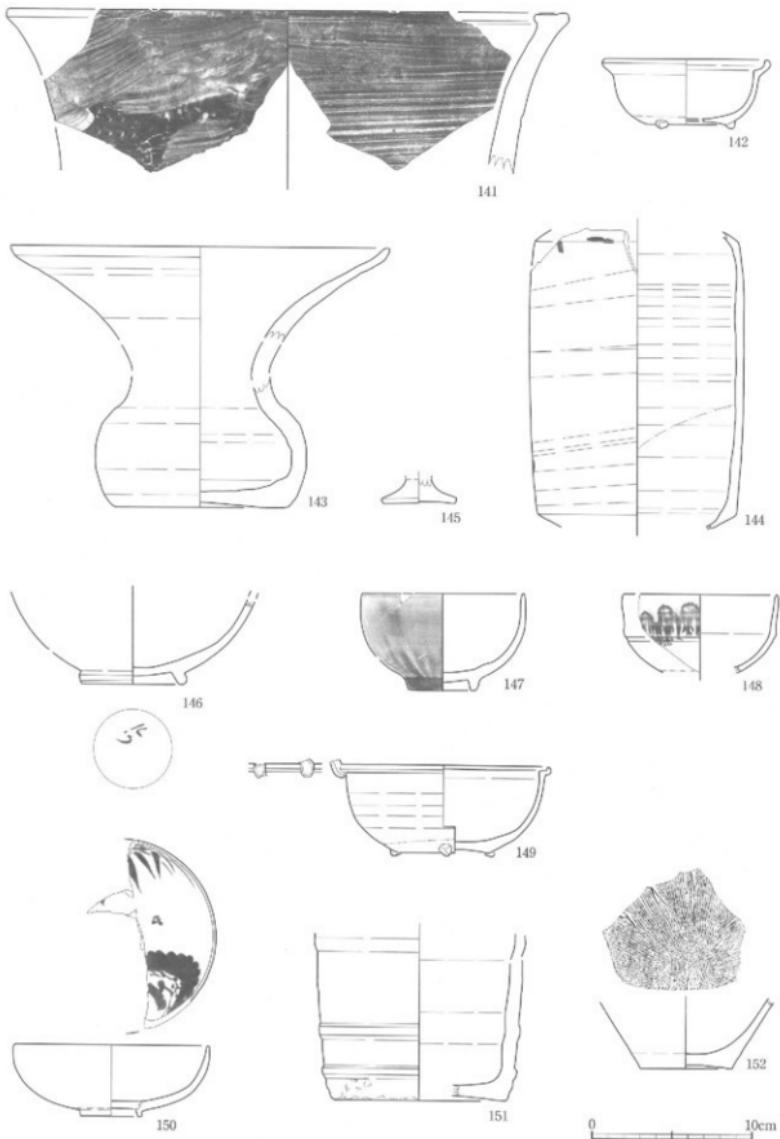


图36 武家屋敷地区第7地点出土陶器 (13)
Fig.36 Glazed ceramics from BK7 (13)

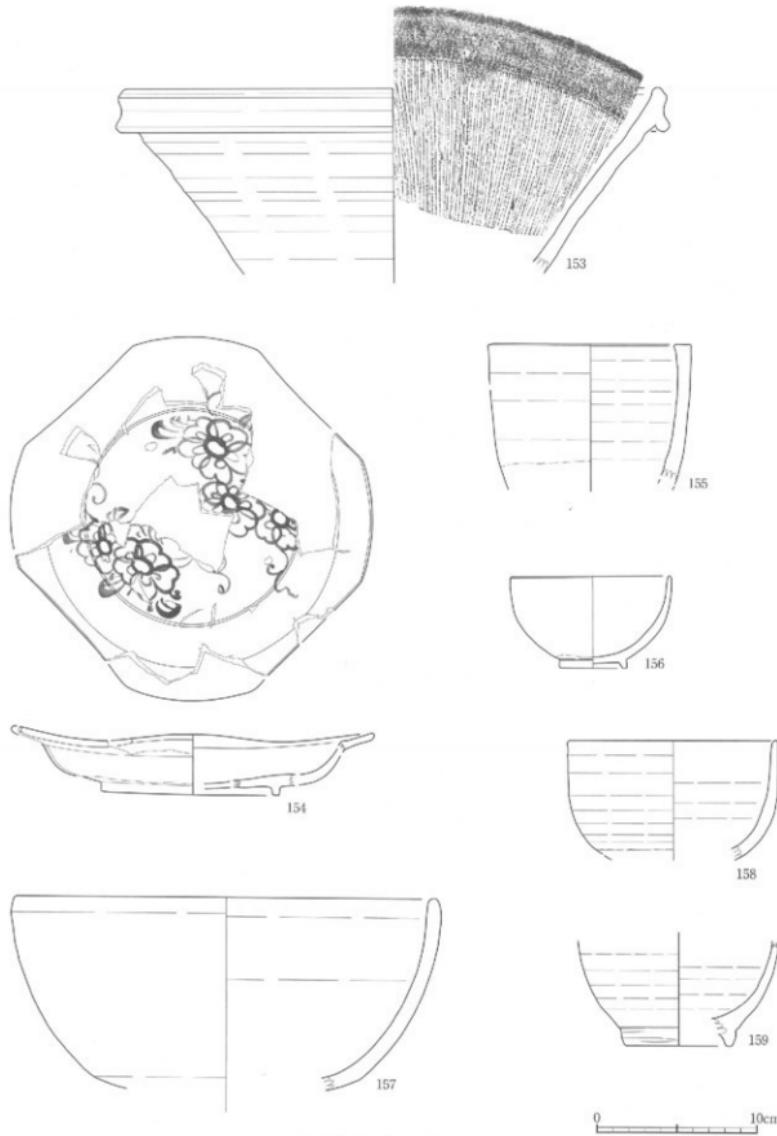


图37 武家屋敷地区第7地点出土陶器 (14)
Fig.37 Glazed ceramics from BK7 (14)

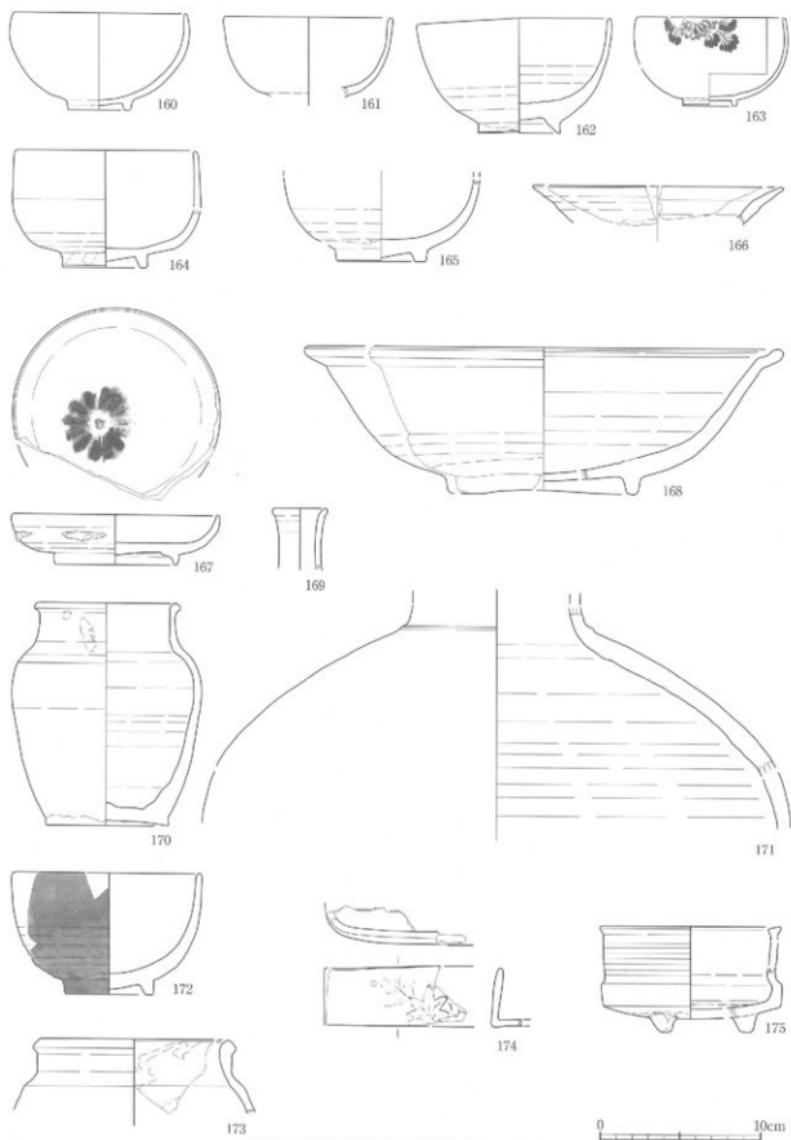


图38 武家屋敷地区第7地点出土陶器 (15)
Fig.38 Glazed ceramics from BK7 (15)

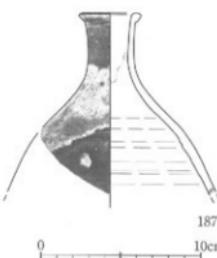
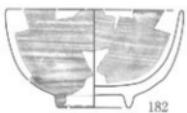
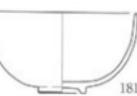
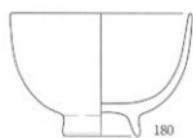
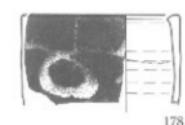
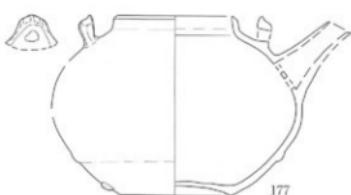
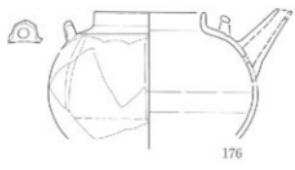


图39 武家屋敷地区第7地点出土陶器 (16)
Fig.39 Glazed ceramics from BK7 (16)

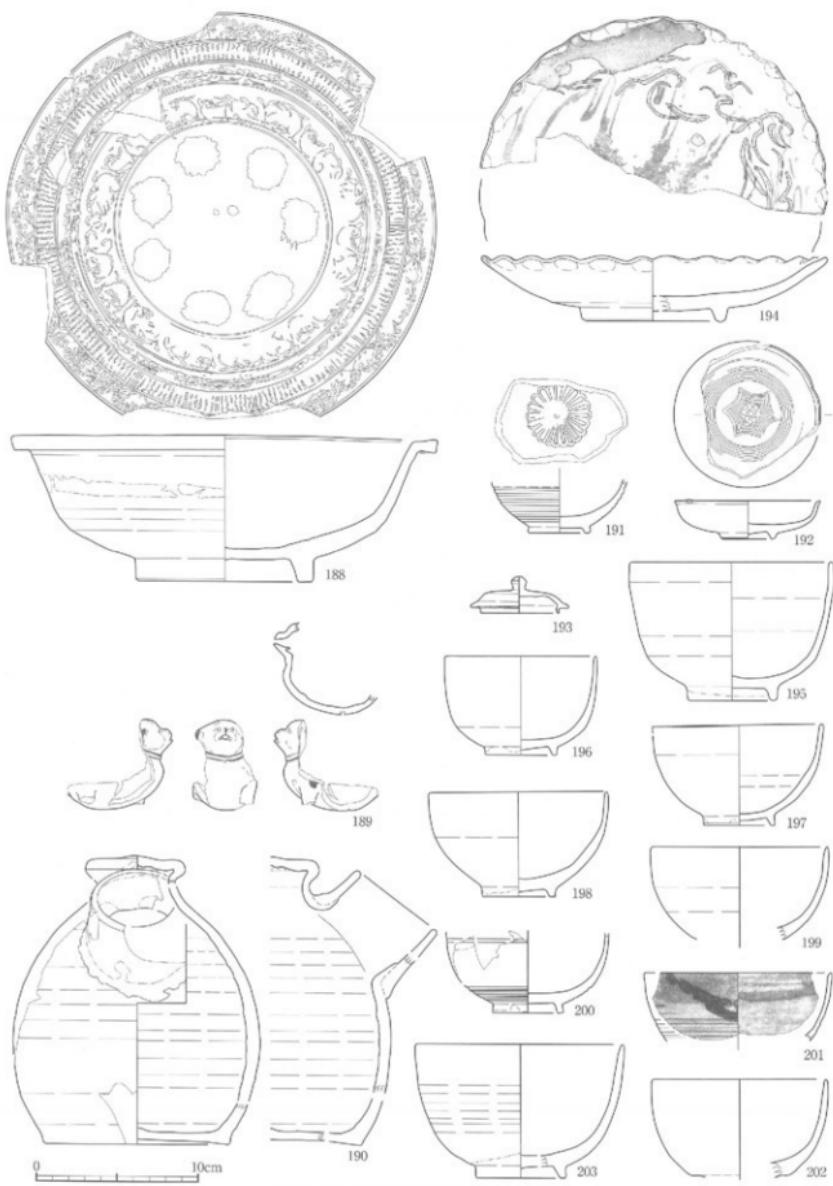


图40 武家屋敷地区第7地点出土陶器 (17)
Fig.40 Glazed ceramics from BK7 (17)

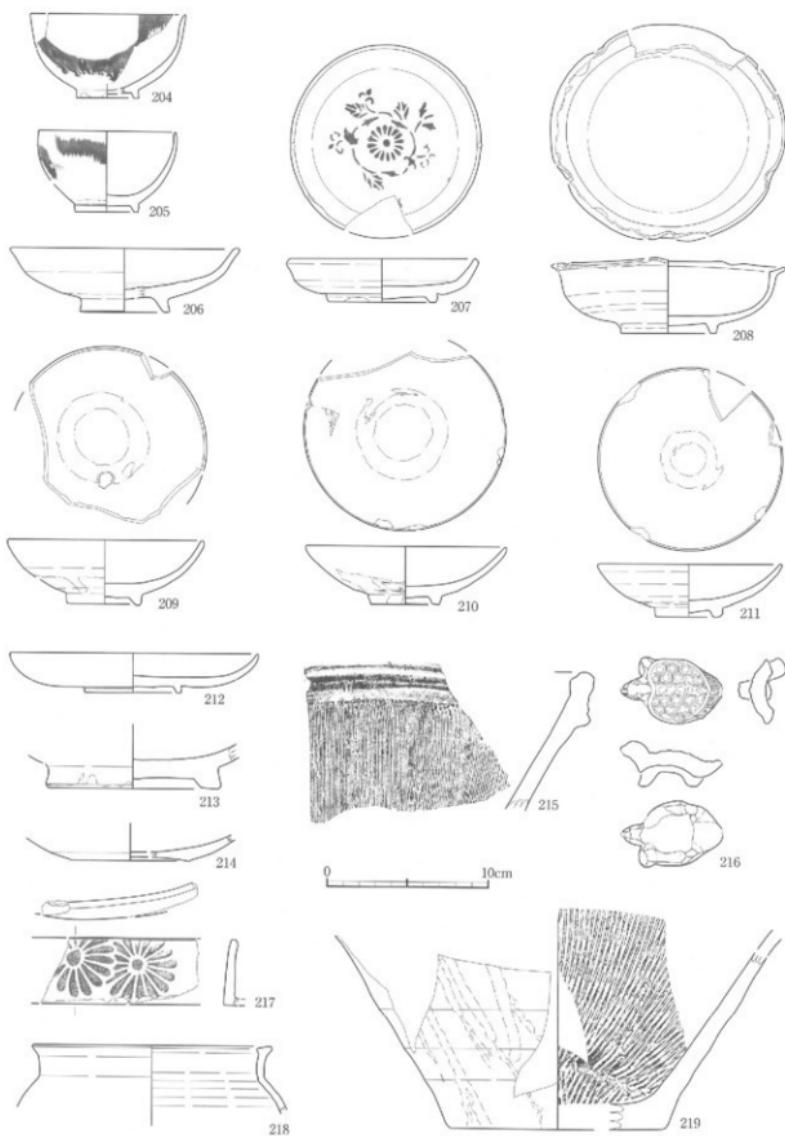


图41 武家屋敷地区第7地点出土陶器 (18)
Fig.41 Glazed ceramics from BK7 (18)

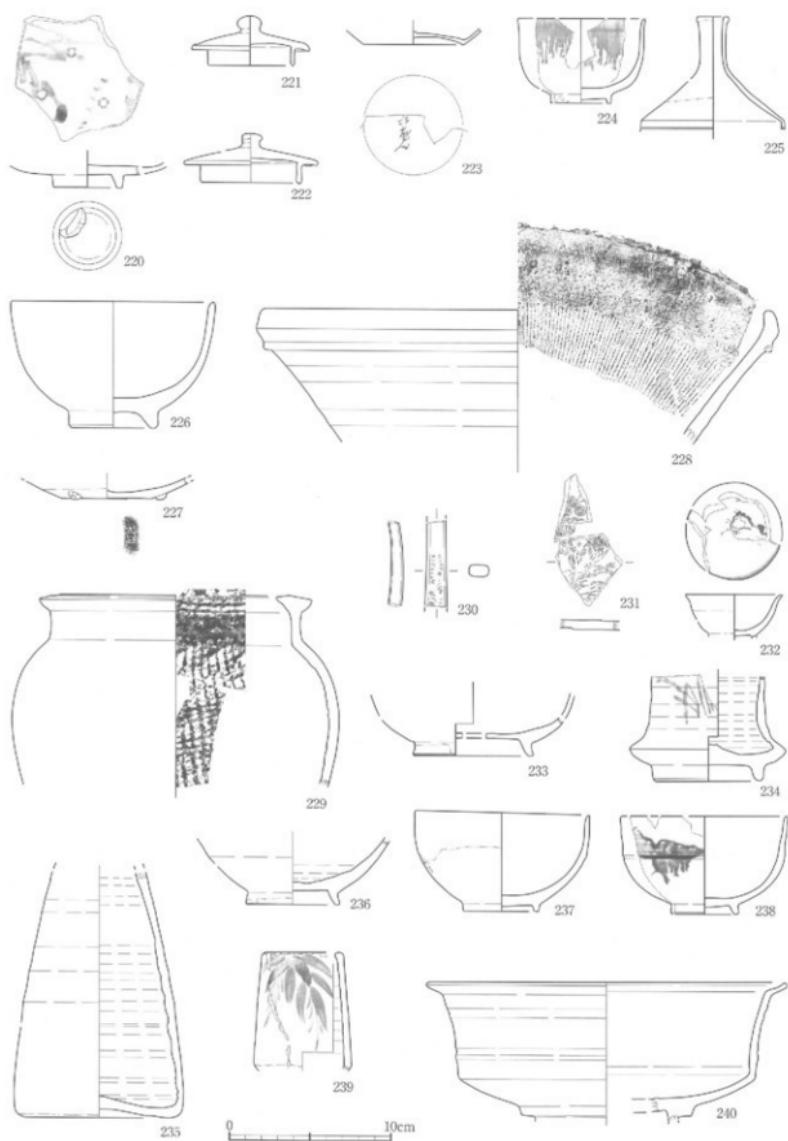


Figure 42: Glazed ceramics from BK7 (19)
Fig.42 Glazed ceramics from BK7 (19)



图43 武家屋敷地区第7地点出土陶器 (20)
Fig.43 Glazed ceramics from BK7 (20)

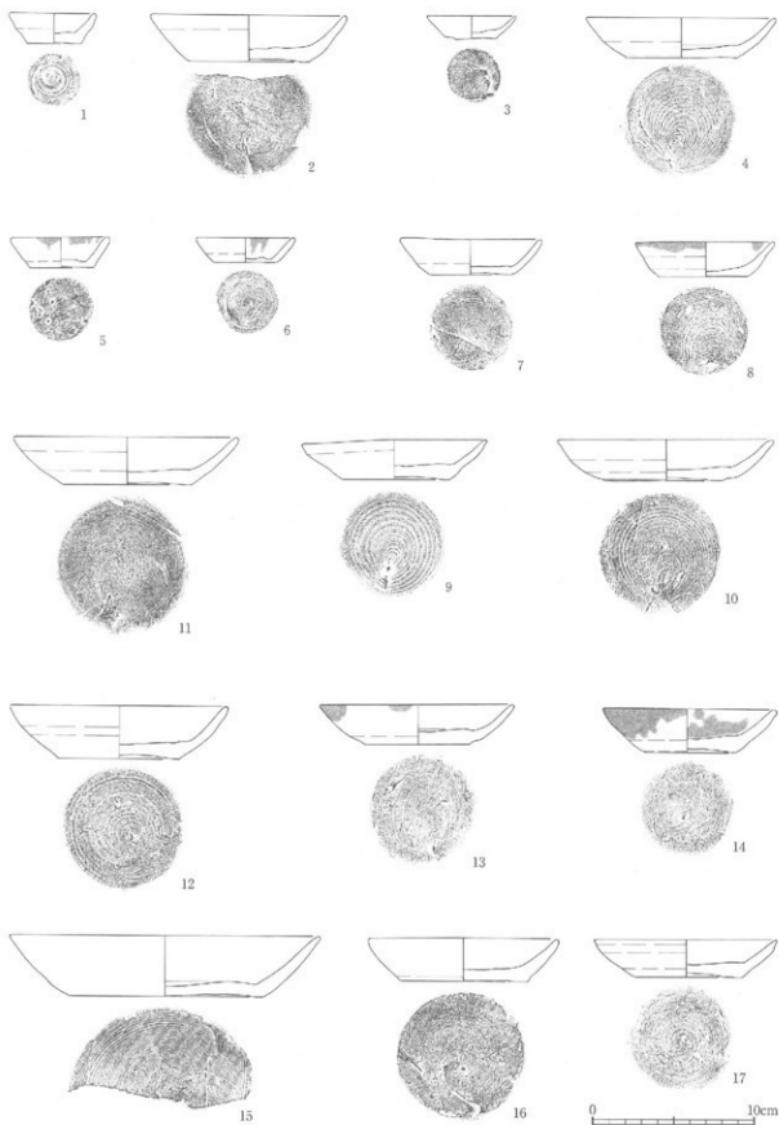


图44 武家屋敷地区第7地点出土土器 (1)
Fig.44 Unglazed ceramics from BK7 (1)

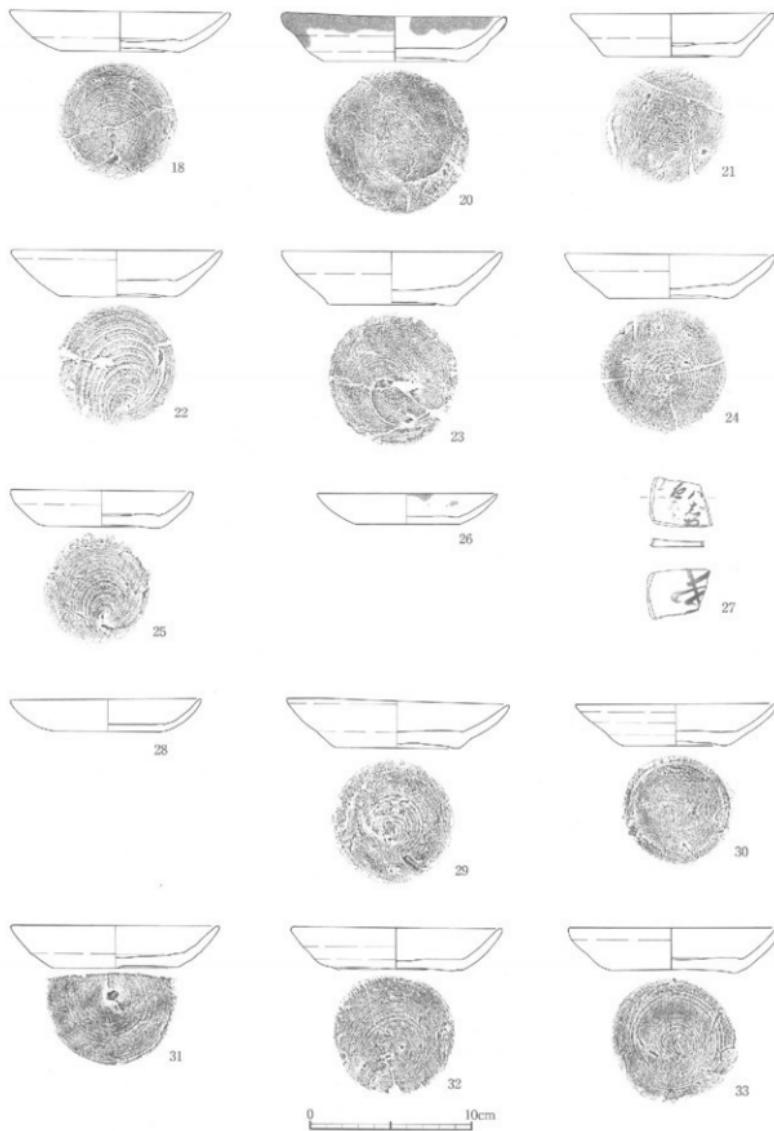


图45 武家屋敷地区第7地点出土土器 (2)
Fig.45 Unglazed ceramics from BK7 (2)

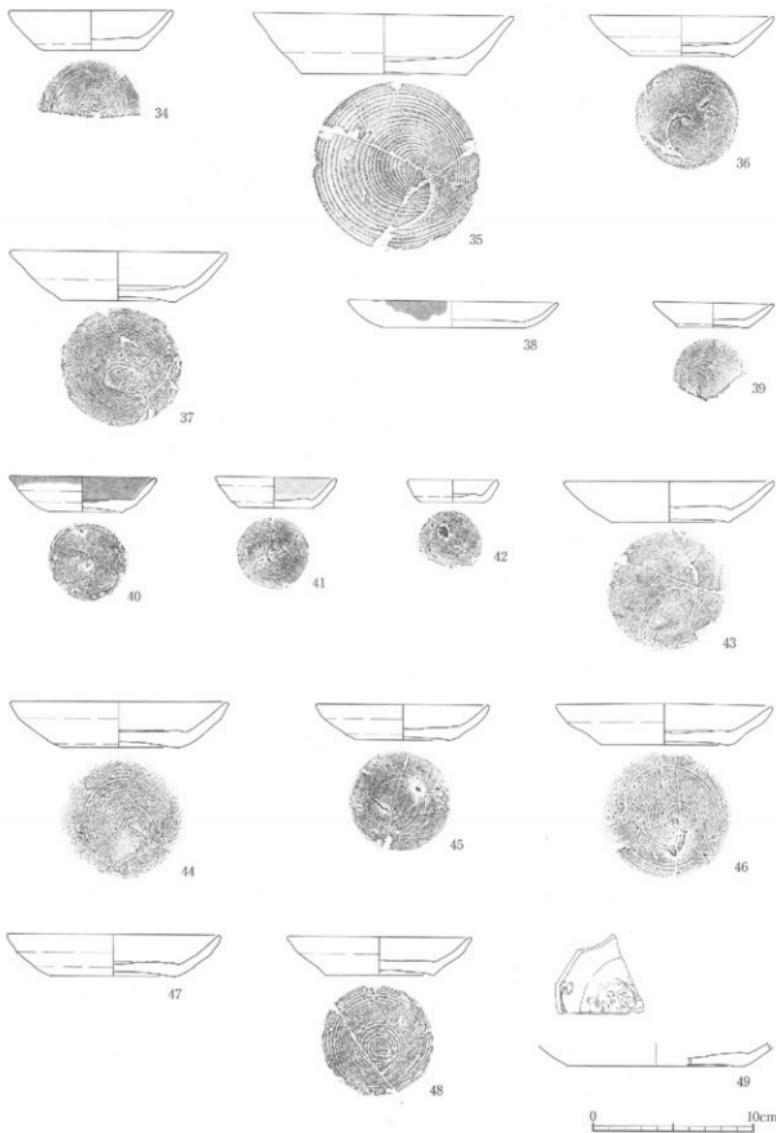


图46 武家屋敷地区第7地点出土土器(3)
Fig.46 Unglazed ceramics from BK7 (3)

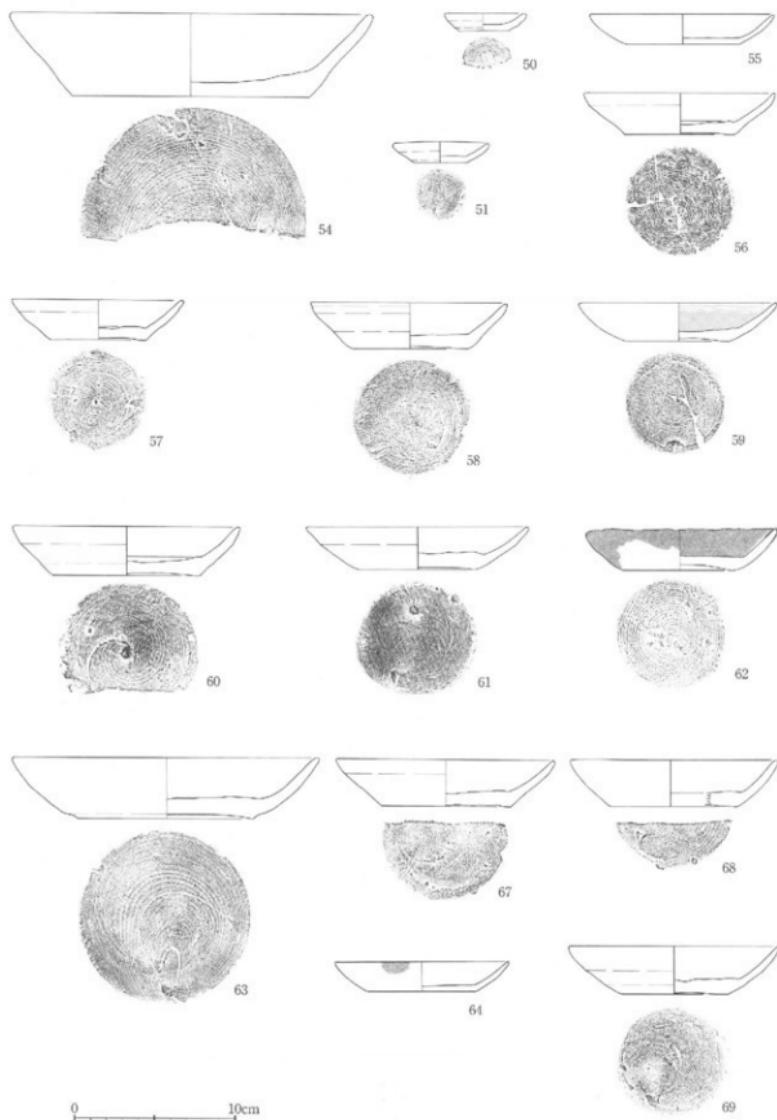


图47 武家屋敷地区第7地点出土土器 (4)
Fig.47 Unglazed ceramics from BK7 (4)

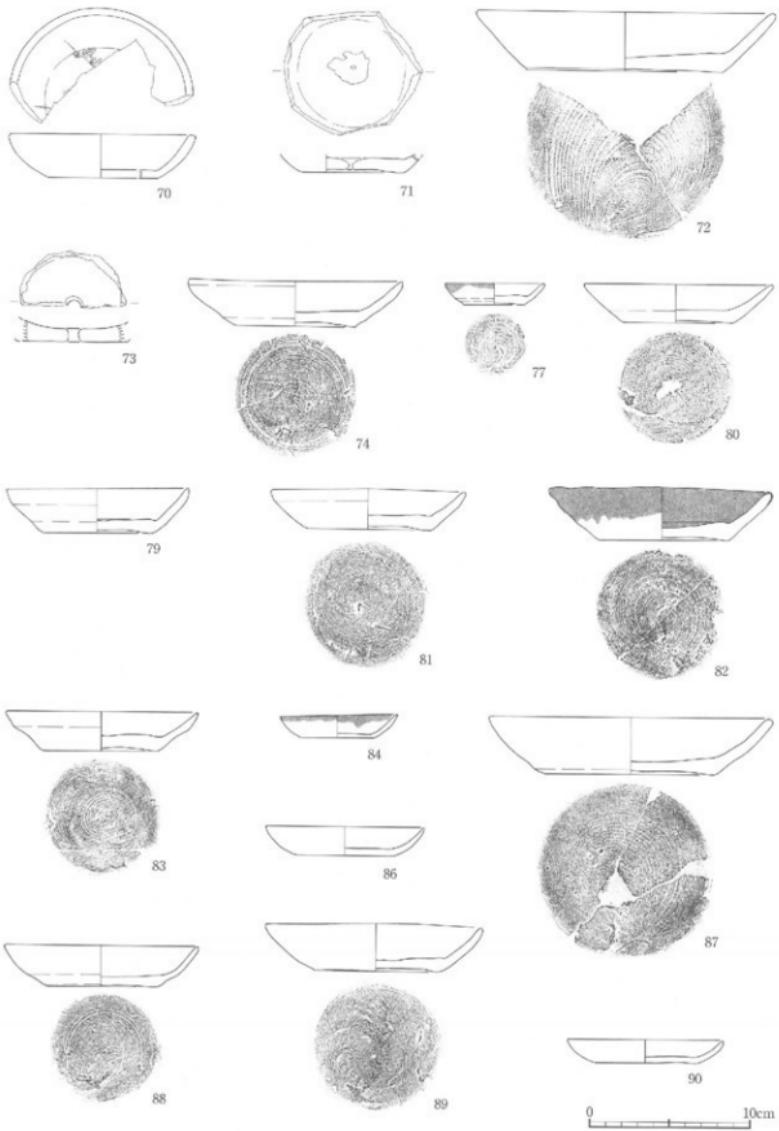


图48 武家屋敷地区第7地点出土土器 (5)
Fig.48 Unglazed ceramics from BK7 (5)

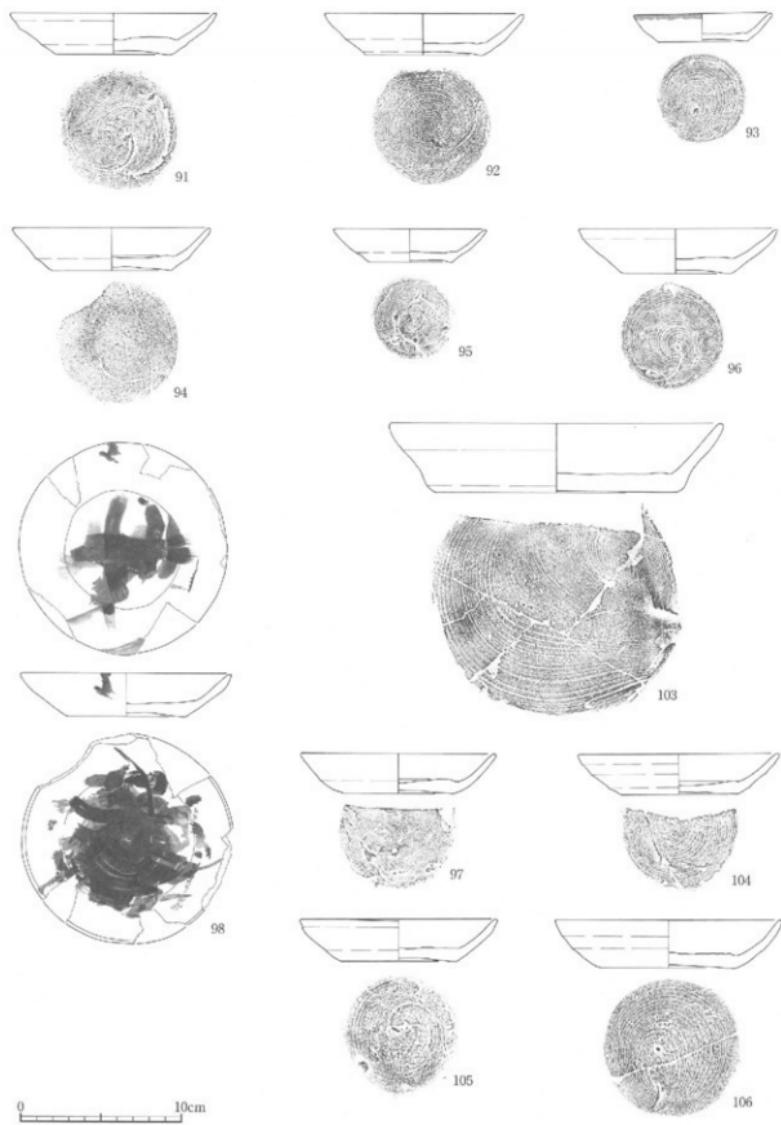


图49 武家屋敷地区第7地点出土土器 (6)
Fig.49 Unglazed ceramics from BK7 (6)

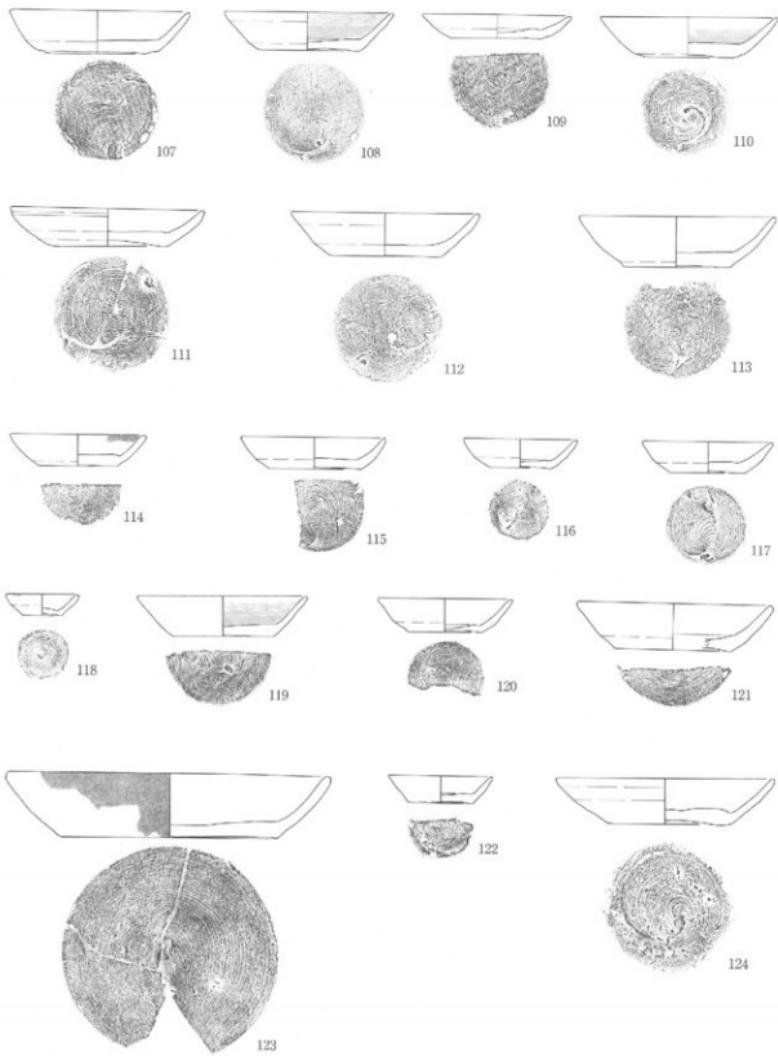


圖50 武家屋敷地区第7地点出土土器 (7)
Fig.50 Unglazed ceramics from BK7 (7)

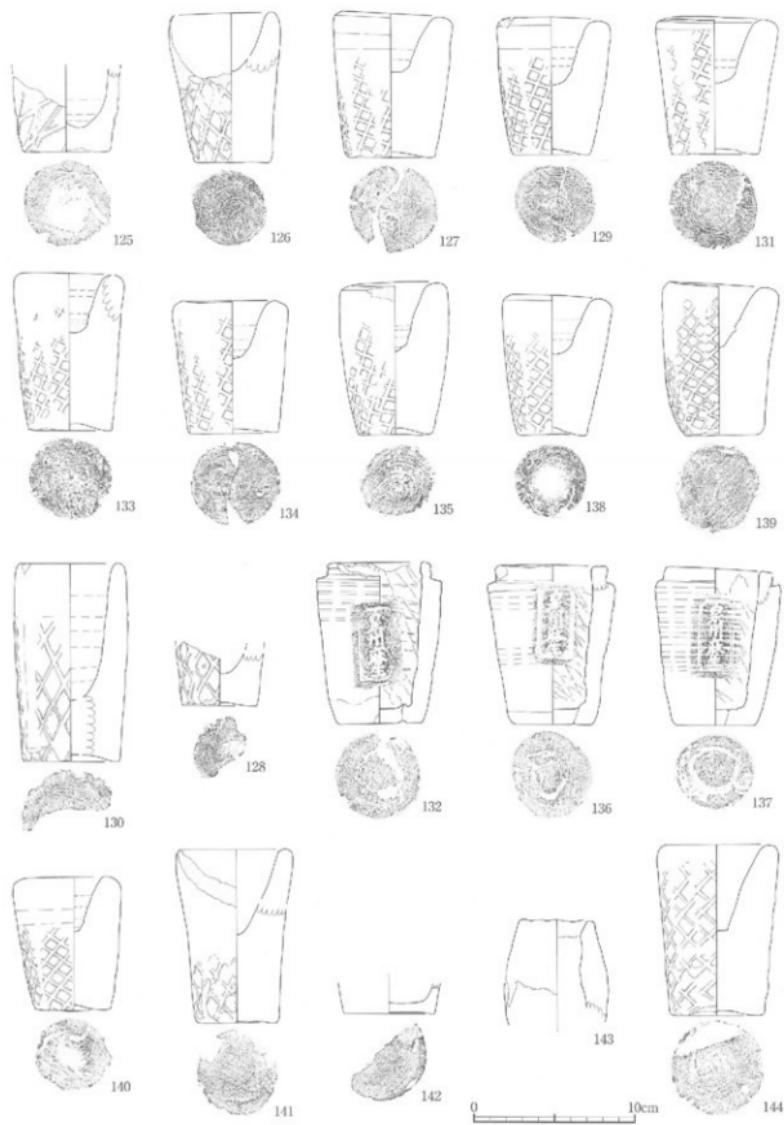


图51 武家窑地区第7地点出土土器 (8)
Fig.51 Unglazed ceramics from BK7 (8)

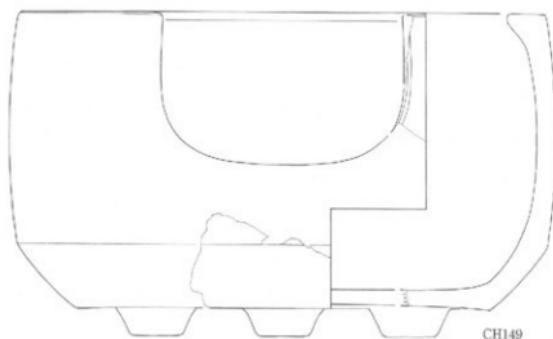
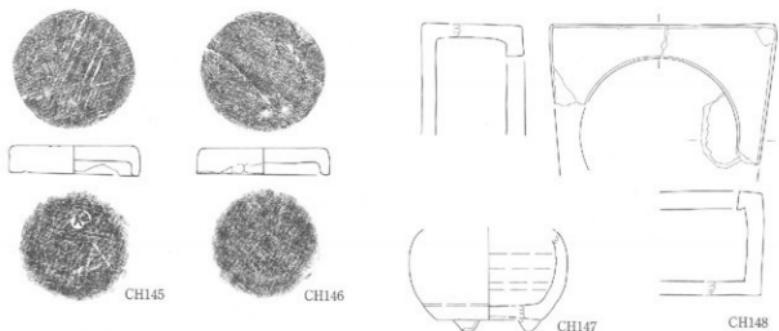


图52 武家屋敷地区第7地点出土土器 (9)
Fig.52 Unglazed ceramics from BK7 (9)

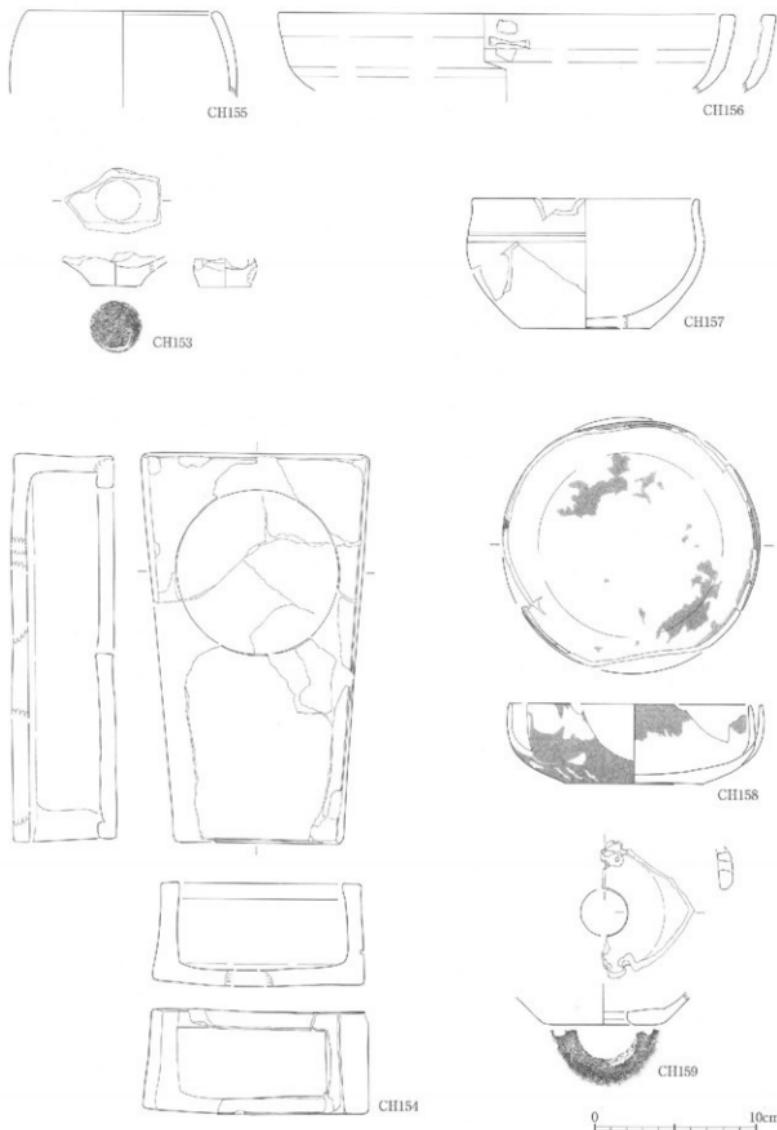


图53 武家屋敷地区第7地点出土土器 (10)
Fig.53 Unglazed ceramics from BK7 (10)

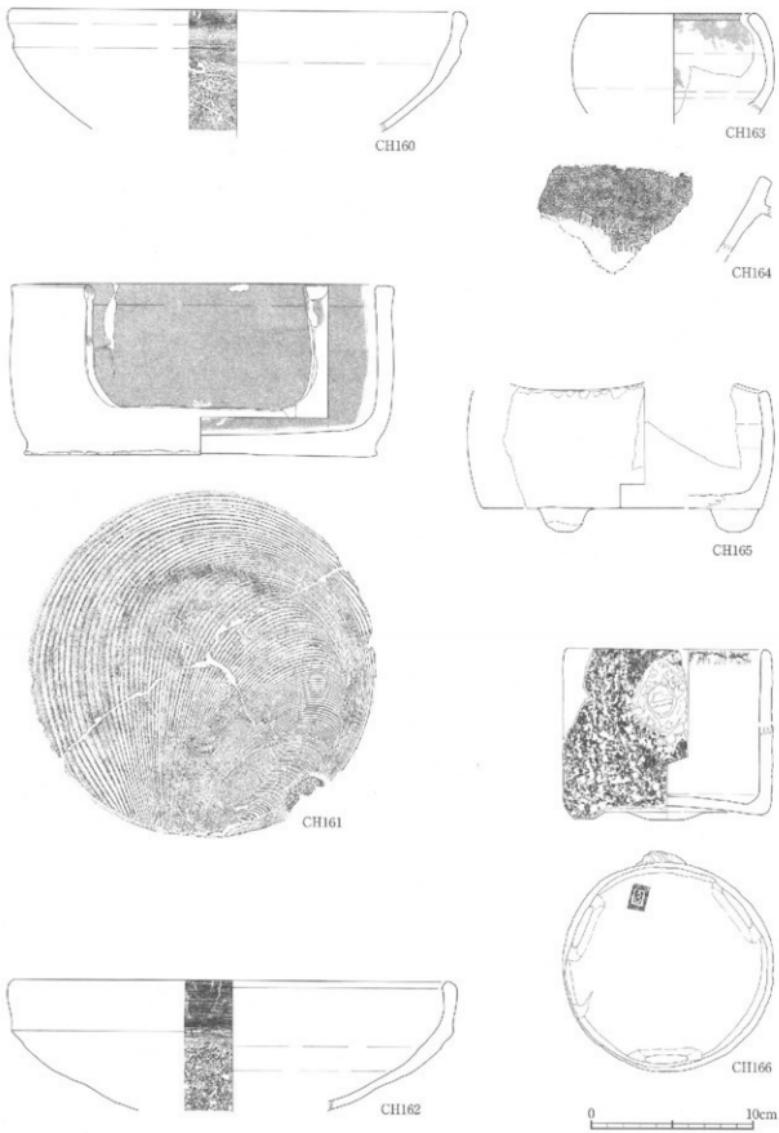


图54 武家屋敷地区第7地点出土土器 (11)
Fig.54 Unglazed ceramics from BK7 (11)

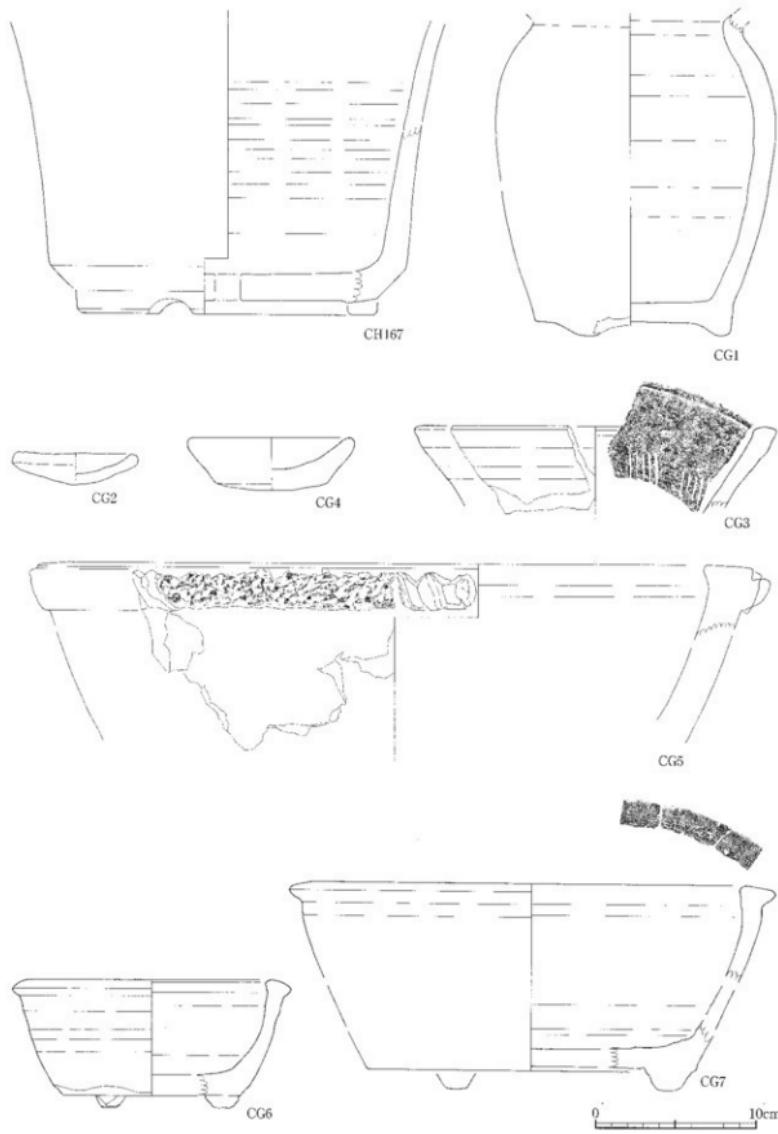


图55 武家屋敷地区第7地点出土土器 (12)
Fig.55 Unglazed ceramics from BK7 (12)

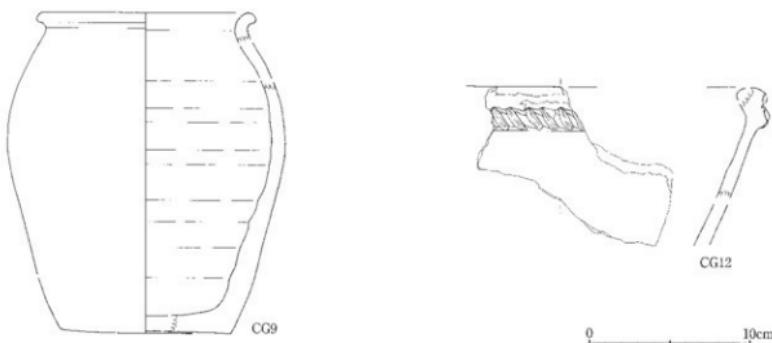
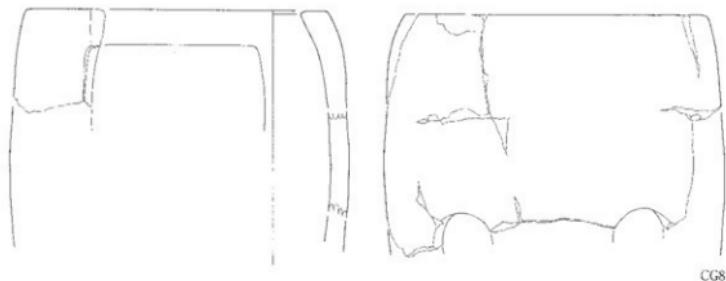
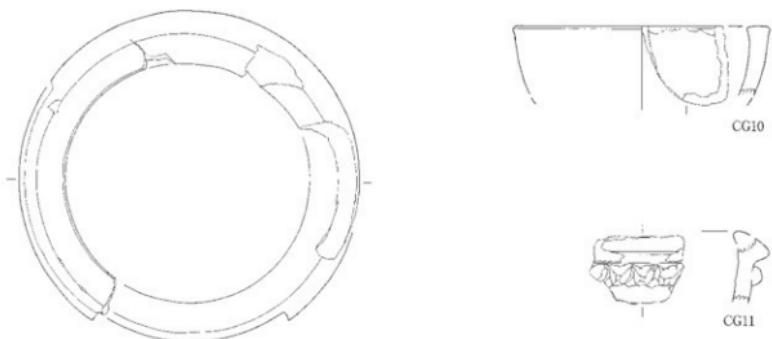


图56 武家屋敷地区第7地点出土土器 (13)
Fig.56 Unglazed ceramics from BK7 (13)

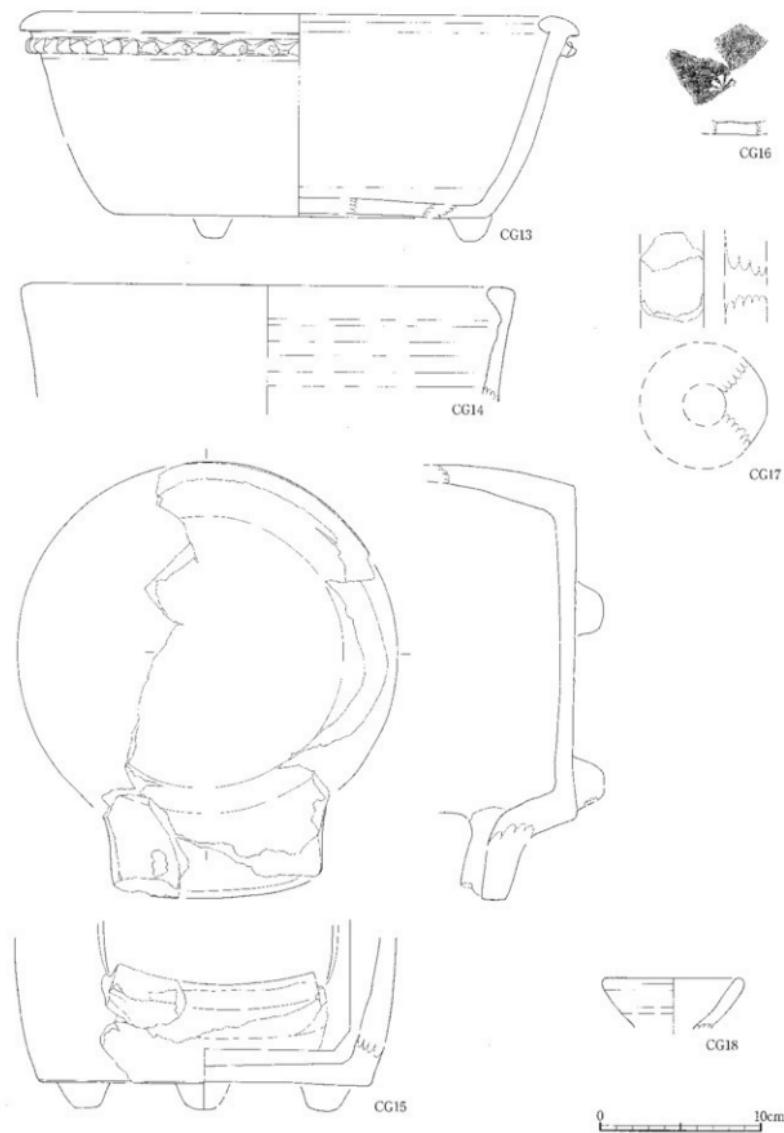
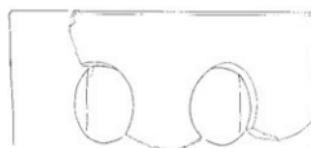
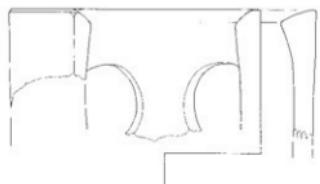
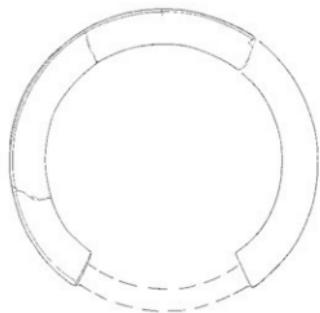


图57 武家屋敷地区第7地点出土土器 (14)
Fig.57 Unglazed ceramics from BK7 (14)



CG20

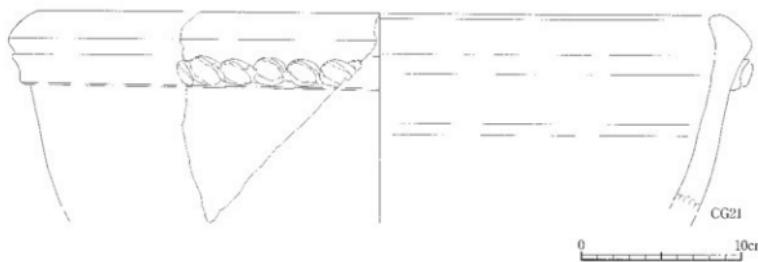


图58 武家屋敷地区第7地点出土土器 (15)
Fig.58 Unglazed ceramics from BK7 (15)

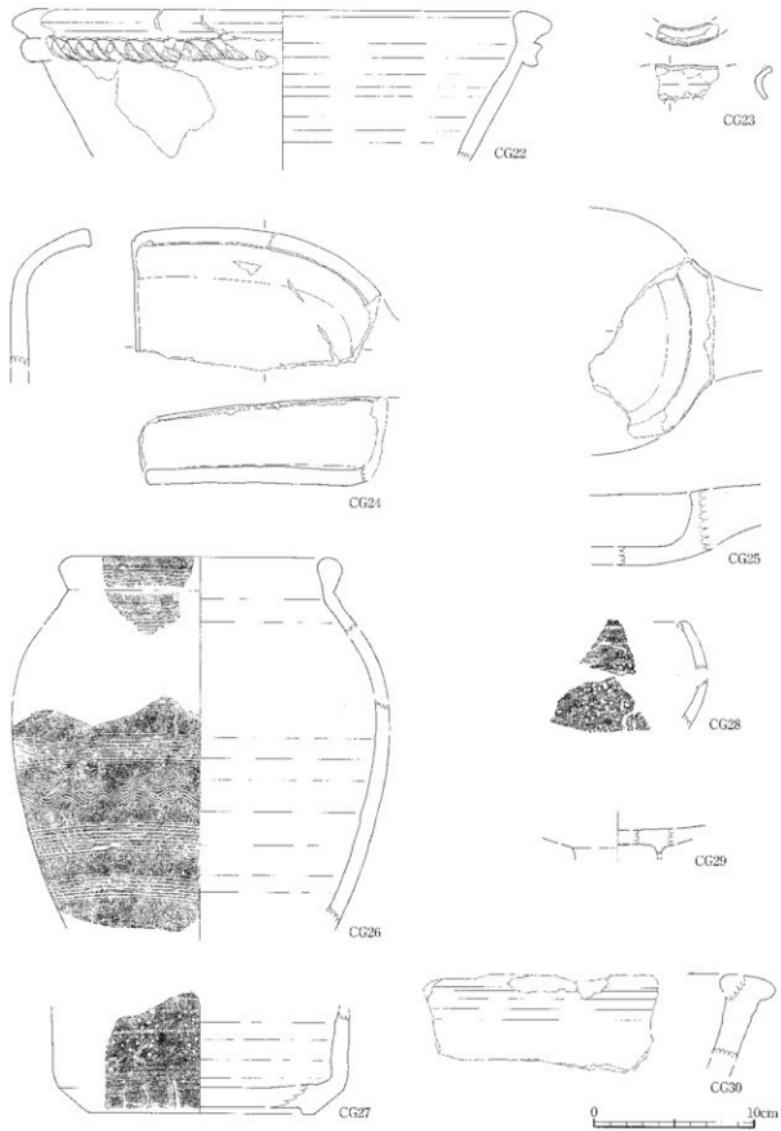


图59 武家屋敷地区第7地点出土土器 (16)
Fig.59 Unglazed ceramics from BK7 (16)

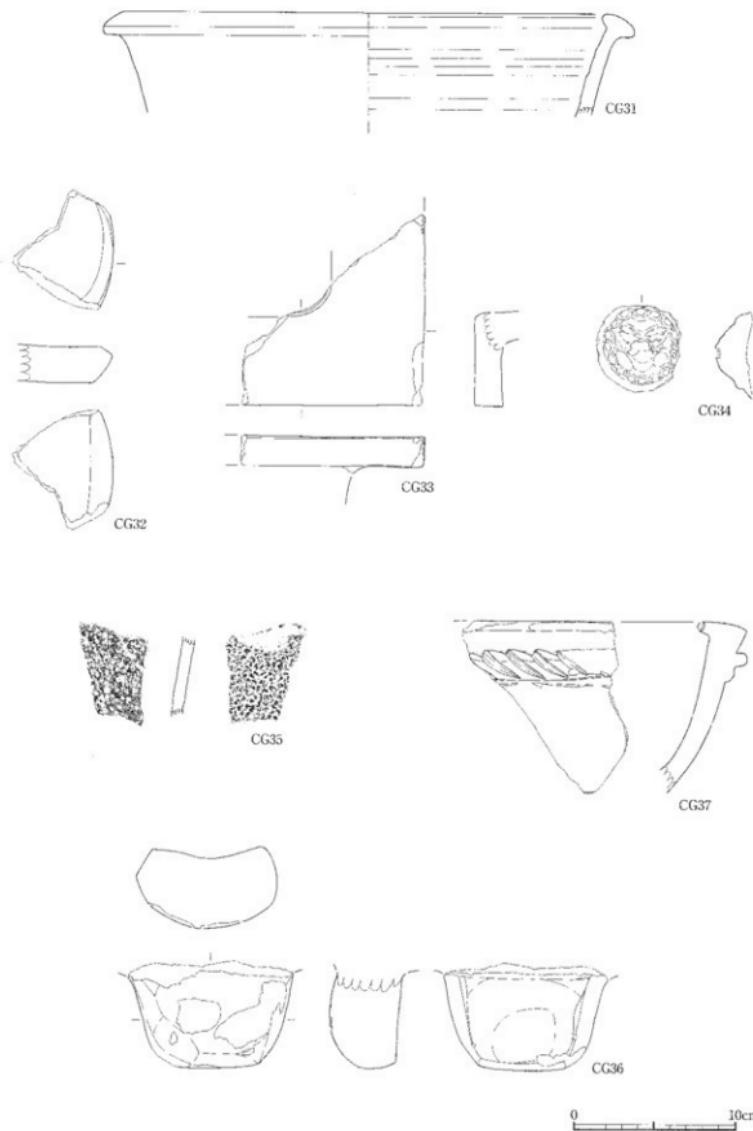


圖60 武家屋敷地区第7地点出土土器 (17)
Fig.60 Unglazed ceramics from BK7 (17)

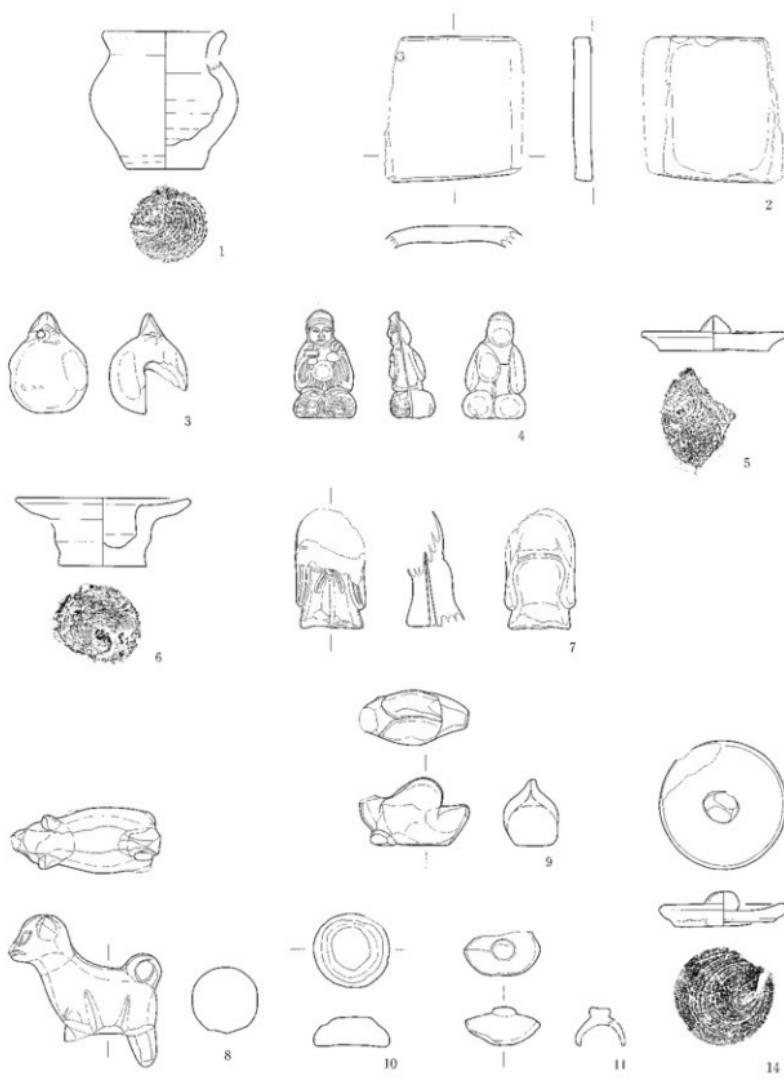
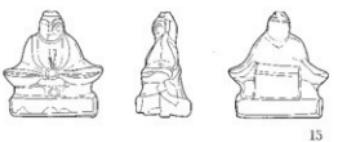
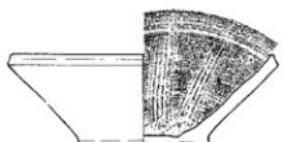


图61 武家屋敷地区第7地点出土土製品 (1)
Fig.61 Clay objects and figures from BK7 (1)

0 5cm



15



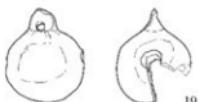
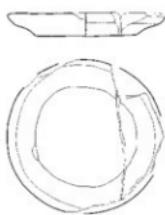
16



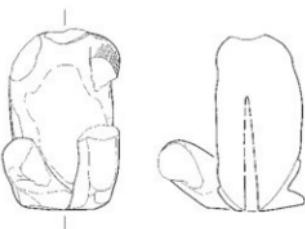
17



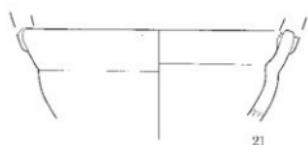
18



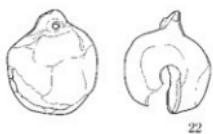
19



20



21



22



24

0 5cm

圖62 武家屋敷地区第7地点出土土製品（2）
Fig.62 Clay objects and figures from BK7 (2)



圖63 武家屋敷地区第7地点出土土製品（3）
Fig.63 Clay objects and figures from BK7 (3)



圖64 武家屋敷地区第7地点出土土製品(4)
Fig.64 Clay objects and figures from BK7 (4)

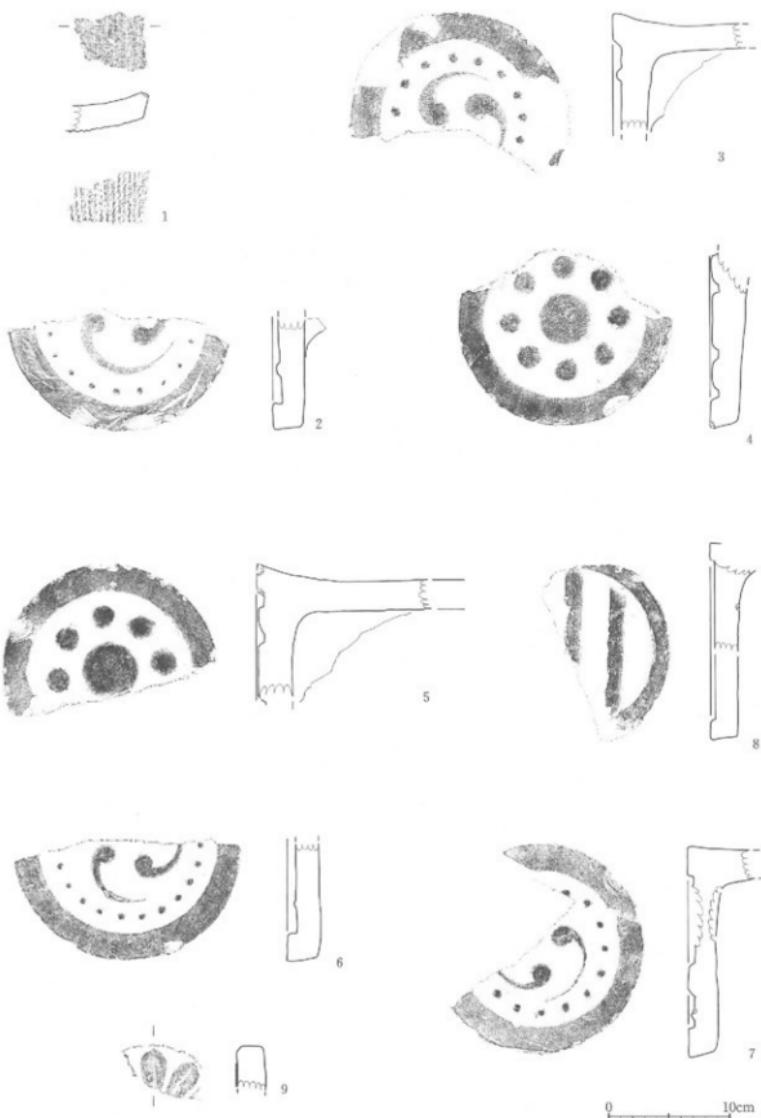


圖65 武家屋敷地区第7地点出土古代瓦・軒丸瓦
Fig.65 Ancient roof tile and round eaves tiles from BK7

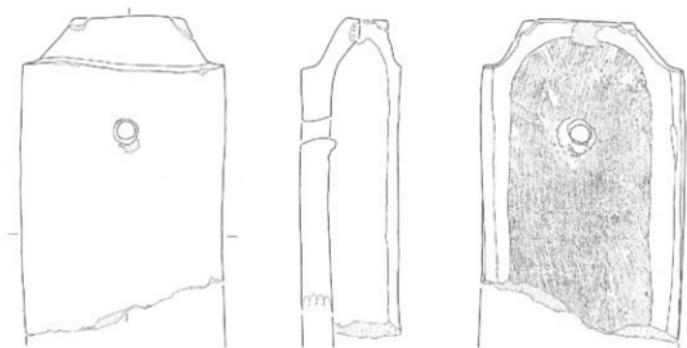
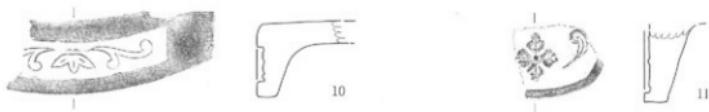


図66 武家屋敷地区第7地点出土軒平瓦・軒棧瓦・丸瓦類
Fig.66 Flat eaves tiles, eaves-pan tiles and round roof tile from BK7

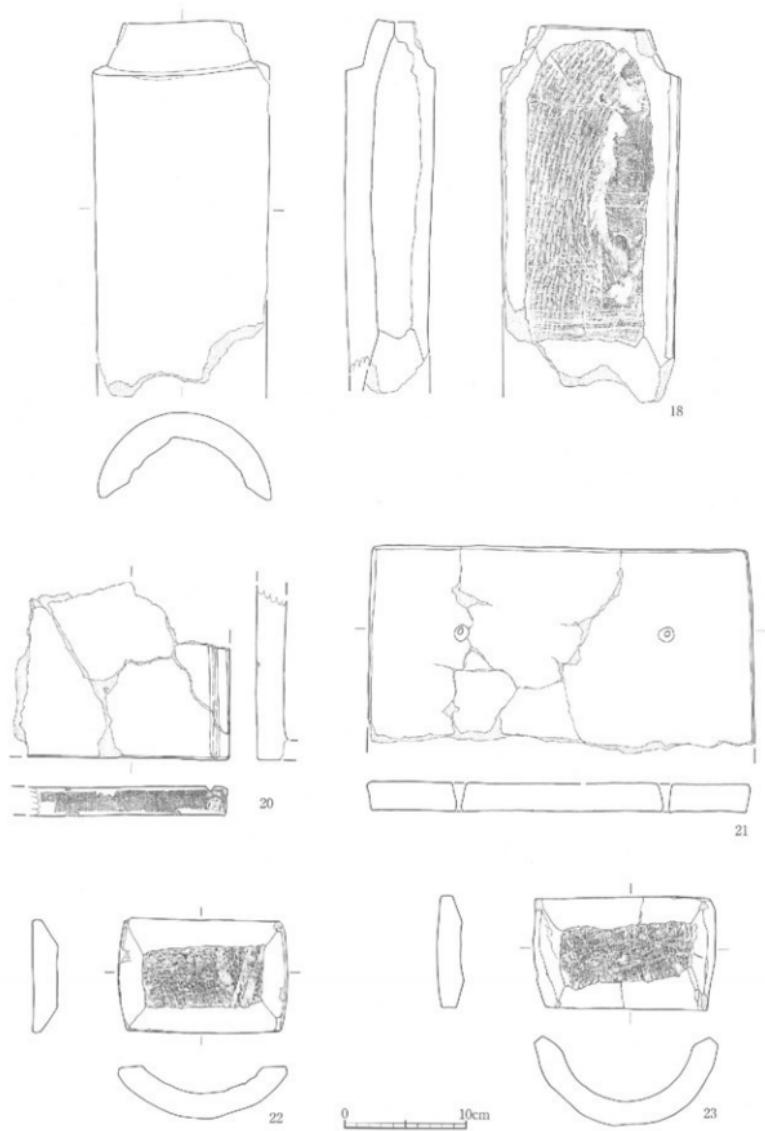
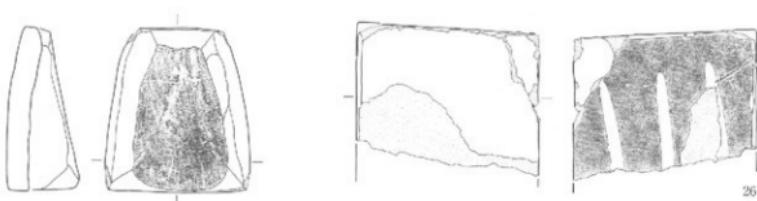
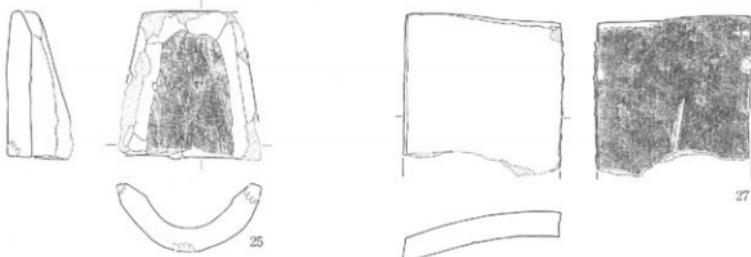


図67 武家屋敷地区第7地点出土丸瓦・板堀瓦・板状瓦・面戸瓦
Fig.67 Round roof tile, pan tile used for fence and various tiles from BK7



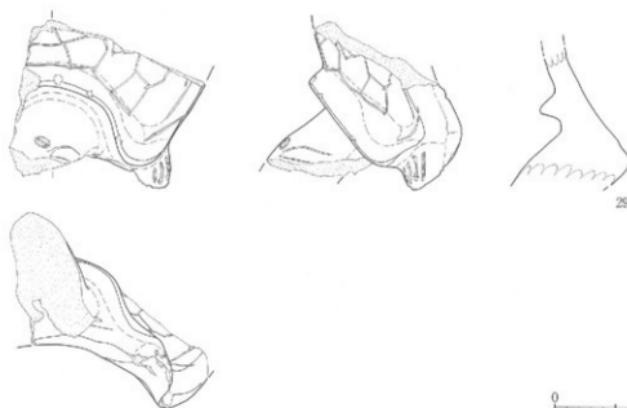
26

24



27

25



29

0 10cm

図68 武家屋敷地区第7地点出土輪違い・熨斗瓦・その他の瓦
Fig.68 Various tiles from BK7

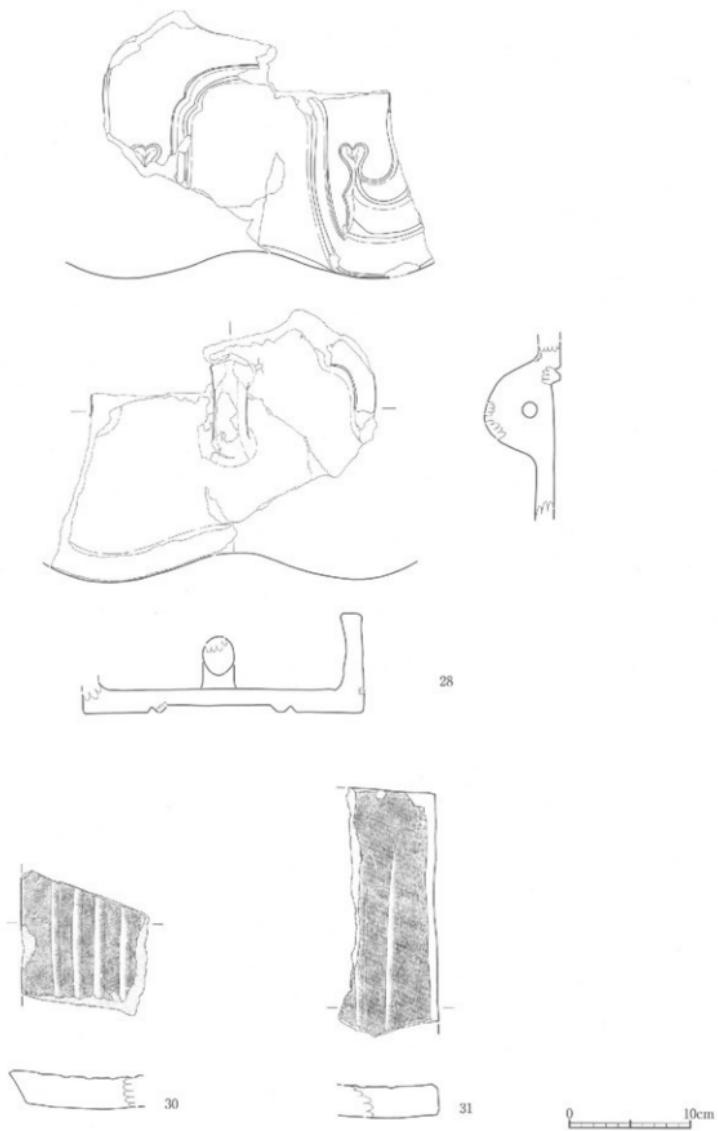


图69 武家屋敷地区第7地点出土鬼瓦·不明瓦
Fig.69 Terminal ridge-end tile and various tiles from BK7

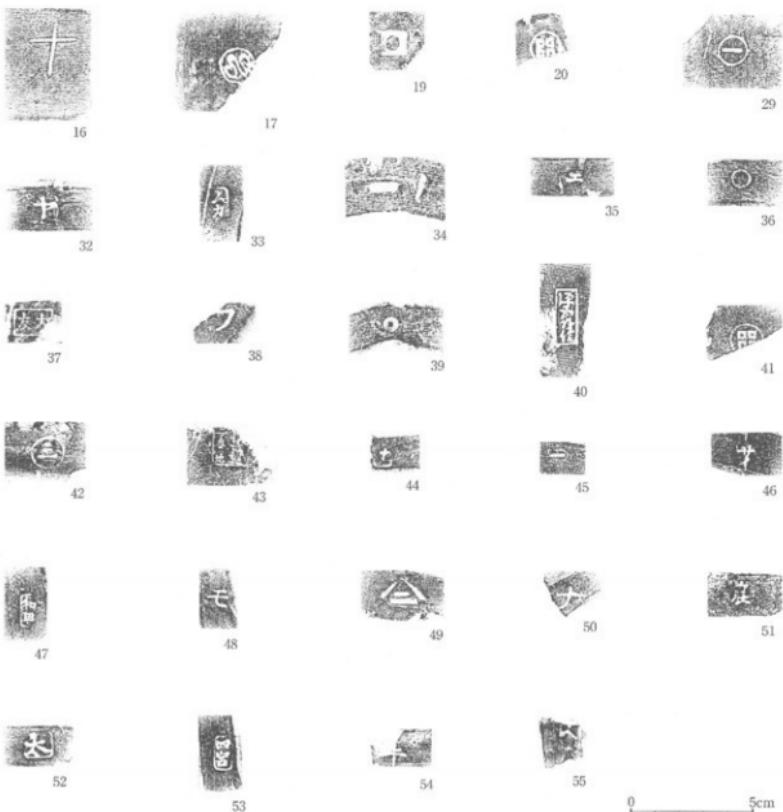


圖70 武家屋敷地区第7地点出土刻印瓦
Fig.70 Roof tiles with seal impression from BK7

表1 武藏屋敷地区第1地点出土器物點計表 (1)
Tab. 1 Distribution of potteries at BK1 (1)

地 域	大 種	中 種	小 種	小 鏡		中 鏡		大 鏡		廣 鏡		狭 鏡		不 明		其 他		合 計			
				中 鏡	中 鏡	小 鏡	小 鏡	中 鏡	大 鏡	廣 鏡	不 明	其 他	不 明	其 他	不 明	其 他	不 明	其 他			
2号	216	16	39	6	134	23	26	30	131	8	144	7	25	21	14	3	大6、中12、廣92 小4、板鏡10、火入1	4分1	49	928	
2号下忍	11	6	1	9	1	2	8	1	13	5	5	3	1	1	1	1	1	1	2	82	
3号	28	1	2	21	1	3	21	1	9	1	3	4	6	1	1	2	2	4	9	121	
4号	4	1	4	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	4	13	20	
不明	—	—	1	3	—	1	2	—	1	2	6	2	—	—	—	—	—	—	—	—	
1号・蛇瓦	2369	53	83	1	14	375	58	48	44	289	14	365	16	50	27	32	大15、中27、火入3 小12、廣42、區97 闇器利103、香101	9分11 毫18	3	12	408
5号地物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
9号土塙	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
13号土塙	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
14号上塙	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
25号土塙	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
30号上塙	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
31号下塙	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
12号池	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
21号池	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
25号池	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
26号池	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
29号池	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
30号池	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
32号池	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
1周のビット	2	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
1周の遺物小計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
6号柱間	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

表4 計算層數地区第7地点出土器皿點計表
Tab.4 Distribution of porcelains at BK7 (4)

地 点	中 國 小 碗												器 物												合 計					
	大 碗	中 碗	小 碗	小 碗	小 碗	小 碗	盤	盤	盤	盤	盤	盤	盤	盤	盤	盤	盤	盤	盤	盤	盤	盤								
14号井									1	2																				
18号井																														
19号井									1																					
26号井																														
2分井口		13	4	2					10	2	1	2	18		13	1	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
泡状器皿及灰陶器皿																														
折沿盆		4	2						1	1	1	1	1		3															
折沿盆及通槽																														
椭圆盒及通槽																														
直筒形ビット		5	5						1	2	1	1	1		1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
直筒形の通槽小計		2	35	8	9				5	41	6	6	4	45	1	31	1	6	8	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
1号上坑		5		1	7	1										3	6													
5号下坑																														
1号深		2								3	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
11号深		3														2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1号右側																														
無孔通槽																														
H・16 滲ち込み																														
H・C8・10 滲ち込み																														
H・T3・4 滲ち込み																														
直筒形のビット																														
直筒形の通槽小計		10		2	1	2			1	12	3	2	11		1	18	1	3	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
合計	8	890	105	171	2	28	792	114	121	91	659	37	899	49	158	95	123	22	307	26	16	58	10	37	12	295	239	5228		

表 6 武家屋敷地区第 7 地点出土陶器集計表 (2)
Tab.6 Distribution of glazed ceramics at BK7 (2)

場 所	大 級	中 級	小 級	無	その他の 不規	小 中	其 他	體 面	脚 部	脚 部 目印	手 縫	手 縫	手 縫	手 縫	袋 物	類	その他の 不規	土 器	地 面	その他の 不明	合 計	
8号住居																						
9号住居																						
1・11號のビット 1・II號の蝶小計																						
1・II號の蝶小計																						
1号窓所	1	4 海反1		1	2	4																
2号窓所	1	59 麗2、麗3	麗58	88	1	50	43															
7号柱所																						
3号十堵																						
4号上堵	1	31 麗折1、麗52	麗52	22	1	23	5															
6号上堵	1																					
7号上堵	1																					
8号上堵																						
11号十堵																						
12号上堵																						
15号土壤	2	19 麗折1、瘤口1	瘤口1	11	4	9 麗1	大4															
16号土壤	1	2			1																	
18号土壤		15 麗折5		15	1	12	6 麗1	大1														
19号土壤																						
20号土壤	8				4	1	6	3														
21号土壤																						
22号土壤																						
23号土壤																						
24号土壤	1	8 麗折1		3		6	3															
27号土壤																						
28号土壤																						
29号土壤																						
32号土壤																						
4号井																						
5号井																						
8号井																						
9号井																						

表7 武家屋敷地区第7地点出土陶器集計表(3)
Tab.7 Distribution of glazed ceramics at HK7 (3)

器 属	人 頭	中 碗			小 盤			器 皿			第 三 類			器 皿			貨 物			其 他			合 計					
		丸 形	角 形	その他の 形状	不 規	小 碗	深 不 規	不 規	小 盤	深 不 規	不 規	深 規	不 規	深 規	不 規	深 規	不 規	深 規	不 規	深 規	不 規	深 規	不 規	深 規	不 規			
10号窯	1		5		3	2						1	2													1	16	
13号窯	1																										1	2
15号窯		1																									2	12
16号窯																											2	12
17号窯		3		1		1	2		大1	2																	6	
21号窯		2						1				2															2	
22号窯																											2	
23号窯																											33	
27号窯																											2	
31号窯																											1	
1号井口	5	焼片	1	2	4	2			大5	2			1	1												2		
3号井口																											31	
4号井口																											2	
池状壙古墳周辺																											4	
瓦飾のビット																											17	
瓦飾の壙古墳	8	217	30	6	126	90	3		43	114	185	8	27	31	30	14	30	14	10	24	301	1274						
1・Ⅲ期のビット		1	焼片	1	斷片	1	1		1	1	2	1														14		
1号柱門																											2	
2号柱門																											1	
3号柱門																											4	
4号柱門		1							2	1																1		
1号柱門	2			1					2	2																9		
2号柱門									1																	1		
3号柱門																											4	
4号柱門																											1	
5号柱門																											1	
6号柱門																											1	
2号井		5	焼片	1																							1	
17号土坑									1																		82	
2号井									1																		1	
3号井									1																		3	
6号井									1																		1	
7号井									1																		1	

表9 武家屋敷地区第7地点出土土器質土器・瓦質土器集計表(1)
Tab.9 Distribution of unglazed ceramics at BK7 (1)

場所	組	土器質土器			瓦質土器			合計
		焼成窓	その他の	不明	火鉢	瓦質解	その他の	
2層	1372	4 鉢8、櫛木鉢1		356	5	4	収道1 鉄道2、五徳2 十徳4、鉢2 櫛鉢5、櫛木鉢1	53 1820
2層下部	588	2 促伊風口1、鉢類2		7	3			4 607
3a層	479	2 櫛鉢1		3	3		張加1、崩壊1	2 494
4層	7							7
不明	17			3	1			3 23
1層・複数	1183	11 さな3、焙焼2 蓋1 火消袋1、鋸類13		57	5	1	1 櫛鉢1、収道6 収道蓋1、鉢類1	27 1313
5号柱								
9号1坑	8							8
15号土坑	19	1				1		1 22
14号土坑	17			23	1		1 極鉢7、壇壠3	51
25号土坑								
26号土坑								
30号土坑								
31号土坑								
12分窓	32				1	1	増壠1	1 36
24分窓								
25分窓	1							1
28号窓								
29号窓	6					1		7
30号窓								
32分窓								
33分窓								
1期のピット								
1期の壺類小計	83	1		24	2	2	11	2 125
8号柱								
9号柱								
I・II期のピット								
I・II期の壺類小計								
I・II・III期のピット	1							1
1号造傍	65	2 芽頭1、壺鉢風口1						69
2号造傍	15389	87 鉢類19、風炉3、火鉢1 蓋3 耳皿5、壺鉢風口2 絶縁15、さな2		40	34	4	芽頭9、鉢類2、蓋1 櫛鉢4、壺鉢風口1、 風炉1	32 15661
7号柱								
3号土坑	2							2
4号土坑	145	1 鉢4		3	2	2	収道1、五徳2	3 163
6号土坑								
7号土坑	3							1 4
8号土坑	1							1
11号土坑	16							16
12号土坑	7							7
13号土坑	30				1	1	I・II・III期3、鉢類1	40
16号土坑	8							8
18号土坑	109	鉢類1			1			113
19号土坑	2							2
20号土坑		焰塔1						3
21号土坑	1							1
22号土坑	12							12
23号土坑								
24号土坑	393	15 鉢類5、風炉1		1	3		鉢類1、碗1	2 422
27号土坑								
28号土坑	15							15
29号土坑	1							1
32号土坑								
4号窓	8							8
5号窓	2							2
8号窓								
9号窓	1							1
10号窓	22							23

表10 武家屋敷地区第7地点出土土師質土器・瓦質土器集計表 (2)
 Tab.10 Distribution of unglazed ceramics at BK7 (2)

地 畳	土師質土器			瓦質土器			合 計
	直 備 塗	その他の	不明	火鉢	壺類	その他の	
13号溝							3
15号溝	3						3
16号溝							10
17号溝	9			1			7
21号溝	6			2			20
22号溝	18						
23号溝							
27号溝	93	鉢2	3				98
31号溝							
1号井戸	22			1	1		25
3号井戸						1	
4号井戸	18						18
油状漆痕古段階	3						4
Ⅱ期のピット	16						16
Ⅲ期の遺構小計	16420	108	63	52	43	7	27
Ⅳ・Ⅴ期のピット	20						
1号焼物	9						9
2号焼物							
3号焼物	12					1	13
4号焼物	5						5
1号柱洞	5						7
2号柱洞	1						1
3号柱洞	2						2
4号柱洞	1						1
5号柱洞	1						1
6号柱洞	1						1
2号十塁	44						46
17号土塁	52	1					53
2号溝	1						2
3号溝	6						6
6号溝	1						1
7号溝	1						1
14号溝							
18号溝	3						3
19号溝	2						2
25号溝	8						8
2号井戸	1						1
油状漆痕新段階	96						101
石敷壠備	23	鉢類1	2				27
井埠設置構							
施埋設置構	1						1
Ⅲ期のピット	16						17
Ⅲ期の遺構小計	292	1	1	2	1	4	311
1号上塁	21				3		24
5号十塁							
1号溝	17						19
21号溝	16						17
1号石列							
油状漆構							
B・C9・10落込み	5						7
日・13・4落込み	8			1			10
日・16落込み	8						8
Ⅳ期のピット	5						6
Ⅳ期の遺構小計	80			4		1	91
合計	20542	130	96	510	63	14	21577

表11 武家屋敷地区第7地点出土軟質施釉土器・土製品集計表(1)
Tab.11 Distribution of lead glazed soft ceramics and clay figures at BK7 (1)

品名	軟質施釉土器			上 製 品	その他	合計	
	均値	その他	不明	軟質施釉	上部質		
2号	49	網1		器台6 豆甕2、蓋1	人形14、不明2、ミニチュア3、土鈴3 内板1、動物1、不明11、蓋61 鈴1、法師1	須恵器1 縄文土器1	102
2層下部	1				蓋?1、ミニチュア1、不明2、土鈴1		7
3a層		網1		頭1	十輪1、扇2、ミニチュア1		6
4層							
不明				器台1	羽茎1		2
1層・複数	74	網1		器台4 豆甕1、蓋2	扇2、土鈴3、ミニチュア2、鈴犬1 扇1、不明16、人形不明4		111
5号建物							
9号土坑							
13号土坑							
14号土坑							
25号土坑							
26号土坑							
30号土坑							
31号土坑							
12号溝							
24号溝							
25号溝							
28号溝							
29号溝							
30号溝							
33号溝							
33号溝							
I期のピット							
I期の壇場小窓							
8号柱列							
9号柱列							
I・II期のピット							
I・II期の壇場小窓							
I・II・III期のピット							
1号遺構				器台1	人形1		2
2号遺構		瓶3、網4、網1		器台5 豆甕6、蓋1 頭1、猪2	土鈴5、人形1、人馬1		29
7号柱列							
3号土坑							
4号土坑	6		5		鏡1、不明2		14
6号土坑							
7号土坑							
8号土坑							
11号土坑					ミニチュア1		1
12号土坑							
15号土坑			1		人形2、扇1、土鈴1		5
16号土坑							
18号土坑					土鈴1、不明2		3
19号土坑					人物1		1
20号土坑				器台1、蓋1	土鈴2、ミニチュア1、天神1		6
21号土坑							
22号土坑							
23号土坑				猪体1			1
24号土坑			2		ミニチュア1		1
25号土坑							
28号土坑							
29号土坑							
32号土坑							
4号溝			2				2
5号溝					鏡1		1
8号溝							
9号溝							
10号溝					不明1		1
13号溝							

表12 武家屋敷地区第7地点出土軟質施釉土器・土製品集計表 (2)
Tab.12 Distribution of lead glazed soft ceramics and clay figures and clay objects at BK7 (2)

地 畳	軟質施釉土器			土 製 品		その他の 土器	合 計
	焼物	その他の 土器	不明	軟質土器	土製品		
15号溝							-
16号溝							-
17号溝							-
21号溝							-
22号溝			1	犬1			2
23号溝							-
25号溝					人形1、不明1、鳥1		3
31号溝							-
1号井戸							-
3号井戸							-
4号井戸							-
油伏遺構古段階							-
Ⅰ期のピット	8	7	7	器台1	犬1		2
Ⅱ期の遺構小計				20		32	74
Ⅰ・Ⅱ期のピット							-
1号建物							-
2号建物							-
3号建物			1				1
4号建物							-
1号柱列		植木鉢?1	1		上鉢1		3
2号柱列							-
3号柱列							-
4号柱列							-
5号柱列							-
6号柱列							-
2号土坑		1					-
17号土坑					人形1		1
2号溝					土鉢1		1
3号溝							-
6号溝					鳥1、不明1		2
7号溝	1						1
14号溝							-
18号溝							-
19号溝					ミニチュア1		1
26号溝							-
2号井戸							-
油伏遺構新段階	5		4				9
石敷設構		3			鉢底道具1		4
倒埋設造構							-
橋陣設置構							-
Ⅲ期のピット	1						1
Ⅲ期の遺構小計	7	1	9			7	24
1号土坑	1	1			鉢大?1、人形1		3
5号土坑							-
1号溝	2				鉢大1		3
11号溝							-
1号石碑							-
鏡状造構							-
Ⅳ・C9・10落込み							-
Ⅳ・13・4落込み							-
Ⅴ・16落込み	1		1		鉢大1		4
Ⅵ期のピット	4		1			4	1
Ⅵ期の遺構小計							10
合計	143	11	18	38		123	3
							396

表13 武藏丘陵地区第7地点出土瓦集計表
Table 13 Distribution of roof tiles at BK7 (1)

編 畜	平瓦1面	平瓦2面	丸 瓦	丸瓦類	棟 瓦	板瓦	軒瓦	軒瓦類	軒丸瓦	軒丸瓦類	筒瓦	輪窓瓦	その他	不明	合 計
2番	165 (1,685)	19 (2,000)	21 (2,468)	50 (716)	5 (553)	26 (6156)	2 (570)	4 (374)	3 (1840)	1 (130)			施設瓦及屋1 (65)	15 (1888)	307 (4286)
2番下部	19 (1,526)	1 (120)	6 (665)	6 (738)		1 (636)							施設瓦及屋1 (157)	1 (61)	1 (199)
3番	35 (5,131)	3 (475)	3 (754)	2 (3035)		1 (325)	1 (70)	4 (1547)	1 (267)	1 (387)			その2 (160)、古川瓦1 (35)	9 (48)	53 (199)
4番	3 (156)		4 (217)				1 (62)						瓦半瓦1 (308)	29 (365)	57 (1949)
5番	1番・櫻瓦	23 (495)		2 (738)	15 (1709)	1 (365)	5 (1965)	7 (1995)	27 (6725)				瓦屋1 (1268)、鶴見屋5 (610)	3 (52)	11 (767)
6号地物						1 (140)							角松瓦2 (1370)、鬼瓦3 (1860)	112 (4863)	
9号土塁	1 (23)					1 (326)							今えもむの (地) 1 (875)	1 (9)	1 (9)
14号 土塁													今えもむの (地) 1 (875)	1 (9)	1 (9)
25号土塁														1 (140)	1 (140)
25号土塁														1 (224)	1 (224)
30号土塁														1 (6)	1 (6)
31号土塁															
12号窓	12 (3156)		3 (158)	2 (1573)	4 (722)								1 (480) 塵半瓦3 (1208)	39 (523)	64 (4623)
23号窓															
28号窓														1 (10) 1 (10)	1 (10)
29号窓	3 (884)	...	1 (746)	1 (326)										3 (62) 8 (987)	
30号窓															
31号窓															
1. 頭のビクト															
1. 頭の漆塗小柱	16 (36319)	3 (158)	3 (1275)	7 (1514)									1 (180) 1 (2183)	44 (601)	78 (12540)
8号柱列						1 (190)								1 (190)	
9号柱列						1 (190)									
1・日時のビクト															
1・日時の漆塗小柱															
1・日時のビクト															
12号窓	4 (476)	1 (18)	2 (129)	6 (680)		1 (54)							3 (35)	3 (25)	1 (196)
2号玉帶	1130 (14488)	131 (17383)	64 (16494)	150 (82927)		58 (9735)	11 (204)	62 (906)	12 (3576)	3 (521)	4枚瓦8 (3047)、瓦瓦7 (435)	3 (45)	17 (1363)		
7号柱列											板状瓦2 (3000)、板瓦1 (130)	282 (5512)	2288 (26566)		
3号上丸											その他の1 (1286)	1 (8)	1 (8)		
4号上丸	10 (1016)	2 (122)	1 (106)	12 (365)		1 (12)							3 (42)	30 (1673)	

() 内は重複数

表14 武富園地区第7始点出土瓦類計数
(2)
Tab.14 Distribution of roof tiles at BK7 (2)

場所	瓦類数	平瓦類	丸瓦	丸瓦断	板瓦	板瓦瓦	斜瓦瓦	斜瓦瓦	面瓦瓦	輪窓瓦	その他	不明	合計
6号土坑	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7号土坑	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8号土坑	2 (306)	—	—	1 (22)	—	—	—	—	—	—	—	—	1 (22)
11号土坑	2 (459)	—	—	1 (150)	—	—	—	—	—	—	—	—	3 (55)
12号土坑	2 (459)	10 (678)	1 (193)	9 (58)	—	4 (555)	—	—	—	—	—	—	3 (517)
15号土坑	6 (524)	—	—	1 (120)	—	—	—	—	—	—	—	—	1 (136)
16号土坑	—	—	—	1 (130)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
18号土坑	4 (234)	—	—	—	4 (286)	—	—	—	—	—	1 (40)	—	10 (84)
19号土坑	—	—	—	—	1 (23)	—	—	—	—	—	—	—	1 (26)
20号土坑	8 (693)	—	—	1 (141)	1 (203)	—	—	—	—	—	—	1 (31)	11 (1045)
21号土坑	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
22号土坑	—	—	—	—	1 (18)	—	—	—	—	—	—	—	2 (9)
23号土坑	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3 (27)
24号土坑	84 (1052)	7 (993)	9 (365)	27 (339)	—	6 (294)	—	—	—	—	4 (2385)	—	40 (343)
27号土坑	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2 (293)	—	150 (23212)
28号土坑	1 (39)	1 (96)	—	1 (20)	—	1 (34)	—	—	—	—	—	—	1 (5)
29号土坑	2 (140)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1 (13)	4 (163)
30号土坑	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4 (187)
4号井	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3 (650)
5号井	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8号井	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
9号井	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
10号井	1 (210)	—	1 (61)	1 (41)	1 (27)	—	—	—	—	—	—	—	1 (5)
13号井	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1 (9)
15号井	1 (80)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5 (576)
16号井	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
17号井	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
21号井	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
22号井	30 (2863)	—	—	6 (621)	—	—	—	—	—	—	—	—	10 (144)
23号井	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1 (34)
27号井	5 (604)	—	1 (25)	6 (499)	—	—	—	—	—	—	—	—	5 (120)
31号井	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	18 (178)
1号井口	7 (851)	—	—	1 (174)	1 (203)	1 (173)	—	—	—	—	—	—	1 (10)
4号井口	2 (242)	1 (120)	—	1 (165)	—	—	—	—	—	—	—	—	4 (527)
地盤 sondage	—	—	—	—	2 (86)	—	—	—	—	—	—	—	2 (55)
直前の立筒	1 (70)	—	—	2 (194)	—	—	—	—	—	—	—	—	1 (5)
直前の蓋板小計	131 (16432)	154 (19877)	111 (20527)	538 (58566)	1 (173)	69 (12276)	12 (2180)	70 (12900)	14 (3096)	5 (8144)	27 (7295)	358 (6912)	267 (308617)
直前のビット	4 (117)	—	—	—	—	—	—	—	—	1 (288)	—	1 (2)	6 (447)

表15 玄室屋敷地区第7地点出土瓦集計表
Tab.15 Distribution of roof tiles at BK7 (3)

解説	平瓦類	平瓦2面	丸瓦	丸瓦類	板瓦	板瓦類	軒半瓦	軒丸瓦	筒瓦	輪窓	その他	不明	合計
1号建物	1 (15)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1 (6)	2 (19)
2号建物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3号建物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4号建物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1号柱列	1 (165)	1 (100)	1 (225)	1 (265)	—	—	—	—	—	—	—	3 (23)	7 (86)
2号柱列	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2 (30)	3 (66)
3号柱列	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4号柱列	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5号柱列	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6号柱列	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2号土坑	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
17号土坑	5 (320)	3 (217)	1 (20)	2 (138)	—	—	—	—	—	—	—	2 (2)	7 (58)
2号溝	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3号溝	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6号溝	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7号溝	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
14号溝	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
18号溝	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
19号溝	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
25号溝	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2号柱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
海状溝新設段	9 (826)	3 (214)	—	14 (1169)	2 (771)	—	—	—	—	—	—	9 (71)	37 (396)
6号造跡	3 (195)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3 (195)
廻廊設置部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
特標設置部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
柱間のピット	1 (12)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1 (50)	1 (50)
柱間の通縫小口	21 (173)	8 (587)	2 (245)	19 (1728)	2 (771)	—	—	—	—	—	—	3 (39)	4 (51)
1号上塀	4 (473)	—	—	7 (1639)	—	—	—	—	—	—	—	22 (162)	75 (542)
5号上塀	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1号塀	1 (160)	—	—	1 (227)	—	—	—	—	—	—	—	1 (3)	12 (2105)
11号塀	8 (994)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
19号石列	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
築灰通槽	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
B・C9・10番立ち込み	3 (96)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3 (96)
H・13・4番立ち込み	5 (423)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5 (471)
H・16番立ち込み	4 (581)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6 (644)
H期のピット	25 (2507)	—	—	1 (227)	8 (1794)	1 (165)	—	—	—	—	—	—	5 (246)
瓦割の通縫小口	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	1622 (28132)	168 (22917)	147 (20204)	706 (75892)	21 (11735)	101 (20093)	21 (5421)	86 (16078)	31 (6773)	1 (10)	1 (24)	3 (23)	41 (4745)
												628 (5862)	366 (42876)

() 内は重複品

表16 武當山地区第7地点出土器物列表
Tab.16 Notes on porcelains at BK7 (1)

登记号	出土地点	器 种	上径 (cm)	底径 (cm)	高 (cm)	文 样 等	断 口	年 代	制 作 代	偏 差	考	国 流
CJ001 09号土坑墓	中小型	红陶口	12.1	6.4	3.1	文通有里	普通	17世纪中至晚	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1
CJ002 13号带土坑	大型	红陶口	2.8	1.7	1.7	口沿	普通	17世纪中期	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1
CJ003 14号带土坑	大型	红陶口	—	—	—	草花文?	普通	17世纪中期	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1
CJ004 14号带土坑	中小型	红陶口	15.2	8.4	2.9	黄龙纹内留文	普通	17世纪中期	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1
CJ005 14号带土坑	中小型	红陶口	15.8	8.8	2.3	荷花叶入瓣山字文 外面朝带豆文	普通	17世纪中期	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1
CJ006 14号带土坑	中小型	红陶口	16.0	7.7	—	荷花叶入瓣山字文?	普通	17世纪中期	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1
CJ007 14号带土坑	中小型	红陶口	5.3	6.0	—	荷花文 莲瓣?	普通	17世纪中期	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1
CJ008 12号带土坑	中小型	红陶口	—	5.1	—	文通有里	普通	17世纪中期	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1
CJ009 1号带土坑+2件	中型丸颈	红陶口	8.4	3.3	4.9	施纹繁多文字模印文	普通	17世纪中期	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1
CJ010 1号带土坑+2件	中型丸颈	红陶口	—	4.6	—	见点状文字 模印文字(捺笔)	普通	17世纪中期	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1
CJ011 1号带土坑+2件	中型丸颈	红陶口	10.3	4.4	3.6	折枝花 口台+捺 波	普通	17世纪中期	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1
CJ012 2号带土坑+3件	中型丸颈	红陶口	8.9	3.5	3.2	回纹	普通	17世纪中期	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1
CJ013 2号带土坑+3件	中型丸颈	红陶口	11.6	4.8	7.6	荷花文	普通	17世纪中期	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1
CJ014 1号带土坑+2件 (改)	中型丸颈	红陶口	11.4	—	3.5	施纹草文	普通	17世纪中期	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1
CJ015 1号带土坑+2件	中型丸颈	红陶口	3.8	3.1	—	青花团凤纹	普通	17世纪中期	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1
CJ016 1号带土坑+2件	中型丸颈	红陶口	—	6.2	—	青花团凤纹	普通	17世纪中期	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1
CJ017 1号带土坑+2件	盖杯形 (2件)	中型丸颈	12.1	7.8	9.3	施纹草文	普通	17世纪中期	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1
CJ018 2号带土坑+1件	中型丸颈	红陶口	11.0	4.8	7.6	荷花草文	普通	17世纪中期	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1
CJ019 2号带土坑+2件	中型丸颈	红陶口	10.6	4.5	6.1	施纹草文	普通	17世纪中期	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1
CJ020 2号带土坑+2件	中型丸颈	红陶口	11.5	4.7	7.2	荷花草文	普通	17世纪中期	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1
CJ021 2号带土坑+2件	中型丸颈	红陶口	11.4	4.6	6.5	荷花草文	普通	17世纪中期	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1
CJ022 2号带土坑+2件	中型丸颈	红陶口	11.0	—	—	施纹草文	普通	17世纪中期	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1
CJ023 2号带土坑+2件	中型丸颈	红陶口	11.2	—	—	施纹草文	普通	17世纪中期	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1
CJ024 2号带土坑+1件	中型丸颈	红陶口	—	4.2	—	施纹草文	普通	17世纪中期	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1
CJ025 2号带土坑+2件	中型丸颈	红陶口	11.3	4.2	6.3	施纹草文	普通	17世纪中期	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1
CJ026 2号带土坑+2件	中型丸颈	红陶口	10.1	4.0	3.6	施纹草文	普通	17世纪中期	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1
CJ027 2号带土坑+2件	中型丸颈	红陶口	10.4	4.2	3.7	施纹草文	普通	17世纪中期	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1
CJ028 2号带土坑+2件	中型丸颈	红陶口	9.7	3.9	6.3	施纹草文	普通	17世纪中期	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1
CJ029 2号带土坑+1件	中型丸颈	红陶口	10.0	—	—	长文 (今に今) 长文	普通	17世纪中期	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1
CJ030 2号带土坑+2件	中型丸颈	红陶口	10.0	4.0	5.9	丸文+四方印+折枝文	普通	17世纪中期	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1
CJ031 2号带土坑+1件	中型丸颈	红陶口	10.1	3.9	5.7	施纹草文	普通	17世纪中期	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1
CJ032 2号带土坑+1件	中型丸颈	红陶口	10.2	—	—	口沿 雪瓣文	普通	17世纪中期	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1
CJ033 2号带土坑+2件	中型丸颈	红陶口	10.1	4.1	5.7	施纹草文	普通	17世纪中期	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1
CJ034 2号带土坑+1件	中型丸颈	红陶口	10.0	4.3	5.8	施纹草文	普通	17世纪中期	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1
CJ035 2号带土坑+2件	中型丸颈	红陶口	10.1	4.1	5.6	施纹草文	普通	17世纪中期	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1
CJ036 2号带土坑+1件	中型丸颈	红陶口	10.8	5.1	6.1	施纹草文	普通	17世纪中期	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1
CJ037 2号带土坑+2件	中型丸颈	红陶口	8.6	3.9	5.0	施纹草文	普通	17世纪中期	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1
CJ038 2号带土坑+2件	中型丸颈	红陶口	10.1	4.3	3.5	一定在五至五点之间且山岳文	普通	17世纪中期	17世纪中期	±0.4	洪源系	1 1

表17 莺窓屋敷地区第5地点出土磁器觀察表
Tab.17 Notes on porcelains at HAK7(2)

登錄 番号	出土場所	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	文様等	产地	生産地	製作年代	備考	因 数
C-0309 2号遺跡土2層 中型丸瓶	中型丸瓶	9.9	4.4	—	外側二重口文 内面單口文 是込人穿文 高台内造「加」爲 高台内造「加」爲 高台内造「加」爲 高台内造「加」爲	普通	普通	普通	18c前~中	—	3
C-040 2号遺跡土2層 小型丸瓶	小型丸瓶	10.0	4.4	—	—	普通	普通	普通	17c末~18c前半	個人	3
C-041 2号遺跡土2層 中型丸瓶	中型丸瓶	9.8	4.0	3.9	仰口 外面花文 内面花文 是込人穿文 高台内造「加」爲 高台内造「加」爲 高台内造「加」爲 高台内造「加」爲	普通	普通	普通	17c末~18c前半	—	3
C-042 2号遺跡土2層 中型丸瓶	中型丸瓶	10.2	—	—	—	普通	普通	普通	17c末~18c前半	—	3
C-043 2号遺跡土2層 中型丸瓶	中型丸瓶	—	—	—	—	普通	普通	普通	—	—	3
C-044 2号遺跡土2層 中型丸瓶	中型丸瓶	11.4	4.5	6.1	門口 球頭足 球頭足 球頭足 球頭足 球頭足 球頭足 普通	普通	普通	普通	—	—	3
C-045 2号遺跡土2層 中型丸瓶	中型丸瓶	9.8	3.6	5.8	普通	普通	普通	普通	—	—	3
C-046 2号遺跡土2層 小型丸瓶	小型丸瓶	8.5	3.0	4.2	白色「金」字 普通	普通	普通	普通	—	—	4
C-048 2号遺跡土2層 中型丸瓶	中型丸瓶	10.2	3.8	4.7	普通	普通	普通	普通	18c前~中	—	4
C-049 2号遺跡土2層 中型丸瓶	中型丸瓶	—	—	—	施花と草文	普通	普通	普通	18c前~中	—	4
C-050 2号遺跡土2層 中型丸瓶	中型丸瓶	10.1	4.0	4.8	施花と草文 普通	普通	普通	普通	18c前~19c	—	4
C-051 2号遺跡土2層 中型丸瓶	中型丸瓶	10.1	4.7	4.9	施花と草文 普通	普通	普通	普通	18c前~中	—	4
C-052 2号遺跡土2層 中型丸瓶	中型丸瓶	11.0	5.1	5.2	普通	普通	普通	普通	—	—	4
C-053 2号遺跡土2層 中型丸瓶	中型丸瓶	9.2	3.2	4.8	門口 球頭足 普通	普通	普通	普通	18c前~中	—	4
C-054 2号遺跡土2層 小型丸瓶	小型丸瓶	12.3	4.8	6.0	白頭 普通	普通	普通	普通	—	—	4
C-055 2号遺跡土2層 中型丸瓶	中型丸瓶	10.5	4.4	6.0	施花と草文 普通	普通	普通	普通	18c前~中	—	4
C-056 2号遺跡土2層 中型丸瓶	中型丸瓶	9.3	—	—	区域竹五葉文 普通	普通	普通	普通	18c前~中	—	4
C-057 2号遺跡土2層 中型丸瓶	中型丸瓶	9.6	—	—	施 普通	普通	普通	普通	18c前~中	—	4
C-058 2号遺跡土2層 中型丸瓶	中型丸瓶	9.2	—	—	施花と草文 普通	普通	普通	普通	18c前~中	—	4
C-059 2号遺跡土2層 小型丸瓶	小型丸瓶	7.2	—	—	施花と草文 普通	普通	普通	普通	18c前~中	—	4
C-060 2号遺跡土2層 小型丸瓶	小型丸瓶	7.2	3.2	—	施花と草文 普通	普通	普通	普通	18c前~中	—	4
C-061 2号遺跡土2層 中型丸瓶	中型丸瓶	11.0	—	—	施花と草文 普通	普通	普通	普通	17c~18c	—	4
C-062 2号遺跡土2層 中小型丸瓶	中小型丸瓶	7.6	3.6	4.5	施花と草文 普通	普通	普通	普通	18c	—	4
C-063 2号遺跡土2層 中小型丸瓶	中小型丸瓶	7.2	3.6	4.8	施花と草文 普通	普通	普通	普通	17c末~18c前半	—	4
C-064 2号遺跡土2層 中小型丸瓶	中小型丸瓶	7.2	3.5	5.1	施花と草文 普通	普通	普通	普通	17c末~18c前半	—	4
C-065 2号遺跡土2層 中小型丸瓶	中小型丸瓶	7.7	3.9	4.5	施花と草文 普通	普通	普通	普通	17c末~18c前半	—	4
C-066 2号遺跡土2層 中小型丸瓶	中小型丸瓶	8.1	2.8	4.5	白頭 普通	普通	普通	普通	17c末~18c前半	—	4
C-067 2号遺跡土2層 中小型丸瓶	中小型丸瓶	7.0	2.9	2.9	白頭 普通	普通	普通	普通	17c末~18c前半	—	4
C-068 2号遺跡土2層 中小型丸瓶	中小型丸瓶	7.1	—	—	施花と草文 普通	普通	普通	普通	17c末~18c前半	—	4
C-069 2号遺跡土2層 中小型丸瓶	中小型丸瓶	6.7	3.0	3.2	施花と草文 普通	普通	普通	普通	17c末~18c前半	—	4
C-070 2号遺跡土2層 中小型丸瓶	中小型丸瓶	6.0	2.5	1.7	以體 普通	普通	普通	普通	17c末~18c前半	—	4
C-071 2号遺跡土2層 中小型丸瓶	中小型丸瓶	—	4.6	—	—	普通	普通	普通	17c末~18c前半	—	4
C-072 2号遺跡土2層 中小型丸瓶	中小型丸瓶	9.2	5.7	6.1	門口 普通	普通	普通	普通	17c末~18c前半	—	4
C-073 2号遺跡土2層 中小型丸瓶	中小型丸瓶	7.1	4.4	—	施花と草文 普通	普通	普通	普通	17c末~18c前半	—	4
C-074 2号遺跡土2層 中小型丸瓶	中小型丸瓶	—	5.0	—	施花と草文 普通	普通	普通	普通	17c末~18c前半	—	4
C-075 2号遺跡土2層 中小型丸瓶	中小型丸瓶	9.3	5.6	6.0	施花と草文 普通	普通	普通	普通	17c末~18c前半	—	4
C-076 2号遺跡土2層 中小型丸瓶	中小型丸瓶	9.0	5.6	5.9	施花と草文 普通	普通	普通	普通	17c末~18c前半	—	4
C-077 2号遺跡土2層 中小型丸瓶	中小型丸瓶	9.3	4.4	4.4	施花と草文 普通	普通	普通	普通	17c末~18c前半	—	4

表18 武東屋敷地区第7地点出土器物解説(3)
Tab.18 Notes on porcelains at BK7(3)

登錄 番号	出土地所	記 種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	文様等	施上 生産地	製作年代	備 考	圖 版
C1058 2号盃盤里1層	深L1	一	—	—	内面幾文字	竹文	普通	18世 紀前	—	5 4
C1059 2号盃盤里1層	猪口	7.3	5.1	6.8	承天年文	—	普通	17後~18世 紀	—	5 4
C1060 2号盃盤里2層	猪口	9.5	5.5	6.0	承天年文	裏文字に千鳥 高台内「大明年製」款	普通	17後~18世 紀	—	5 4
C1061 2号盃盤里2層	大皿	28.2	14.3	65.0	承天年文	外腹周身文	普通	18世 紀	—	6 5
C1062 2号盃盤里1層	人皿	28.7	19.0	59.0	七宝文	見込み草花文 外腹花口章文	普通	17後漢 —	—	6 5
C1063 2号盃盤里1層	大皿	29.8	21.6	86.6	食盒	裏花口章文	普通	17後漢 —	—	7 5
C1064 2号盃盤里2層	大皿	29.8	17.7	49.9	牡丹折枝文	外腹周身文	普通	17後~18世 紀	ハリヨシ え3	7 5
C1065 2号盃盤里2層	大皿	38.5	18.1	85.5	赤松赤朱	瓶 瓶文?	やや細 やや高	17後半 明末清初 1666C1651に輪開 青花系 蒲台内に砂紋	青花	8 6
C1066 2号盃盤里1層	小中皿	21.1	12.3	29.9	花形文	外腹周身文 裏文字に千鳥 （こんじゅく）	普通	17後~18世 紀	ハリヨシ え4	8 7
C1067 2号盃盤里2層	小山皿	22.6	—	—	花形文	外腹周身文 裏文字に花文	普通	17後~18世 紀	—	8 5
C1068 2号盃盤里1層	大皿	—	21.2	—	菊瓣文	周台側あり「金」?	普通	17後漢 —	ハリヨシ え5	—
C1069 2号盃盤里2層	小中皿	—	—	9.8	外腹周身文	内面直腹文	普通	17後~18世 紀	—	9 6
C1070 2号盃盤里1層	大皿	—	21.2	—	牡丹折枝文	外腹周身文	普通	17後~18世 紀	—	9 7
C1071 2号盃盤里1層	小中皿	14.5	7.6	4.4	花形文	外腹周身文 裏文字に「大明」款	普通	17後~18世 紀	—	9 7
C1072 2号盃盤里1層	小中皿	14.3	8.0	4.8	牡丹折枝文	外腹周身文 裏文字に點絵牡丹文	普通	17後~18世 紀	—	10 8
C1073 2号盃盤里1層	小中皿	13.4	8.5	3.0	牡丹折枝文	外腹周身文 裏文字に五瓣花文	普通	17後~18世 紀	—	10 8
C1074 2号盃盤里1層	小中皿	14.4	8.0	3.9	牡丹折枝文	外腹周身文	普通	17後~18世 紀	—	10 8
C1075 2号盃盤里1層	小中皿	14.4	7.2	4.9	18瓣牡丹文	山水文 外腹周身文 裏文字に大明成化年製款 （手書き）	普通	17後~18世 紀	—	10 8
C1076 2号盃盤里1層	小中皿	13.6	8.1	4.5	風文	外腹周身文 裏文字に「大明弘治年製」款	普通	17後~18世 紀	ハリヨシ え1	10 8
C1077 2号盃盤里1層	小中皿	13.6	6.6	3.0	内面海螺文	—	普通	17後~18世 紀	—	10 9
C1078 2号盃盤里2層	小中皿	12.9	6.0	2.8	内面海螺文	外腹周身文	普通	17後~18世 紀	—	11 9
C1079 2号盃盤里1層	小中皿	13.9	8.9	3.5	柱輪文	外腹周身文	普通	17後~18世 紀	—	11 9
C1080 2号盃盤里1層	小中皿	13.2	8.7	3.1	柱輪文	外腹周身文 裏文字に「弘治正統年製」款	普通	17後~18世 紀	—	11 9
C1081 2号盃盤里2層	小中皿	14.2	8.0	4.2	内面海螺文	外腹周身文 裏文字に「弘治正統年製」款	普通	17後~18世 紀	—	11 9
C1082 2号盃盤里2層	小中皿	14.9	10.2	2.9	内面海螺文	外腹周身文 裏文字に「大明成化年製」款	普通	17後~18世 紀	—	11 9
C1083 2号盃盤里2層	小中皿	13.6	8.2	3.2	内面海螺文	外腹周身文 裏文字に「大明成化年製」款	普通	17後~18世 紀	—	11 9
C1084 2号盃盤里2層	小中皿	12.7	6.8	3.4	内面海螺文	外腹周身文 裏文字に「弘治正統年製」款	普通	17後~18世 紀	—	11 9
C1085 2号盃盤里2層	小中皿	—	—	2.3	文海あり	—	普通	17後~18世 紀	—	11 9
C1086 2号盃盤里2層	小中皿	—	—	8.1	—	格子に唐文 外腹周身文	普通	17後~18世 紀	—	11 9
C1087 2号盃盤里2層	小中皿	12.3	4.1	3.5	流水文?	—	普通	18世 紀	人 頭形	12 10
C1088 2号盃盤里2層	小中皿	12.1	3.6	—	流水文?	—	普通	18世 紀	人 頭形	12 10
C1089 2号盃盤里1層	小中皿	12.1	3.8	5.0	松葉文	見込み「太白」款	普通	18世 紀	人 頭形	12 10
C1100 2号盃盤里1層	極小皿	8.8	4.5	2.5	辰巳文	見込み「やまとく」押	普通	17後~18世 紀	人 頭形	12 10
C1111 2号盃盤里1層	極小皿	—	—	—	辰巳文	外腹周身文	普通	17後~18世 紀	—	12 10

表19 武家屋敷地区第7地点出土磁器整理表
Tab.19 Notes on porcelains at DK7(4)

登錄	出土地所	器種	口径 (cm)	蓋 (cm)	文様等	出土 生産地	製作年代	備考	回
C1112	2号造営期土1層	瓶小口	—	4.2	1.7 刻印圓範印草文	普通	17世～18世半	—	12 10
C1113	2号造営期土1層	瓶小口	9.4	—	内側墨書草文	普通	17世～18世半	—	12 10
C114	2号造営期土2層	長颈瓶	—	—	—	普通	17世～18世半	—	12 10
C115	2号造営期土2層	长吹	7.8	—	内込小字模印 楠打	普通	17世～18世半	高台付輪	12 10
C116	2号造営期土2層	斗	21.5	—	—	普通	17世～18世半	不明	12 10
C117	2号造営期土2層	杯	—	—	—	普通	17世～18世半	—	12 10
C118	2号造営期土1層	杯	—	—	—	普通	17世～18世半	—	12 10
C119	2号造営期土2層	合子(身)	7.0	4.0	2.0 白磁輪刻	普通	17世～18世半	—	12 10
C120	2号造営期土2層	合子(身)	5.2	4.7	半文 —	普通	17世～18世半	—	12 10
C121	2号造営期土2層	碗(足)	17.5	—	花葉文	普通	17世～18世半	—	12 10
C122	2号造営期土2層	碗(足)	8.8	—	無文合	普通	17世～18世半	不明	12 10
C123	2号造営期土2層	蓋付杯(蓋)	8.1	—	無文	普通	17世～18世半	—	12 10
C124	2号造営期土2層	蓋付杯(身)	13.0	8.6	9.8 高麗文	普通	17世～18世半	—	12 10
C125	2号造営期土2層	斗	5.0	2.8	1.5 白磁輪刻	普通	17世～18世半	—	12 10
C126	2号造営期土2層	直瓶	1.2	2.1	2.6 白磁輪刻	普通	17世～18世半	—	12 10
C127	2号造営期土2層	直瓶口	4.3	—	半文?	普通	17世～18世半	—	12 10
C128	2号造営期土2層	直瓶口	5.7	2.2	2.5 青花?	普通	17世～18世半	—	12 10
C129	2号造営期土2層	直瓶(大腹)	—	8.2	—	普通	17世～18世半	—	12 10
C130	2号造営期土1層	直瓶	5.3	—	—	普通	17世～18世半	—	12 10
C131	2号造営期土2層	直瓶(大腹)	—	—	—	普通	17世～18世半	—	12 10
C132	2号造営期土2層	直瓶(中腹)	—	—	—	普通	17世～18世半	—	12 10
C133	2号造営期土1層	直瓶(中腹)	—	—	—	普通	17世～18世半	—	12 10
C134	2号造営期土1層	直瓶(中腹)	—	—	—	普通	17世～18世半	—	12 10
C135	2号造営期土2層	水滴	—	3.2	色绘(青・緑) 條竹葉草文	普通	17世～18世半	—	13 11
C136	2号造営期土2層	内壁墨印工口	—	—	—	普通	17世～18世半	—	13 11
C137	2号造営期土2層	内壁墨印工口	—	—	—	普通	17世～18世半	—	13 11
C138	2号造営期土2層	内壁墨印T字口	—	—	—	普通	17世～18世半	—	13 11
C139	2号造営期土2層	不規	—	—	—	普通	17世～18世半	—	13 11
C140	5号造営期土1層	中空足碗	11.0	4.2	6.1 半輪に草花文	普通	17世～18世半	—	13 11
C141	5号造営期土1層	中空足碗	—	3.9	—	普通	17世～18世半	—	13 11
C142	4号造営期土2層	中空足碗	10.2	3.7	4.9 兔甲に海花紋あり	普通	17世～18世半	—	13 11
C143	4号造営期土2層	中空足碗	9.8	—	—	普通	17世～18世半	—	13 11
C144	4号造営期土2層	中空足碗	5.5	2.1	3.6 少款	普通	17世～18世半	—	13 11
C145	4号造営期土2層	中空足碗	8.4	4.8	5.9 脚目に草文(にんにく) 刃	普通	17世～18世半	—	13 11
C146	4号造営期土2層	小中口	8.7	—	—	普通	17世～18世半	—	13 11
C147	4号造営期土2層	小中口	14.6	6.0	3.8 墨繪模様花文	普通	17世～18世半	—	13 11
C148	11号・12号土	小中口	—	—	—	普通	16世～17世初	—	14 11
C149	11号・12号土	中口	—	4.8	— 文様あり	普通	17世～18世半	—	14 11
C150	12号土	小中口	11.3	—	— 文様なし 文	普通	17世～18世半	—	14 11

表20 誠實園敷地区第7地点出土器物觀察表 (5)
Table20 Notes on porcellains at BK7_5

番号	出土地所	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	文様等	出土場所	製作年代	備考	同類
CJ151	15号土坑埋土1層 大碗	大碗	14.8	5.6	7.5	花牡丹文、縁内四方瓣文 見込み底竹梅文	底内「葛實良牛」款	18世後半	普通	11
CJ152	15号土坑埋土1層 中型丸碗	10.1	4.1	3.2	斗折草文(こくにやく) 卷叶内脚あり	普通	17.6cm~18cm前半 18世初~中	「うちの人が手 渡した」	11	
CJ153	15号土坑埋土1層 小形湯呑碗	9.5	—	—	白十字花脚文	普通	17.6cm~18cm前半 18世初~中	—	11	
CJ154	15号土坑埋土1層 大皿	21.7	13.7	—	外國花脚单文	普通	17.6cm~18cm前半 18世初~中	—	11	
CJ155	15号土坑埋土1層 中型丸碗	11.7	—	—	上部無脚子口碗	普通	17.6cm~18cm前半 18世初~中	ハリミヤニヨリ ハリミヤニヨリ	12	
CJ156	15号土坑埋土1層 小中皿	—	8.2	—	卷叶脚单文	普通	17.6cm~18cm前半 18世初~中	ハリミヤニヨリ ハリミヤニヨリ	12	
CJ157	15号土坑埋土1層 小中皿	9.7	5.4	1.1	卷叶脚单文	普通	17.6cm~18cm前半 18世初~中	不明	12	
CJ158	15号土坑埋土1層 小中皿	14.0	5.5	2.5	卷叶脚单文	普通	17.6cm~18cm前半 18世初~中	普通 普通	12	
CJ159	15号土坑埋土1層 小中皿	—	4.3	—	格子文	普通	17.6cm~18cm前半 18世初~中	普通 普通	12	
CJ160	15号土坑埋土1層 丸瓶(小口)	1.7	—	—	竹梅文	普通	19cm 最大4.7cm	普通 普通	12	
CJ161	15号土坑埋土1層 中型丸碗	9.1	—	—	外國脚单文	普通	18cm 普通	普通 普通	12	
CJ162	15号土坑埋土1層 小中皿	9.1	5.4	2.0	見込み脚あり 外國脚单文 見込み脚あり 水波文	普通	17.6cm~18cm前半 18世初~中	普通 普通	12	
CJ163	15号土坑埋土1層 小中皿	14.6	—	—	付叶脚单文 水波文	普通	17.6cm~18cm前半 18世初~中	普通 普通	12	
CJ164	15号土坑埋土1層 茶碗口	2.9	1.2	1.4	普通	普通	18世?	普通	12	
CJ165	15号土坑埋土1層 茶碗口	10.8	6.8	—	製叶脚单文 L字脚	普通	17.6cm~18cm前半 18世初~中	普通 普通	12	
CJ166	15号土坑埋土1層 大皿	31.0	16.5	5.4	雲状纹(こくにやく) 制	普通	17.6cm~18cm前半 18世初~中	普通 普通	12	
CJ167	15号土坑埋土1層 小中皿	10.6	—	—	下部斜纹(こくにやく) 制	普通	17.6cm~18cm前半 18世初~中	普通 普通	12	
CJ168	20号土坑埋土1層 小中皿	10.3	6.2	2.4	萬葉脚单文	普通	17.6cm~18cm前半 18世初~中	普通 普通	12	
CJ169	20号土坑埋土1層 1.1 蓋	8.8	7.1	1.8	付叶脚单文	普通	17.6cm~18cm前半 18世初~中	普通 普通	12	
CJ170	20号土坑埋土1層 茶碗口	20.0	10.6	1.6	付叶脚单文	普通	17.6cm~18cm前半 18世初~中	普通 普通	12	
CJ171	22号土坑埋土1層 小碗(小口)	—	2.8	—	付叶脚单文	普通	17.6cm~18cm前半 18世初~中	普通 普通	13	
CJ172	22号土坑埋土1層 小型丸碗	10.0	4.4	3.5	花枝文(赤) 菊花散らし文(こくにやく) 制と手書き「と 」と 方角文	普通	17.6cm~18cm前半 18世初~中	普通 普通	13	
CJ173	22号土坑埋土1層 中型丸碗	10.4	—	—	文交重脚 桂文	普通	17.6cm~18cm前半 18世初~中	普通 普通	13	
CJ174	23号土坑埋土1層 中型丸碗	8.7	3.6	5.0	深波文	普通	17.6cm~18cm前半 18世初~中	普通 普通	13	
CJ175	24号土坑埋土1層 盖付鉢(蓋)	10.5	—	3.6	普通	普通	18cm	普通	13	
CJ176	24号土坑埋土1層 小中皿	21.2	13.0	3.0	窓内脚单文と品名文 見込み万字花文(千字文)	普通	18世前半	ハイキヤクエイ 普通	13	
CJ177	24号土坑埋土1層 人皿	31.7	17.6	3.5	萬葉内脚化粧足盤 普通	普通	17.6cm~18cm前半 18世初~中	ハリミヤニヨリ 普通	14	
CJ178	24号土坑埋土1層 大皿	—	18.6	—	獨子文	普通	17.6cm~18cm前半 18世初~中	普通 普通	13	
CJ179	24号土坑埋土1層 小中皿	11.9	3.9	—	普通	普通	18世前半	普通 普通	13	
CJ180	24号土坑埋土1層 中型丸碗	14.7	8.4	4.6	普通 見込み万字花文(手書き)	普通	17.6cm~18cm前半 18世初~中	普通 普通	14	
CJ181	25号土坑埋土1層 小中皿	—	—	—	御番文 圓方脚文	普通	17.6cm~18cm前半 18世初~中	普通 普通	14	
CJ182	25号土坑埋土1層 人皿	10.1	4.1	5.5	圓方脚文 外國脚单文	普通	17.6cm~18cm前半 18世初~中	ハリミヤニヨリ 普通	14	
CJ183	25号土坑埋土1層 中型丸碗	9.3	—	—	桜文 桜文	普通	17.6cm~18cm前半 18世初~中	普通 普通	14	
CJ184	25号土坑埋土1層 大皿	10.0	2.8	3.8	丸に竹子文 一屈文	普通	17.6cm~18cm前半 18世初~中	「くわわんか手 」	14	
CJ185	25号土坑埋土1層 口盃	6.5	2.7	4.2	風呂文 風呂文	普通	17.6cm~18cm前半 18世初~中	普通 普通	14	
CJ186	28号土坑埋土1層 蓋(蓋)	8.0	—	—	日鉢	普通	4.0m 底大径10dm	「底大径10dm」 買入	14	

表21 武家屋敷地区第1地点出土器物總観 (6)
Table 21 Notes on porcelains at HK7 (6)

登録番号	出土地所	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	文様等		出土年度	作年代	備考	出土地
						小形	大形				
C1187 4号窯裏土	小型丸瓶	7.2	3.0	5.0	小形	7.2	3.0	5.0	不明	淡墨、茶色不眞、くらわんか手平	18. 14
C1188 10号窯裏土	小型丸瓶	8.3	6.6	6.0	小形丸口、輪内七宝文	—	—	—	18世紀～19世紀	她に同所所蔵台付	18. 14
C1189 15号窯裏土	中型丸瓶	—	7.2	—	中型丸口、輪内七宝文	—	—	—	18世紀	明治初期	17世紀前半
C1190 15号窯裏土	中型丸瓶	—	7.3	—	中型丸口、輪内七宝文	—	—	—	18世紀	中國	明末清初
C1191 17号窯裏土	中型丸瓶	—	6.5	—	中型丸口、輪内七宝文	—	—	—	18世紀	中國	明末清初
C1192 27号窯裏土	小型丸瓶	—	5.5	—	小型丸口、輪内七宝文	—	—	—	18世紀	中國	明末清初
C1193 27号窯裏土	小型端突瓶	7.3	4.2	—	色彩(赤・紫・黄・金)端突文、輪内「大明年製」龍	—	—	—	18世紀	中国	明末清初
C1194 27号窯裏土	端突口	6.9	2.9	4.4	花草文	—	—	—	18世紀	中国	明末清初
C1195 27号窯裏土	小中瓶	14.0	8.1	7.8	花草文、乳頭出筋傳文(「見え立五郎文」)、輪内「大明年製」龍	—	—	—	18世紀	中国	明末清初
C1196 27号窯裏土	小中瓶	13.2	8.2	4.2	花草文、乳頭出筋傳文(「見え立五郎文」)、輪内「大明年製」龍	—	—	—	18世紀	中国	明末清初
C1197 1号窯裏土	板瓶(中型)	—	6.3	—	乳頭出筋傳文	—	—	—	18世紀	中国	明末清初
C1198 1号窯裏土	板瓶(中型)	2.1	5.1	9.8	乳頭出筋傳文	—	—	—	18世紀	中国	明末清初
C1199 1号窯裏土	各型	23.3	—	—	—	—	—	—	18世紀	中国	明末清初
C1200 ピット窯裏土	大瓶	—	17.3	—	又文あり	—	—	—	18世紀	中国	明末清初
C1201 ピット窯裏土	各型	—	5.6	5.2	乳頭出筋傳文	—	—	—	18世紀	中国	明末清初
C1202 ピット窯裏土	蓋付杯(中型)	—	3.2	—	色(赤・紫)輪内七宝文	—	—	—	18世紀	中国	明末清初
C1203 HB 36号	中型丸瓶	8.7	3.2	5.5	花枝文、乳頭内落款「國」	—	—	—	18世紀	中国	明末清初
C1204 GI 35号	中型丸瓶	10.3	4.8	5.3	花枝文、乳頭内落款「國」	—	—	—	18世紀	中国	明末清初
C1205 HB 34号	中型丸瓶	11.0	4.8	5.7	模様花びら文(「見え立五郎と手書き」)	—	—	—	18世紀	中国	明末清初
C1206 HB 36号	中型丸瓶	10.1	4.1	4.8	模様花びら文(「見え立五郎と手書き」)	—	—	—	18世紀	中国	明末清初
C1207 HB 34号	中型丸瓶	10.2	4.5	4.2	色(紫・青)乳頭出筋傳文	—	—	—	18世紀	中国	明末清初
C1208 HB 35号	張口	7.1	4.3	3.5	乳頭出筋傳文(「見え立五郎」)	—	—	—	18世紀	中国	明末清初
C1209 HB 36号	張口	6.5	3.1	4.6	山水文	—	—	—	18世紀	中国	明末清初
C1210 THO 26号	張口	7.1	4.3	3.0	宝形花文、高足盤 大明年製 鎌	—	—	—	18世紀	中国	明末清初
C1211 H 20	小瓶	7.7	4.6	3.0	白磁花文、外側松葉草文	—	—	—	18世紀	中国	明末清初
C1212 GI 31号	張口	—	1.0	1.0	白磁花文	—	—	—	18世紀	中国	明末清初
C1213 GI 30号	川盤状加工品	—	—	—	御内文焼拂り手写	—	—	—	18世紀	中国	明末清初
C1214 H 10 36号	粗口	5.0	2.0	2.1	梅化文	—	—	—	18世紀	中国	明末清初
C1215 H 10 35号	粗口	5.9	2.6	2.4	梅化文(「見え立五郎」)	—	—	—	18世紀	中国	明末清初
C1216 HB 36号	粗口	5.8	2.3	2.4	梅化文	—	—	—	18世紀	中国	明末清初
C1217 H 10 26号	紅皿	4.6	1.8	1.7	17世紀前半	—	—	—	18世紀	不明	—
C1218 GI 27号	小中皿	13.5	8.1	—	17世紀前半	—	—	—	18世紀	中国	明末清初
C1219 2号土器裏土	中型丸瓶	6.2	—	—	乳頭出筋傳文	—	—	—	18世紀	中国	明末清初
C1220 2号土器裏土	中型丸瓶	10.5	—	—	乳頭出筋傳文	—	—	—	18世紀	中国	明末清初
C1221 2号土器裏土	中型丸瓶	6.6	3.5	5.3	酒匂内面模様文、輪内西方傳文 文字(□)然者其事少あり	—	—	—	18世紀	中国	明末清初
C1222 2号土器裏土	中型丸瓶(中型)	—	—	—	輪内傳文 文字(□)然者其事少あり	—	—	—	18世紀	中国	明末清初
C1223 2号土器裏土	中型丸瓶(中型)	9.3	—	—	乳頭出筋傳文 文字(□)然者其事少あり	—	—	—	18世紀	中国	明末清初
C1224 2号土器裏土	大瓶	15.1	6.2	8.2	乳頭出筋傳文 文字(□)然者其事少あり	—	—	—	18世紀	中国	明末清初
C1225 17号+瓦片	—	—	—	—	—	—	—	—	18世紀	中国	明末清初

表22 言葉屋敷地区第7地点出土磁器製品
Tab.22 Notes on porcelains at BK7 (7)

登録番号	出土場所	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	文様等	生産地	製作年代	備考	出 版	
C1226 通状遺物筒形土管付小中皿	—	—	21.2	—	—	指彫文 山水文 外面文様あり	普通	肥前	19c前～中 燒成度	21 16	
C1227 通状遺物筒形土管付小中皿	10.4	6.4	2.2	—	—	—	普通	肥前	19c前～中 肥前	21 16	
C1228 五代型直筒付小中皿	—	—	10	—	—	—	普通	肥前	19c前～中 肥前	21 16	
C1229 五代型直筒付小中皿	—	—	4.3	—	—	—	普通	肥前	17c後～18c 肥前	21 16	
C1230 楕円直筒付小中皿	—	—	—	—	—	—	普通	肥前	17c後～18c 肥前	21 16	
C1231 1号十字切土口	中碗不明	—	—	—	—	—	普通	肥前	19c前～中 普通	21 16	
C1232 1号十字切土口	小中皿	12.7	6.6	4.0	格局文	—	普通	肥前	17c後～19c 普通	21 17	
C1233 1号十字切土口	小中皿	13.6	7.8	3.3	格子文	見込み五瓣花文(こくしんごはん)	普通	肥前	17c後～18c 普通	21 17	
C1234 11号深1切土口	杯	15.4	—	—	—	—	普通	肥前	18c後～19c 普通	21 17	
C1235 11号深1切土口	中碗	8.2	3.6	5.0	輪花文	見込み五瓣花文(こくしんごはん)	普通	肥前	18c後～19c 普通	21 17	
C1236 H10 2層下部	丸皿	6.4	2.7	2.4	輪花文	—	普通	肥前	18c後～19c 普通	21 17	
C1237 H10 2層下部	丸皿	8.0	4.4	2.0	輪花文	見込み五瓣花文(こくしんごはん)	普通	肥前	18c後～19c 普通	21 17	
C1238 H10 2層下部	丸皿	15.8	8.2	3.1	14瓣?	—	普通	肥前	18c後～19c 普通	21 17	
C1239 G10 2層下部	圓盤状工具	—	—	—	—	—	普通	肥前	不明	元は圓盤状 工具	
C1240 D10 2層下部	蓋付鉢(浅)	10.0	—	—	—	—	普通	肥前	18c後～19c 普通	22 17	
C1241 G3 2層	小型丸碗	6.7	—	—	—	—	普通	肥前	19c前～中 輪花文	22 17	
C1242 S2 2層	中型丸碗	11.0	4.3	3.8	輪花文	見込み五瓣花文(こくしんごはん)	普通	肥前	19c後～19c 普通	22 17	
C1243 G2 2層	中型丸碗	11.5	—	—	—	—	普通	肥前	18c後～19c 普通	22 17	
C1244 G4 2層	中型丸碗	8.0	3.3	3.9	無文?	—	普通	肥前	18c後～19c 普通	22 17	
C1245 D8 2層	中型丸碗	8.5	3.1	5.3	輪花文	模印方瓣文 見込み文様あり	普通	肥前	18c後～19c 普通	22 17	
C1246 E5 2層	小碗	6.9	3.5	3.2	4.4	輪花文	模印方瓣文 見込み文様あり	普通	肥前	18c後～19c 普通	22 18
C1247 D3 2層	小碗	8.5	3.2	4.6	—	—	普通	肥前	19c前～中 輪花文	22 18	
C1248 H7 2層	盤口	7.1	3.6	5.1	口紐	見込み文様あり	普通	肥前	18c後～19c 普通	22 18	
C1249 G4 2層	中型丸碗	—	—	3.2	—	—	普通	肥前	17c後～18c中 輪花文	22 18	
C1250 H4 2層	大皿	35.0	20.2	6.9	輪花文	見込み五瓣花文(こくしんごはん)	普通	肥前	17c後～18c中 輪花文	22 18	
C1251 F2 2層	小中皿	—	—	—	—	—	普通	肥前	17c後～18c中 輪花文	22 18	
C1252 B6 2層	人皿	—	—	18.6	—	見込み文様あり	普通	肥前	17c後～18c中 輪花文	22 18	
C1253 D2 2層	小中皿	—	—	10.5	6.4	2.6	普通	肥前	18c後～19c中 輪花文	23 18	
C1254 D3 2層	鉢	21.0	8.8	7.5	柄付文	見込み五瓣花文(こくしんごはん)	普通	肥前	19c前～中 輪花文	23 18	
C1255 D2 2層	側彌利	—	—	5.3	—	—	普通	肥前	19c前～中 輪花文	23 18	
C1256 1号 楊花	蓋物(身)	6.8	—	—	—	—	普通	肥前	19c 「輪裏繪」	23 18	
C1257 1号 楊花	人形?	—	—	—	不明	—	普通	肥前	— 人形の底部分少	23 18	
C1258 1号 楊花	人物不明	—	—	—	—	—	普通	肥前	不明	23 18	
C1259 1号 楊花	人形	—	—	—	—	—	普通	肥前	— 人物	23 18	
C1260 2号 楊花	小中皿	—	—	—	—	—	普通	肥前	— 小中皿	12 10	

表23 武家屋敷地区第7地点出土器物觀察表⁽¹⁾
Tab.23 Notes on glazed ceramics at BK7 (1)

番号	出土場所	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	特徴	文様	焼	釉	鉢	壺	瓶	作年	備考	図版
C1001 12号窯附上	中型丸壺	11.4	—	6.1	鉢形(系褐色透し焼)	火被	淡青灰白色	普通	普通	火被	火被	火被	17c地 18c口	火被手	24.19
C1002 12号窯附上	中型丸壺	10.6	4.3	—	上部灰地(淡青灰)	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	18c?	火被買入	24.19
C1003 12号窯附上	中型丸壺	—	—	—	—	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	17前~中	火被買入	24.19
C1004 12号窯附上	火入、蓋付	—	—	—	蓋附	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	不明	内面に赤色 器に赤褐色の竹筋物	24.19
C1005 13号窯附土壺	火入、蓋付	—	—	3.8	—	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	17c後	火被手	24.19
C1006 13号窯附土壺	火入、蓋付	—	—	—	—	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	17c後	火被手	24.19
C1007 14号窯附土壺	火入、蓋付	—	—	—	—	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	17c後	火被手	24.19
C1008 14号窯附土壺	火入、蓋付	—	—	—	—	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	17c後	火被手	24.19
C1009 14号窯附土壺	火入、蓋付	—	—	—	—	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	17c後	火被手	24.19
C1010 15号窯附土壺	火入、蓋付	—	—	—	—	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	17c後	火被手	24.19
C1011 1号窯附土壺	火入、蓋付	—	—	—	—	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	17c後	火被手	24.19
C1012 1号窯附土壺	火入、蓋付	—	—	—	—	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	17c後	火被手	24.19
C1013 1号窯附土壺	火入、蓋付	—	—	—	—	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	17c後	火被手	24.19
C1014 1号窯附土壺	火入、蓋付	—	—	—	—	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	17c後	火被手	24.19
C1015 1号窯附土壺	火入、蓋付	—	—	—	—	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	17c後	火被手	24.19
C1016 1号窯附土壺	火入、蓋付	—	—	—	—	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	17c後	火被手	24.19
C1017 1号窯附土壺	火入、蓋付	—	—	—	—	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	17c後	火被手	24.19
C1018 1号窯附土壺	火入、蓋付	—	—	—	—	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	17c後	火被手	24.19
C1019 1号窯附土壺	火入、蓋付	—	—	—	—	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	17c後	火被手	24.19
C1020 1号窯附土壺	火入、蓋付	—	—	—	—	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	17c後	火被手	24.19
C1021 1号窯附土壺	火入、蓋付	—	—	—	—	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	17c後	火被手	24.19
C1022 1号窯附土壺	火入、蓋付	—	—	—	—	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	17c後	火被手	24.19
C1023 1号窯附土壺	火入、蓋付	—	—	—	—	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	17c後	火被手	24.19
C1024 1号窯附土壺	火入、蓋付	—	—	—	—	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	17c後	火被手	24.19
C1025 1号窯附土壺	火入、蓋付	—	—	—	—	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	17c後	火被手	24.19
C1026 1号窯附土壺	火入、蓋付	—	—	—	—	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	17c後	火被手	24.19
C1027 2号窯附土壺	中型丸壺	11.0	4.8	6.8	—	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	18c	火被手	25.21
C1028 2号窯附土壺	中型丸壺	11.0	4.8	6.8	—	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	18c	火被手	25.21
C1029 2号窯附土壺	中型丸壺	11.0	4.7	6.8	鉢足?	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	18c	火被手	25.21
C1030 2号窯附土壺	中型丸壺	10.8	4.7	6.8	—	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	18c	火被手	25.21
C1031 2号窯附土壺	中型丸壺	12.0	5.0	7.3	—	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	18c	火被手	25.21
C1032 2号窯附土壺	中型丸壺	11.4	4.9	7.3	—	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	18c	火被手	25.21
C1033 2号窯附土壺	中型丸壺	12.2	5.3	7.0	—	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	18c	火被手	25.21
C1034 2号窯附土壺	中型丸壺	—	—	6.9	—	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	18c	火被手	25.21
C1035 2号窯附土壺	中型丸壺	11.9	4.7	7.6	鉢足?	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	18c	火被手	25.21
C1036 2号窯附土壺	中型丸壺	11.9	4.7	7.6	鉢足?	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	18c	火被手	25.21
C1037 2号窯附土壺	中型丸壺	11.9	5.2	7.0	鉢足?	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	18c	火被手	25.21
C1038 2号窯附土壺	中型丸壺	12.1	4.9	6.8	鉢足?	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	18c	火被手	25.21
C1039 2号窯附土壺	中型丸壺	11.5	4.8	6.8	鉢足?	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	18c	火被手	25.21
C1040 2号窯附土壺	中型丸壺	11.3	4.4	6.4	鉢足?	火被	淡青灰白色	普通	火被	火被	火被	火被	18c	火被手	25.21

表24 京溪南甸地区第7地点出土器物器物表(2)
Table 24 Notes on glazed ceramics at BK7 (2)

器种	出土地所	器型	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	文 样	釉	胎	烧	生产地	製作年代	備 考	出 地
C7046 2号 追拂印+2唇 中型丸瓶	中型丸瓶	11.1	4.4	6.9	灰釉(深褐色)浅之剥け	灰釉(深褐色)	普通	小野猪尾	18c	夹送轴	26	22	
C7046 2号 追拂印+1唇 小型丸瓶	小型丸瓶	10.2	4.1	5.1	灰釉(深褐色)浅之剥け	灰釉(深褐色)	普通	大野猪尾	18c	夹送轴 入	26	22	
C7046 2号 追拂印+1唇 中型丸瓶	中型丸瓶	10.6	5.9	6.2	灰釉(深褐色)浅之剥け	灰釉(深褐色)	普通	人地相	18c	夹送轴 入	26	22	
C7046 2号 追拂印+1唇 中型丸瓶	中型丸瓶	9.6	4.1	5.7	灰釉(深褐色)浅之剥け	灰釉(深褐色)	普通	大野猪尾	18c	夹送轴 入	26	22	
C7046 2号 追拂印+1唇 中型丸瓶	中型丸瓶	9.9	4.1	5.6	—	—	普通	人地相	18c	夹送轴 入	26	22	
C7046 2号 追拂印+1唇 中型丸瓶	中型丸瓶	10.0	4.9	5.8	—	—	普通	大野猪尾	18c	夹送轴 入	26	22	
C7046 2号 追拂印+2唇 小型丸瓶	小型丸瓶	11.5	4.6	6.7	—	—	普通	小野猪尾?	18c	夹送轴 入	26	22	
C7046 2号 追拂印+1唇 中型丸瓶	中型丸瓶	9.5	3.1	5.0	—	—	普通	小野猪尾	18c	夹送轴 入	26	22	
C7046 2号 追拂印+2唇 中型丸瓶	中型丸瓶	—	—	—	—	—	普通	灰口(白)	18c	夹送轴 入	26	22	
C7046 2号 追拂印+2唇 中型丸瓶	中型丸瓶	9.6	3.3	5.7	—	—	普通	灰口(白)	18c	夹送轴 入	26	22	
C7046 2号 追拂印+2唇 中型丸瓶	中型丸瓶	3.5	3.5	5.8	—	—	普通	灰口(白)	18c	夹送轴 入	26	22	
C7046 2号 追拂印+2唇 中型丸瓶	中型丸瓶	12.0	5.6	6.7	灰釉(深褐色)浅之剥け	灰釉(深褐色)	普通	灰口(白)	18c	夹送轴 入	26	22	
C7046 2号 追拂印+2唇 中型丸瓶	中型丸瓶	10.3	—	—	—	—	普通	灰口(白)	18c	夹送轴 入	26	22	
C7046 2号 追拂印+2唇 中型丸瓶	中型丸瓶	11.0	5.1	6.5	—	—	普通	灰口(白)	18c	夹送轴 入	26	22	
C7046 2号 追拂印+2唇 中型丸瓶	中型丸瓶	10.1	5.1	6.5	—	—	普通	灰口(白)	18c	夹送轴 入	26	22	
C7046 2号 追拂印+2唇 中型丸瓶	中型丸瓶	10.6	5.9	6.7	—	—	普通	灰口(白)	18c	夹送轴 入	26	22	
C7046 2号 追拂印+2唇 中型丸瓶	中型丸瓶	10.2	4.2	5.1	白龙腾日文	白龙腾日文	普通	灰口(白)	18c	夹送轴 入	26	22	
C7046 2号 追拂印+2唇 中型丸瓶	中型丸瓶	10.7	4.0	5.3	白龙腾日文	白龙腾日文	普通	灰口(白)	18c	夹送轴 入	26	22	
C7046 2号 追拂印+2唇 中型丸瓶	中型丸瓶	10.8	4.3	6.1	白龙腾日文	白龙腾日文	普通	灰口(白)	18c	夹送轴 入	26	22	
C7046 2号 追拂印+2唇 中型丸瓶	中型丸瓶	11.5	5.0	7.3	—	—	普通	灰口(白)	18c	夹送轴 入	26	22	
C7046 2号 追拂印+2唇 中型丸瓶	中型丸瓶	11.3	4.7	7.8	—	—	普通	灰口(白)	18c	夹送轴 入	26	22	
C7046 2号 追拂印+2唇 中型丸瓶	中型丸瓶	—	—	—	—	—	普通	灰口(白)	18c	夹送轴 入	26	22	
C7046 2号 追拂印+2唇 中型丸瓶	中型丸瓶	9.5	4.1	5.8	铁绘(深褐色)	铁绘(深褐色)	普通	灰口(白)	18c	夹送轴 入	26	22	
C7046 2号 追拂印+2唇 中型丸瓶	中型丸瓶	0.1	—	—	—	—	普通	灰口(白)	18c	夹送轴 入	26	22	
C7046 2号 追拂印+2唇 中型丸瓶	中型丸瓶	11.2	—	—	—	—	普通	灰口(白)	18c	夹送轴 入	26	22	
C7046 2号 追拂印+2唇 中型丸瓶	中型丸瓶	11.5	5.0	7.3	—	—	普通	灰口(白)	18c	夹送轴 入	26	22	
C7046 2号 追拂印+2唇 中型丸瓶	中型丸瓶	11.3	4.7	7.8	—	—	普通	灰口(白)	18c	夹送轴 入	26	22	
C7046 2号 追拂印+2唇 中型丸瓶	中型丸瓶	—	—	—	—	—	普通	灰口(白)	18c	夹送轴 入	26	22	
C7046 2号 追拂印+2唇 中型丸瓶	中型丸瓶	11.7	4.9	7.7	—	—	普通	灰口(白)	18c	夹送轴 入	26	22	
C7046 2号 追拂印+2唇 中型丸瓶	中型丸瓶	—	—	—	—	—	普通	灰口(白)	18c	夹送轴 入	26	22	
C7046 2号 追拂印+2唇 中型丸瓶	中型丸瓶	8.9	3.0	4.4	白龙(横长) 日文 火文	白龙(横长) 日文 火文	普通	灰口(白)	18c	夹送轴 入	26	22	
C7046 2号 追拂印+2唇 中型丸瓶	中型丸瓶	8.5	3.5	4.6	—	—	普通	灰口(白)	18c	夹送轴 入	26	22	
C7046 2号 追拂印+2唇 中型丸瓶	中型丸瓶	12.4	4.3	3.7	—	—	普通	灰口(白)	18c	夹送轴 入	26	22	
C7046 2号 追拂印+2唇 中型丸瓶	中型丸瓶	12.0	5.9	—	—	—	普通	灰口(白)	18c	夹送轴 入	26	22	
C7046 2号 追拂印+2唇 中型丸瓶	中型丸瓶	18.7	5.6	5.8	—	—	普通	灰口(白)	18c	夹送轴 入	26	22	
C7046 2号 追拂印+2唇 中型丸瓶	中型丸瓶	14.1	7.4	2.9	—	—	普通	灰口(白)	18c	夹送轴 入	26	22	
C7046 2号 追拂印+2唇 中型丸瓶	中型丸瓶	—	—	—	—	—	普通	灰口(白)	18c	夹送轴 入	26	22	

表25 武家屋敷地区第7地点出土陶器觀察表(3)
Tab.25 Notes on glazed ceramics at DK7 (3)

登録番号	出土場所	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	文 様	焼成 色(焼成口色)	胎 色	胎 厚	生 地	製作年代	備 考	閲 覧
C1082 2号窯腰壁上2層 小中柱	小中柱	—	—	3.1	地紋(所焼色) 製文	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	1.8c	織口・雨漏 火色・供奉	18c~19c	買入 見込みと萬台に日跡 見込みと日跡あり 萬台窯口の一部破損 漆塗ぎ	25 24
C1083 2号窯腰壁上2層 人鉢	人鉢	—	—	17.8	—	赤釉(青白)	青白(淡青灰白色)	—	織口・英燒	17c~18c	買入 見込みと日跡あり 萬台窯口の一部破損 漆塗ぎ	28 24
C1085 2号窯腰壁上1層 腰鉢	腰鉢	—	—	—	—	—	青白(淡青灰白色)	—	織口・輪郭線	17c後~18c	輪郭線が亂ざる	28 21
C1084 2号窯腰壁上1層 小中柱	小中柱	—	—	—	—	—	青白(淡青灰白色)	—	青白(淡青灰白色)	18c	買入 見込みと日跡	28 24
C1085 2号窯腰壁上3層 人鉢	人鉢	—	—	29.5	—	—	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	17c後~18c	青白(淡青灰白色)	29 24
C1086 2号窯腰壁上2層 大鉢	大鉢	—	—	29.4	0.8	0.8 (印字文)	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	17c後~18c	青白(淡青灰白色)	29 21
C1087 2号窯腰壁上3層 大鉢	大鉢	—	—	13.0	—	—	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	17c後~18c	青白(淡青灰白色)	29 25
C1088 2号窯腰壁上2層 片口鉢	片口鉢	—	—	12.7	6.0	6.2	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	18c	見込みと京工 見込みと京工	29 24
C1089 2号窯腰壁上2層 猪鉢	猪鉢	—	—	21.0	—	—	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	18c~19c	見込みと京工	29 25
C1090 2号窯腰壁上2層 猪鉢	猪鉢	—	—	—	—	—	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	18c~19c	見込みと京工	30 25
C1091 2号窯腰壁上2層 猪鉢	猪鉢	—	—	—	—	—	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	18c	内山北部窯台板 外面部下に「引出子」焼 油断り	30 26
C1092 2号窯腰壁上2層 猪鉢	猪鉢	—	—	12.0	13.7	—	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	18c	—	—
C1093 2号窯腰壁上3層 猪鉢	猪鉢	—	—	46.8	23.1	20.3	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	18c	—	—
C1094 2号窯腰壁上2層 猪鉢	猪鉢	—	—	32.0	—	—	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	18c	—	—
C1095 2号窯腰壁上2層 猪鉢	猪鉢	—	—	32.4	—	—	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	18c	—	—
C1096 2号窯腰壁上2層 猪鉢	猪鉢	—	—	34.0	—	—	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	18c	—	—
C1097 2号窯腰壁上2層 猪鉢	猪鉢	—	—	43.0	—	—	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	18c	—	—
C1098 2号窯腰壁上2層 猪鉢	猪鉢	—	—	34.2	—	—	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	18c	—	—
C1099 2号窯腰壁上1層 猪鉢	猪鉢	—	—	30.2	—	—	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	18c	不明	—
C1100 2号窯腰壁上1層 猪鉢	猪鉢	—	—	29.5	—	—	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	18c	体部内面に帯状の斑ね 模造泥付	33 29
C1101 2号窯腰壁上1層 猪鉢	猪鉢	—	—	—	—	—	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	18c	—	—
C1102 2号窯腰壁上2層 猪鉢	猪鉢	—	—	26.6	—	—	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	18c	—	—
C1103 2号窯腰壁上2層 猪鉢	猪鉢	—	—	—	—	—	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	18c	—	—
C1104 2号窯腰壁上2層 猪鉢	猪鉢	—	—	13.2	—	—	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	18c	—	—
C1105 2号窯腰壁上2層 中瓶	中瓶	—	—	2.5	8.0	縞目文	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	17c後~18c	中大屋15.4cm 最大幅15.0cm	33 29
C1106 2号窯腰壁上2層 中瓶	中瓶	—	—	—	—	—	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	18c?	—	—
C1107 2号窯腰壁上2層 中瓶	中瓶	—	—	—	—	—	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	18c?	—	—
C1108 2号窯腰壁上2層 中瓶	中瓶	—	—	—	—	—	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	18c?	—	—
C1109 2号窯腰壁上2層 中瓶	中瓶	—	—	—	—	—	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	18c?	—	—
C1110 2号窯腰壁上2層 当	当	—	—	—	9.2	—	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	18c	灰褐色 漆塗ぎ	33 30
C1111 2号窯腰壁上2層 当	当	—	—	—	9.0	—	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	18c?	灰褐色 漆塗ぎ	34 30
C1112 2号窯腰壁上2層 当	当	—	—	—	8.0	—	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	青白(淡青灰白色)	18c?	灰褐色 漆塗ぎ	34 30
C1113 2号窯腰壁上2層 當	當	—	—	—	3.9	2.0	—	—	—	18c	門面無地	34 30
C1114 2号窯腰壁上2層 當	當	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	34 30

表26 延吉腰earable地区第7地点出土陶器目录表
Table 26 Notes on glazed ceramics at BK7 (4)

登錄番号	出土場所	器種	器形	口径 (cm)	底径 (cm)	文様	釉	地	蓋	胎	生産地	製作年代	備考	圖
CJ115 1号通體黑土層 甕	——	瓶	——	6.7	3.0	——	——	米字繪(黑色系褐色)	普通	——	——	18c?	内面白地 外黑褐地	34-30
CJ116 2号通體黑土層 灰吹	84	——	瓶	5.1	9.3	——	——	灰褐(褐色系褐色)	普通	——	——	18c?	口盤部斜折 底寬斜切灰 外黑褐地	34-30
CJ117 2号通體黑土層 灰吹	——	瓶	5.9	8.7	——	——	灰褐(褐色系褐色)	普通	——	——	18c?	——	34-30	
CJ118 2号通體黑土層 灰吹	5.0	5.0	6.5	6.5	——	上腹灰褐(淡黃灰白色)	——	灰褐(褐色系褐色)	普通	——	18c?	灰褐(褐色系褐色) 外底深灰色 底部斜切灰	34-30	
CJ120 2号通體黑土層 灰吹	——	瓶	——	——	——	——	——	——	——	——	——	——	——	34-31
CJ121 2号通體黑土層 灰吹	75	——	瓶	——	——	——	——	灰褐(褐色系褐色)	普通	——	——	18c?	——	34-31
CJ122 2号通體黑土層 灰吹	——	瓶	10.7	6.5	——	——	灰褐(褐色系褐色)	普通	——	——	18c?	——	——	34-31
CJ123 2号通體黑土層 灰吹	13.2	10.7	6.0	6.0	——	——	灰褐(褐色系褐色)	普通	——	——	18c?	小野稻馬 號	不明	34-31
CJ124 2号通體黑土層 灰吹	——	瓶	——	——	——	——	——	——	——	——	——	——	見込みと云ふ 日野稻馬所 見込みと云ふ日野 稻馬所	35-31
CJ125 2号通體黑土層 灰吹	——	瓶	——	——	——	——	——	——	——	——	——	——	CT20. 12cと類似した施墨 ——	35-31
CJ127 2号通體黑土層 灰吹	26	18	——	——	——	灰褐(褐色系褐色)	——	灰褐(褐色系褐色)	普通	——	18c?	CT20. 12cと類似した施墨 ——	35-31	
CJ128 2号通體黑土層 人形	——	瓶	——	——	——	H - 頭部缺 頭部(黒褐色)	——	灰褐(褐色系褐色)	普通	——	18c?	頭部欠損 ——	35-31	
CJ129 2号通體黑土層 不明	——	瓶	——	——	——	灰褐(褐色系褐色)	——	灰褐(褐色系褐色)	普通	——	18c?	头部缺损 ——	35-31	
CJ130 2号通體黑土層 不明	——	瓶	——	——	——	灰褐(褐色系褐色)	——	灰褐(褐色系褐色)	普通	——	18c?	头部缺损 ——	35-31	
CJ130.4号土塊裏 小中直	——	瓶	4.0	1.0	24	——	灰褐(褐色系褐色)	——	灰褐(褐色系褐色)	普通	——	18c?	头部缺损 ——	35-31
CJ133.6号土塊裏 水井	49	40	24	24	——	——	——	——	——	——	18c?	头部缺损 ——	35-31	
CJ135.7号土塊裏 小中直	11.0	6.4	2.2	2.2	——	——	——	——	——	——	18c?	头部缺损 ——	35-31	
CJ136.4号土塊裏 上層	——	瓶	——	——	——	上部灰褐(淡青灰白色)	——	灰褐(黑色系褐色)	普通	——	17c-18c	——	35-31	
CJ138.5号土塊裏 上層	14.1	4.9	——	——	——	——	——	灰褐(黑色系褐色)	普通	——	18c?	头部缺损 ——	35-31	
CJ139.5号土塊裏 上層	4.3	——	——	——	——	——	——	灰褐(黑色系褐色)	普通	——	18c?	头部缺损 ——	35-31	
CJ139.5号土塊裏 上層	10.0	4.9	4.3	4.3	——	——	——	灰褐(黑色系褐色)	普通	——	18c?	头部缺损 ——	35-31	
CJ140.5号土塊裏 上層	——	瓶	——	——	——	——	——	——	——	——	18c?	头部缺损 ——	35-31	
CJ141.15号土塊裏 大鉢	——	盆	——	——	——	——	——	——	——	——	18c?	头部缺损 ——	35-32	
CJ142.15号土塊裏 上層	1.0	——	——	——	——	——	——	——	——	——	18c?	头部缺损 ——	35-32	
CJ143.15号土塊裏 上層	——	盆	——	——	——	——	——	——	——	——	18c?	头部缺损 ——	35-32	
CJ144.15号土塊裏 大鉢	——	盆	——	——	——	——	——	——	——	——	18c?	头部缺损 ——	35-32	
CJ145.16号土塊裏 大鉢	4.5	6.3	6.3	6.3	——	白泥制毛口文(淡青灰白色)	——	灰褐(褐色系褐色)	普通	——	18c?	头部缺损 ——	35-32	
CJ146.16号土塊裏 大鉢	6.3	6.3	6.3	6.3	——	白泥制毛口文(淡青灰白色)	——	灰褐(褐色系褐色)	普通	——	18c?	头部缺损 ——	35-32	
CJ147.16号土塊裏 中型灰白 中型折衷	34.8	——	——	——	——	——	——	——	——	——	18c?	头部缺损 ——	35-32	
CJ148.18号土塊裏 中型折衷	9.7	9.7	——	——	——	灰褐(褐色系) 洋し掛け	——	灰褐(褐色系褐色)	普通	——	18c?	头部缺损 ——	36-32	
CJ149.18号土塊裏 中型	12.9	5.5	5.5	5.5	——	灰褐(褐色系) 洋し掛け	——	灰褐(褐色系褐色)	普通	——	18c?	头部缺损 ——	36-32	
CJ150.18号土塊裏 小中直	11.9	3.8	4.4	4.4	——	色绘(绿・竹・松竹)	——	灰褐(褐色系) 洋し掛け	普通	——	18c?	头部缺损 ——	36-32	
CJ151.18号土塊裏 印・豪鉢	——	碗	——	——	——	云鉢(印・豪鉢)	——	云鉢(印・豪鉢)	普通	——	18c?	头部缺损 ——	36-32	

表27 試家屋敷地区第7地点出土陶器観察表(5)
Tab.27 Notes on glazed ceramics at BK7 (5)

登録 番号	出土地所	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器底 形状	文 様	焼 成	生産地	製作年代	備 考	図 版	
C1156-16号土壌上層 柱穴	柱穴	—	3.8	—	斜輪(高級色)	—	小火燒	小火燒	18c	—	33	
C1156-19号土壌上層 柱穴	柱穴	—	33.8	11.0	—	斜輪(高級色)	普通	大輪相馬	18c末~19初	見込み日付5年目　貢入	33	
C1156-19号土壌上層 柱穴	柱穴	—	22.3	11.0	—	斜輪(高級色)	普通	大輪相馬	17.末~18.初	見込み日付5年目　貢入	33	
C1156-20号土壌上層 柱穴	柱穴	—	—	—	斜輪(高級色)	普通	大輪相馬	18c	—	—	33	
C1156-22号土壌上層 柱穴	柱穴	—	10.0	4.1	3.7	斜輪(高級色)	普通	大輪相馬	19c	—	—	34
C1156-23号土壌上層 柱穴	柱穴	—	—	—	—	斜輪(高級色)	普通	大輪相馬	17.末~18.初	見込み日付5年目　貢入	34	
C1158-21号土壌上層 柱穴	柱穴	—	—	—	—	斜輪(高級色)	普通	大輪相馬	17.末~18.初	見込み日付5年目　貢入	34	
C1158-24号土壌上層 柱穴	柱穴	—	6.7	—	内面斜輪(陶系褐色)	普通	大輪相馬	18c	—	—	34	
C1160-25号土壌上層 柱穴	柱穴	10.6	3.9	6.0	—	斜輪(高級色)	普通	人輪相馬	18c	—	—	34
C1161-25号土壌上層 柱穴	柱穴	10.5	—	—	—	斜輪(高級色)	普通	人輪相馬	18c	—	—	34
C1162-25号土壌上層 柱穴	柱穴	12.0	5.0	7.1	—	斜輪(高級色)	普通	小火相馬	18c	—	—	34
C1163-24号土壌上層 柱穴	柱穴	9.2	—	—	—	斜輪(高級色)	普通	小火相馬	18c	—	—	34
C1164-25号土壌上層 柱穴	柱穴	11.2	5.3	7.3	—	斜輪(高級色)	普通	小火相馬	18c	—	—	34
C1165-24号土壌上層 柱穴	柱穴	—	5.6	—	—	斜輪(高級色)	普通	小火相馬	18c	—	—	34
C1166-24号土壌上層 柱穴	柱穴	15.5	—	—	—	斜輪(高級色)	普通	小火相馬	17.末~18.初	外壁は保有底 見込みと高台に日輪	34	
C1167-24号土壌上層 柱穴	柱穴	12.9	7.5	3.3	捺印(高級色)、分母文	斜輪(高級色)	普通	人輪相馬	17.末~18.初	外壁は保有底 見込みと高台に日輪	34	
C1168-24号土壌上層 柱穴	柱穴	29.5	11.5	9.1	自刻磨毛目文	斜輪(高級色)	普通	人輪相馬	17.末~18.初	外壁は保有底 見込みと高台に日輪	34	
C1169-24号土壌上層 柱穴	柱穴	3.3	—	—	—	斜輪(高級色)	普通	人輪相馬	18c?	—	—	34
C1170-24号土壌上層 柱穴	柱穴	—	—	—	—	斜輪(高級色)	普通	人輪相馬	18c?	—	—	34
C1171-24号土壌上層 柱穴	柱穴	—	—	—	—	斜輪(高級色)	普通	人輪相馬	18c?	—	—	34
C1172-28号土壌上層 柱穴	柱穴	11.6	5.5	7.5	—	斜輪(高級色)	普通	人輪相馬	18c	—	—	35
C1173-28号土壌上層 柱穴	柱穴	11.6	—	—	—	斜輪(高級色)	普通	人輪相馬	17.末~18.初	外壁は保有底 見込みと高台に日輪	35	
C1174-28号土壌上層 柱穴	柱穴	—	—	—	捺印(高級色)	普通	人輪相馬	17.末~18.初	外壁は保有底 見込みと高台に日輪	35		
C1175-29号土壌上層 柱穴	柱穴	—	11.0	—	鉛筆寫	普通	人輪相馬	17.末~18.初	外壁は保有底 見込みと高台に日輪	35		
C1176-14号土壌上層 柱穴	柱穴	—	6.8	—	—	斜輪(高級色)	普通	人輪相馬	19c前~中	—	—	35
C1177-14号土壌上層 柱穴	柱穴	—	7.6	—	—	斜輪(高級色)	普通	人輪相馬	19c前~中	—	—	35
C1178-22号土壌上層 柱穴	柱穴	10.9	—	—	乐舞(竹)	斜輪(高級色)	普通	人輪相馬	18c?	—	—	35
C1179-19号土壌上層 柱穴	柱穴	—	—	—	乐舞(竹)	斜輪(高級色)	普通	人輪相馬	17.末~18.初	外壁は保有底 見込みと高台に日輪	35	
C1180-25号土壌上層 柱穴	柱穴	11.4	4.9	7.6	色情(青・金)	普通	人輪相馬	17.末~18.初	外壁は保有底 見込みと高台に日輪	35		
C1181-27号土壌上層 柱穴	柱穴	9.2	2.9	4.9	色情(青・金)	普通	人輪相馬	17.末~18.初	外壁は保有底 見込みと高台に日輪	35		
C1182-27号土壌上層 柱穴	柱穴	10.9	4.6	6.1	色情(青・金)	普通	人輪相馬	17.末~18.初	外壁は保有底 見込みと高台に日輪	35		
C1183-27号土壌上層 柱穴	柱穴	10.2	5.1	6.7	铁足	普通	人輪相馬	17.末~18.初	外壁は保有底 見込みと高台に日輪	35		
C1184-27号土壌上層 柱穴	柱穴	9.7	5.4	6.9	上部灰地(淡黄灰白色)	淡黄灰地	普通	人輪相馬	17.末~18.初	外壁は保有底 見込みと高台に日輪	35	
C1185-27号土壌上層 柱穴	柱穴	—	4.7	—	—	淡黄灰地(淡黄灰白色)	普通	人輪相馬	17.末~18.初	外壁は保有底 見込みと高台に日輪	35	
C1186-27号土壌上層 柱穴	柱穴	—	4.7	—	—	淡黄灰地(淡黄灰白色)	普通	人輪相馬	17.末~18.初	外壁は保有底 見込みと高台に日輪	35	
C1187-27号土壌上層 柱穴	柱穴	—	3.9	—	—	上部白地	普通	人輪相馬	18c~初~中	外壁は保有底 見込みと高台に日輪	35	

表28 武藏厚生地区第7地点出土陶器観察表(6)
Table 28 Notes on glazed ceramics at BK7 (6)

登録 番号	出土場所	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	文様	施薬	胎	生地	製作年代	備考	図版
C718527号厚生土1層	大鉢	25.4	10.9	30	白化模様 象鼻 印文	印文 (墨色)	灰胎	青釉	灰清	17世~18世 前	見込みH降7ヶ所	40, 36
C718927号厚生土3層	水清 (夫)	—	—	—	口・身・足は黒塗 模様 刻文	—	灰胎	淡青灰白色	—	18世前?	—	—
C719027号厚生土1層	水瓶	6.1	—	—	口輪は内側斜	—	灰胎 (墨色)	—	—	40, 36	大きっている 高さ5.5cm 底面4.0cm	—
C71911号4番7ヶ所上	中型丸瓶	—	—	3.6	火垂流 (横け) 斜白地	—	無施釉	端 (朱色)	—	不明	底部引抜	—
C71921号4番7ヶ所下	小中瓶	9.0	3.5	2.4	上部火垂 (横け) 斜白地 見込み印文	—	無施釉	端 (朱色)	—	18c	—	—
C71931号4番7ヶ所上	瓶	—	—	—	火垂流 (横け) 斜白地	—	無施釉	端 (朱色)	—	—	—	40, 36
C71941号4番7ヶ所上	小中瓶	21.3	8.8	4.0	火垂 (淡青灰白色) 流し掛け	無印文	灰胎	淡青灰白色	—	—	—	—
C71951号10.3cm	人輪	12.6	—	8.5	火垂 (淡青灰白色) 流し掛け	無印文	灰胎	淡青灰白色	—	17世~18世	見込みと同台	40, 37
C719614.8cm	人輪	9.5	4.5	6.1	火垂 (淡青灰白色) 流し掛け	無印文	灰胎	淡青灰白色	—	18c	口入端	40, 37
C719710.3cm	人輪	—	—	6.1	火垂 (淡青灰白色) 流し掛け	無印文	灰胎	淡青灰白色	—	—	見込み	40, 37
C719810.3cm	人輪	11.0	4.4	6.5	火垂 (淡青灰白色) 流し掛け	無印文	灰胎	淡青灰白色	—	18c	口入端	40, 37
C719911.2cm	人輪	—	—	—	火垂 (淡青灰白色) 上部火垂 (淡青灰白色) 流し掛け	無印文	灰胎	淡青灰白色	—	—	—	40, 37
C720011.0cm	人輪	10.2	4.3	—	火垂 (淡青灰白色) 上部火垂 (淡青灰白色) 流し掛け	無印文	灰胎	淡青灰白色	—	18c	人輪付	40, 37
C720111.3cm	人輪	—	—	—	火垂 (淡青灰白色) 上部火垂 (淡青灰白色) 流し掛け	無印文	灰胎	淡青灰白色	—	18c	人輪付	40, 37
C720210.3cm	人輪	11.3	—	—	火垂 (淡青灰白色) 上部火垂 (淡青灰白色) 流し掛け	無印文	灰胎	淡青灰白色	—	18c	人輪付	40, 37
C720310.3cm	人輪	10.8	—	—	火垂 (淡青灰白色) 上部火垂 (淡青灰白色) 流し掛け	無印文	灰胎	淡青灰白色	—	18c	人輪付	40, 37
C720410.3cm	人輪	—	—	8.2	火垂 (淡青灰白色) 上部火垂 (淡青灰白色) 流し掛け	無印文	灰胎	淡青灰白色	—	18c	人輪付	40, 37
C720510.3cm	人輪	—	—	—	火垂 (淡青灰白色) 上部火垂 (淡青灰白色) 流し掛け	無印文	灰胎	淡青灰白色	—	18c	人輪付	40, 37
C720610.3cm	人輪	—	—	—	火垂 (淡青灰白色) 上部火垂 (淡青灰白色) 流し掛け	無印文	灰胎	淡青灰白色	—	18c	人輪付	40, 37
C720710.3cm	人輪	—	—	—	火垂 (淡青灰白色) 上部火垂 (淡青灰白色) 流し掛け	無印文	灰胎	淡青灰白色	—	18c	人輪付	40, 37
C720810.3cm	人輪	—	—	—	火垂 (淡青灰白色) 上部火垂 (淡青灰白色) 流し掛け	無印文	灰胎	淡青灰白色	—	18c	人輪付	40, 37
C720910.3cm	人輪	—	—	—	火垂 (淡青灰白色) 上部火垂 (淡青灰白色) 流し掛け	無印文	灰胎	淡青灰白色	—	18c	人輪付	40, 37
C721010.3cm	人輪	—	—	—	火垂 (淡青灰白色) 上部火垂 (淡青灰白色) 流し掛け	無印文	灰胎	淡青灰白色	—	18c	人輪付	40, 37
C721110.3cm	人輪	—	—	—	火垂 (淡青灰白色) 上部火垂 (淡青灰白色) 流し掛け	無印文	灰胎	淡青灰白色	—	18c	人輪付	40, 37
C721210.3cm	人輪	—	—	—	火垂 (淡青灰白色) 上部火垂 (淡青灰白色) 流し掛け	無印文	灰胎	淡青灰白色	—	18c	人輪付	40, 37
C721310.3cm	人輪	—	—	—	火垂 (淡青灰白色) 上部火垂 (淡青灰白色) 流し掛け	無印文	灰胎	淡青灰白色	—	18c	人輪付	40, 37
C721410.3cm	人輪	—	—	—	火垂 (淡青灰白色) 上部火垂 (淡青灰白色) 流し掛け	無印文	灰胎	淡青灰白色	—	18c	人輪付	40, 37
C721510.3cm	人輪	—	—	—	火垂 (淡青灰白色) 上部火垂 (淡青灰白色) 流し掛け	無印文	灰胎	淡青灰白色	—	18c	人輪付	40, 37
C721610.3cm	人輪	—	—	—	火垂 (淡青灰白色) 上部火垂 (淡青灰白色) 流し掛け	無印文	灰胎	淡青灰白色	—	18c	人輪付	40, 37
C721710.3cm	人輪	—	—	—	火垂 (淡青灰白色) 上部火垂 (淡青灰白色) 流し掛け	無印文	灰胎	淡青灰白色	—	18c	人輪付	40, 37
C721810.3cm	人輪	—	—	—	火垂 (淡青灰白色) 上部火垂 (淡青灰白色) 流し掛け	無印文	灰胎	淡青灰白色	—	18c	人輪付	40, 37
C721910.3cm	人輪	—	—	—	火垂 (淡青灰白色) 上部火垂 (淡青灰白色) 流し掛け	無印文	灰胎	淡青灰白色	—	18c	人輪付	40, 37
C722012.5cm	人輪	—	—	—	火垂 (淡青灰白色) 上部火垂 (淡青灰白色) 流し掛け	無印文	灰胎	淡青灰白色	—	18c	人輪付	40, 37
C722112.5cm	人輪	—	—	—	火垂 (淡青灰白色) 上部火垂 (淡青灰白色) 流し掛け	無印文	灰胎	淡青灰白色	—	18c	人輪付	40, 37
C722212.5cm	人輪	—	—	—	火垂 (淡青灰白色) 上部火垂 (淡青灰白色) 流し掛け	無印文	灰胎	淡青灰白色	—	18c	人輪付	40, 37

表29 武家屋敷地区第7地点出土陶器観察表
Taf.29 Notes on glazed ceramics at BK7 (7)

登録番号	出土地所	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	壁高 (cm)	文 様	情 様	施 釉	土壌地	施上 地	制作年代	備 考	図 版		
C122-17号・塩尻上 C122-25号・塩尻上	1.角 小瓶	7.9 2.0	— —	5.3 5.5	— —	普通輪胎 淡乳白色 淡乳白色	旋削 削痕	施釉(淡乳白色) 施釉(淡乳白色)	— —	普通 普通	19.4? ~後 19.9 ~中	灰墨青 灰墨青	12 38		
C122-26号・塩尻上	中型火鍋	12.6	—	7.9	—	普通輪胎 淡乳白色	—	普通	—	普通 普通	19.9 ~中	灰墨青 灰墨青	12 38		
C122-27号・塩尻上	土鍋	—	—	5.5	—	普通輪胎 淡乳白色	—	普通	—	普通 普通	17.7 ~後	灰墨青 灰墨青	42 38		
C122-28号・塩尻上	火鉢	—	—	5.5	—	普通輪胎 淡乳白色	—	普通	—	普通 普通	19.8?	— —	42 38		
C122-29号・塩尻上	火鉢	—	—	5.5	—	普通輪胎 淡乳白色	—	普通	—	普通 普通	19.8?	— —	42 39		
C122-30号・塩尻上	火鉢	—	—	5.5	—	普通輪胎 淡乳白色	—	普通	—	普通 普通	17.7 ~後	灰墨青 灰墨青	12 39		
C122-31号・塩尻上	火鉢	—	—	5.5	—	普通輪胎 淡乳白色	—	普通	—	普通 普通	18.5?	— —	12 39		
C122-32号・塩尻上	火鉢	—	—	5.5	—	普通輪胎 淡乳白色	—	普通	—	普通 普通	18.5?	— —	12 39		
C122-33号・塩尻上	火鉢	—	—	5.5	—	普通輪胎 淡乳白色	—	普通	—	普通 普通	18.5?	— —	12 39		
CT231	浅鉢形輪胎十脚 盤	—	—	—	—	普通輪胎 淡乳白色	—	普通	—	普通 普通	17.9 ~前	磨 磨	42 39		
CT232	瓦嵌焼面	小盤	—	—	6.0	7.5	—	普通	—	普通 普通	19.6?	— —	42 39		
CT233	手取輪胎五脚 盆	—	—	—	7.5	—	普通輪胎 淡乳白色	—	普通	—	普通 普通	17.6 ~後	灰墨青 灰墨青	12 39	
CT234	輪胎	—	—	—	—	普通輪胎 淡乳白色	—	普通	—	普通 普通	19.6?	— —	42 39		
CT235	火鉢	—	—	—	6.4	—	普通輪胎 淡乳白色	—	普通	—	普通 普通	19.6?	— —	42 39	
CT236	火鉢	—	—	—	5.0	—	普通輪胎 淡乳白色	—	普通	—	普通 普通	19.6?	— —	42 39	
CT237	火鉢	中型丸	—	—	9.0	—	普通輪胎 淡乳白色	—	普通	—	普通 普通	19.6?	— —	42 39	
CT238	火鉢	大鉢	—	—	9.0	—	普通輪胎 淡乳白色	—	普通	—	普通 普通	19.6?	— —	42 39	
CT239-H10	2脚下部	中型丸	10.8	—	6.3	—	普通輪胎 淡乳白色	—	普通	—	普通 普通	19.6?	— —	42 39	
CT239-H10	2脚下部	中型丸	10.2	—	6.1	—	普通輪胎 淡乳白色	—	普通	—	普通 普通	19.6?	— —	42 39	
CT239-G10	2脚下部	火鉢	—	—	4.9	—	普通輪胎 淡乳白色	—	普通	—	普通 普通	19.6?	— —	42 39	
CT240-E8	2脚下部	小中杯	—	—	—	—	普通輪胎 淡乳白色	—	普通	—	普通 普通	19.6?	— —	42 39	
CT241-E7	2脚下部	大鉢	12.3	—	7.0	—	普通輪胎 淡乳白色	—	普通	—	普通 普通	19.6?	— —	42 39	
CT242-H8	2脚下部	中碗不明	—	—	5.8	—	普通輪胎 淡乳白色	—	普通	—	普通 普通	19.6?	— —	43 39	
CT242-H8	2脚下部	小豊富縁碗	10.1	—	5.6	—	普通輪胎 淡乳白色	—	普通	—	普通 普通	19.6?	— —	43 39	
CT243-H4	2脚	火鉢	—	—	—	—	普通輪胎 淡乳白色	—	普通	—	普通 普通	19.6?	— —	43 40	
CT243-H4	2脚	火鉢	—	—	—	—	普通輪胎 淡乳白色	—	普通	—	普通 普通	19.6?	— —	43 40	
CT245-G3	2脚	小山根	10.0	—	4.2	—	普通輪胎 淡乳白色	—	普通	—	普通 普通	19.6?	— —	43 40	
CT246-G3	2脚	小山根	11.0	—	5.8	—	普通輪胎 淡乳白色	—	普通	—	普通 普通	19.6?	— —	43 40	
CT247-F10	2脚	不明	—	—	—	—	普通輪胎 淡乳白色	—	普通	—	普通 普通	19.6?	— —	43 40	
CT248-G5	2脚	火鉢(?)	—	—	—	—	普通輪胎 淡乳白色	—	普通	—	普通 普通	19.6?	— —	43 40	
CT249-H2	2脚	火鉢	—	—	—	—	普通輪胎 淡乳白色	—	普通	—	普通 普通	19.6?	— —	43 40	
CT250-1号	鹽器	大鉢	—	—	—	4.7	—	普通輪胎 淡乳白色	—	普通	—	普通 普通	19.6?	— —	43 40
CT251-1号	鹽器	小中皿	21.7	—	8.8	—	普通輪胎 淡乳白色	—	普通	—	普通 普通	19.6?	— —	43 40	
CT252-1号	鹽器	小中皿	—	—	—	—	普通輪胎 淡乳白色	—	普通	—	普通 普通	19.6?	— —	43 40	
CT253-1号	鹽器	小中皿	12.8	—	4.8	—	普通輪胎 淡乳白色	—	普通	—	普通 普通	19.6?	— —	43 40	
CT254-1号	鹽器	小中皿	—	—	—	—	普通輪胎 淡乳白色	—	普通	—	普通 普通	19.6?	— —	43 40	
CT255-1号	鹽器	中堅狀 筒工具	—	—	—	—	普通輪胎 淡乳白色	—	普通	—	普通 普通	19.6?	— —	43 40	
CT256-1号	鹽器	密合具	—	—	—	—	普通輪胎 淡乳白色	—	普通	—	普通 普通	19.6?	— —	43 40	

表30 武家屋敷地区第7地点出土土器質土器(皿) 鍋密表(1)
Tab.30 Notes on unglazed ceramic plates at BK7 (1)

登録番号	出土地所	口径 cm	底径 cm	高さ cm	測量		底面 方向	炭化物 付着部位	備考	図	回数
					内面	体部外面					
CH001	9号土坑 墓上	52	33	1.3	ロクロナダ	ロクロナダ	b	左	口縁		41
CH002	13号土坑 墓上	—	7.3	2.9	ロクロナダ	ロクロナダ	a	右			41
CH003	12号窓 墓上1層	56	33	1.4	ロクロナダ	ロクロナダ	b	右	口縁一部		41
CH004	12号窓 墓上1層	11.7	6.9	2.5	ロクロナダ	ロクロナダ	a	右			41
CH005	29号窓 墓上	63	4.0	1.8	ロクロナダ	ロクロナダ	a	右	口縁一部		41
CH006	29号窓 墓上	62	3.7	1.5	ロクロナダ	ロクロナダ	a	左	口縁一部		41
CH007	1号造拂 墓土2層	8.8	5.1	2.1	ロクロナダ	ロクロナダ	b	右			41
CH008	2号造拂 墓土1層	8.6	5.4	2.1	ロクロナダ	ロクロナダ	a	左	口縁一部	器全体が黒色化	41
CH009	2号造拂 墓土1層	11.3	6.4	2.5	ロクロナダ	ロクロナダ	a	左		内面底部に黒色のシミ	41
CH010	2号造拂 墓土1層	13.3	7.5	2.6	ロクロナダ	ロクロナダ	a	左			41
CH011	2号造拂 墓上1層	13.9	7.7	2.6	ロクロナダ	ロクロナダ	a	右			41
CH012	2号造拂 墓土2層	13.8	7.4	3.3	ロクロナダ	ロクロナダ	a	右		内面に褐色の付着物	41
CH013	2号造拂 墓上2層	12.4	6.3	2.4	ロクロナダ	ロクロナダ	a	左			41
CH014	2号造拂 墓土2層	10.5	5.7	2.5	ロクロナダ	ロクロナダ	a	右	内面全体 外表面一部		41
CH015	2号造拂 墓土2層	—	12.0	3.8	ロクロナダ	ロクロナダ	a	右	底部内面一部		41
CH016	2号造拂 墓上2層	11.9	7.8	2.5	ロクロナダ	ロクロナダ	a	左	体部内面一部		41
CH017	2号造拂 墓土2層	11.1	6.5	2.0	ロクロナダ	ロクロナダ	b	右	口縁一部	内面底部に黒色のシミ	41
CH018	2号造拂 墓土2層	13.6	7.0	2.6	ロクロナダ	ロクロナダ	a	右			41
CH019	2号造拂 墓土2層	—	—	—	ロクロナダ	ロクロナダ	不明	不明	墨書き有り		—
CH020	2号造拂 墓土2層	14.0	8.8	2.7	ロクロナダ	ロクロナダ	a	左	口縁		41
CH021	2号造拂 墓上2層	—	8.0	2.8	ロクロナダ	ロクロナダ	a	左			41
CH022	2号造拂 墓土2層	13.1	7.4	2.4	ロクロナダ	ロクロナダ	a	左			41
CH023	2号造拂 墓土2層	—	8.0	3.4	ロクロナダ	ロクロナダ	b	左			41
CH024	2号造拂 墓土2層	13.1	7.7	2.8	ロクロナダ	ロクロナダ	不明	不明			41
CH025	2号造拂 墓上2層	11.5	7.0	2.3	ロクロナダ	ロクロナダ	a	左			41
CH026	2号造拂 墓土2層	11.2	6.3	1.9	ロクロナダ	ロクロナダ	体部低いとき	不明	口縁一部?	内面の一部に黒色のシミ	42
CH027	2号造拂 墓土2層	—	—	—	ロクロナダ	ミカリ	不明	不明		内、外表面墨書き有り	42
CH028	2号造拂 墓土2層	11.8	6.6	2.1	ロクロナダ	ロクロナダ	体部低いとき	ミガキ	小明		42
CH029	2号造拂 墓上2層	13.8	7.5	3.0	ロクロナダ	ロクロナダ	a	右			42
CH030	2号造拂 墓土2層	12.5	6.5	2.5	ロクロナダ	ロクロナダ	b	右			42
CH031	2号造拂 墓上2層	13.0	7.8	2.9	ロクロナダ	ロクロナダ	不明	左			42
CH032	2号造拂 墓土2層	13.2	7.5	2.7	ロクロナダ	ロクロナダ	a	左			42
CH033	2号造拂 墓上2層	13.0	7.5	2.5	ロクロナダ	ロクロナダ	a	右			42
CH034	2号造拂 墓土2層	11.1	6.3	2.6	ロクロナダ	ロクロナダ	a	不明		内外面の半分が黒色化	42
CH035	2号造拂 墓土2層	16.2	10.4	3.7	ロクロナダ	ロクロナダ	a	左			42
CH036	2号造拂 墓土2層	11.3	6.5	2.4	ロクロナダ	ロクロナダ	b	左			42
CH037	2号造拂 墓上2層	13.5	7.4	3.0	ロクロナダ	ロクロナダ	a	左			42
CH038	2号造拂 墓土2層	13.1	8.6	1.7	ロクロナダ	ロクロナダ	b	不明	口縁一部		42
CH039	2号造拂 墓土2層	7.9	4.6	1.6	ロクロナダ	ロクロナダ	a	不明			42
CH040	2号造拂 墓上2層	9.0	4.8	2.0	ロクロナダ	ロクロナダ	b	右	口縁内面全体		42
CH041	2号造拂 墓土2層	7.4	4.5	1.8	ロクロナダ	ロクロナダ	b	右		内面が黒色化(液体状)	42
CH042	2号造拂 墓土2層	5.5	3.9	1.6	ロクロナダ	ロクロナダ	b	不明			42
CH043	2号造拂 墓土2層	—	7.4	2.6	ロクロナダ	ロクロナダ	a	左			42
CH044	2号造拂 墓土2層	13.6	7.5	2.9	ロクロナダ	ロクロナダ	a	左			42

表31 武家屋敷地区第7地点出土土師質土器(皿)観察表(2)
Tab.31 Notes on unglazed ceramic plates at BK7 (2)

登録 番号	出土場所	口径 cm	底径 cm	器高 cm	調 査		回転 方向 赤等法	炭化物 付着部位	備考	図 版	
					内 面	体部外面					
CH045	2号造構 墓上2層	10.8	6.1	2.1	ロクロナデ	ロクロナデ	b	右		46 42	
CH046	2号造構 墓上2層	13.5	8.0	2.5	ロクロナデ	ロクロナデ	b	右		46 42	
CH047	2号造構 墓上2層	13.4	7.8	2.6	ロクロナデ	ロクロナデ	b	右		46 42	
CH048	2号造構 墓上2層	11.6	6.8	2.4	ロクロナデ	ロクロナデ	b	右		46 42	
CH049	2号造構 墓上2層	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	不明	墨書き有り	46 42	
CH050	2号造構 墓上2層	5.7	3.0	1.2	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	不明		47 42	
CH051	2号造構 墓上2層	6.1	3.3	1.2	ロクロナデ	ロクロナデ	a	左		47 42	
CH052	2号造構 墓上2層	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	小明	墨書き有り	— 42	
CH053	2号造構 墓上2層	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	不明	墨書き有り	— 42	
CH054	2号造構 墓上2層	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	a	小明	底内外向一部が黒色化	47 42	
CH055	2号造構 墓上2層	14.1	5.1	—	ロクロナデ	ロクロナデ	a	小明		47 42	
CH056	2号造構 墓上2層	11.3	6.7	2.2	ロクロナデ	「崩」ロクロナデ 無いミガキ?	ミガキ	小明	全体表面が白色	47 43	
CH056	2号造構 墓上2層	12.0	6.8	2.5	ロクロナデ	ロクロナデ	b	右		47 43	
CH057	2号造構 墓上2層	10.7	6.0	2.5	ロクロナデ	ロクロナデ	b	右		47 43	
CH058	2号造構 墓上2層	7.0	2.8	—	ロクロナデ	ロクロナデ	b	右	内部一部に付着物	47 43	
CH059	2号造構 墓上2層	12.2	6.0	2.1	ロクロナデ	ロクロナデ	b	左	底体状の付着物	47 43	
CH060	2号造構 墓上2層	14.1	8.5	3.2	ロクロナデ	ロクロナデ	b	左		47 43	
CH061	2号造構 墓上2層	14.0	7.0	2.9	ロクロナデ	ロクロナデ	a	左		47 43	
CH062	2号造構 墓上2層	12.5	6.6	2.7	ロクロナデ	ロクロナデ	a	左	内外面全体	墨書き全体が黒色化	47 43
CH063	2号造構 墓上2層	19.6	10.7	3.8	ロクロナデ	ロクロナデ	a	左	底部内外向一部		47 43
CH064	2号造構 墓上2層	11.2	6.6	1.9	ロクロナデ	ロクロナデ	ミガキ	無いミガキ 無いミガキ	口縁一部?	47 43	
CH065	2号造構 墓上2層	—	8.2	2.4	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	小明	墨書き有り	—	
CH066	2号造構 墓上2層	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ			墨書き有り	43	
CH067	2号造構 墓上2層	—	7.0	—	ロクロナデ	ロクロナデ	b	右			
CH068	2号造構 墓上2層	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	a	右	底部内面一部	47 43	
CH069	2号造構 墓上2層	13.2	6.8	3.0	ロクロナデ	ロクロナデ	a	左	口縁外面が同幅で黒色化	47 43	
CH070	2号造構 墓上2層	11.4	7.0	2.7	ロクロナデ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	口縁一部?	墨書き有り	48 43
CH071	2号造構 墓上2層	—	6.4	—	ロクロナデ	ロクロナデ	b	右	中央に斜穴がある	48 43	
CH072	2号造構 墓上2層	19.0	12.3	3.8	ロクロナデ	ロクロナデ	a	左		48 43	
CH073	2号造構 墓上2層	—	6.5	—	—	—	a	左	底部に孔有り	48 44	
CH074	2号造構 墓上2層	13.4	7.5	2.9	ロクロナデ	ロクロナデ	a	右	底部に褐色の付着物	48 44	
CH075	2号造構 墓上2層	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	小明	墨書き有り	— 44	
CH076	2号造構 墓上2層	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	—	墨書き有り	— 44	
CH077	2号造構 墓上2層	6.1	3.8	1.3	ロクロナデ	ロクロナデ	b	右	口縁、体部外面	48 44	
CH078	2号造構 墓上2層	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	—	墨書き有り	—	
CH079	2号造構 墓上2層	11.6	7.0	2.6	ロクロナデ	ロクロナデ	b	右		48 44	
CH080	2号造構 墓上2層	11.7	6.9	2.6	ロクロナデ	ロクロナデ	a	左		48 44	
CH081	2号造構 墓上2層	12.1	7.6	2.6	ロクロナデ	ロクロナデ	b	右		48 44	
CH082	2号造構 墓上2層	13.7	8.0	3.2	ロクロナデ	ロクロナデ	a	右	内面、体部外面	48 44	
CH083	2号造構 墓上2層	12.0	6.9	2.6	ロクロナデ	ロクロナデ	b	右		48 44	
CH084	2号造構 墓上2層	7.2	4.4	1.5	ロクロナデ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	口縁	墨書き全体が黒色化	48 44
CH085	2号造構 墓上2層	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	小明	墨書き有り	—	
CH086	2号造構 墓上2層	11.4	7.0	1.7	ロクロナデ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	小明		48 44
CH087	2号造構 墓上2層	17.7	10.6	3.8	ロクロナデ	ロクロナデ	a	左	底部に褐色のシミ	48 44	

表32 武家屋敷地区第7地点出土土器(皿)観察表(3)
Tab.32 Notes on unglazed ceramic plates at BK7 (3)

登録番号	出土地所	口径 cm	底径 cm	器高 cm	調 整		回転 方向 [添付図]	炭化物 付着部位	備考	圖 版
					内 面	体部外側 [添付図]				
CH068	2号遺構 墓上3層	11.7	6.5	2.7	ロクロナデ	ロクロナデ	a	左	内面底部が黒色化	48 44
CH069	2号遺構 墓上3層	13.6	8.0	2.9	ロクロナデ	ロクロナデ	a	左		48 44
CH090	2号遺構 墓上3層	9.7	6.2	1.8	ロクロナデ、 斜いミガキ	ミガキ	不明	不明		48 44
CH091	2号遺構 墓上3層	13.4	7.3	2.6	ロクロナデ	ロクロナデ	b	右		49 44
CH092	2号遺構 墓上3層	12.6	7.4	2.5	ロクロナデ	ロクロナデ	a	左		49 44
CH093	2号遺構 墓上3層	8.6	5.5	1.9	ロクロナデ	ロクロナデ	a	右	器内全体が黒色	49 44
CH094	2号遺構 墓上3層	12.5	7.5	2.7	ロクロナデ	ロクロナデ	a	左		49 44
CH095	2号遺構 墓上3層	—	5.5	2.6	ロクロナデ	ロクロナデ	b	左	内面のみ黒色化	49 44
CH096	2号遺構 墓上3層	12.3	6.5	2.9	ロクロナデ	ロクロナデ	a	右	内外面に黒褐色のシミ	49 44
CH097	2号遺構 墓上3層	12.6	7.0	2.4	ロクロナデ	ロクロナデ	a	左		49 44
CH098	2号遺構 墓上3層	13.2	7.5	2.9	ロクロナデ	ロクロナデ	b	右	墨書き有り	49 45
CH099	2号遺構 墓上3層	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	—	墨書き有り	—
CH100	2号遺構 墓上3層	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	—	墨書き有り?	—
CH101	2号遺構 墓上1層	—	—	—	—	—	不明	不明	墨書き有り	—
CH102	2号遺構 墓上2層	—	—	—	—	—	不明	不明	墨書き有り	—
CH103	2号遺構 墓上25層	20.2	15.3	4.2	ロクロナデ	ロクロナデ	a	左		49 44
CH104	24号土坑 墓上1層	12.9	6.9	2.4	ロクロナデ	ロクロナデ	a	小明		49 44
CH105	24号土坑 墓上1・2層	14.1	7.1	2.6	ロクロナデ	ロクロナデ	b	右	内外面の一部黒色化	49 44
CH106	24号土坑 墓上1・2層	—	8.5	2.8	ロクロナデ	ロクロナデ	a	右		49 45
CH107	24号土坑 墓上1層	11.2	6.2	2.7	ロクロナデ	ロクロナデ	a	左		50 45
CH108	24号土坑 墓上3層	10.1	6.1	2.8	ロクロナデ	ロクロナデ	a	右	内面が黒色化(液体状)	50 45
CH109	24号土坑 墓上3層	9.2	5.9	1.7	ロクロナデ	ロクロナデ	b	右		50 45
CH110	24号土坑 墓上3層	11.0	5.7	2.5	ロクロナデ	ロクロナデ	b	右	内面が黒色化(液体状)	50 45
CH111	24号土坑 墓上3層	12.4	7.0	2.2	ロクロナデ	ロクロナデ	b	右		50 45
CH112	24号土坑 墓上3層	11.8	6.7	2.7	ロクロナデ	ロクロナデ	a	不明		50 45
CH113	19号 3a層	12.6	6.5	3.1	ロクロナデ	ロクロナデ	a	右	口縁、内面、底部 が黒色化	50 45
CH114	19号 3a層	6.4	4.8	2.0	ロクロナデ	ロクロナデ	b	右	口縁 器面全体が黒色化	50 45
CH115	H9 3a層	—	3.7	2.1	ロクロナデ	ロクロナデ	a	右		50 45
CH116	4号土坑 深土4層	7.1	3.6	1.8	ロクロナデ	ロクロナデ	a	右		50 45
CH117	4号土坑 墓上9層	8.0	4.7	2.0	ロクロナデ	ロクロナデ	a	右		50 45
CH118	18号土坑 墓上1層	5.2	3.2	1.4	ロクロナデ	ロクロナデ	b	左	口縁	50 45
CH119	25号土坑 墓上2層	10.7	6.5	2.5	ロクロナデ	ロクロナデ	a	左	内面が黒色化(液体状)	50 45
CH120	1号井戸 墓上2層	8.5	4.5	2.1	ロクロナデ	ロクロナデ	小明	不明		50 45
CH121	4号井戸 墓上1層	—	7.8	2.6	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	不明		50 45
CH122	20分溝 墓上1層	—	4.0	1.6	ロクロナデ	ロクロナデ	b	右		50 45
CH123	10号溝 墓上2層	21.0	12.9	3.8	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	不明	口縁、体部一部 が黒色化	50 45
CH124	ピット 墓土	13.4	6.9	2.7	ロクロナデ	ロクロナデ	a	右		50 45

表33 武家屋敷地区第7地点出土土師質土器（焼塙壺）観察表
Tab.33 Notes on unglazed ceramics (used to salt-making and taking) at BK7

登録番号	出土場所	計量 cm			積丁の大きさ	底部糸切開裂痕	備考	図	図版	
		口径cm	底径cm	器高cm						
CH125	13号工坑 塹土4	—	5.4	—	約10×10mm角	a.不明		51	46	
CH126	1号造築 塹土3層	6.7	4.7	9.3	3.8	約7×7mm角	a.左	51	46	
CH127	2号造築 塹土1層	7.4	5.4	9.2	3.7	約6mm角	a.左	51	46	
CH128	2号造築 塹土2層	—	4.5	—	—	約10×9mm角	a.左	51	46	
CH129	2号造築 塹土2層	7.1	4.9	8.7	4.1	約5mm角	a.左	口縁の一部が黒色化	51	46
CH130	2号造築 塹土2層	8.0	5.7	12.4	8.5	約12×12mm角	不明		51	46
CH131	2号造築 塹土2層	7.4	5.4	8.7	4.1	約5mm角	b.左	口縁一部下半の一部が黒色化	51	46
CH132	2号造築 塹土2層	6.5	5.5	10.1	9.2	格子なし	粘土充填	刻印有「泉州麻生」	51	46
CH133	2号造築 塹土2層	6.7	5.1	9.8	3.8	約6mm角	不明		51	46
CH134	2号造築 塹土2層	7.1	5.4	8.4	3.6	約5mm角	b.左	口縁一部下半の一部が黒色化	51	46
CH135	2号造築 塹土2層 東は 粘	6.6	4.7	9.5	4.3	約6mm角	a.左		51	46
CH136	2号造築 塹土2層	6.7	4.7	10.0	9.0	格子なし	粘土充填	刻印有「泉州麻生」	51	46
CH137	2号造築 塹土2層	7.0	5.5	9.9	8.8	格子なし	粘土充填	刻印有「泉州麻生」	51	46
CH138	2号造築 塹土2層	6.8	4.6	8.8	3.6	約6mm角	a.右		51	46
CH139	2号造築 塹土3層	7.2	5.4	9.7	3.8	約5×5mm角	不明	体部全体に被熱	51	46
CH140	2号工坑 墓上2層	6.6	4.5	8.4	3.3	約6mm角	a.左		51	46
CH141	24号上坑 墓土2層	—	5.4	11.0	5.2	約8×8mm角	a.左	体部は全体に被熱	51	46
CH142	4号土坑 墓上1層	—	5.5	—	—	格子なし	不明		51	46
CH143	D3, E3 2層	4.9	—	—	—	格子なし	不明	白味のある胎土	51	46
CH144	1層複数	7.4	5.9	10.6	5.2	約11×6mm角	b.右		51	46
CH145	2号造築 墓土2層	8.0	7.8	1.9	—	—	ケズリ？ ナデ	焼塙壺（蓋） 内面布日あり	52	46
CH146	2号造築 墓土2層	8.4	8.1	1.7	—	—	ナデ	焼塙壺（蓋） 内面布日あり	52	46

表34 武家屋敷地区第7地点出土その他の土師質土器観察表
Tab.34 Notes on unglazed ceramics (except plates) at BK7

登録番号	種類	出土場所	口径cm	底径cm	器高cm		備考	図	図版
CH147	鉢類	1号造築 墓上1層	—	6.5	—	内面クロナデ 外面ミガキ		52	47
CH148	便器風口	1号造築 墓土3層	最大幅14.1	高6.5	—	内面内面ナデ		52	47
CH149	風炉	2号造築 墓土2層	33.0	25.8	20.2	内面クロナデ 外面ミガキ 口縁部ミガキ		52	47
CH150	火鉢	2号造築 墓上2層	30.7	—	—	内面クロナデ 外面ミガキ 口縁部ミガキ		52	47
CH151	鉢類	2号造築 墓土2層	12.0	—	—	内外面クロナデ		52	47
CH152	鉢類	2号造築 墓上2層	27.3	—	—	内外面クロナデ		52	47
CH153	耳皿	2号造築 墓土2層	—	3.2	—	内外面クロナデ		53	47
CH154	焜爐風口	2号造築 墓上2層	幅24.2	最大幅14.2	高5.8	内外面ナデ		53	47
CH155	鉢類	2号造築 墓上2層	11.8	—	—	内面セクロナデ 外面ミガキ		53	47
CH156	鋸切	2号造築 墓土2層	28.7	—	—	内外面クロナデ 内面に内耳の痕跡か		53	48
CH157	鉢類	2号造築 墓上2層	14.3	4.2	8.1	内外面クロナデ		53	48
CH158	鉢類	2号造築 墓土2層	15.7	8.6	5.0	内外面クロナデ 外面ミガキ		53	48
CH159	不明	2号造築 墓上2層	—	7.5	—	内外面クロナデ		53	48
CH160	焼物	2号造築 墓土2層	28.2	—	7.5	内外面クロナデ		54	48
CH161	風炉	2号造築 墓土2層	23.8	22.0	10.8	内面クロナデ		54	48
CH162	焼物	2号造築 墓土2層	27.8	—	—	内外面クロナデ		54	48
CH163	鉢類	2号造築 墓下層	10.5	—	—	内面クロナデ 外面ミガキ		54	48
CH164	壺鉢	H11.3a号	—	—	—	内外面クロナデ		54	48
CH165	鉢類	H10.2層下部	—	17.4	9.3	内面クロナデ 外面ナデ？		54	49
CH166	鉢類	H10.2層下部	—	12.8	10.7	内面ナデ 口面剥皮・切株状のモチーフ 底面刻印あり		54	48
CH167	木鉢	G10.2層	—	18.7	—	内外面クロナデ		55	49

表35 武家屋敷地区第7地点出土瓦質土器観察表
Tab.35 Notes on fumed ceramics at BK7

登録番号	器種	出土場所	口径 cm	底径 cm	器高 cm	測定など	回	回版
CG01	壺蓋類	13号土坑 墓土	—	12.3	—	内面クロコナデ 外面ナデ 内部下平受熱変色	55	49
CG02	円壺	14号土坑 墓土	7.8	—	2.0	内外面ナデ	55	49
CG03	壺鉢	14号土坑 墓土	22.5	—	—	内外面ナデ 摺目5条一筋	55	49
CG04	壺鉢	12号溝 墓土1層	10.5	7.0	3.3	内外面ナデ	55	49
CG05	火鉢	12号溝 墓土1層	44.6	—	—	内面ナデ 外面・口縁部ミガキ 凸帯を貼付け前に剥离調整	55	49
CG06	火鉢	H18.3a層	17.3	11.0	8.0	内外面クロコナデ 口縁部ミガキ	55	49
CG07	火鉢	2号遺構 墓土25層	30.4	20.5	12.8?	内外面クロコナデ 口縁内面を打ち欠く 口縁端間に刻み文字?	55	49
CG08	壺鉢	2号遺構 墓土2層	18.8	—	—	内面クロコナデ 外面・口縁部ミガキ 孔2ヶ所	56	50
CG09	壺蓋類	2号遺構 墓土2層	13.6	10.5	20.1	内面クロコナデ 外面ミガキ 内部下平受熱変色	56	50
CG10	鉢類	2号遺構 墓土2層	16.1	—	—	内面ナデ 外面・口縁部ミガキ	56	50
CG11	火鉢	2号遺構 墓土2層	—	—	—	内面ナデ 外面・口縁部ミガキ	56	50
CG12	火鉢	2号遺構 墓土2層	—	—	—	内面クロコナデ 外面不規 口縁部ミガキ	56	50
CG13	火鉢	2号遺構 墓土1.2層	35.4	24.7	14.0	—	57	50
CG14	火鉢	2号遺構 墓土2層	31.0	—	—	内面クロコナデ 外面・口縁部ミガキ 内面炭化物付着	57	50
CG15	焼炉	2号遺構 墓土2層	—	20.5	—	内面クロコナデ 外面ミガキ 瓷部ナデ	57	50
CG16	壺	2号遺構 墓土2層	—	—	—	内面不明 外面クロコナデ? 銘押しの花型文様	57	51
CG17	扁瓶口	—	—	—	—	内外面ナデ	57	51
CG18	壺蓋類	2号遺構 墓土2層	8.8	—	—	内外面クロコナデ	57	51
CG19	火鉢	2号遺構 墓土3層	—	33.6	—	内面クロコナデ 外面ミガキ 底部ナデ	58	51
CG20	壺鉢	2号遺構 墓土3層	19.2	—	—	内面ナデ 外面・口縁部丁寧なミガキ 孔2ヶ所	58	51
CG21	火鉢	2号遺構 焼土層	46.2	—	—	内面クロコナデ 外面・口縁部ミガキ	58	51
CG22	火鉢	2号遺構 収下層	33.7	—	—	内外面クロコナデ 外面・口縁部軽いミガキ	59	51
CG23	不明	4号土坑 墓土2層	86?	—	—	内外面ナデ	59	51
CG24	十能	15号土坑 墓土2層	—	—	—	内外面ナデ	59	51
CG25	十能	15号土坑 墓土2層	—	—	—	内外面ナデ	59	51
CG26	壺蓋類	15号土坑 墓土2層	17.7	—	—	内外面クロコナデ 外面剥離状の文様	59	52
CG27	鉢類	15号土坑 墓土2層	—	11.0	6.8	内面クロコナデ 外面剥離状の文様 ハラ描文 赤色の顔料?	59	51
CG28	鉢類	24号土坑 墓土2層	—	—	—	内面ナデ 外面剥離状の文様 ハラ描文 赤色の顔料?	59	51
CG29	碗	24号土坑 墓土3層	—	—	—	内面不明 外面ナデ	59	51
CG30	火鉢	24号土坑 墓土1層	32.2	—	—	内外面ナデ 口縁部ミガキ	59	51
CG31	火鉢	池状遺構新段階標土2層	33.2	—	—	内面クロコナデ 外面ナデ 口縁部ミガキ	60	51
CG32	不明	G10.2層下部	—	—	—	内外面ナデ	60	51
CG33	灰瓶	11号溝 墓土	—	—	—	内面ナデ?	60	52
CG34	火鉢	E2.2層	—	—	—	内面ナデ?	60	52
CG35	小明	H3.2層	—	—	—	内面不明 外面凹凸状の文様	60	52
CG36	不明	D11.2層	—	—	最大幅10.2	内面ナデ? 外面ミガキ 底部は摩滅	60	52
CG37	火鉢	1層・漫乱	—	—	—	内外面ナデ	60	52

表36 武家屋敷地区第7地点出土土器品觀察表
Table 36 Notes on clay objects and figures at BK7

登録番号	出土地所	種類	素材	aまたは 口径 cm	bまたは 底径 cm	cまたは 高さ cm	特徴	回 周数
C001	2号遺構 墓上1層	玩具 立人	軟質陶輪	3.8	2.4	4.3	袋大型4.6cm ロクロ成形 右回転 底部凹板系切痕a	61 52
C002	2号遺構 墓上1層	不明	土師質	—	—	厚さ0.6	手づくね 内外面ナデ調整	61 52
C003	2号遺構 墓上2層	玩具 上跡	土師質	2.4	2.4	3.1	手づくね 中空 内部上面に絞り目が顯著にみられる	61 52
C004	2号遺構 墓上2層	十八形 七福神	軟質陶輪	2.0	1.5	3.3	前後合型作り 中央 大瓶大?	61 52
C005	2号遺構 墓上2層	玩具 菓子	軟質陶輪	3.4	—	1.1	ロクロ成形 右回転 底部凹板系切痕a 最大径4.5cm つまみ貼付	61 52
C006	2号遺構 墓上2層	玩具 器台	軟質陶輪	5.4	2.7	2.1	ロクロ成形 右回転 底部凹板系切痕b	61 52
C007	2号遺構 墓上3層	十八形 人物	軟質陶輪	2.2	2.0	—	前後合型作り 中央 長舌から牙孔(貫通せり)	61 52
C008	20号窯 墓上1層	土人形 夫	土師質	4.7	2.0	4.7	手づくね 中空 目を沈線で表現	61 53
C009	27号窯 墓上1層	土人形 女	軟質陶輪	—	1.7	—	手づくね 中空 羽・足は貼付 底部欠損	61 52
C010	27号窯 墓上4層	不明	土師質	—	2.4	1.0	手づくね 中空	61 52
C011	4号土坑 墓上1層	土人形 猿?	土師質	2.3	—	1.2	手づくね 猿の笠部分か 内面に剥落痕あり 笠頂部は貼付	61 52
C012	18号土坑 墓上2層	土人形 不明	土師質	—	—	—	前後合型作り 中空 行運法師の笠部分か?	— 53
C013	18号土坑 墓上2層	土人形 西行法師?	土師質	—	—	—	前後合型作り 中空 西行法師の笠部分か? 表面黒色化	— 53
C014	20号土坑 墓上1層	玩具 犬	土師質	3.0	—	1.1	ロクロ成形 右回転 底部凹板系切痕a 最大径3.8cm つまみ貼付	61 53
C015	29号土坑 墓上1層	土人形 大神	軟質陶輪	3.0	1.7	—	前後合型作り 中央 烏帽子欠損	62 53
C016	23号土坑 墓上1層	玩具 足跡	軟質陶輪	8.3	4.0	2.8	ロクロ成形 左回転 底部凹板系切痕b	62 53
C017	24号土坑 墓上1層	玩具 器台	土師質	6.2	2.9	2.1	ロクロ成形 右回転 底部凹板系切痕a	62 53
C018	F10 3a型	玩具 蓋	土師質	3.2	—	—	ロクロ成形 底部凹板系切痕 右回転方向不明 最大径1.8cm 全体的に摩滅	62 53
C019	H10 3a型	玩具 上跡	土師質	2.5	2.3	2.9	手づくね 中空 内面上面に絞り目が顯著にみられる	62 53
C020	H10 3a型	土人形 猿	土師質	—	—	—	手づくね 中央 沈線で体毛表現	62 53
C021	11号土坑 墓上1層	玩具 犀	土師質	8.6	—	—	頭・足・尾は貼付 底部に穿孔あり	62 53
C022	15号土坑 墓上2層	玩具 犀	土師質	2.8	2.7	3.2	ロクロ成形 取っ手は欠落	62 53
C023	15号土坑 墓上2層	土人形 太持持	土師質	—	—	手づくね 中空 内部上面に絞り目が顯著にみられる	62 53	
C024	19号土坑 墓上1層	土人形 人物	土師質	3.5	—	—	前後合型作り 中空 沈縫による色彩がある 頭部以外の可動部もある	62 53
C025	10号溝埋土	玩具 屋根?	土師質	—	—	—	合型作り 中空 沈縫による表現があり 屋根以外の可動部もある	— 54
C026	3号溝埋土	土人形 猿	土師質	—	—	—	左右合型作り 中央	63 54
C027	1号溝埋土	土人形 狗?	土師質	—	—	—	左右合型作り 中空 底面開口	63 54
C028	2号溝埋土 墓上1層	土人形 猿?	土師質	—	—	—	手づくね 中央 猿は貼付 手に刺繡あり	63 54
C029	日・16 落ち込み	土人形 狗?	土師質	2.6	1.8	3.7	左右合型作り 中央	63 54
C030	ピット178 墓土	土人形 大	土師質	4.9	2.3	—	手づくね 中央 尾は貼付 口は切り込み	63 54
C031	1号柱列 杖16	植木棒?	軟質陶輪	—	—	—	ロクロ成形 沈縫による文様あり	63 54
C032	H10 2号下部	土人形 魚	土師質	—	—	—	左右合型作り 中空 型による模様の表現	64 54
C033	E8 2号下部	玩具 犀	土師質	2.8	2.8	3.7	手づくね 中空 内部に土玉があり、音が鳴る	64 54
C034	B7 2層	土人形 童子?	土師質	—	—	—	前後合型作り 中空 表面に着色(赤?)の痕跡あり	64 54
C035	H11 2層	玩具 舜台	軟質陶輪	8.1	2.4	2.4	ロクロ成形 右回転 底部凹板系切痕b	64 54
C036	H10 2層	土人形 狗?	土師質	—	—	—	左右合型作り 中空	64 54
C037	H11 2層	玩具 猿頭道具	土師質	3.4	3.5	—	合型作り 対角線部分で貼合せ 中心に穿孔あり 多層等	64 54
C038	E2 2層	土人形 大	土師質	4.7	3.4	4.6	手づくね 中空	64 54
C039	不明	玩具 刺繡	土師質	3.9	—	—	最大径7.1cm ロクロ成形	64 54
C040	1層・複乱	土人形 狗?	軟質陶輪	—	—	—	左右合型作り 中空	64 54
C041	1層・複乱	土人形 猿	土師質	—	—	—	左右合型作り 中空	64 54

計測部位

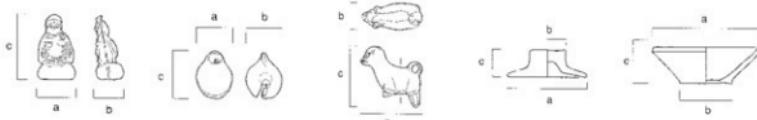


表37 武家屋敷地区第7地点出土古代瓦觀察表
Tab.37 Notes on ancient roof tile used for Nara and Heian periods at BK7

登録番号	出土場所	特 故	圓	國版
T01	区不明 2層	厚さ21cm 上面は布目 下面は縞目	65	55

表38 武家屋敷地区第7地点出土軒丸瓦觀察表
Tab.38 Notes on round eaves tiles at BK7

登録番号	出土場所	瓦当文様	瓦当直径 cm	瓦当内径 cm	周縁幅 cm	釘穴	圓	國版
T02	2号遺構 地上2層	鹿耳三巴(左巻き)	—	—	21	—	65	55
T03	2号遺構 地上2層	鹿耳三巴(右巻き)	17.6	12.5	2.4	—	65	55
T04	2号遺構 地上2層	丸彌	17.4	12.6	2.4	—	65	55
T05	24号土坑 墓土2層	丸彌	17.7	12.9	2.5	—	65	55
T06	H9 3a層	鹿耳三巴(左巻き)	17.7	13.4	2.2	—	65	55
T07	H9 3a層	鹿耳三巴(右巻き)	17.2	12.6	2.3	—	65	55
T08	4号溝 墓土	二引両	—	—	1.4	—	65	55
T09	1層・複数	菊花	—	—	—	—	65	55

表39 武家屋敷地区第7地点出土軒平瓦觀察表
Tab.39 Notes on flat eaves tiles at BK7

登録番号	出土場所	瓦当文様	瓦当形状	瓦当直径 cm	頭幅 cm	備考	圓	國版
T10	2号遺構 地上1層	頭垂葉持底+唐草2頭	人頭	60	—	—	66	55
T11	2号遺構 地上1層	四弁花+唐草3d頭?	側高	—	—	—	66	55
T12	2号遺構 地上2層	不明+唐草3b頭?	—	—	—	—	66	55
T13	2号遺構 地上2層	不明+唐草3c頭?	太頭	55	—	—	66	55

表40 武家屋敷地区第7地点出土軒棟瓦觀察表
Tab.40 Notes on eaves-pan tile at BK7

登録番号	出土場所	全長 cm	頭幅 cm	きき幅 cm	きき足 cm	尻切込 cm	頭切込 cm	瓦当 小巴部分文様	小巴径 cm	瓦当垂れ 部分文様	瓦当 垂れ形状	釘穴	圓	國版
T14	2号土坑 墓土1層	—	—	—	—	—	—	一巴(左巻き)	9.7	三枚縞2b+ 唐草5頭	中頭	—	66	55

表41 武家屋敷地区第7地点出土丸瓦觀察表
Tab.41 Notes on round roof tile at BK7

登録番号	出土場所	頭長 cm	頭幅 cm	尻幅 cm	玉縁幅 cm	高さ cm	厚さ cm	備考	圓	國版	
T18	24号土坑 墓土3層	—	14.2	14.5	3.9	7	2.3	—	—	67	55

表42 武家屋敷地区第7地点出土丸瓦觀察表
Tab.42 Notes on round roof tiles at BK7

登録番号	出土場所	頭長 cm	頭幅 cm	尻幅 cm	玉縁幅 cm	高さ cm	厚さ cm	備考	圓	國版	
T15	2号遺構 地上3層	—	—	16.5	4.6	8.4	2.3	—	—	66	55
T16	2号遺構 地上2層	—	—	—	—	—	2.6	刻印あり「十」	—	70	57
T17	2号遺構 地上2層	—	—	—	2.5	—	2.2	刻印あり	—	70	57
T19	1層・複数	—	—	—	—	—	—	刻印あり	—	70	57

表43 武家屋敷地区第7地点出土面戸瓦観察表
Tab.43 Notes on filler tiles at BK7

登録番号	出土場所	長さ cm	幅 cm	高さ cm	厚さ cm	備考	図 図版
T22	2号遺構 墓上2層	13.7	9.2	4.3	2.1		67 56
T23	2号遺構 墓上2層	14.8	8.9	7.2	2.0		67 56

表44 武家屋敷地区第7地点出土輪塗り観察表
Tab.44 Notes on ridge decoration tiles at BK7

登録番号	出土場所	長さ cm	上幅 cm	下幅 cm	高さ cm	厚さ cm	備考	図 図版
T24	12号溝 理土	13.5	7.3	11.5	5.9	1.7		68 56
T25	HB 2号溝 下部	11.3	7.7	11.5	5.6	1.9		68 56

表45 武家屋敷地区第7地点出土その他の瓦観察表
Tab.45 Notes on various roof tiles at BK7

登録番号	瓦の種類	出土場所	特徴	図	図版
T20	板帶瓦	2号遺構 墓上2層	枝つなぎ斜目 屋根2.3cm 無印あり	67・70	56・57
T21	板状瓦	2号遺構 墓上2層	幅35.6cm 厚さ2.4cm 刻印2	67	56
T26	鷹斗瓦	12号溝 理土	幅15.1cm 厚さ2.2cm	68	56
T27	鷹斗瓦	2号遺構 墓上	幅13.0cm 厚さ2.1cm	68	56
T28	鬼瓦	1層・複数		69	56
T29	雀瓦	13号十石 墓土	鳥の形狀	68・70	57
T30	不明	2号遺構 理土+3層	厚さ2.5cm 溝あり	69	57
T31	不明	2号遺構 墓上3層	厚さ2.5cm 溝あり	69	57

表46 武家屋敷地区第7地点出土平瓦1類観察表
Tab.46 Notes on type 1 of flat tiles at BK7

登録番号	出土場所	特徴	図	図版
T40	2号遺構 墓上1層	刻印「源?」作	70	57
T41	2号遺構 墓上1層	刻印「一」	70	57
T42	2号遺構 墓上3層	刻印「〇」に「三」	70	57
T43	G9 2層	刻印あり	70	57
T44	1層・複数	刻印「ナ」	70	57
T45	1層・複数	刻印「一」	70	57
T46	1層・複数	刻印「サイ」	70	57
T47	1層・複数	刻印「和田」	70	57
T48	1層・複数	刻印「モ」	70	57
T49	1層・複数	刻印「八」に「一」	70	57
T50	1層・複数	刻印「人」	70	57
T51	1層・複数	刻印あり	70	57
T52	1層・複数	刻印「人」	70	57
T53	1層・複数	刻印「西宮」	70	57
T54	1層・複数	刻印「辛」	70	57
T55	1層・複数	刻印「ヘ」	70	57

表47 武家屋敷地区第7地点出土棟瓦観察表
Tab.47 Notes on pan tiles at BK7

登録番号	出土場所	特徴	図	図版
T32	1層・複数	刻印「ヤ」	70	57
T33	1層・複数	刻印「ムカ」	70	57
T34	1層・複数	刻印「ノ」	70	57
T35	1層・複数	刻印「エ」	70	57
T36	1層・複数	刻印「〇」	70	57
T37	1層・複数	刻印「友人」	70	57
T38	1層・複数	刻印「フ」	70	57
T39	1層・複数	刻印「〇」	70	57

〈引用・参考文献〉

- 出光美術館 1994 「パワーア・コレクション 中国陶磁名品展」
- 岩橋廣一・上條朝宏他 1994 「東京都千代田区丸の内三丁目遺跡」東京国際フォーラム建設予定地の発掘調査 東京都埋蔵文化財センター調査報告第17集
- 江戸遺跡研究会編 2001 「近畿 江戸考古学研究事典」
- 江戸陶磁土器研究グループ 1992 「江戸出土陶磁器・土器の諸問題Ⅰ」
- 江戸陶磁土器研究グループ 1996 「江戸出土陶磁器・土器の諸問題Ⅱ」
- 大橋康二 1993 「肥前陶磁」考古学ライブラリー-55
- 大橋康二 1994 「古伊万里の文様 初期肥前陶磁を中心に」
- 大西康二・西田宏子監修 1988 「古伊万里」別冊太陽
- 大平茂・松本 雄 1992 「三田市下野田窯址 - 近畿自動車道舞鶴線関係埋蔵文化財調査報告書XVII」兵庫県文化財調査報告第107冊
- 小川啓司 1974 「そば猪口絵柄事典」
- 小川 望 1992 「大名屋敷出土の焼塗壺」『江戸の食文化』江戸遺跡研究会編pp.128-pp.162
- 小川 望 1991 「ロクロ成形の燒塗壺に関する一考察 - 法蓋分布と組成から見た系統について」『江戸在地系土器の研究I』pp.111-pp.140
- 尾崎葉子・村上伸之・野上延紀 1990 「赤絵町 - 佐賀県西松浦郡有田町1604番地の調査 -」有田町教育委員会
- 小保 桥・中野高久・嶺野千代美 2000 「谷中三崎町遺跡(正運寺跡)」台東区埋蔵文化財発掘調査報告書9
- 加藤貞司・高橋他太郎・中島 茂 2002 「元慶敷陶器窯跡発掘調査報告書」岐阜市教育委員会・(財)岐阜市埋蔵文化財センター
- 唐牛芳光・工藤清泰 1983 「浪岡城・昭和56年度浪岡城跡発掘調査報告書」浪岡町教育委員会
- 関西陶磁史研究会 2006 「京焼の成立と展開 - 挙手路、粟田口、御室 -」
- 九州近世陶磁学会 2000 「九州陶磁の編年」
- 九州近世陶磁学会 2002 「国内出土の肥前陶磁 西日本の流通をさぐる」第一分冊
- 九州近世陶磁学会 2003 「国内出土の肥前陶磁 西日本の流通をさぐる」第二分冊
- 九州近世陶磁学会 2004 「受容層の違いによる九州陶磁の様相」
- 九州陶磁文化館 1992 「福岡の陶磁展」
- 芸術新潮編集部 1983 「やきもの鑑定入門」
- 甲斐彦光・並木仁也・尾張慶上屋敷跡遺跡発掘調査報告書Ⅲ」東京都埋蔵文化財センター調査報告第53集
- 講談社 1978 「東洋陶磁大観 第4巻 イラン国立考古博物館」
- 河野良輔 1989 「日本陶磁大系14巻荻出雲」
- 小林康一 1991 「江戸における近世瓦質・土質質押契について」『江戸在地系土器の研究I』江戸在地系土器研究会pp.1-pp.46
- 小林謙一 2000 「暖房具に見る考古資料と民具資料の関係」『江戸文化の考古学』江戸遺跡研究会編 pp.243-249
- 小林博範・森雅 達・小島正裕ほか 2000 「沙留遺跡II - 旧沙留貨物駅跡地内の調査」東京都埋蔵文化財センター調査報告第79集
- 小林博範・西澤 明・小林 裕ほか 2003 「沙留遺跡III - 旧沙留貨物駅跡地内の調査」東京都埋蔵文化財センター調査報告第125集
- 財団法人瀬戸市振興財團埋蔵文化財センター 2006 「江戸のやきもの - 生産と流通 -」
- 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター 1999 「列島に並ぶ大窯製品 東日本の様相」
- 佐賀県立九州陶磁文化館 1990 「柴田コレクション展I - 初期伊万里から柿右衛門へ -」
- 佐賀県立九州陶磁文化館 1991 「柴田コレクション展II」
- 佐賀県立九州陶磁文化館 1993 「柴田コレクション展III」
- 佐賀県立九州陶磁文化館 1993 「世界の柴付屏風」
- 佐賀県立九州陶磁文化館 1995 「柴田コレクションIV - 古伊万里様式の成立と展開 -」
- 佐賀県立九州陶磁文化館 1996 「名品図録」
- 佐賀県立九州陶磁文化館 1997 「柴田コレクションV - 延宝様式の成立と展開 -」
- 佐賀県立九州陶磁文化館 1998 「柴田コレクションVI - 江戸の技術と藝術技術 -」
- 佐賀県立九州陶磁文化館 1999 「柿右衛門 - その様式の全容 -」
- 白神典之 1990 「男爵鉢と明石鉢」『江戸の陶磁器』江戸遺跡研究会第3回大会発表要旨pp.47-pp.51
- 白神典之・増田透彦 1999 「堺豊能郡市出土の調理具・貯蔵具 - 江戸期の鉢・鍋・篠利・植木鉢 -」『関西近世考古学研究』pp.79-100

- 鈴木重治 1990 「京焼と京焼写し－生産と流通－」「江戸の陶磁器」江戸遺跡研究会第3回大会発表要旨 pp.52～pp.63
- 鈴田山紀夫 1995 「17世紀末から19世紀中葉の鉢款と見込み文様」「篠山コレクションⅣ－古伊万里様式の成立と展開」 pp.272～279
- 岡根達人 1998 「相馬藩における近世窯業生産の展開」「東北大学埋蔵文化財調査年報」10 pp.51～86
- 瀬戸市史編纂委員会 1993 「瀬戸市史 陶磁史篇四」
- 瀬戸市史編纂委員会 1998 「瀬戸市史 陶磁史篇六」
- 仙台市博物館 1989 「堤人形の美」
- 千 宗室・川島宗敏 1966 「釜と炉・風炉 菓子茶道教本 器物編」
- 高橋健太郎ほか 2006 「窓ヶ根窑跡発掘調査報告書－平成13年度・14年度の調査成果－」土岐市教育委員会
- 多治見市教育委員会 1993 「美濃焼の焼物 菓子写真で見る美濃焼の歴史」多治見の古窯第3号
- 谷川章雄・井汲隆夫ほか 1994 「東京都新宿区南町遺跡－兵庫県東京治谷市ヶ谷寮改善工事に伴う緊急発掘調査報告書」兵庫県・新宿区南町遺跡調査団
- 東京大学埋蔵文化財調査室 1999 「東京大学構内遺跡出土陶器等・土器の分類(1)」東京大学構内遺跡調査研究年報2
- 東京大学埋蔵文化財調査室 1997 「東京大学本郷構内の遺跡」東京大学構内遺跡調査研究年報1
- 東京都埋蔵文化財センター 1998 「尾張藩上屋敷跡跡跡」東京都埋蔵文化財センター調査報告第53集
- 東北大埋蔵文化財調査委員会 1985 「東北大埋蔵文化財調査年報1」
- 東北大埋蔵文化財調査委員会 1990 「東北大埋蔵文化財調査年報3」
- 東北大埋蔵文化財調査委員会 1992 「東北大埋蔵文化財調査年報4・5」
- 東北大埋蔵文化財調査委員会 1993 「東北大埋蔵文化財調査年報6」
- 東北大埋蔵文化財調査委員会 1994 「東北大埋蔵文化財調査年報7」
- 東北大埋蔵文化財調査研究センター 1997 「東北大埋蔵文化財調査年報8」
- 東北大埋蔵文化財調査研究センター 1998 「東北大埋蔵文化財調査年報9」
- 東北大埋蔵文化財調査研究センター 1998 「東北大埋蔵文化財調査年報10」
- 東北大埋蔵文化財調査研究センター 1999 「東北大埋蔵文化財調査年報11」
- 東北大埋蔵文化財調査研究センター 1999 「東北大埋蔵文化財調査年報12」
- 東北大埋蔵文化財調査研究センター 2000 「東北大埋蔵文化財調査年報13」
- 東北大埋蔵文化財調査研究センター 2001 「東北大埋蔵文化財調査年報14」
- 東北大埋蔵文化財調査研究センター 2001 「東北大埋蔵文化財調査年報15」
- 東北大埋蔵文化財調査研究センター 2001 「東北大埋蔵文化財調査年報16」
- 東北大埋蔵文化財調査研究センター 2002 「東北大埋蔵文化財調査年報17」
- 東北大埋蔵文化財調査研究センター 2005 「東北大埋蔵文化財調査年報18」
- 東北大埋蔵文化財調査研究センター 2006 「東北大埋蔵文化財調査年報19第1分冊」
- 東北大埋蔵文化財調査研究センター 2006 「東北大埋蔵文化財調査年報20」
- 東北大埋蔵文化財調査室 2007 「東北大埋蔵文化財調査年報19第3分冊」
- 東北大埋蔵文化財調査室 2007 「東北大埋蔵文化財調査年報21」
- 東北大埋蔵文化財調査室 2008 「東北大埋蔵文化財調査年報19第4分冊」
- 東北大埋蔵文化財調査室 2008 「東北大埋蔵文化財調査年報22」
- 上岐市美濃陶磁歴史館 2003 「第15回織部の日特別展 織部の流通圏を探る 東日本」
- 土岐市美濃陶磁歴史館 2004 「第16回織部の日特別展 織部の流通圏を探る 西日本」
- 土岐市美濃陶磁歴史館 2005 「第17回織部の日特別展 織部様式の成立と展開」
- 都立学校遺跡調査会 1990 「白磁」
- 中沢富士雄 1996 「清の官窯 中國の陶磁11」
- 中沢富士雄・長谷川洋子 1996 「元・明の青花 中國の陶磁8」
- 長瀬未左子・加藤真司 2000 「八幡森跡発掘調査報告書」岐阜市教育委員会・(財)岐阜市埋蔵文化財センター
- 植崎晴一・田口昭一他 1990 「尾呂－愛知県瀬戸市定光寺カントリークラブ増設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」瀬戸市教育委員会
- 成瀬兄司・堀内秀樹 2005 「東京大学本郷構内の遺跡 医学部附属病院外来診療棟地点」東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書

- 西田宏子・溝川哲朗 1997 「明末清初の民窯 中国の陶磁10」
- 東岡 実 1999 「近世備前焼の擂鉢－素描メモ－」『関西近世考古学研究』Ⅶ pp.119-130
- 長谷部空撮・今井 敦 1995 「日本樹上の中国陶磁 中国の陶磁12」
- 平方幸雄・丸川義広他 『平安京左京北辺四坊－第2分冊（公家町）』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第22集
- 樋田敏一・石崎俊也ほか 1997 「汐留遺跡－旧汐留貨物駅跡地内の調査」東京都埋蔵文化財センター調査報告書第37集
- 鶴江 栄・鍋城清他 1998 「岸當跡－近世窓跡の調査」福島市埋蔵文化財報告書第111集
- 増村外喜雄 1976 「やきものの辞典」
- 瀬戸忠成 1989 「日本陶磁大系 8 信楽伊賀」
- 港区麻布台一丁目遺跡調査会 1986 「麻布台一丁目郵政省飯倉分館構内遺跡」
- 森本伊知郎 1990 「焼経ぎに関する一考察」『江戸の陶磁器』江戸遺跡研究会第3回大会発表要旨pp.28-pp.33
- 森屋直樹 1987 「準織部都市遺跡発掘調査概要報告書 II -府立泉陽高等学校建設に伴う発掘調査 (SKT193) -』人坂府教育委員会
- 矢島律子 1996 「明の五彩 中国の陶磁 9」
- 矢部良明 1978 「タイ ベトナムの陶磁」陶磁大系47巻
- 米川幸子 1992 「民具にみる多摩の暖房具」『考古学と江戸文化』江戸遺跡研究会第3回大会発表要旨pp.193-217
- 米川幸子 2000 「民具にみる多摩の暖房具」『江戸文化の考古学』江戸遺跡研究会編 pp.249-259

REPORT
OF THE ARCHAEOLOGICAL RESEARCH ON THE CAMPUS OF
TOHOKU UNIVERSITY
Vol.19-2, MARCH 2009

The Archaeological Research office
On the Campus, Tohoku University
1-1,Katahira,2chome,AobaWard,Sendai 980-8577 JAPAN

Summary

This volume carries the report of the salvage excavation of BK7 (Loc.7 of samurai residences located at the side of north outer moat of Ninomaru, i.e. Secondary Citadel of Sendai Castle), which was conducted by the Archaeological Research Center on the campus of Tohoku University in 2001.

In the excavation of BK7, a large number of artifacts have been excavated. So these are reported in five separate volumes. This report is the 2nd separate volume, and describes about the porcelains, glazed ceramics, unglazed ceramics, clay objects and figures and roof tiles.

Before the Edo period, a Jomon pottery and a Sue ware were only found. These were small pieces, so the details are unknown. At the past excavation of Kawauchi campus, some Jomon pottery, Yayoi pottery, Sue ware and stone arrowhead had been found. It shows that this area is the place of some activity not only Edo period, but also before Edo period.

A large quantity of porcelains and glazed ceramics of Edo period were found from No.2 structural remains and No.24 earthen pit. Most of the porcelains and glazed ceramics are dated to the early 18th century. But some of them, mainly large plates and large bowls, are dated to the 17th century. Most porcelains were made in Hizen, and a few Chinese porcelains are contained. These Chinese porcelains are dated from the end of Ming dynasty to the beginning of Qing dynasty; the early 17th century. About the glazed ceramics, Ohbori-souma ware, Ono-souma ware, Seto-Mino ware, Hizen ware, Kyoto ware are found. Especially, Ono-souma ware and Seto-Mino ware are abundant.

As for No.14 earthen pit, there are some porcelains and glazed ceramics which are dated to the early 17th century. It consists of imported porcelains and Seto-Mino glazed ceramics. About the porcelains, there are some Chinese porcelains and Vietnamese porcelain, but there were no Japanese porcelains (Hizen ware). All Chinese porcelains are dated from the end of Ming dynasty to the beginning of Qing dynasty; the early 17th century. Vietnamese porcelain has milky-yellow ceramic body. It was made on a wheel, and glazed after the clay slip. The trace to unite the upper and lower half was observed inside. It has arabesque design on its shoulder and lotus flower design on its body. About the glazed ceramics, all of them are Seto-Mino ware.

Most unglazed ceramics of Edo period were found from No.2 structural remains and No.24 earthen pit. Above all, a mass of unglazed ceramic plates were found from No.2 structural remains. These were dumped together. It is thought that these were used at the ceremony of samurai in Secondary Citadel of Sendai Castle, and after the ceremony, these were dumped in No.2 structural remains in large quantity. Among them, there were some unglazed ceramic plates with small hole on its bottom, or with writings or drawings.

From No.2 structural remains, many kinds of unglazed ceramics were found too, and their shapes were various. Above all, many salt baking pots (called *Yakishio-tsubo*) were found. Some salt baking pots were made in *Kinai* area; the others were made in locally. These were classified into some groups from the shape or the method of manufacture.

As to the clay figures, there were some characters such as the Seven Deities of Good Fortune, a Buddhist priest, the deified spirit of *Sugawara Michizane*, and a little boy, and some animals such as a dog, guardian dogs, a bird, a monkey, a wild boar, and a fish. Clay objects were mainly the clay toy for playing at housekeeping; a small pot, a lid, an earthenware mortar, an earthenware pot, and a pot for boiling rice were found. Other clay objects were a miniature garden, an earthen ware bell and so on.

As to the roof tiles, except roof tiles from layer 2 that are dated to Nara or Heian period, all are dated to the Edo period. In particular, a lot of roof tiles were found from No.2 structural remains. The past excavations show a tendency that a lot of roof tiles are found from Secondary Citadel of Sendai Castle, while the samurai residences yielded smaller amount. Because the garbage from Secondary Citadel of Sendai Castle was dumped in No.2 structural remains of the samurai residences, a large volume of roof tiles were found.

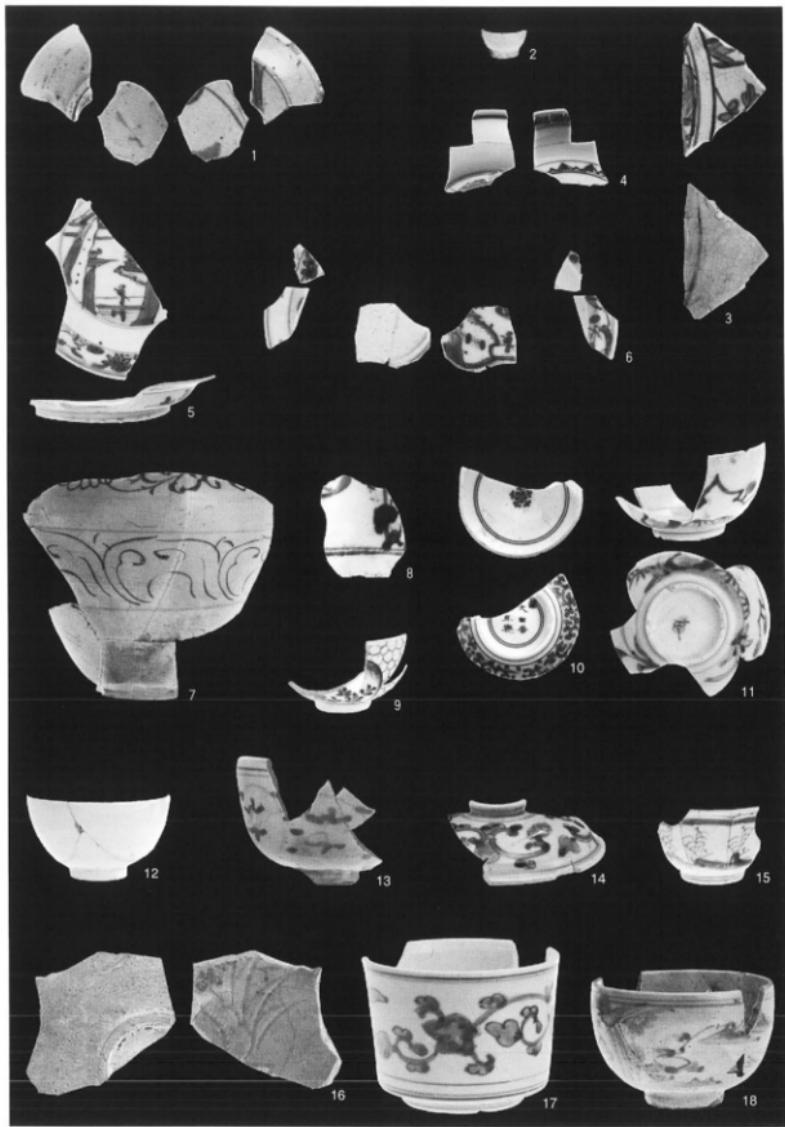
写 真 図 版

図版 1～18：武家屋敷地区第 7 地点出土磁器

図版19～40：武家屋敷地区第 7 地点出土陶器

図版41～54：武家屋敷地区第 7 地点出土土器・土製品

図版55～57：武家屋敷地区第 7 地点出土瓦



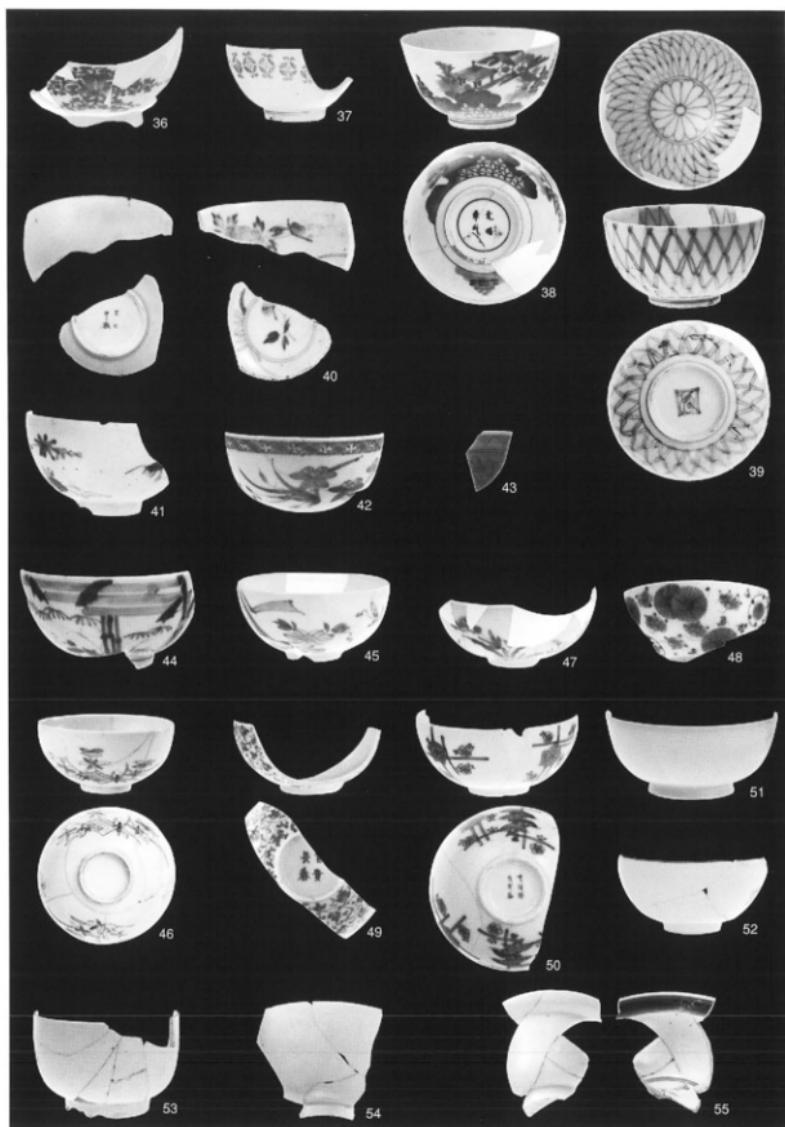
图版 1 武家屋敷地区第 7 地点出土磁器 (1)
PL. I Porcelains from BK7 (I)

S = 1 : 3



图版 2 武家屋敷地区第 7 地点出土磁器 (2)
Pl.2 Porcelains from BK7 (2)

S = 1 : 3



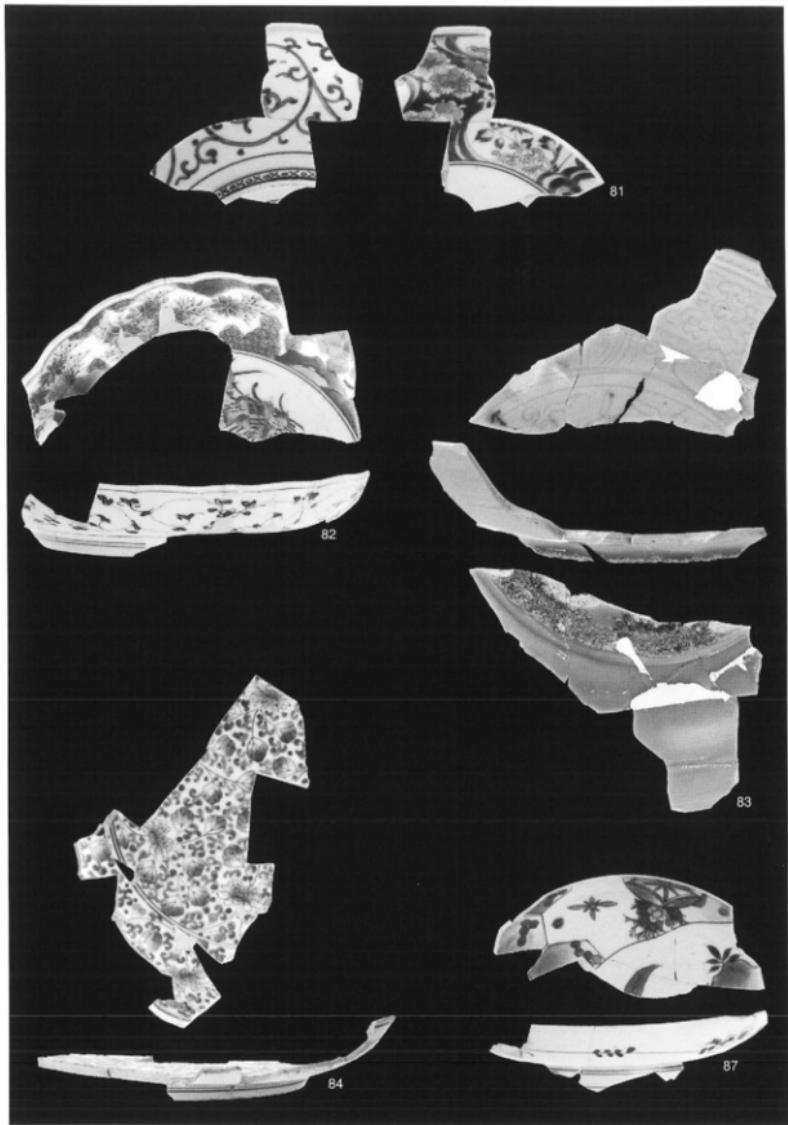
图版 3 武家屋敷地区第 7 地点出土器物 (3)
Pl.3 Porcelains from BK7 (3)

S = 1 : 3



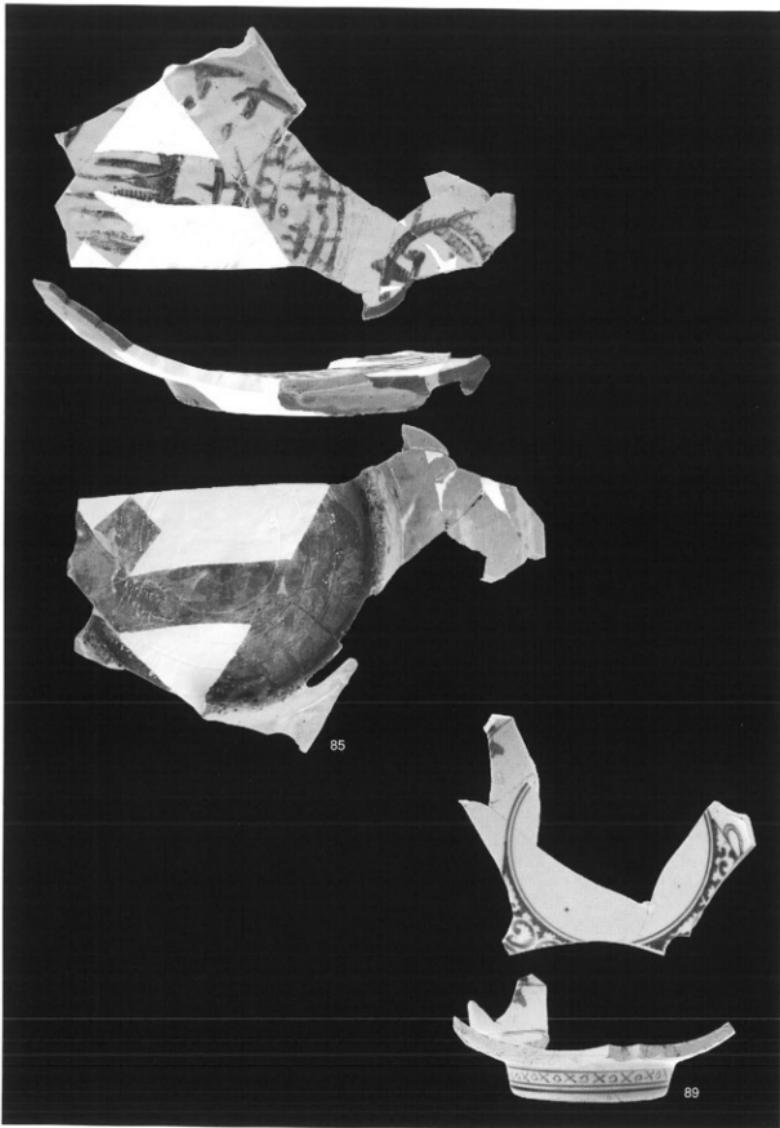
图版4 武家屋敷地区第7地点出土磁器(4)
Pl.4 Porcelains from BK7 (4)

S = 1 : 3



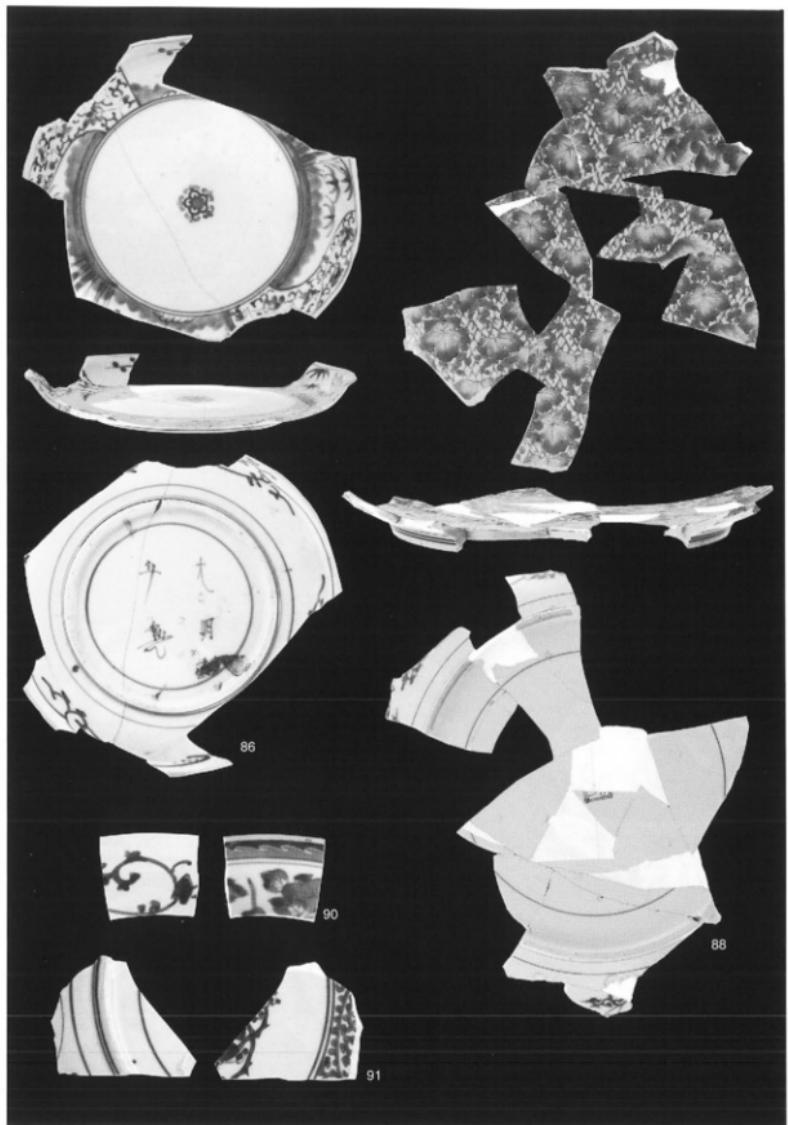
图版5 武家屋敷地区第7地点出土磁器(5)
PL5 Porcelains from BK7 (5)

S = 1 : 3



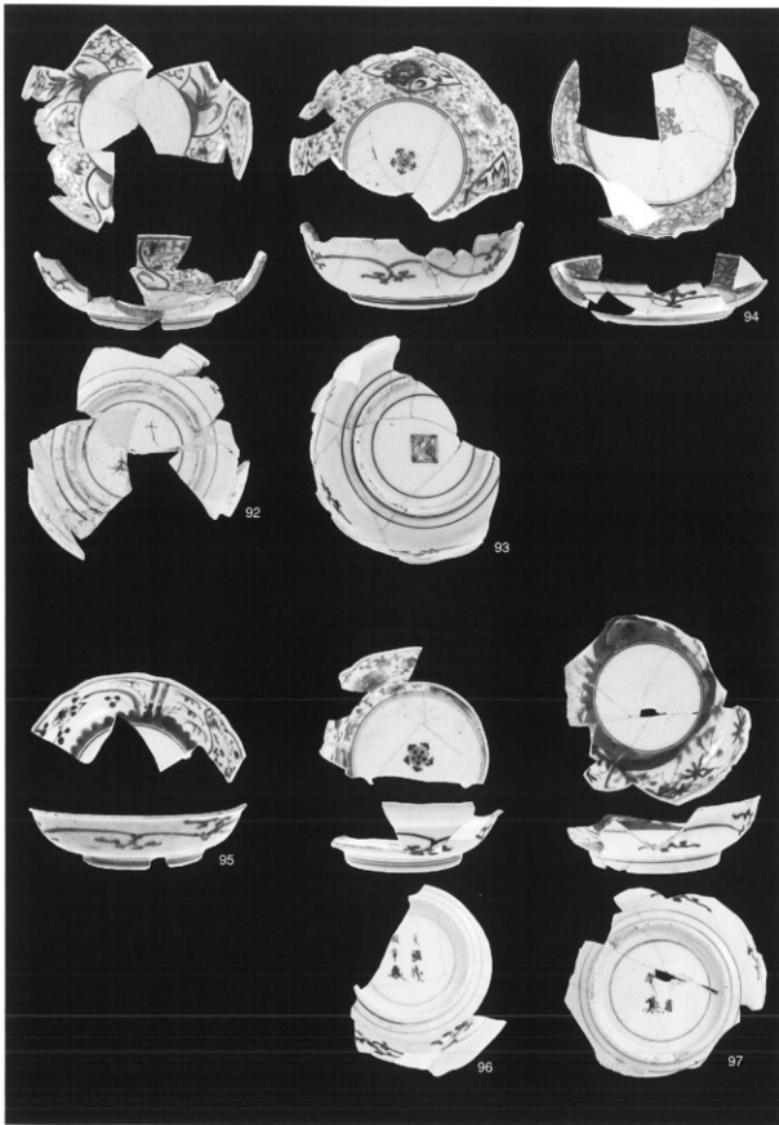
图版6 武家屋敷地区第7地点出土磁器(6)
Pl.6 Porcelains from BK7 (6)

S=1:3



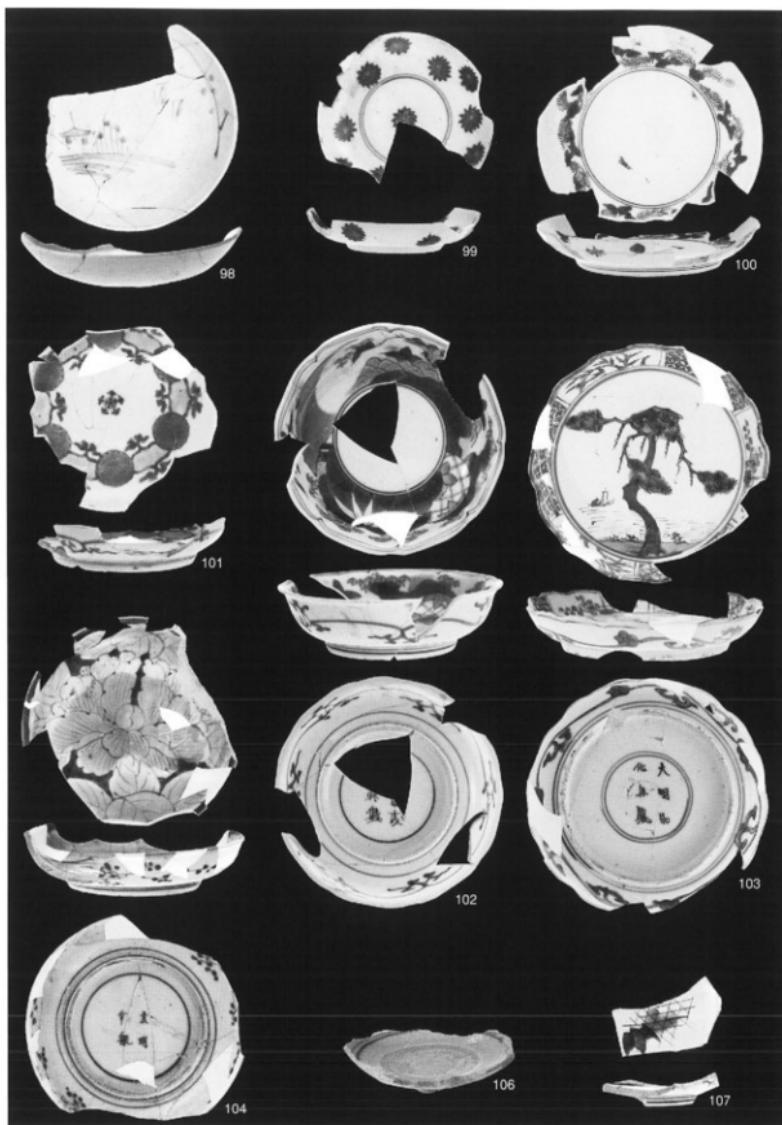
图版 7 武家屋敷地区第 7 地点出土磁器 (7)
Pl.7 Porcelains from BK7 (7)

S = 1 : 3



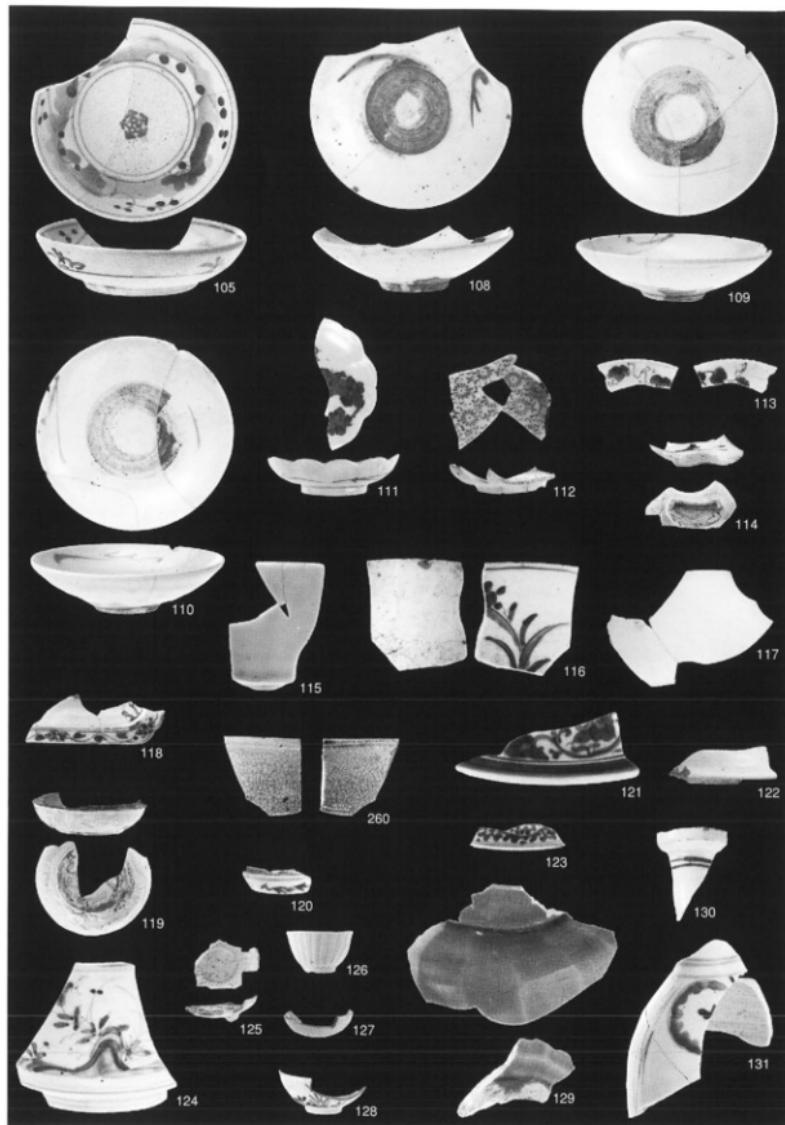
圖版 8 武家屋敷地区第 7 地点出土磁器 (8)
Pl.8 Porcelains from BK7 (8)

S = 1 : 3



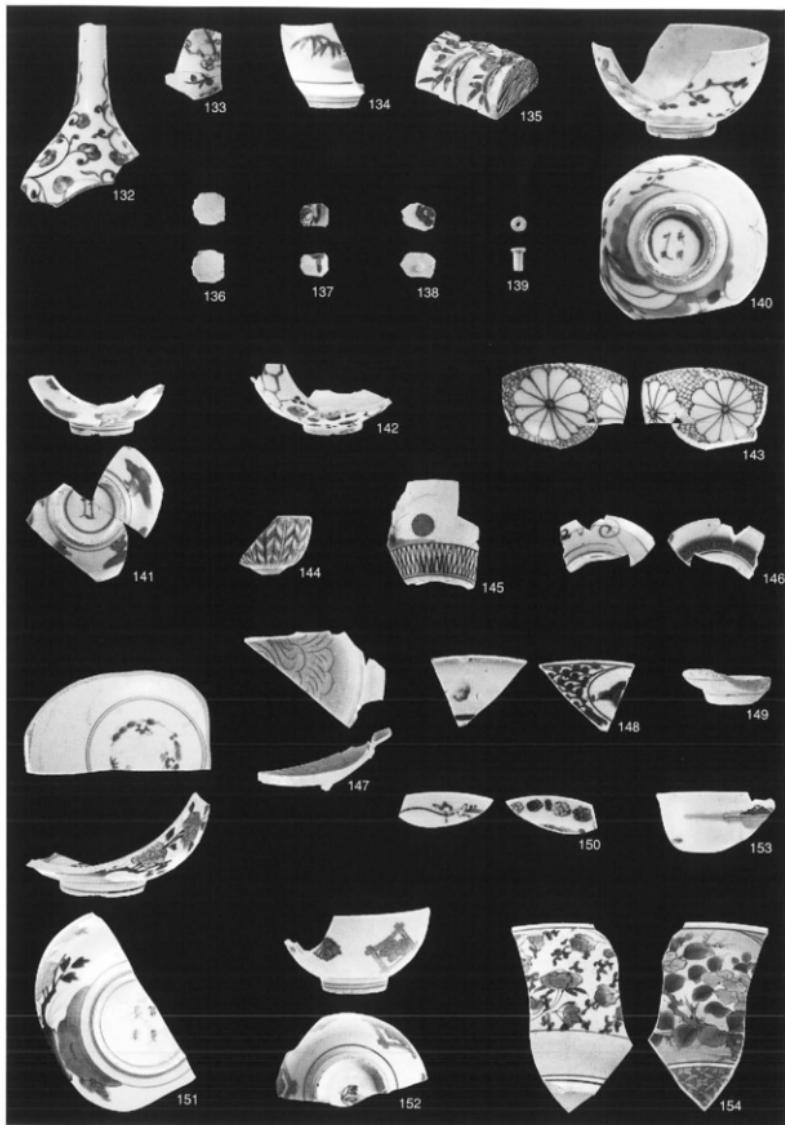
圖版 9 武家屋敷地区第 7 地点出土磁器 (9)
Pl.9 Porcelains from BK7 (9)

S = 1 : 3



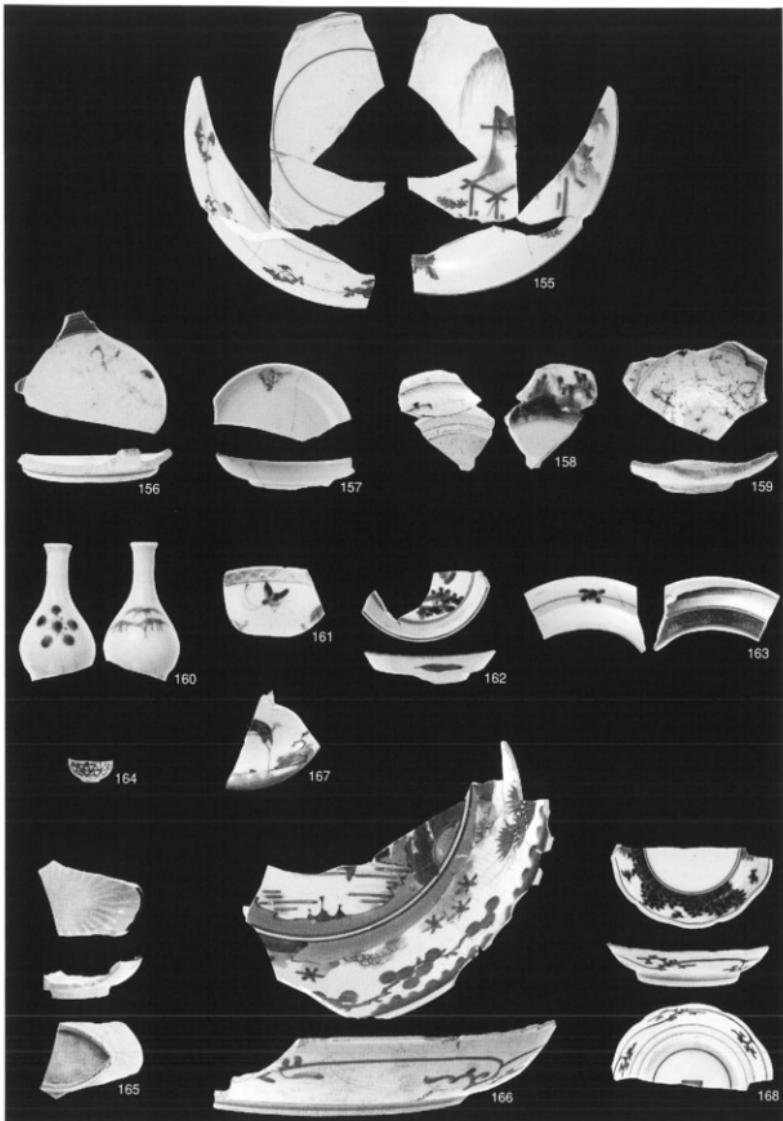
图版10 武家屋敷地区第7地点出土磁器 (10)
Pl.10 Porcelains from BK7 (10)

S = 1 : 3



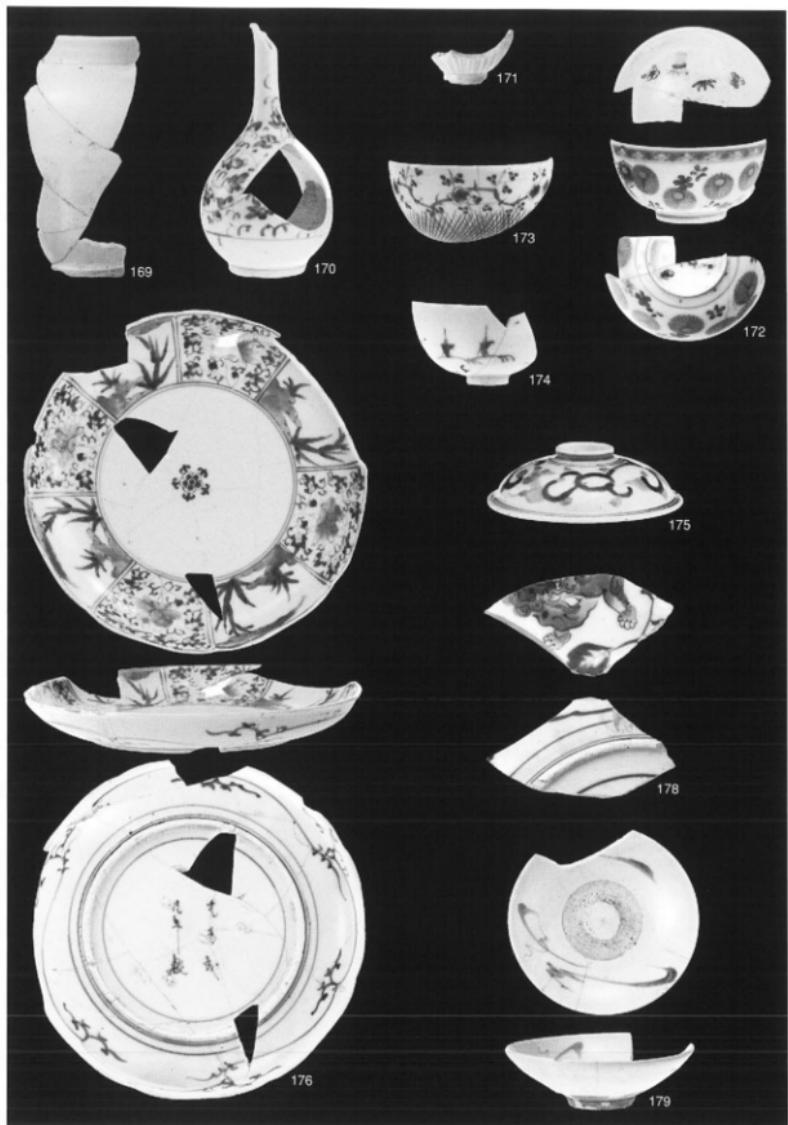
图版11 武家屋敷地区第7地点出土磁器 (11)
Pl.11 Porcelains from BK7 (11)

S = 1 : 3



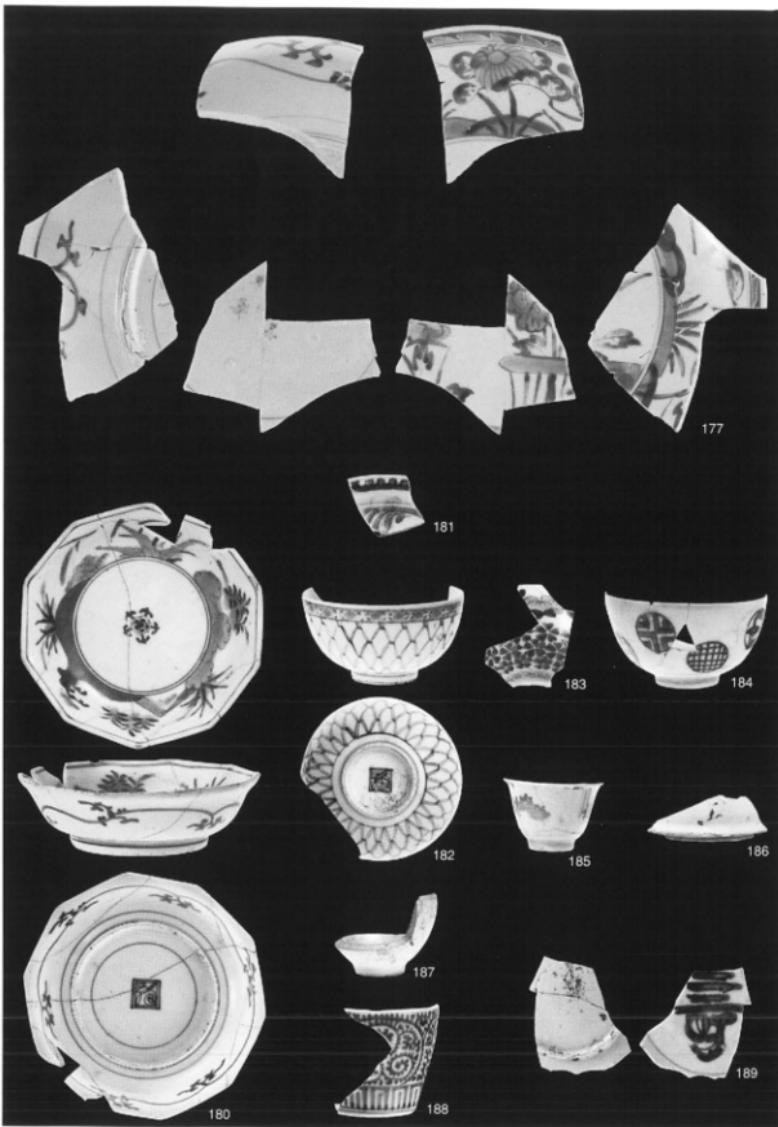
圖版12 武家屋敷地区第7地点出土磁器 (12)
PL12 Porcelains from BK7 (12)

S = 1 : 3



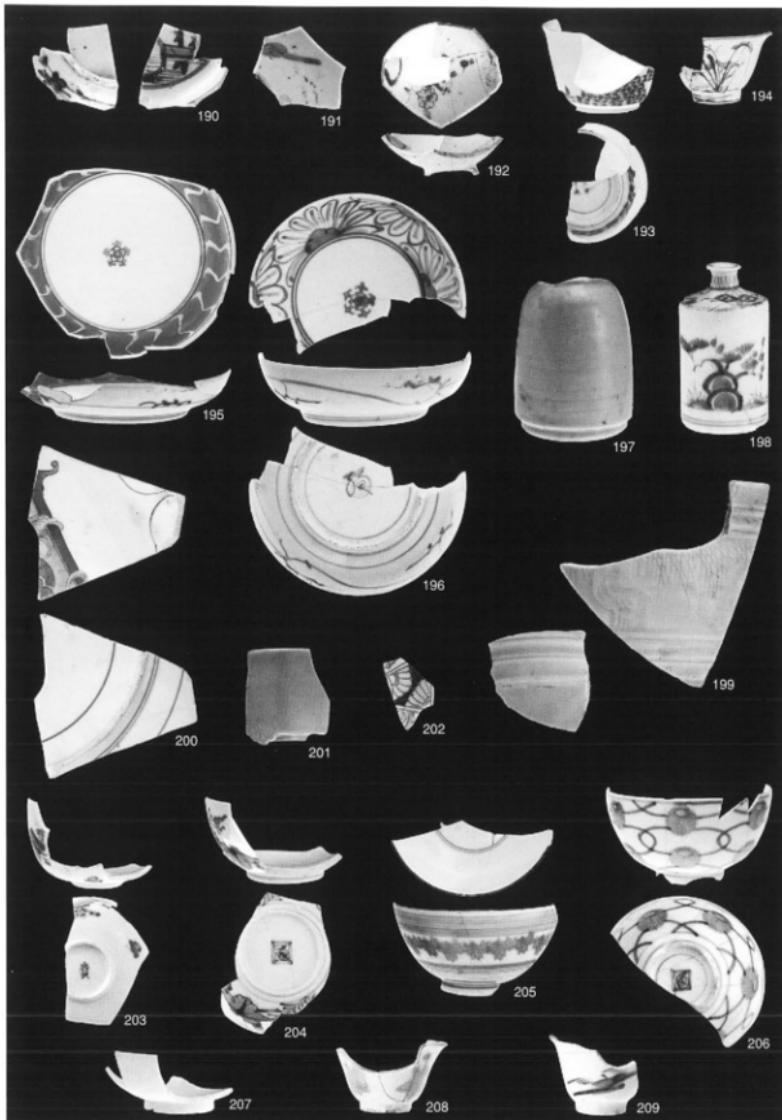
图版13 武家屋敷地区第7地点出土磁器 (13)
Pl.13 Porcelains from BK7 (13)

S = 1 : 3



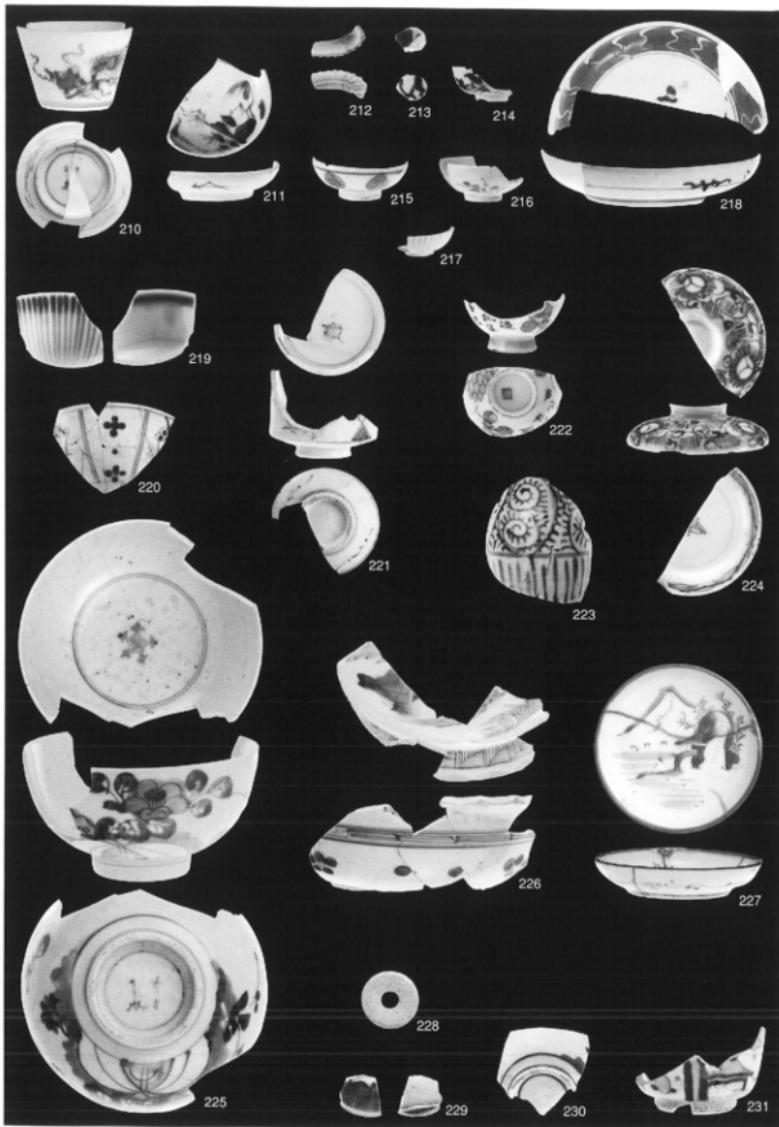
图版14 武家屋敷地区第7地点出土磁器 (14)
PL14 Porcelains from BK7 (14)

S = 1 : 3



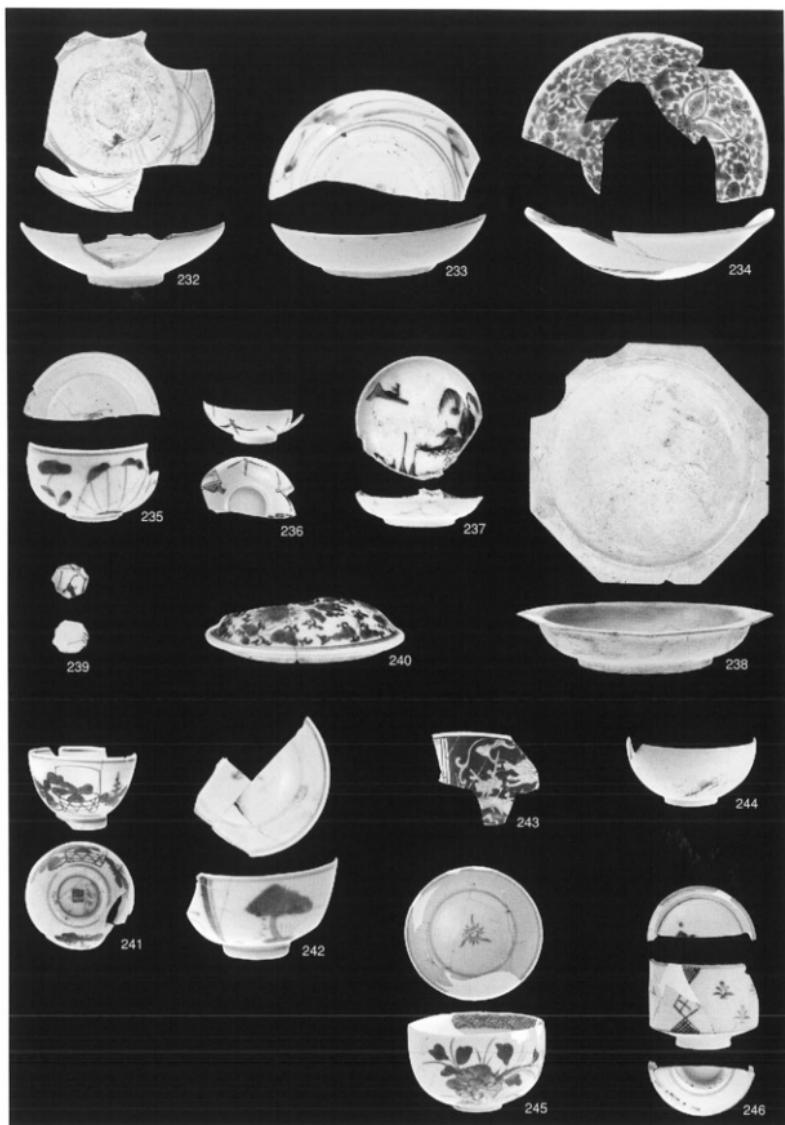
圖版15 武家屋敷地区第7地点出土瓷器 (15)
Pl.15 Porcelains from BK7 (15)

S = 1 : 3



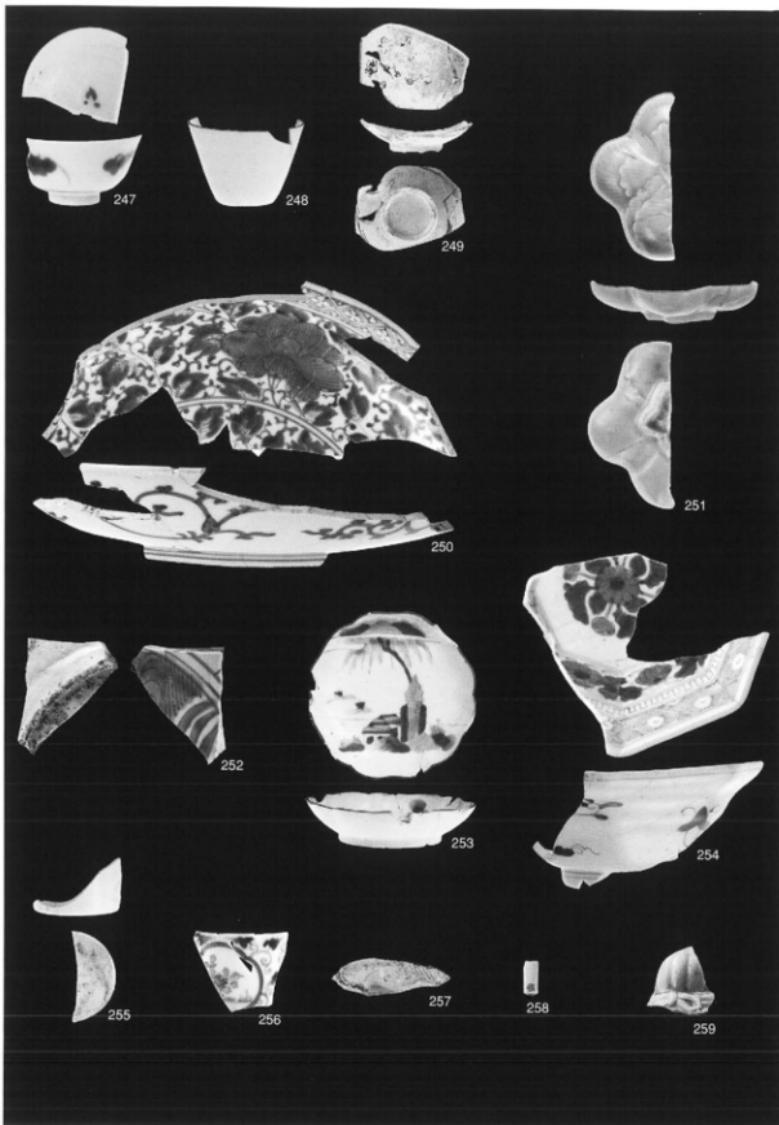
图版16 武家屋敷地区第7地点出土磁器 (16)
PL16 Porcelains from BK7 (16)

S = 1 : 3



图版17 武家屋敷地区第7地点出土器物 (17)
Pl.17 Porcelains from BK7 (17)

S = 1 : 3



图版18 武家屋敷地区第7地点出土瓷器 (18)
Pl.18 Porcelains from BK7 (18)

S = 1 : 3



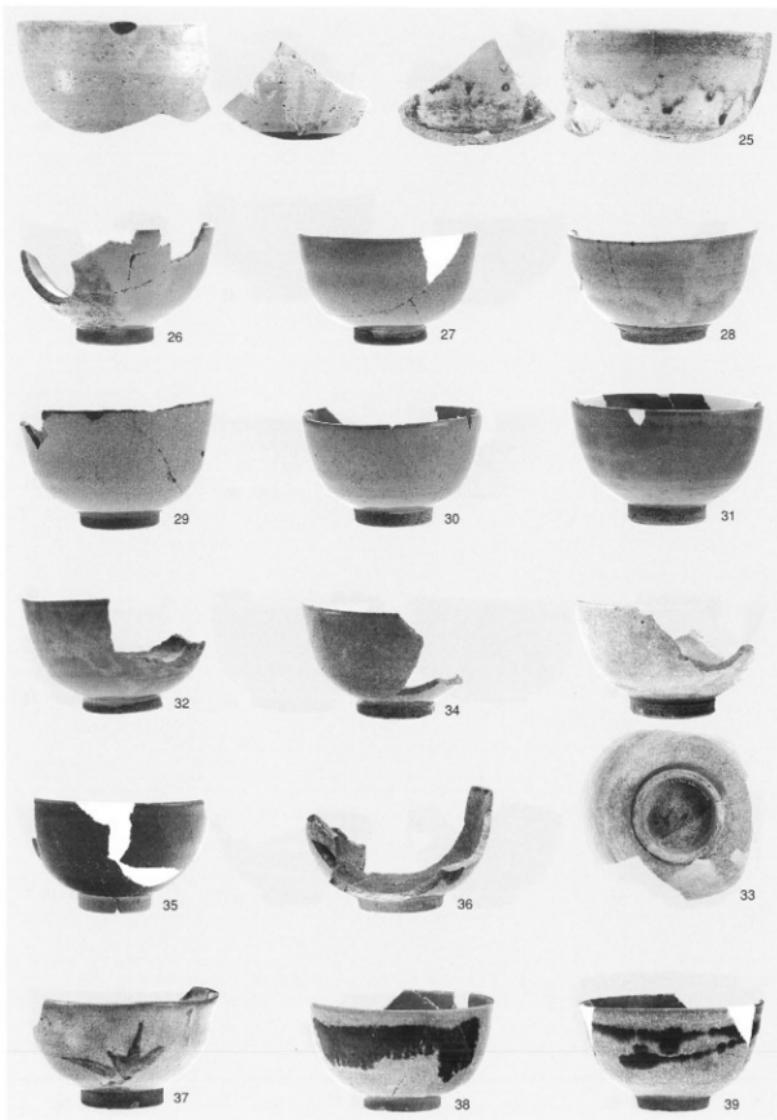
圖版19 武家屋敷地区第7地点出土陶器 (1)
Pl.19 Glazed ceramics from BK7 (1)

S = 1 : 3



圖版20 武家屋敷地区第7地点出土陶器 (2)
PL20 Glazed ceramics from BK7 (2)

S = 1 : 3



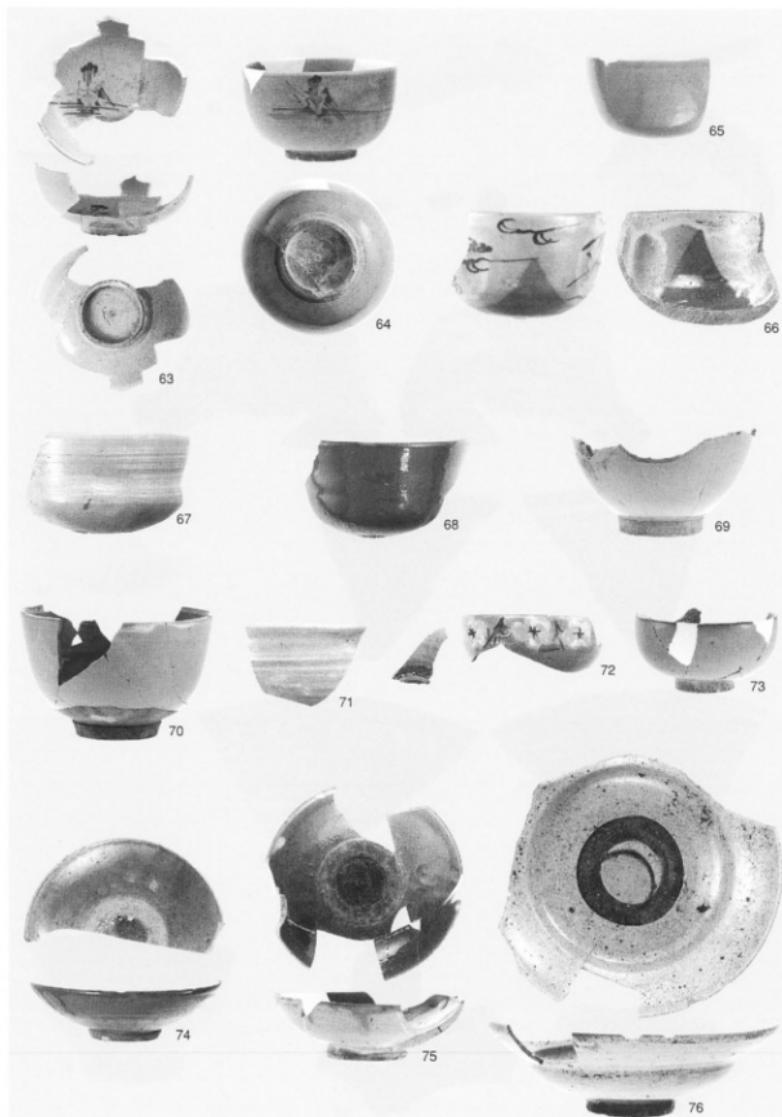
图版21 武家屋敷地区第7地点出土陶器 (3)
Pl.21 Glazed ceramics from BK7 (3)

S = 1 : 3



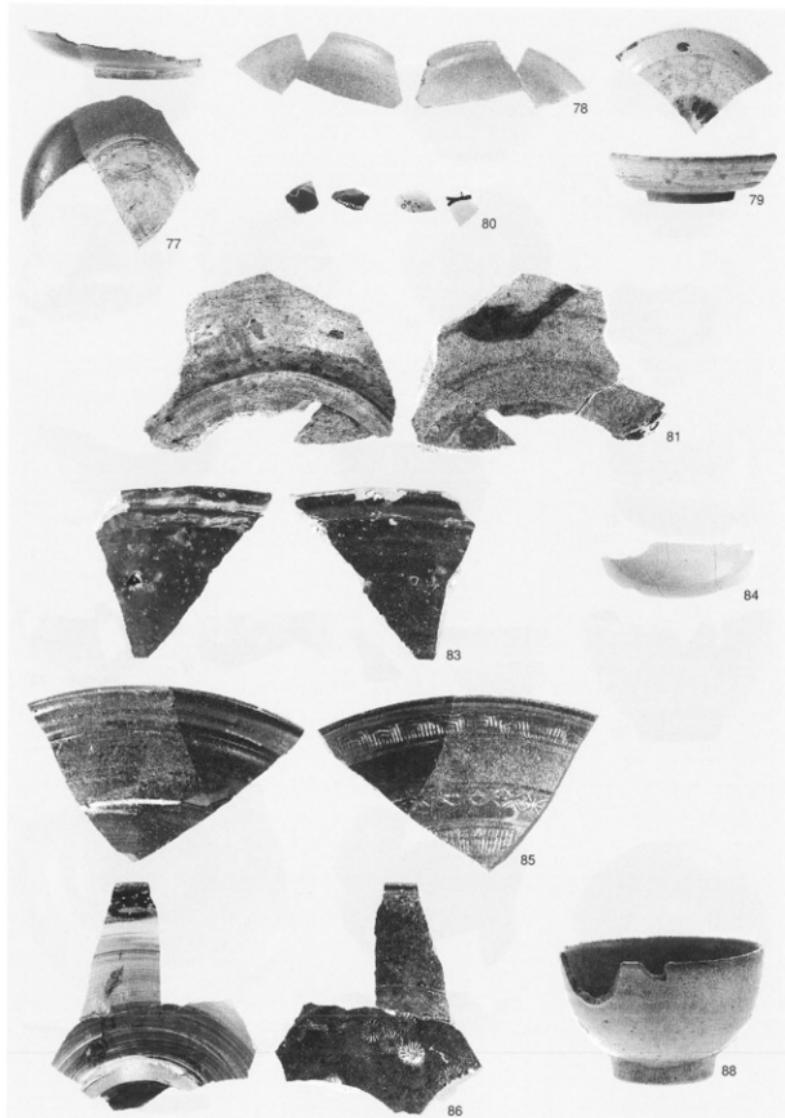
图版22 武家屋敷地区第7地点出土陶器 (4)
Pl.22 Glazed ceramics from BK7 (4)

S = 1 : 3



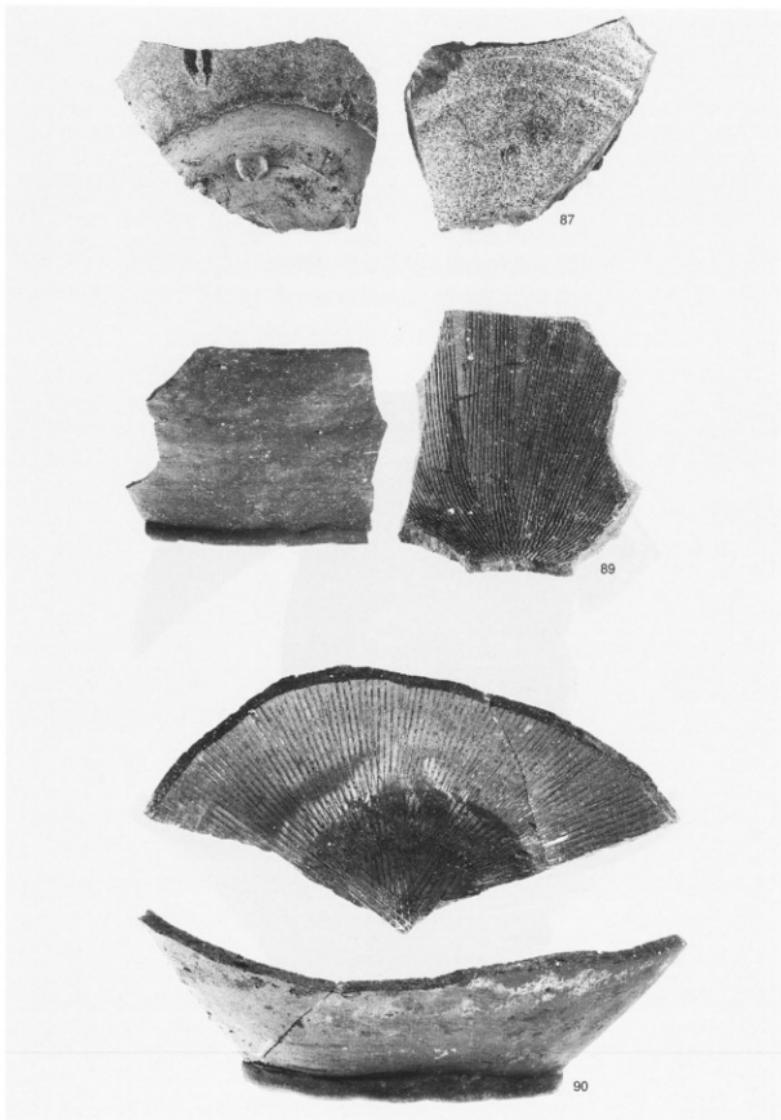
图版23 武家屋敷地区第7地点出土陶器 (5)
Pl.23 Glazed ceramics from BK7 (5)

S = 1 : 3



图版24 武家屋敷地区第7地点出土陶器 (6)
Pl.24 Glazed ceramics from BK7 (6)

S = 1 : 3



图版25 武家屋敷地区第7地点出土陶器 (7)
Pl.25 Glazed ceramics from BK7 (7)

S = 1 : 3



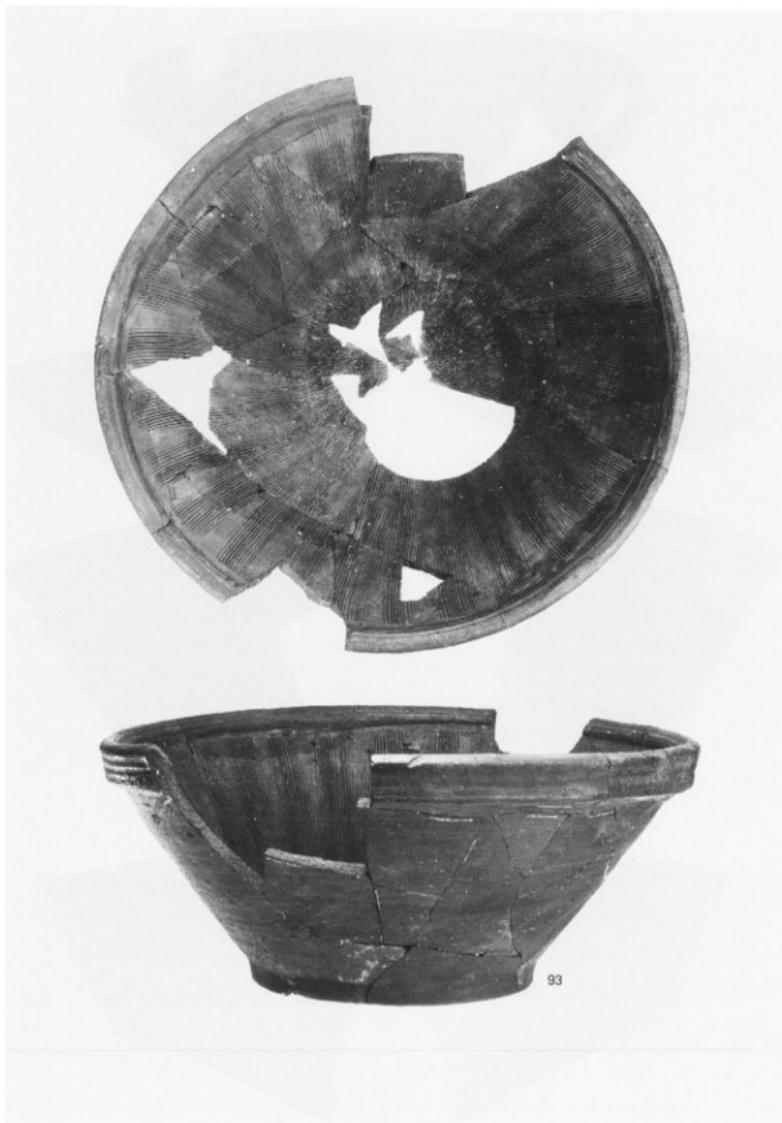
91



92

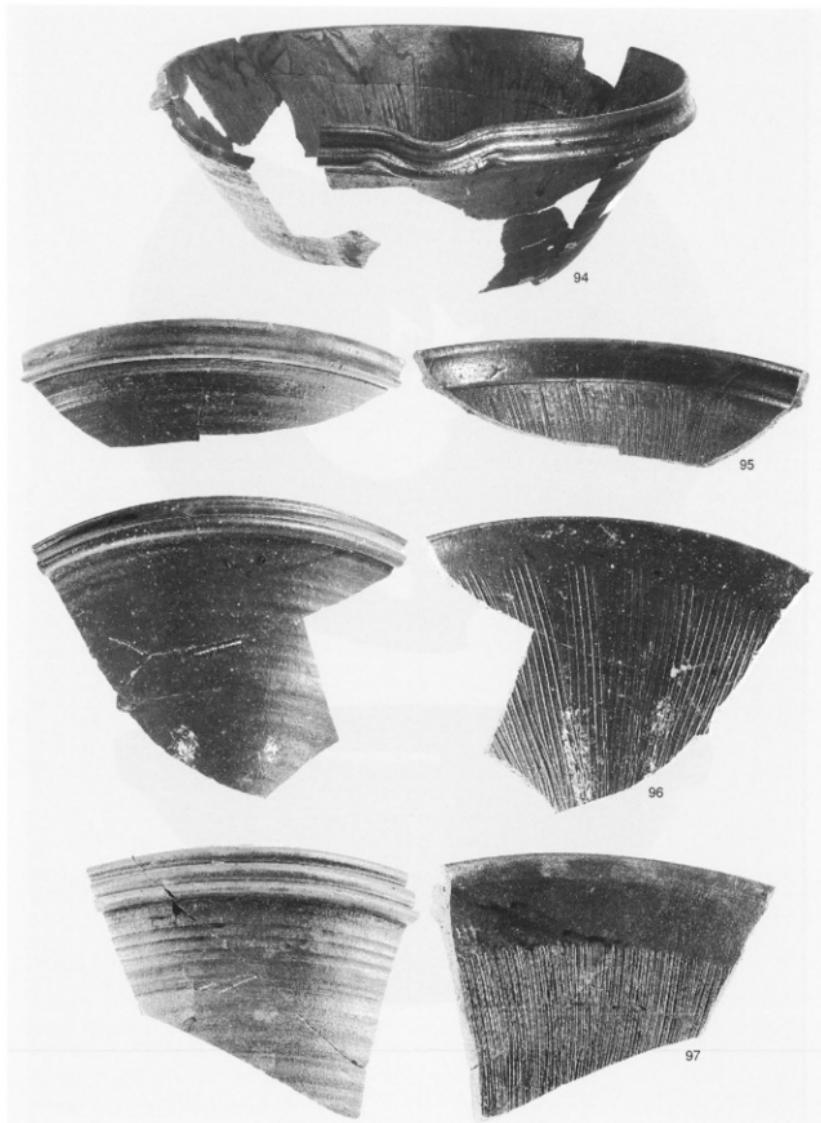
圖版26 武家屋敷地区第7地点出土陶器 (8)
PL26 Glazed ceramics from BK7 (8)

S = 1 : 3



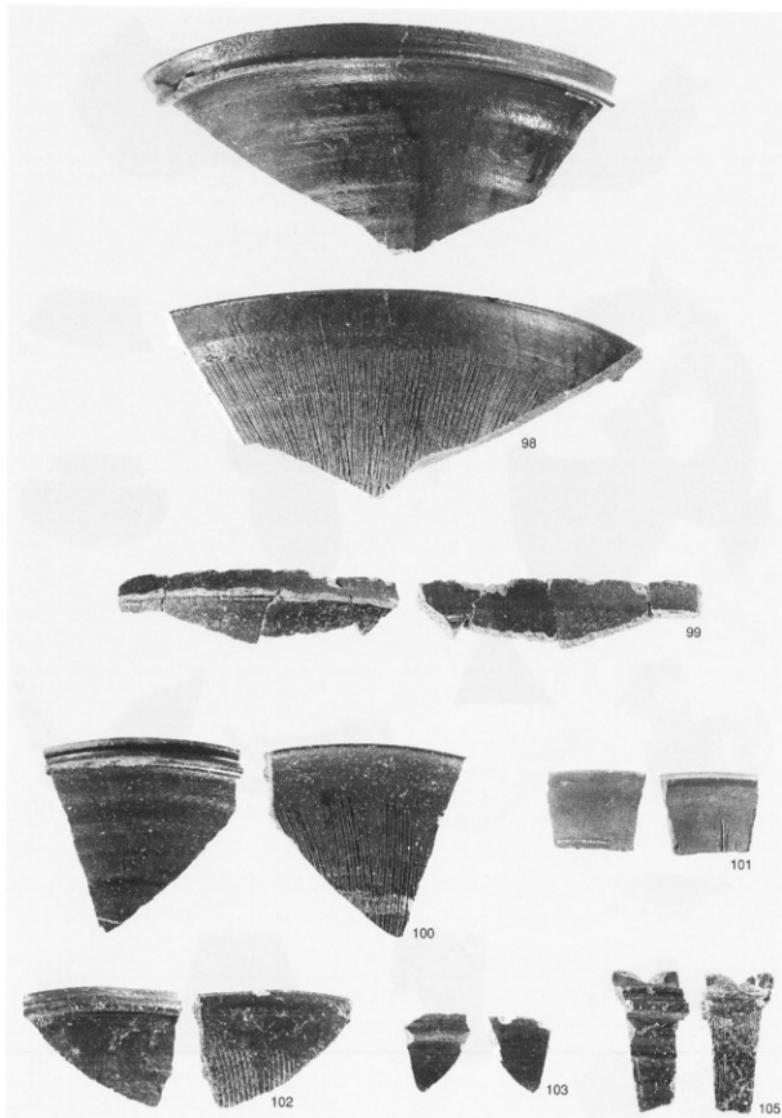
图版27 武家屋敷地区第7地点出土陶器 (9)
Pl.27 Glazed ceramics from BK7 (9)

S = 1 : 4



圖版28 武家屋敷地区第7地点出土陶器 (10)
Pl.28 Glazed ceramics from BK7 (10)

S = 1 : 3



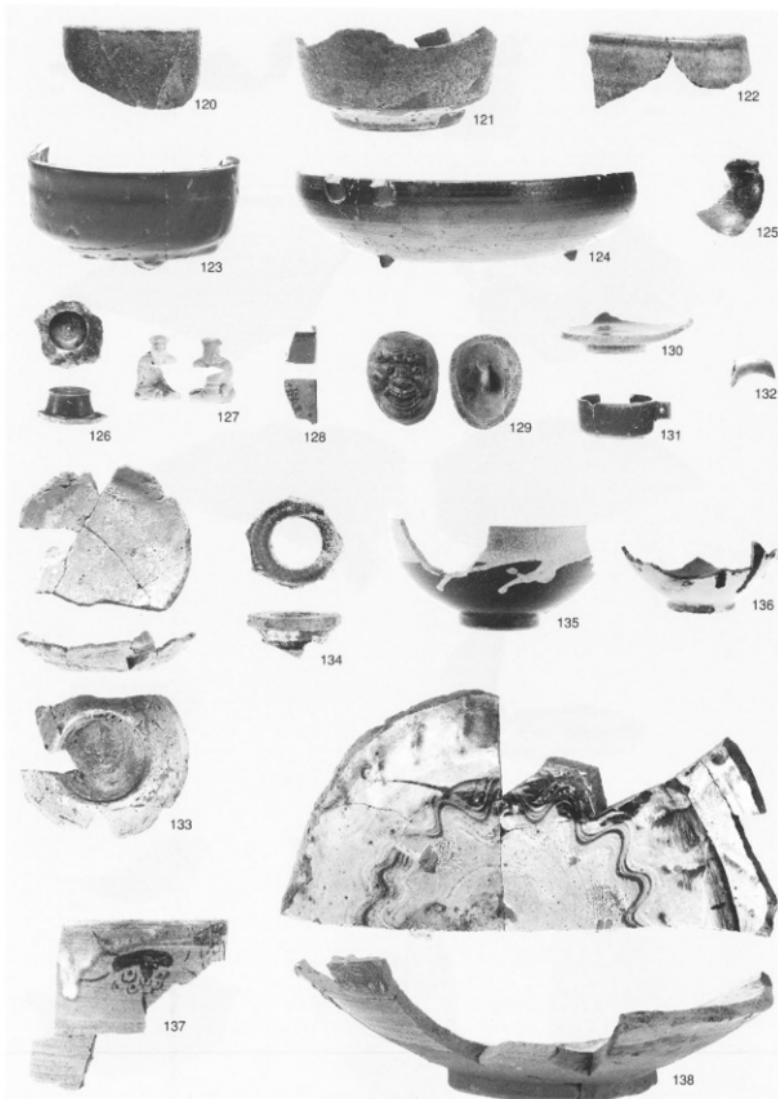
图版29 武家屋敷地区第7地点出土陶器 (11)
PL29 Glazed ceramics from BK7 (11)

S = 1 : 3



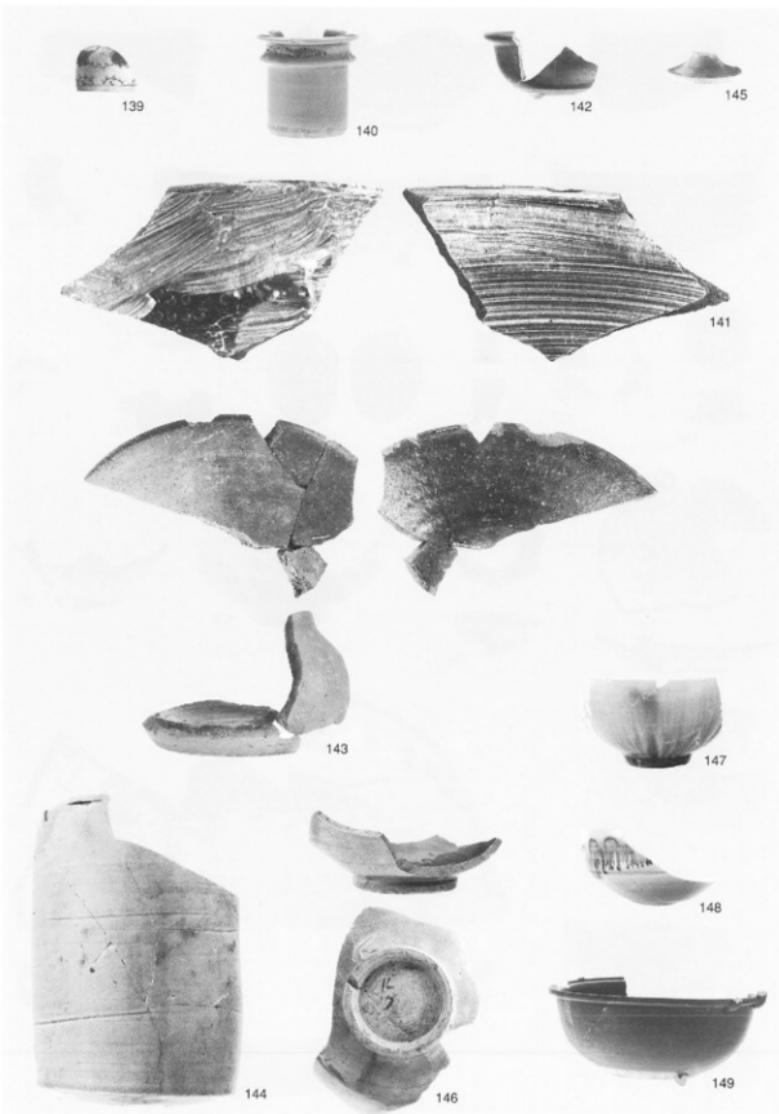
图版30 武家屋敷地区第7地点出土陶器 (12)
PL30 Glazed ceramics from BK7 (12)

S = 1 : 3



圖版31 武家屋敷地区第7地点出土陶器 (13)
Pl.31 Glazed ceramics from BK7 (13)

S = 1 : 3



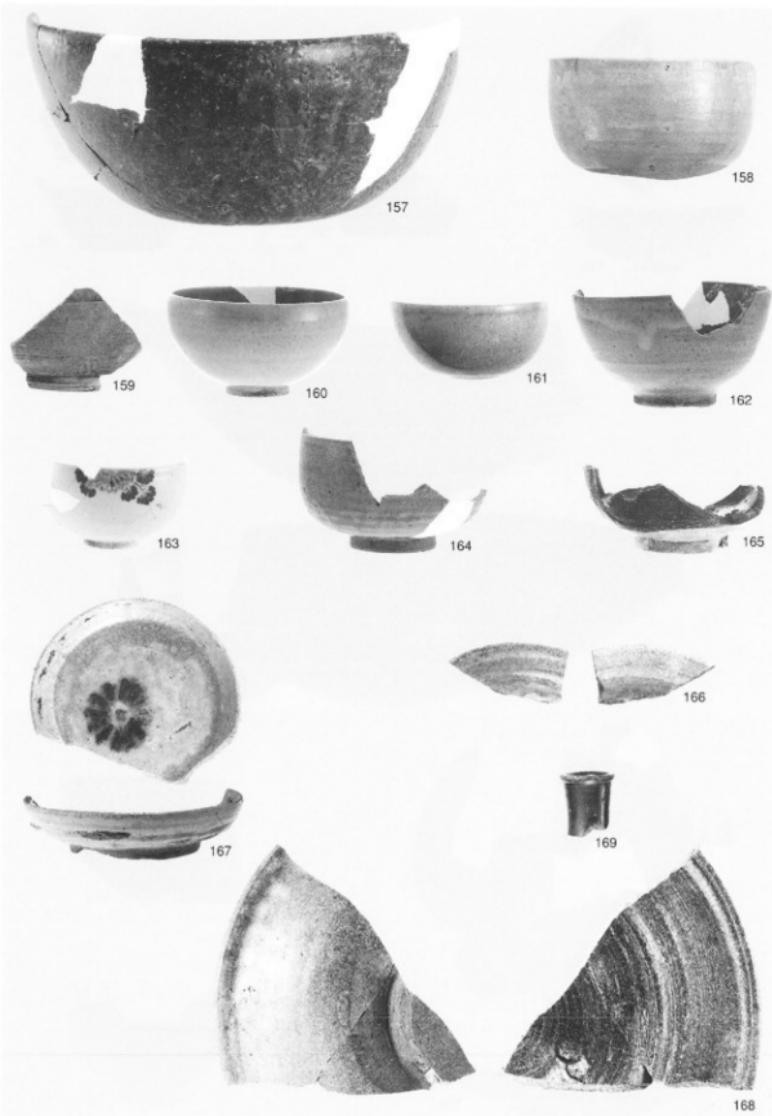
图版32 武家屋敷地区第7地点出土陶器 (14)
Pl.32 Glazed ceramics from BK7 (14)

S = 1 : 3



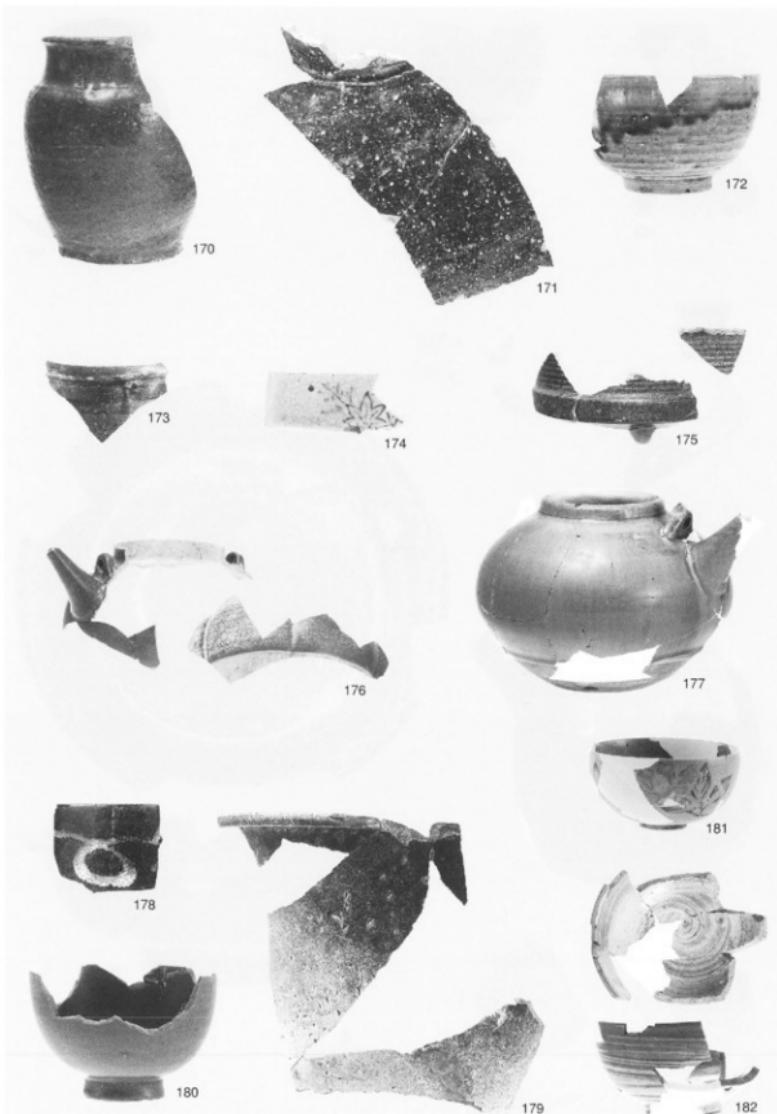
图版33 武家屋敷地区第7地点出土陶器 (15)
PL33 Glazed ceramics from BK7 (15)

S = 1 : 3



图版34 武家屋敷地区第7地点出土陶器 (16)
PL34 Glazed ceramics from BK7 (16)

S = 1 : 3



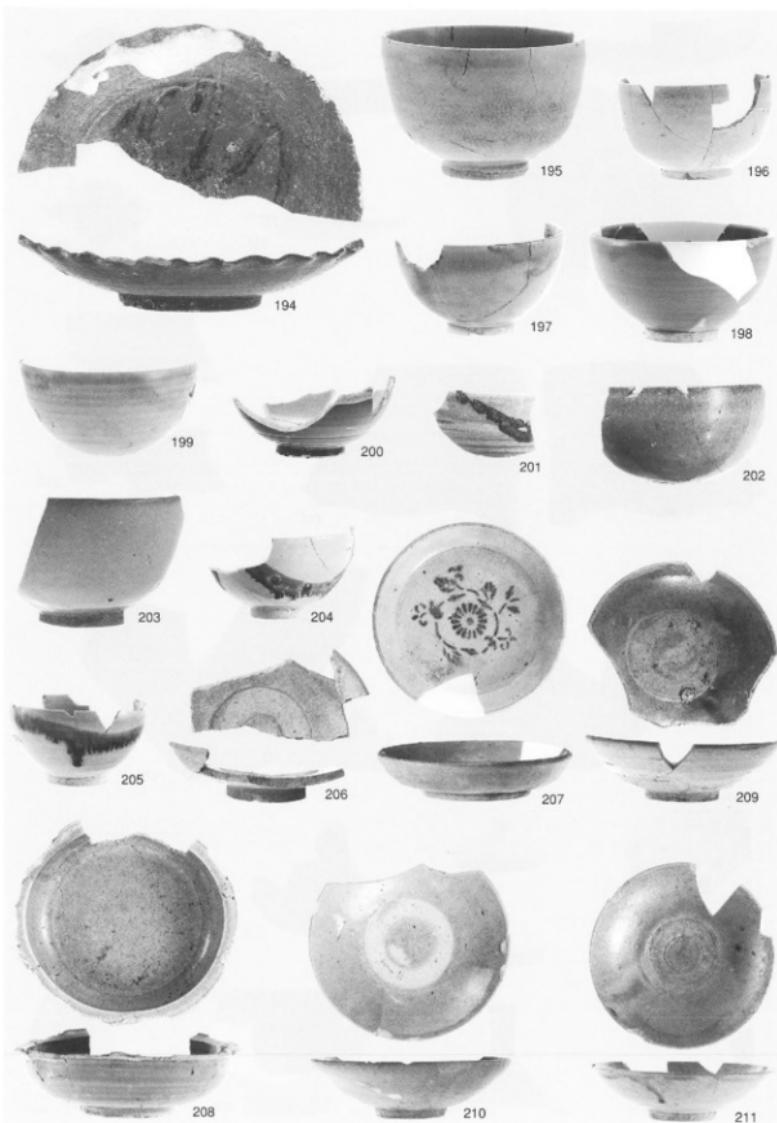
图版35 武家屋敷地区第7地点出土陶器 (17)
PL35 Glazed ceramics from BK7 (17)

S = 1 : 3



图版36 武家屋敷地区第7地点出土陶器 (18)
PL.36 Glazed ceramics from BK7 (18)

S = 1 : 3



圖版37 武家屋敷地区第7地点出土陶器 (19)
PL37 Glazed ceramics from BK7 (19)

S = 1 : 3



图版38 武家屋敷地区第7地点出土陶器 (20)
Pl.38 Glazed ceramics from BK7 (20)

S = 1 : 3



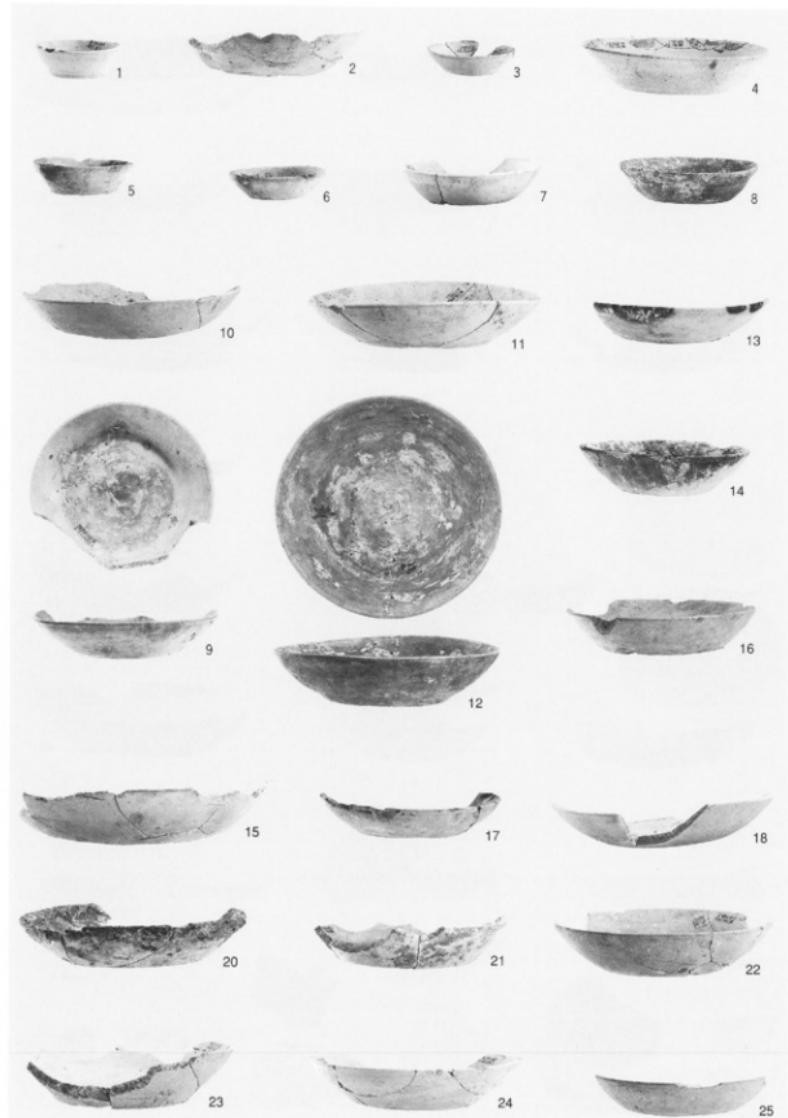
圖版39 武家屋敷地區第7地點出土陶器 (21)
PL.39 Glazed ceramics from BK7 (21)

S = 1 : 3



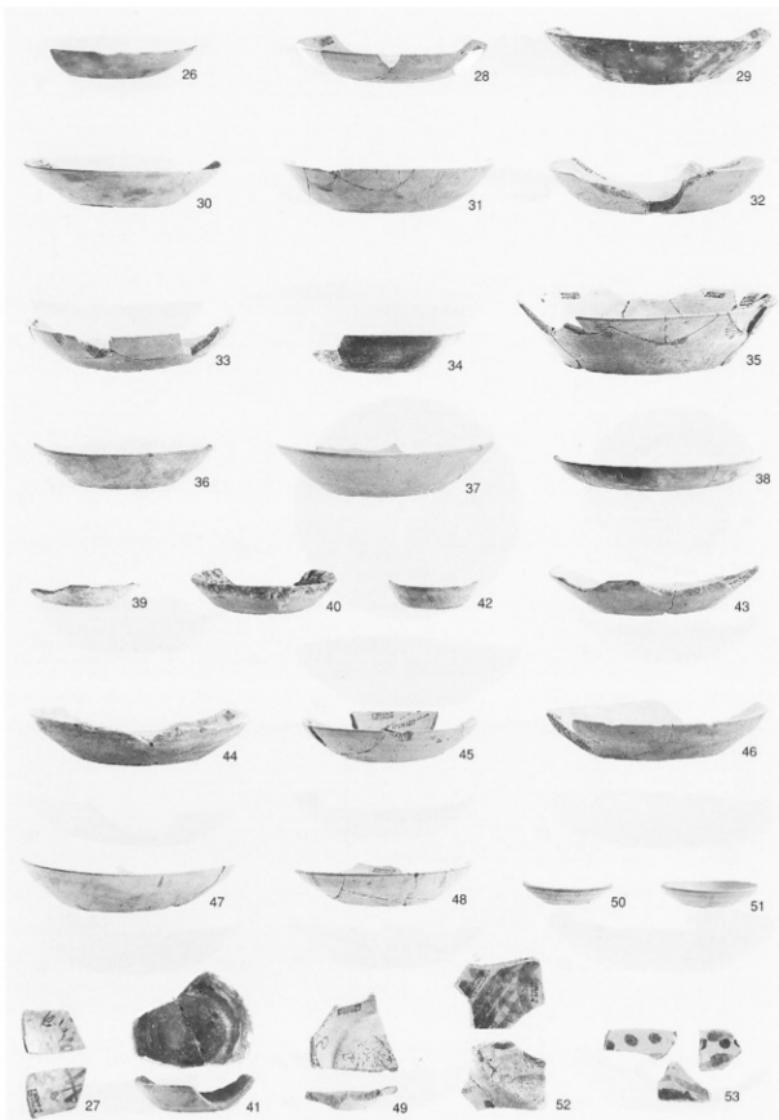
图版40 武家屋敷地区第7地点出土陶器 (22)
Pl.40 Glazed ceramics from BK7 (22)

S = 1 : 3



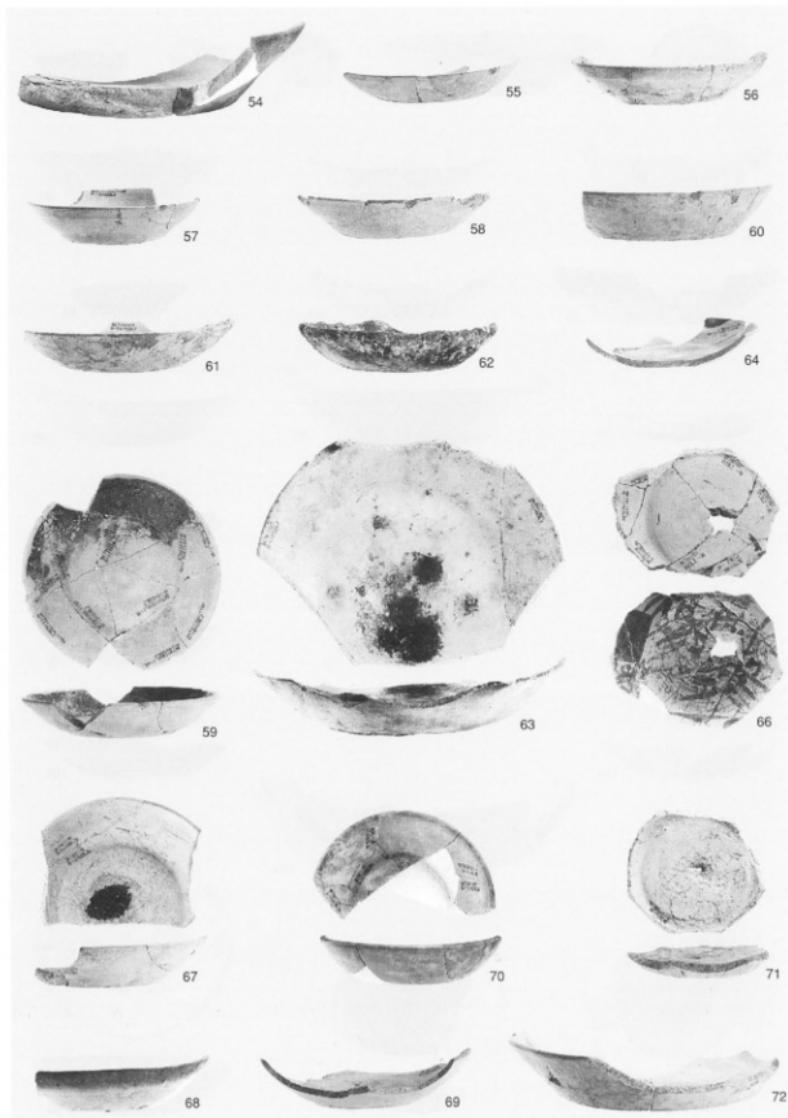
圖版41 武家屋敷地区第7地点出土土器 (1)
Pl.41 Unglazed ceramics from BK7 (1)

S = 1 : 3



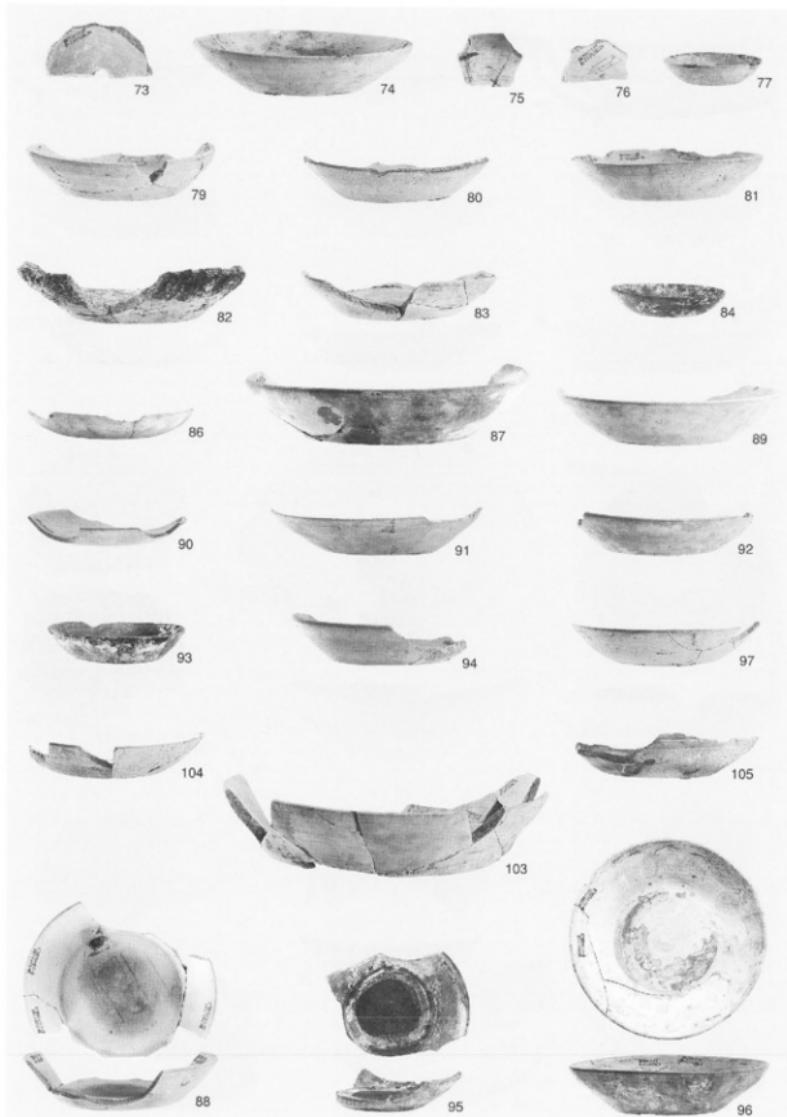
图版42 武家屋敷地区第7地点出土土器 (2)
Pl.42 Unglazed ceramics from BK7 (2)

S = 1 : 3



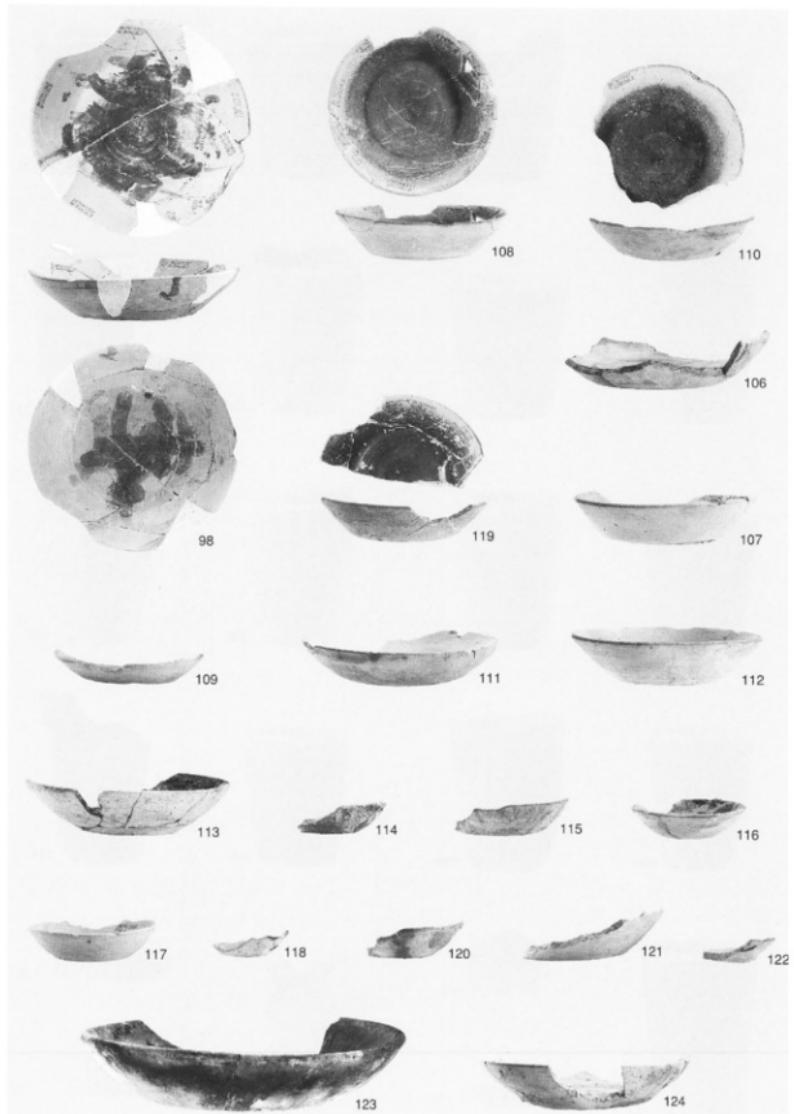
图版43 武家屋敷地区第7地点出土土器 (3)
Pl.43 Unglazed ceramics from BK7 (3)

S = 1 : 3



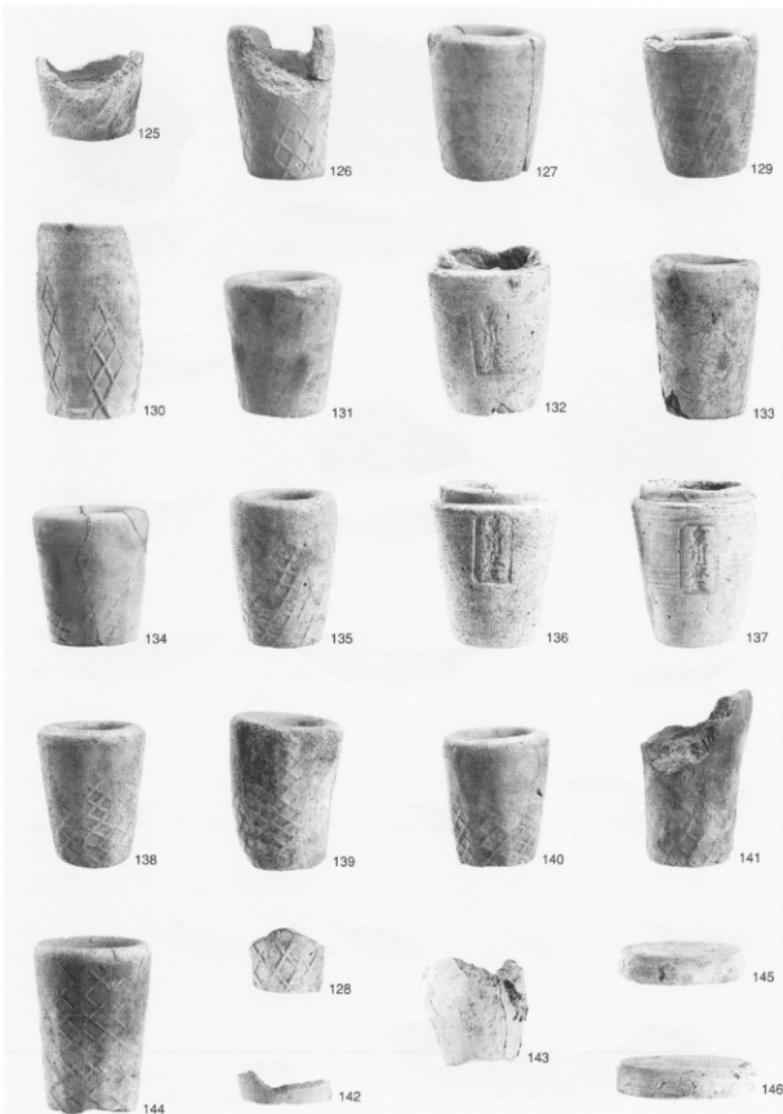
图版44 武家屋敷地区第7地点出土土器 (4)
Pl.44 Unglazed ceramics from BK7 (4)

S = 1 : 3



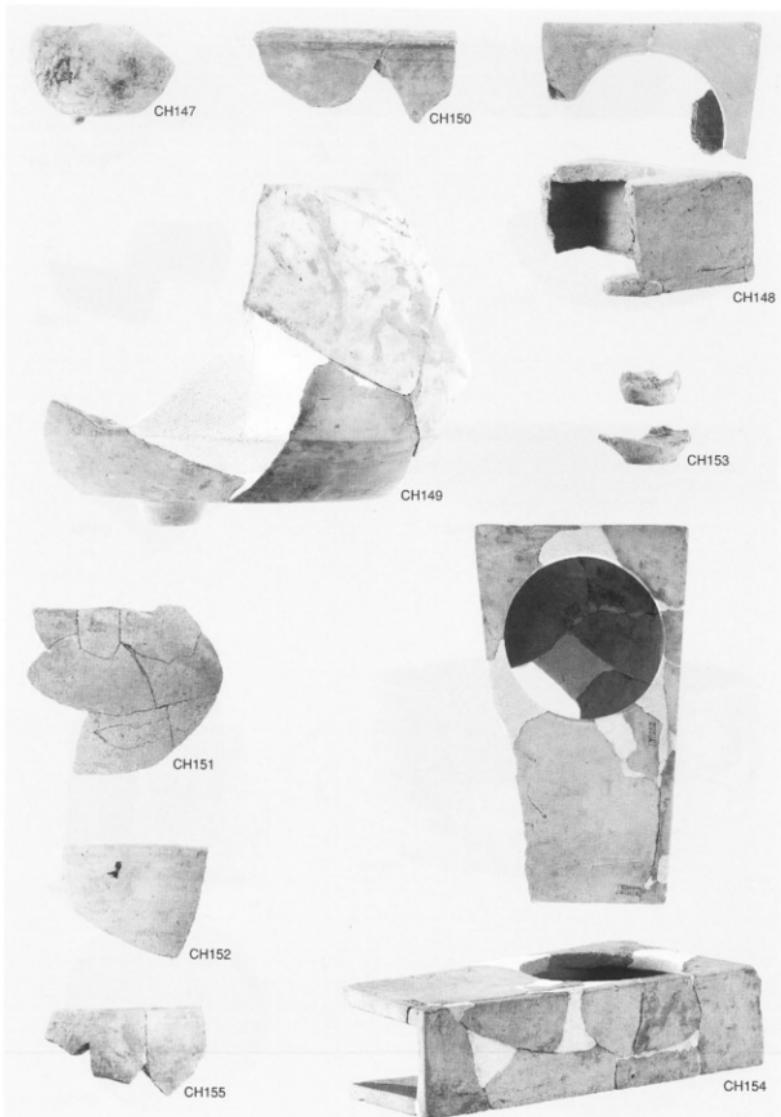
图版45 武家屋敷地区第7地点出土土器 (5)
Pl.45 Unglazed ceramics from BK7 (5)

S = 1 : 3



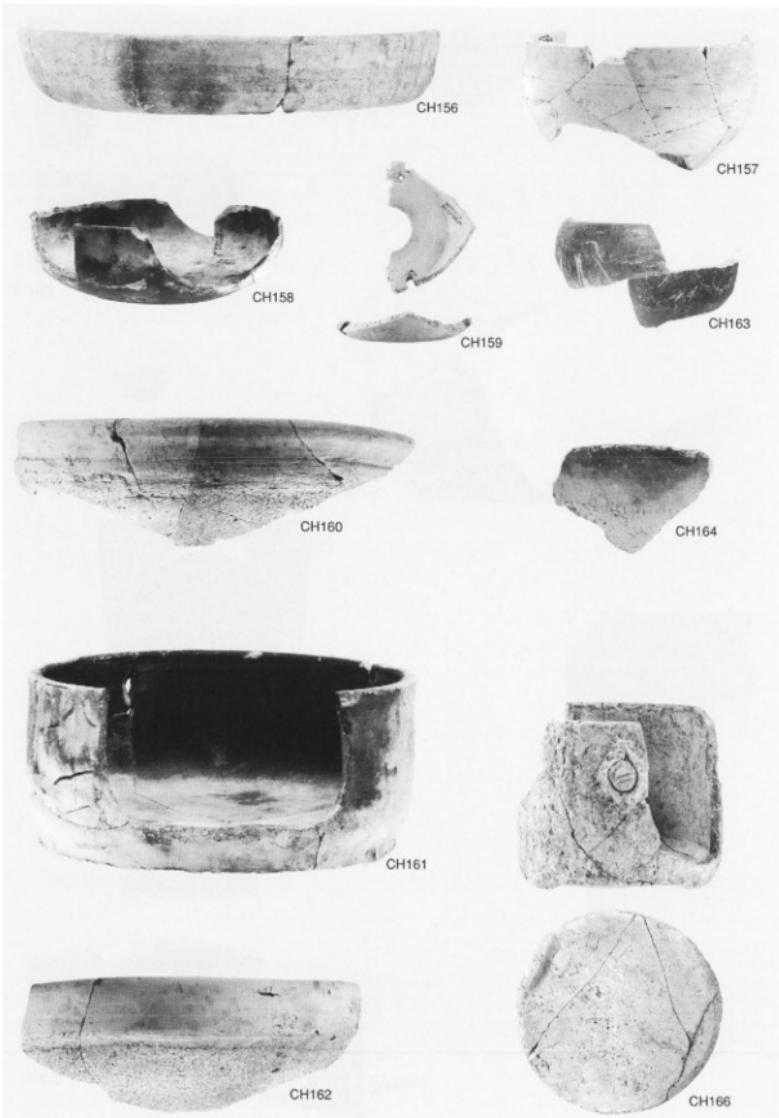
图版46 武家屋敷地区第7地点出土土器 (6)
Pl.46 Unglazed ceramics from BK7 (6)

S = 1 : 3



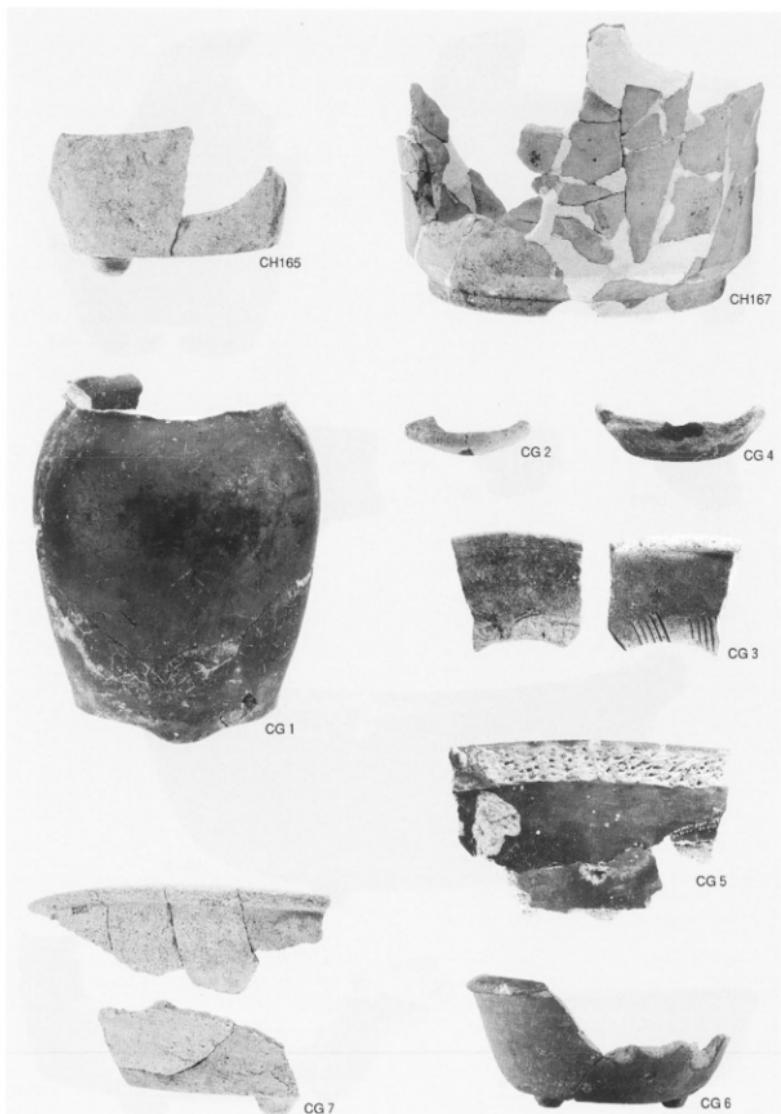
图版47 武家屋敷地区第7地点出土土器 (7)
Pl.47 Unglazed ceramics from BK7 (7)

S = 1 : 3



图版48 武家屋敷地区第7地点出土土器 (8)
PL48 Unglazed ceramics from BK7 (8)

S = 1 : 3



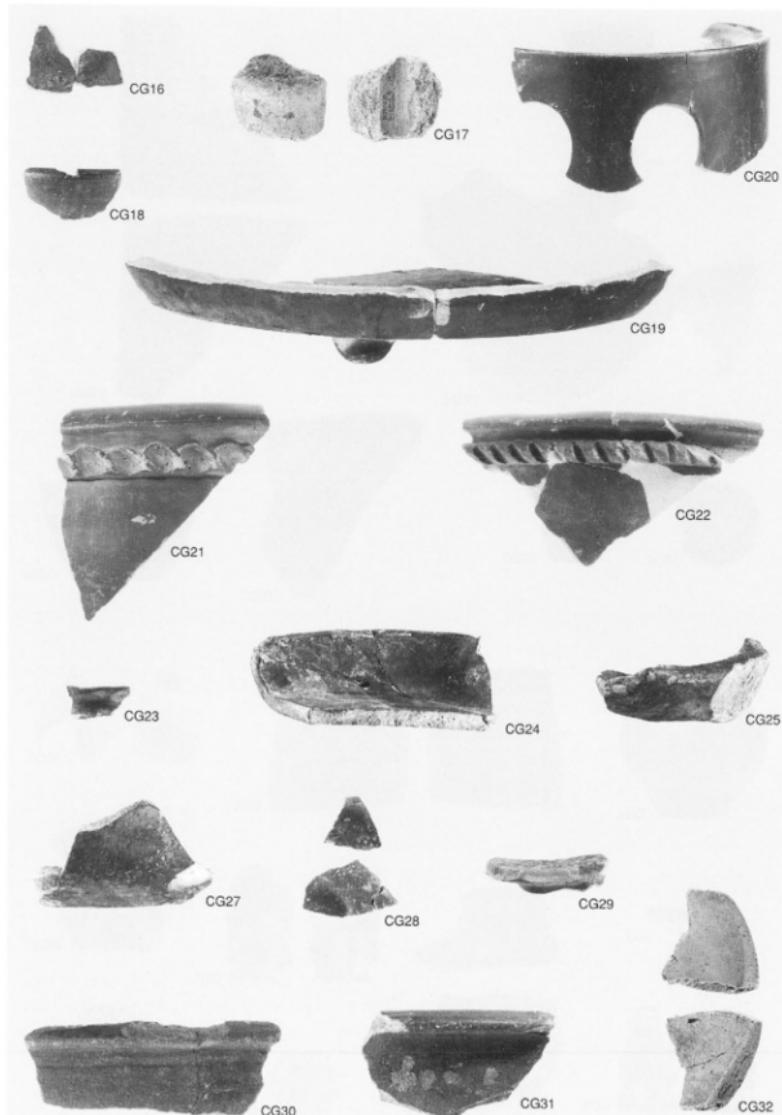
图版49 武家屋敷地区第7地点出土土器 (9)
Pl.49 Unglazed ceramics from BK7 (9)

S = 1 : 3



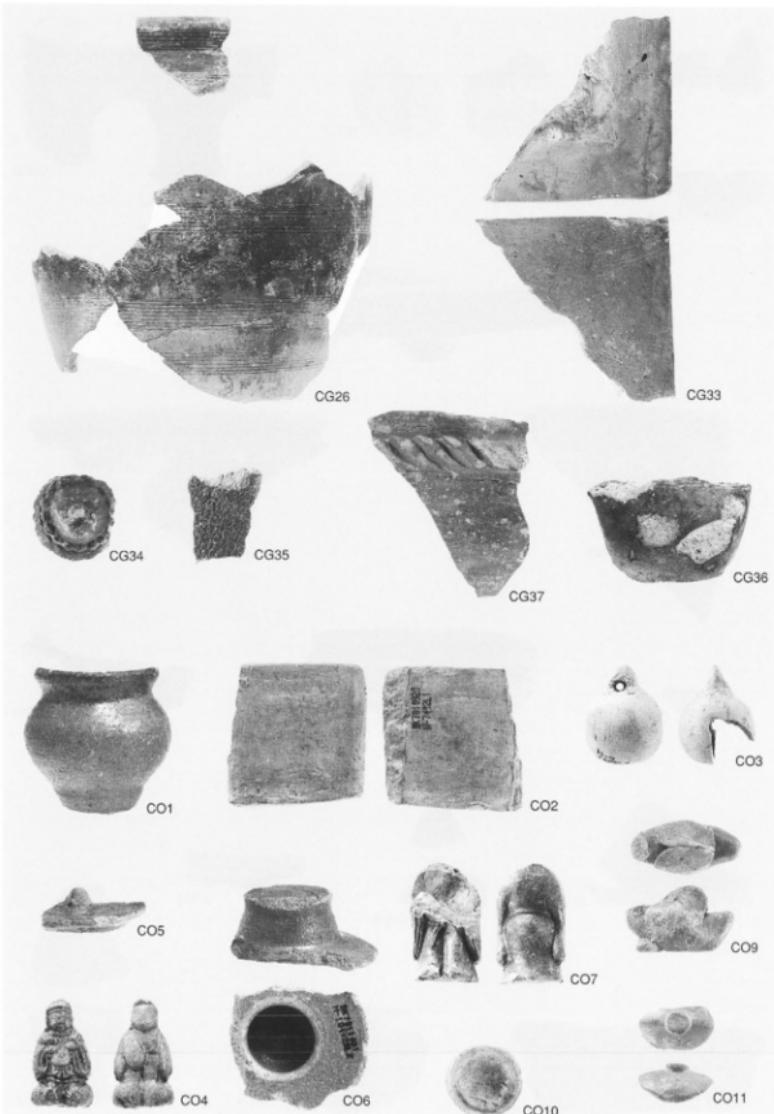
图版50 武家屋敷地区第7地点出土土器 (10)
PL.50 Unglazed ceramics from BK7 (10)

S = 1 : 3



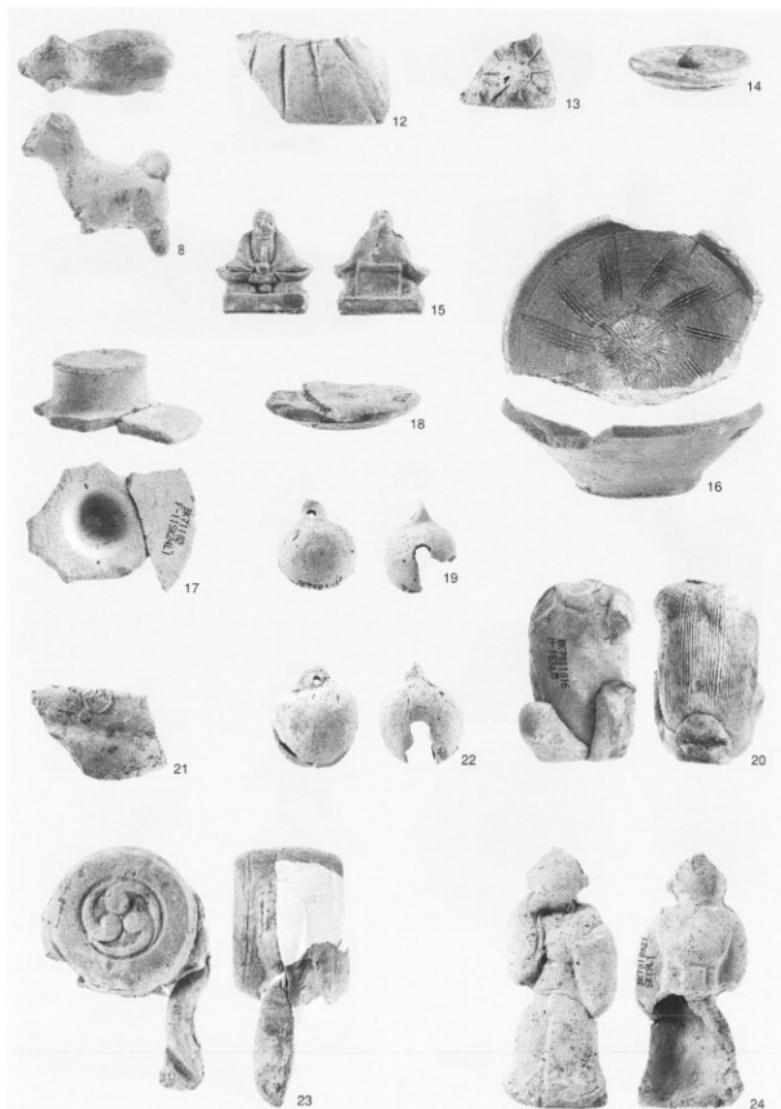
图版51 武家层地区第7地点出土土器 (11)
PL51 Unglazed ceramics from BK7 (11)

S = 1 : 3



图版52 武家庄地区第7地点出土土器 (12) · 土人形 · 土制玩具 (1)
Pl.52 Unglazed ceramics, clay objects and figures from BK7

CG26·33~37 S=1 : 3
CO1~7·9~11 S=2 : 3



图版53 武家屋敷地区第7地点出土土人形·土製玩具 (2)
Pl.53 Clay objects and figures from BK7 (2)

S = 2 : 3



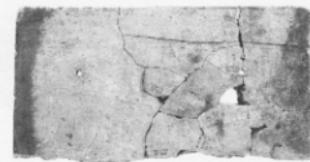
图版54 武家屋敷地区第7地点出土土人形·土制玩具 (3)
PL54 Clay objects and figures from BK7 (3)

S = 2 : 3



图版55 武家屋敷地区第7地点出土瓦 (1)
Pl.55 Various roof tiles from BK7 (1)

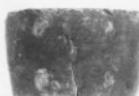
S = 1 : 4



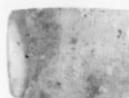
21



20



23



22



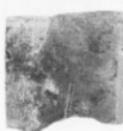
24



25



26



27



28

圖版56 武家屋敷地区第7地点出土瓦 (2)
Pl.56 Various roof tiles from BK7 (2)

S = 1 : 4



图版57 武家屋敷地区第7地点出土瓦 (3)
 Pl.57 Various roof tiles and roof tiles with seal impression from BK7

報告書抄録

ふりがな	とうほくだいがくまいぞうぶんかざいちょうさねんばう					
書名	東北大学埋蔵文化財調査年報					
巻書名						
卷次	19					
シリーズ名						
シリーズ番号						
編著者名	阿子島香・藤沢敦・柴田恵子・高木暢亮					
編集機関	東北大学埋蔵文化財調査室					
所在地	〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平二丁目1-1 TEL022-217-4995					
発行年月日	西暦2009年3月31日					
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 東経 遺跡番号 (世界測地系)	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
仙台城跡 二の丸北方 武家屋敷地区	宮城県 仙台市 青葉区川内11	04100	38°140° 01033 15'50' 32"57"	2001.5.7~11.23	810	マルチメディア 総合研究棟 新館
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
仙台城跡 二の丸北方 武家屋敷地区 第7地点	城館	近世	建物跡・廐棄土坑・溝・ sondage · 池状遺構 · ピット	陶磁器 · 瓦 · 木製品 · 木簡 · 金属製品 · 土製品 · 石製品		
要約	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点の出土遺物のうち、陶磁器・土器・土製品・瓦について掲載している。これらの出土遺物は、主に大規模な廐棄土坑である2号遺構から出土している。2号遺構は、共伴して出土する木簡に記載されている年号から、おおよそ18世紀前葉頃の年代が考えられる。出土する陶磁器の年代も、おおよそこの頃のものであるが、一部に17世紀代にさかのぼる年代ものが含まれている。また、土師質土器や瓦質土器では、これまで仙台城跡二の丸地区や武家屋敷地区で確認されていなかった器形の土器が多数出土している。					

東北大学埋蔵文化財調査年報19 第2分冊

平成21年3月31日

発行 東北大学埋蔵文化財調査室
〒980-8577 仙台市青葉区片平2丁目1-1
TEL 022(217)4995

印刷 株式会社 東北プリント
TEL 022(263)1166
